

戦姫絶唱 シンフォギア 仮面ライダーフィス新たな世代の戦い

桐野 ユウ

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

サードとの戦いから 数十年が立った……

健介たちの間にも子どもができる……

そして 今 新たな戦いが始まろうとしているのであった

# 目次

## 第一章 新たな 世代

新たな 仮面ライダーフィス | 1

調 切歌 翼思い…………… | 10

幹部襲来!! | 15

ドラゴナイトハンターZを使いこなせ | 25

ビルド対三人のライダー | 30

復活の母親たち 親子のコンビネーション | 36

戻ってきた ガングニール奏者 | 46

相手の困惑 | 52

双子の攻撃!! ブレイブ スナイプ レベル50へ | 56

時空発生装置 | 61

登場人物 | 65

仮面ライダーフィスの設定 | 71

## 第二章 コラボ

参上!! 異世界の戦士たち!! | 83

健介のお話と新たな仲間 | 93

激闘!! 戦士たちとの戦い | 98

祥平の体の異変 | 102

祥平の新たな力 そしてあった人物とは | 108

健介の真実!!……………そして | 114

破壊獣襲来!! | 123

遺跡の秘密 | 129

帰ってきた相田 健介 激突 ダークフィス!! | 135

仮面ライダーデステイニーの設定 | 148

動きだす 歯車

大火炎軍団と機械軍団

吠える動物 ダークチェンジ

ティニの秘密 そして現れた女性たち

現れた 武者 ゲンム グレードビリオン

機械兵団 兵器登場!!

要塞へ

フィス デステイニー対ダークフィス

怒りの激突!!

奇跡の戦い

### 第三章 日常とギヤラホルン

セレナ 怪盗をする

ギヤラホルンへ

復活の歌姫たち

動きだす 大火炎軍団 新たな幹部現る

現れた黒いパラドクス

大激突

日本大噴火作戦

ダークパラドクスの目的

現れた 仮面ライダーゲンム

行く場所

燃え盛る 勇気 フェニックスモード!!

グレートビリオン

### 第四章 コラボ再び 復活のバクテス

復活のバクテス!! 駆けつけた戦士たち!!

152

160

167

178

184

189

195

210

217

225

233

240

252

258

263

267

272

277

281

286

294

298

306

光の戦士 ウルトランマンジード	316
最初の敵	321
あの戦いが再び ガーマス	326
エグゼイドゼロ 再び!!	331
復活をした幹部怪人たち	338
キヤットの攻撃 現れた 謎の仮面ライダー	344
新たな 姿 レベル50	351
バクテス基地再び	358
マツハ 新たな力	362
バクテスの本気 デステイニー 大ピンチ!!	368
第5章 盗まれた フルボトル	374
盗まれた フルボトル	374
最悪な戦い	380
彼女の決意	386
フェイス対アルビオン	390
現れた謎の黒いライダーたち	395
帰ってきた健介	403
ハザードフォーム	408
ダークデイケイドの正体	413
カナトの真実 彼の関係	419
闇を追いはらえ!!	425
秘策	429
番外編 健介 翔平の世界へ	437
第六章 強敵ダグエン	442
新たな敵 ダグエン出現!!	442

# 第一章 新たな 世代 新たな 仮面ライダーフィス

サードとの戦いから 数十年が立った．．．  
健介は調たちと結婚をして 子どももできた．．．

「ふあああ．．．．．」

一人の女性があくびをしている

「愛 そろそろ起きないといけないぞ?」

愛「わかってているよ フィルス」

フィルス「やれやれw」

私の名前は相田 愛．．．母は月読 調で父は相田 健介 そ  
う私のお父さんは仮面ライダーフィスと呼ばれていた存在だ．．．

愛「．．．．．」

今私が見ているのは 写真．．．そう父が映っている写真であ  
る

フィルス「バディが消えてもう数年がたったか．．．．．」

愛「．．．．．そうだね．．．．．」

そう今 私の父 相田 健介は行方不明になった．．．  
愛「お父さん．．．．．いつたどこにいったの?」

その事件は もう四年前．．．起きた事件であった．．．私はそ  
のころ中学生だった．．．

父たちはある調査をしにいったが．．．光が発生をして父は行  
方不明になった．．．

フィルスは．．．私が持つことになった．．．

調「おはよう 愛．．．．．」

愛「おはよう 母さん」

母である 調お母さん．．．

調「ご飯ができていますよ」

愛「うん」

そういつて私はご飯を食べる ファイルスは充電をしている

調「愛 そろそろ迎えが来るんじゃない？」

愛「ふえ？」

「そういつて時間を見る

愛「あああああああ!!まずい!!」

「そういつてファイルスを持ち

愛「いつてくる!!」

調「行つてらっしゃいw」

「そういつて私はドアを開ける

「ヤッホー愛」

愛「おはよう 真奈」

彼女は相田 真奈 そう名前の通り 私にとっては双子みたいなものだ……

「そう母親は 暁 切歌……そううちのお母さんである 月読

調とはコンビを組んでいた人だ

愛「もしかして今日も？」

真奈「うん……元氣そうに見えるけど……やっぱりお父さんのことが……ね」

愛「うん……」

「私たちも寂しいが……やっぱりお母さんたちは一番つらいと思う……その事件の時に近くにいたのはお母さんたちだ……だからこそ私たちの前では元氣そうにしてるけど……夜になると

調「健介……健介……健介……健介……」

「と泣いている母を見る……お父さん……いつたいどこに……「いーいー!!」

二人「!!」

「私たちの前に謎のタイツを来た人たちが襲い掛かってきた!!」

愛「あれって……」

ファイルス「二人とも!!あれはショッカーの戦闘員だ!!」

真奈「え!!」

ファイル「あれはかつてバディたちが倒した ショツカーの戦闘員だ……だがどうして……」

愛「どうしよう……あれは!!」

みると子どもがおびえている……」

真奈「どうしたらいいの……」

愛「……このままじゃ……子どもが!!」

ファイル「……」

愛「ファイル……お願いがあるの……」

ファイル「まさか……」

愛「あの子を救いたい……だから仮面ライダーシステムを使わせて!!」

ファイル「……それはだめだ……君まで戦いに巻き込みたくない……」

愛「でも……今戦わないで……いつ戦うの!!あの子がピンチなのを見過ごしたくない!!」

ファイル「……愛……ふふふふ  
するとファイルが笑っている

ファイル「やはり 君は一番健介の性格が出ているなw」

愛「そうなの？」

ファイル「そのとおりだwわかった 愛!!私を押すんだ!!」

愛「押す？」

そういつて押すと

ファイル「仮面ライダーモードLADY!!」

愛「これが……」

ファイル「次は 動物アイコンを押すんだ!!」

愛「わかった!!」

そういつてライオンを押す

ファイル「ライオンモード!!」

ファイル「そして私をフィスドライバーにセットをするんだ!!」

愛「変身!!」

愛はファイルをフィスドライバーにセットをした!!



ファイルス「ライオンモード!!」

愛の姿が変わり かつてのあの姿が帰ってきた

SONG基地

「この反応は!!翼 司令!!」

翼「どうした………」

「仮面ライダー反応です!!」

翼「まさか……健介さん……いや彼じゃない………」  
じゃあ一体誰が………」

翼は画面を見る そこには 自分が愛した人が変身をした仮面ライダーファイルスがうつっているからだ

もどつて

「な!!仮面ライダーファイルスだと!!」

ファイルス「これが……お父さんが変身をした……仮面ライダーファイルス」

「おのれ!!この俺クモ男をなめるな!!やれ戦闘員ども!!」

戦闘員「いー!!いー!!」

戦闘員たちはファイルスに襲い掛かってきた

ファイルス「愛 君にとって初の戦いだ……私がアドバイスをする  
ライオンモードは基本のモードだ 武器はその爪ライオンクロー  
だ!!」

私はファイルスをアドバイスをきいて 腕の部分を見ると 爪が展開される

ファイルス「よーし!!は!!」

私は現れた ライオンクローで戦闘員たちを切り裂いていく

戦闘員「いー!!いー!!」

戦闘員は次々に切り裂いていく

ファイルス「ああああああああ!!」

さらに蹴りを入れて連続で戦闘員たちを吹き飛ばす

ファイルス「次は私の武器アイコンを押すんだ」

ファイルス「これね!!」

そういつて私はボタンを押した

ファイル「ライオンソード!!」  
するとファイルから剣が出てきた  
フィス「おっと」  
ファイル「ライオンモードの武器　ライオンソードだ!!」  
フィス「は!!」  
私は出てきた　ライオンソードで戦闘員を攻撃をする  
戦闘員「いー!!いー!!  
戦闘員たちも攻撃をしてきた  
フィス「あわわわわわ!!」  
やはり多数相手に苦戦をする  
ファイル「大丈夫だ　ライオンモードの力でも奴らを吹き飛ばすこ  
とができる!!」  
フィス「そうなの!!ええい!!」  
そういつて立ちあがった  
戦闘員たち「いーいーいーいー!!」  
フィス「すごい・・・これがフィスの力？」  
ファイル「まだまだだぞ？フィスの力は」  
クモ男「おのれ・・・くらえ!!」  
そういうとクモ男は私をとらえるために糸をはいた  
フィス「であ!!」  
私は糸を切った  
ファイル「私をライオンソードにセットをするんだ!!」  
フィス「わかった!!」  
そういつて私はファイルをセットをした  
ファイル「そして必殺アイコンを押してくれ!!」  
そういつて私は必殺アイコンを押す  
ファイル「必殺!!ライオブレイク!!」  
フィス「はああああ・・・は!!」  
ライオン型のエネルギーが飛ぶ  
クモ男「どあ!!」  
ファイルを戻して

ファイル「さあ止めを刺そう!!」

フィス「わかった!!」

そういつてファイルの必殺アイコンを押す

ファイル「必殺!!ライオンメテオストライク!!」

フィス「はああああああああ!!」

私はダツシユをして

フィス「おりやああああああ!!」

ジャンプをして回転キックをお見舞いさせる

クモ男「ぐああああああああああああああああああ!!」

私の蹴りをくらった クモ男は爆発をした

フィス「ぐ!!」

ファイル「敵の反応なしだ・・・よくやった 愛」

真奈「愛ーーーーー」

フィス「真奈・・・ふう」

ファイル「お疲れだ 愛 最初にしてはいい腕だぞ？」

愛「ありがとう フィルス あ、子供は？」

真奈「大丈夫だよ 避難させておいたよ」

愛「ありがとう 真奈」

すると私たちのところに黒い車が現れた

中から降りてきたのは

翼「真奈 愛!!」

二人「翼お母さん!!」

この人は 父 相田 健介 つまりお父さんの奥さんでもあるっ

てお父さん・・・どれだけいるって・・・奏者全員と結婚をして

いるからねw

子どもがいるのって 調お母さん 切歌 お母さん 翼お母さん

なんだよね・・・

ほかの人もやったらしいけど・・・今 お腹にいるのはクリスマスお

母さんとマリアお母さんなんだよね・・・

「真奈!!愛!!大丈夫!!」

そこに現れたのは 翼お母さんの娘で 相田 剣・・・って女の

に剣って……

剣「うう……それは私も気にしているから……」

あ、ごめん……

翼「それよりもだ……どうして仮面ライダーフィスが……」  
フィルス「それは私が判断をしたからだ……」

翼「フィルス……」

フィルス「すまない翼……だが彼女の目は彼が助けたいという  
目をしていたんだ……だからこそ彼女を仮面ライダーフィスへと  
やっつたんだ……」

翼「そうか……なら二人ともお母さんが基地で待つて  
いる……一緒にいこう」

二人「わかりました」

そういつて私たちは車に乗り SONG基地へついた

響「二人とも」

二人「響お母さん」

響「無事でよかった……」

彼女は立花 響 彼もだが ガングニール奏者でもあり 私たち  
の先輩でもある

奏「よかつたぜ あんたたちが無事で」

彼女は翼お母さんの相方で 天羽 奏さん はいこの人も健介お  
父さんの奥さん……あー多すぎるよーでも実は皆さん  
にはかわいがってもらってましたw

私たち三人は生まれた時間も同時らしく びつくりをされたそう  
です

翼「では改めて……愛……あなたにはこのSONGで……  
仮面ライダーとしてたたかってもらうことになります……」

愛「……」

翼「本来は私たちはあなたを戦わせるには……」

それはわかってます……でも

愛「翼お母さんの気持ちはわかります……でも私は決めました……  
父が守ろうとしていることを……私は フィルスと共に戦いた

いです!!」

ファイル「愛……………」

真奈「私も……………変身ができたらな……………」

エルフナイン「できますよ」

切歌「エルフナイン どういうことでーす?」

エルフナイン「ゲーマードライバーを使うのですよ」

そういつて出したのであった

ガシヤットも一緒だ

エルフナイン「これには健介さんが共に戦った仮面ライダーエグゼイドの仲間 スナイプのデータが使われております これはそのガシヤットです」

そういつて出されたガシヤットは バンバンシューティング  
ジェットコンバット ドラゴナイトハンターZ ガシヤットギア  
デュアルβ であった

真奈「ありがとうございます!!エルフナインさん!!」

キャロル「ただし 使うなら ジェットコンバットまでだ そのほかは特訓などをしていかないときついぞ」

真奈「はい!!」

剣「私もブレイブという仮面ライダーの力を使える……………共に頑張っている!!」

愛「そうだね……………ファイル これからよろしくね!!」

ファイル「ああ愛!!」

調「……………」

セレナ「心配?」

調「うん……………私も戦いたいけど……………」

響「無理をしないで……………まだ翼さんや調ちゃん 切歌ちゃん……………」

そう私たちはギアを装着することはできるが……………するとあの時の光景を思い出してしまう……………そう健介が消えたあの日を……………

麗菜「大丈夫よ あの子は私の息子よ 必ず生きているわ」

つと言うのは 相田 麗菜さん つまり健介のお母さんだ

調「麗菜さん……………」

麗菜「信じましょう……………あの子を……………そして見守るわよ  
あの子を……………」

さてここはある場所

「まさか 仮面ライダーフィスが復活をするとはな……………」

「いかがしましょう……………セレウス様」

セレウス「まあいい……………あの相田 健介ではないのなら 我々  
は勝てるだろう……………我々 大炎軍団がな」

そういつていうのであった

調 切歌 翼思い……………

翼 side

翼「……………」

私はあの日から 装着をしてない……いや装着ができないのだ……………」

あの日のことがバックフラッシュをして……体が震えてしま……剣が持てなくなってしまった……それよりも私は近くにいたのに……愛する人を守れなかった……………」

剣「母上……………またその顔をしています……………」

翼「……………」

剣「父上のごことは母上のせいじゃないと思います……………」

翼「……………わかつている……わかつている!!だが……私は……………」

そう……何が防人だ……………愛する人を守れなくて……何が

防人だ……………私は……最低だ……………」

翼「うう……………」

剣「母上……………」

私はどうしたらいいのだ……健介さん……………どうして消えてしまったの……私は……私は……………」

切歌 side

切歌「……………」

真奈「ママ?」

切歌「……………」

真奈「ママ!!」

切歌「!! もう真奈びつくりしたデース!!」

真奈「さつきから呼んでいるのにママが反応をしないからだよ!!」

切歌「ごめんでーす……………」

はあ……私何やっているんだろう……娘が戦おうとしているのに……私はイガリマさえも装着ができないなんて……………」

健介が消えた日から……私は怖くなった……今までは平気で装着をしてたイガリマを装着ができなくなった……歌おうとした

らあの日のことが蘇ってしまい．．．やめてしまおう．．．

切歌「．．．．．」

真奈「ねえママ．．．」

切歌「なんですか？」

真奈「パパってママにとってどういう人だったの？」

切歌「そうですね．．．健介は私たちのために．．．本当に一

緒にいてくれた．．．」

真奈「そうなんだ．．．」

切歌「うん．．．まだ真奈たちが生まれる前．．．健介と一緒に

に戦ってきたのデース．．．」

真奈「．．．．．ママ．．．」

切歌「でも．．．ぐす．．．あの日．．．ぐす．．．えぐ」

真奈「ママ．．．もういいよ．．．大丈夫．．．パパは絶対に生

きて帰ってくる!!」

切歌「ぐすえぐ．．．うあああああああ」

真奈「ママ．．．」

調side

私はいつも通り 本を読んでいた 首飾りとしてシャルシヤガマ

を付けている．．．だけど私はもう装着することはしない．．．

あの日から．．．

私は悲しみが上まっっているからだ．．．あの日健介を守れなかつ

た．．．自分がいや．．．娘の前では元気のふりをしているが．．．

もう限界．．．

健介がいない．．．愛した人がいない．．．

調「健介．．．」

私もあなたの元へ行きたい．．．もういいよね？

「だめだ!!」

調「!!」

私は手を止めた．．．

調「え．．．今の声．．．」

そう私は聞き覚えがある．．．声だ．．．



私はダツシユをして声の方へ行くが……誰もいない……  
調「……………でも……あの声は健介……………」

ファイル「調？」

調「ねえファイル……………」

ファイル「なんだい？」

調「今 誰か通つてなかった？」

ファイル「残念ながら誰も通つてないぞ」

調「そう……………」

ファイル「調!!その包丁は!!まさか!!」

調「最初は死のうと思つた……………でもそれを止める声が聞こえたの……………」

ファイル「その声がバデイだということのか？」

調「うん……………」

ファイル「調……………健介は生きている あの名はそういう男だからな……………」

調「そうだね……………」

愛「どうしたの ママ ファイルス」

ファイル「何でもないさ……………さあ明日も速いんだ」

そういつてファイルは娘を寝かせに行つた

調「……………シャルシヤガナ……………いつかはあなたを再び装着できるように頑張る……………」

そういつて私はペンダントを握りしめる

???

セレウス「……………さて行け 火炎魔人」

火炎魔人「お任せを!!」

そういつて燃え盛る 火炎魔人は出ていくのであつた

ファイル「愛!!敵が現れた!!」

愛「わかつた!!」

そういつて私はファイルをもつて走る

一方でSONGでも

翼「剣……………」

剣「わかっています 母上行ってきます!!」

そういつて剣はいく

真奈「さて私も!!」

そういつて彼女も向かっていく

三人のライダーたちが今集結をする!!

愛「あれが!!」

火炎魔人「貴様が仮面ライダーだな!!俺は大火炎軍団 火炎魔人さ  
まだ!!」

ファイルス「愛 奴は炎を使うようだな」

愛「そうだね!!」

そういつてファイルスをかまう

ファイルス「シャークモード!!」

愛「よし・・・へん」

二人「ちよつとまった!!」

愛「おつととと」

剣「愛 私も参戦をするぞ!!」

真奈「私もだよ!!」

愛「はいはい それじゃあ三人で変身と行きますか!!」

剣「剣術 弑式!!」

「タドルクエスト!!」

真奈「第2シューティング!!」

「バンバンシューティング!!」

愛「いくよ!!」

ファイルス「シャークモード!!」

3人「変身!!」

「タドルメグルタドルメグル タドルクエスト」

「ババンバン ババンバン バンバンシューティング」

愛は仮面ライダーフェイス シャークモードに

剣は仮面ライダーブレイブ クエストゲームレベル2

真奈は仮面ライダースナイプ シューティングゲームレベル2

になったのだ

ブレイブ「仮面ライダーブレイブ 参る!!」

「ガシヤコンソード!!」

スナイプ「狙い撃つよ!!」

「ガシヤコンマグナム!!」

フェイス「いくよ!!二人とも!!」

ファイルス「シャークセイバー!!」

火炎魔人「こい!!仮面ライダー!!」

幹部襲来!!

ブレイブ side

ブレイブ「……………」

ブレイブは今ガシャコンソードを構えながら 思っている 父のことを……………」

剣の剣は 父 健介から学んだものである……………まだ彼女が6歳の時……………」

彼女は父 健介から学んでいたのだ

健介「いいかい 剣……………剣は確かに強い……………だけど守り切れないときもある……………その時は」

そういつて健介は剣を構えながら

健介「己の限界を超えない程度……………たとえ剣が折れようとも立ちあがろうとする心を忘れるな……………そして仲間を信じること」

剣「信じること……………」

健介「そうだ……………」

ブレイブ「父上……………」

すると火炎軍団の戦闘員たちが襲ってきたのだ

ブレイブ「は!!」

ブレイブはガシャコンソードを構えて

ブレイブ「参る!!」

まず前にいた戦闘員を切っていく 後ろから来たのをガシャコンソードをまわして切りつけたのだ

「うっう!!」

戦闘員たちは火炎弾を投げてきた

ブレイブ「そんなもの!!」

そういつてダッシュをして回避をしていく

Bボタンを押して氷モードにしたのだ

「コ・チーン」

ブレイブ「であ!!」

地面に突き刺して 凍らせたのであった

さらにダッシュをして切ったのであった  
ブレイブ「私に切れないものなどない!!」

スナイプ side

やるねー剣・・・なら!!

スナイプ「は!!」

私はガシャコンマグナムを放ち 戦闘員たちを撃っていく

スナイプ「まだまだ」

そういつてBボタンを押して ガトリングのように弾を放った

スナイプ「おっと 甘い甘い」

回避をしながら やるが ごちーん

スナイプ「いったー！ー！ー！」

どうやらこん棒が私の頭に当たったようだ

スナイプ「このー！ー！ー!!」

私を殴った相手にガシャコンマグナムを付けて撃ちまくったので  
あった

「ぐおおお・・・・・・」

スナイプ「もう!!女の子の頭を殴るなんて!!」

素晴らしいながら

スナイプ「もう!!」

Aボタンをおしてライフフルモードにした

「ズ・キューン!!」

スナイプ「しつこい!!」

そういつてライフフルモードで攻撃をする 威力は高いけど 連射  
ができないんだよね・・・でも!!

スナイプ「は!!」

私は撃ちながら ダッシュをして 次々に撃っていく・・・

スナイプ「さーて」

Bボタンを押して FULLCHARGEをした弾を

スナイプ「ファイア!!」

放ち 戦闘員たちを倒した

スナイプ「さーて愛のところに行かないとね!!」

そういつて私はダツシユをした

フェイスside

フェイス「はああああああああああああ!!」

火炎魔人「甘いわ!!」

私のシャークセイバーを奴は炎のこん棒でガードをする

火炎魔人「くらうがいい!!」

口が開いて

ファイルス「いかん!!かわすんだ!!」

フェイス「ぐ!!」

火炎が放たれたが 私は回避をした

火炎魔人「どりやどりや!!」

フェイス「ぐ!!」

私はシャークセイバーで受け止めるが パワーが強くて

火炎魔人「くらうがいい!!」

フェイス「きやああああああ!!」

火炎魔人の攻撃を受けて フェイスは吹き飛ばされる

フェイス「ぐ!!なら!!」

そういつて動物アイコンを押した

フェイス「パワーならパワーよ!!」

ファイルス「ゴリラモード!!」

フェイス「チェンジ!!」

姿がシャークモードからゴリラモードに変わった

両手の装甲についたゴリラナツクルでフェイスは殴りかかる

フェイス「どりやああああああああ!!」

火炎魔人「ぐお!!」

右手のゴリラナツクルをガードをしようとしたが そのこん棒が

粉碎されたからだ

火炎魔人「まさか 俺のこん棒を!!」

フェイス「どりやああああああああ!!」

さらに連続して殴るのであった

その様子がある男が見ている

「あれが仮面ライダーか……俺の火炎魔人をな……へ!!面白  
いぜ!!」

すると彼の姿が変わり 燃え盛るまるで不死鳥のような姿になっ  
た

「この俺……バーニングフェニックスさまが相手をしてやるか」  
そういつて彼はビルから降りる

一方でブレイブとスナイプも合流をしたのであった

ブレイブ「大丈夫か!!」

スナイプ「お待たせ!!」

そういつて二人も駆けつけた

フィス「ありがとう!!」

火炎魔人「まさか俺の戦闘員たちを全滅させてきただど!!」

ブレイブ「これで終わりだ!!」

ガツシユン!!

スナイプ「そうそう」

ガツシユン!!

ガシャット!!キメワザ!!二人はそれぞれのガシャットを武器に挿  
入をする

フィス「ファイルス!!」

ファイルス「わかつている!!」

そして必殺アイコンを作動させる

ファイルス「必殺!!ゴリラメテオパンチャー!!」

「タドル(バンバン)クリティカルフィニッシュ!!」

三人「はあああ……は!!」

三人の技が はなたれる

火炎魔人「ひいいいいいい!!」

「ひゃっはー……!!」

三人「!!」

爆発が起こり 煙がはれると

フィス「なにあれ……」

火炎魔人「バーニングフェニックスさま!!」

フェニックス「大丈夫か 火炎魔人」

火炎魔人「フェニックスさまがどうしてここに!!」

フェニックス「なーに大事な部下がやられるのを見てられなくてな  
それにこいつらと戦いたいと思っただけ!!」

そういつて彼は大剣を出した

フェニックス「仮面ライダーが三人もいるとはな．．．俺の心が  
たぎってきたぜ!!」

SONG基地

響「!!」

翼「立花!!」

響「今戦えるのは私だけ．．．なら!!」

翼「しかし．．．」

響「大丈夫ですよ 翼さん．．．健介さんが守ろうとしてきた  
命を見捨てれるわけじゃないですよ!!」

そういつて響は出た

響「．．．」

「出番か？」

響「うん 出番だよ コーベルト」

そういつて彼女に姿を現せた

コーベルト「そうか」

彼はコーベルト 健介さんが私のために作ってくれた アーマー

響「うん．．．」

コーベルト「仕方がない．．．あいつらは装着ができないから  
な．．．」

響「うん今は奏さんやセレナちゃんはいない．．．奏者としては  
私だけ．．．いくよ!! Balwusyal Nesceel

gungnir tron」

そして彼女がガングニールを纏うとともに

コーベルト「は!!」

コーベルトは分離をして 響の腕部 脚部 胸部 背部 そして  
頭部へと合体をした



響「は!!であ!!ほああああああ!!」

背中のウイングが展開をして 響は飛び立ったのだ

翼「立花………」

翼は胸のペンダントを握る

翼「………私は情けない………」

二人「………」

それは調 切歌も同じであった 娘が戦っているのに何もできない自分が……

さて一方で

ブレイブ「はああああああ!!」

フェニックス「ふん!!」

ブレイブが放った ガシヤコンソードをフェニックスは炎の大剣で受け止めた

スナイプ「この!!」

スナイプはガシヤコンマグナムを放った

火炎魔人「フェニックス様!!」

火炎魔人が自分の体でガードをしたのだ

フェニックス「火炎魔人!!」

火炎魔人「平気でごきます!!」

フィス「であああああああ!!」

フィスはイーグルモードになってフィスガンとイーグルライフルの二丁で攻撃をする

二人「ちい!!」

フェニックス「おりや!!」

ブレイブ「ぐ!!」

火炎魔人「ふん!!」

スナイプ「きやああああああ!!」

フィス「二人とも!!」

フェニックス「さーてこれで終わりにしてやろうか 仮面ライダー!!」

そういつて大剣がさらに燃えて 三人のライダーたちに攻撃をし

ようとしたとき

「はああああああああああ!!」

上空から 何かかけり入れてきたのだ

フェニックス「どあ!!」

火炎魔人「フェニックス様!!」

三人のライダーは誰があいつを吹き飛ばしたのかを見る

「間に合ったみたいだね」

そこに立っているのは オレンジ色で腕部はナツクルガードを装備しており首元にはマフラーが装着されており さらにそれを纏っているかのように腕部 胸部 脚部 背部 頭部に合体をしている 青いパーツが装着されている

そう彼女は立花 響 ガングニール奏者である

フェニックス「いつて……ほう これは立花 響か……」

響「お前たちは何者なのかしら?」

フェニックス「俺は大火炎軍団幹部 バーニングフェニックス 長いからフェニックスとでも呼んでくれ まさかあんたが出てくるなんてな……まあいい火炎魔人 撤退をするぞ」

火炎魔人「俺はまだ!!」

フェニックス「俺をかばったときのダメージがある……今は引くぞ!!」

火炎魔人「ふえ……フェニックス様!!は!!」

フェニックス「なかなか楽しかったぜ 仮面ライダーたち……だが次は勝たせてもらうぞ」

そういつてフェニックスは消えるのであった

響「く!!」

響は両手をガードをした

響「逃げられた……」

コーベルト「反応なしだ」

響「そうみたいだね……さて三人とも大丈夫?」

そういつて響は彼女たちに言った

フィス「はい……」

ブレイブ「まだ足りないみたいですよ」

スナイプ「私もだよ……」

響「大丈夫だって 私なんかには比べたら」

フェイス「そうなんですか？」

響「うん……私ね ずっと前に起った コンサート事件の時……奏さんのガングニールの破片を受けてね……なんとか生きてきた……でも」

私たちは響さんの顔が悲しそうになっているのを見た

響「つらかった……人殺しとか言われたしね……生き残った人たちはそういうことを受けてきたの……」

そう悲しい過去だった……

響「……ごめんね……こんな話をして……さあ帰ろう」  
そういつて私たちは戻る

ファイルス「……」

愛「ねえファイルス……」

ファイルス「なんだい 愛」

愛「響さんの言っていた過去の事件って？」

ファイルス「そうだね……私たちもかかわっているわけじゃないからな……当時 SONGがまだ2課という組織だったころ ネットで起動実験をしていたのだ」

剣「それって母上の……」

ファイルス「だがそれは失敗をした……ノイズたちの襲撃でな……そこではノイズにおそわれて死んだ者や逃げる際にドミノ倒しで死んだものなどたくさん死者が出たんだ……」

真奈「そんなことが……」

ファイルス「そう 響はその時に奏のガングニールの破片が刺さり、だがそこに仮面ライダー鎧武が彼女たちを助けたそうだ……そして響はそこから批判を受けてきたそうだ……」

響「そう……それがずっと前に起った コンサート事件の全貌……総ては了子さんがおこなったことらしいんだ……」

愛「響さん」

響「大丈夫だよ こうして健介さん達にも出会えたんだから……」  
そういって彼女は笑っている

基地へ戻った後 私はある場所へいた

「そう……あの子たちが……」

マリア・カデンツァ・ヴナ・イヴ いや今は 桐野 マリアと言っておこう

「ったく……」

もう一人は雪音 クリス 彼女も桐野 クリスとなのつておこう……ほとんどが前の名前を使っているが 桐野性である

今彼女たちがいるのは病院だ……私ことファイルスは今彼女たちがたまたかっていることを伝えたのだ

マリア「まだ調たちは……」

ファイルス「残念ながらも……」

マリア「そう……」

ファイルス「そういえば子どもは」

クリス「ああ元気だぜ……もう少しで退院ができるぜ」

そういつてるが 彼女たちは出産をしたのだ そう健介の子どもだ

それも女の子だ

ファイルス「やれやれ バディがないのは残念だ……」

マリア「そうね……」

クリス「だがあいつが残していったのはあるぜ……子どもという結晶を……あたしはパパやママが死んでしまつて愛情を伝えきれなかった……だからこそあたしはあの子を悲しませたりしない……」

ファイルス「そうだったな……君の家族は……」

クリス「さて名前をだな……」

マリア「そうね……」

ファイルス「バディならこうつけているじゃないかな？クリスとの子供は 優子 マリアとの子供は 歌奈と」

クリス「優子」

マリア「歌奈……いい名前ね」

ファイルス「バディはおそらくつけていたかもしれないな……」  
そういつて私たち3人は笑うのであった

一方で

セレウス「そう……仮面ライダーが3人も」

フェニックス「そういうこつたセレウス どうする気だ」

セレウス「そうね……ところで火炎魔人は？」

フェニックス「あいつは今は傷を癒している しばらくは活動がで  
きねえ」

セレウス「どうする気なの？」

フェニックス「火炎魔人に変わるやつがいるぜ 出て来い」

「お呼びですか フェニックス様」

フェニックス「来たな ガルン お前に火炎魔人の任務を引き継い  
でもらうぞ」

ガルン「お任せください フェニックスさま」

## ドラゴナイトハンターZを使いこなせ

SONG基地 シュミレーション室

フィルス「いいかい 君達はまだ自分たちの力をわかりきってない状態だ」

フィス「うん それはわかっているよ」

フィルス「そのとおりだ まず君達はもっとレベルアップをしないとけない」

ドラゴン「で呼び出されたのが」

ライオトレイン「私たちってことか」

フィス「どういうこと？」

ドラゴン「俺たちのモードは特殊ってことだ」

ライオトレイン「うむ 通常よりもパワーがあがるが制御が難しいってことだ」

フィス「なるほどね」

フィルス「まず 愛にはドラゴンモードとライオトレインモードになれてもらう」

フィス「わかったわ」

一方ブレイブとスナイプは

スナイプ「レベル3までは制御ができるわね」

っとコンバットシユーティングゲーマーになっている スナイプ

ビートクエストゲーマーになっているブレイブであった

ブレイブ「ああ・・・そして」

そういつて金色のガシヤットを出した

ブレイブ「今度はこれね」

スナイプ「ドラゴナイトハンターZ・・・レベルは5・・・」

そういつて2人は見る

スナイプ「どうする？」

ブレイブ「やらないと・・・奴に勝てない」

そういつて2人はドラゴナイトハンターZを起動させる

「ドラゴナイトハンターZ!!」

ブレイブ「剣術 五式」

スナイプ「第5シューティング」

「ガシャット!!レベルアップ!!ドツドツドラゴナナナイト ドラドラ  
ドラゴナイトハンター Z!!」

つと装着された 二人はフルドラゴンだ……

ブレイブ「こ……これが……」

スナイプ「ドラゴナイトハンターZの……ぐうう……」

二人はドラゴナイトハンターZの力に制御がしきれてないのだ

フィス「なに!!」

二人「ぐおおおおおおお!!」

見るとドラゴナイトハンターZを装着をしてフルドラゴンになっ  
た二人でつた

フィルス「まずい!!ドラゴナイトハンターZの力に制御ができてな  
い!!」

フィス「どうしよう!!」

ドラゴン「愛!!俺を使え!!」

フィルス「何を言っている!!危険すぎる!!」

ドラゴン「健介は俺を一回で制御をしたんだ……こいつもあい

つの娘だろ?」

フィルス「確かにそうだが……」

フィス「やろう!!」

フィルス「愛!!」

フィス「お父さんが一回で成功をしたんでしょ!!……なら私は相  
田 健介の娘よ!!だから!!」

ライオトレイン（あの目……似ているな……）

ドラゴン（ああ……健介に似ているな……剣や真奈も似てい  
るが……やはり……）

つとドラゴンたちは愛を見ていたのであった

フィルス「わかった……ドラゴン!!」

ドラゴン「わかつているよ!!愛!!俺のモードを押しな!!」

フィス「これね!!」

ファイル「ドラゴンモード!!レディ!!」

ドラゴン「いくぜ!!」

するとドラゴンジェットターが分離をして ファイスに装着をしていくのであった

ファイル「ドラゴンモード!!セットアップ完了!!」

フィス「だああああああああああ!!」

フィス「・・・・・・・・・・・・・・・・」

二人「あ・・・愛?」

フィス「すごい・・・力を感じる・・・お父さんも最初はこんなのかな?」

ドラゴン「おいこれって」

ファイル「成功のようだな」

フィス「さして二人を止めるよ!!」

二人「おう!!」

ブレイブ「ぐう・・・・・・・・」

スナイプ「があああ!!」

フィス「二人とも!!自分の意思をもって!!」

ブレイブ「あ・・・愛!!」

スナイプ「ぐうううう・・・・・・・・」

フィス「二人とも 相田 健介の娘でしょ!!お父さんが見ていたらどう思うの!!」

ブレイブ「ち・・・父上が・・・・・・・・」

スナイプ「パパが・・・・・・・・」

剣(そうだ・・・父上はどんなときにもあきらめたりしてなかった・・・・・・・・)

真奈(たとえ体がボロボロになっても戦い続けてきたんだ・・・)

二人「私たちはその娘!!こんなのに負けてたまるか・・・・・・・・!!」

つと二人は気合を入れた!!

ブレイブ「感謝をする」

スナイプ「ありがとうね!!」



そういつて三人は言うのであった

フィス「ねえねえ せつかくだしき……」

ブレイブ「なるほどな……」

スナイプ「いいね……」

同じ時間に産まれた 三人は三つ子じゃないのに考えることがわかるらしい そして今回は せつかく力が使えるようになったし 試そうとிட்டたのであった

そしてお互いに離れて 構えるのであった

フィス「いくよ!!」

フィルス「ドラゴンシールド」

そして剣を抜いた

ブレイブ「参る!!」

スナイプ「いくよーーー!!」

つと三人は激突をした

スナイプは左手のドラゴレールガンで攻撃をしてきた

フィス「く!!くらえ!!」

フィスは胸部にドラゴンの頭部が出現をして火炎放射を放つたのだ

ブレイブ「火炎なら私もだ!!」

そういつてブレイブも火炎で相殺をしたのだ

さらに剣同士が激突をして

スナイプ「一気に蹴りを付けよう!!」

ブレイブ「その意見には参戦だ」

フィス「そうだね!!」

そういつて必殺の構えをする

二人はガシヤットを抜いて キメワザホルダーへセットをした

「ガシヤットキメワザ!!ドラゴナイトクリティカルストライク!!」

ブレイブはドラゴソードにエネルギーを スナイプはドラゴレール

ルガンにエネルギーをためているのだ

フィルス「必殺!!ドラゴンブレイク!!」

フィス「はああああ……」

三人「は!!」

三人の技が激突をして 衝撃が飛ぶ!!

三人「きゃああああああ!!」

三人は吹き飛び 変身が解除をされる

愛「いたたたたた・・・」

剣「く・・・」

真奈「いったいー」

「全くもう・・・元気でいいのか悪いのか」

つと一人の女性がいた

三人「セレナお母さん!!」

そう彼女は 桐野 セレナ マリアの妹だ

彼女にはベルトをしているのがある それはビルドドライバ―

これも健介が残してくれたものであり

現在は色々と変身が可能であった

セレナ「お疲れドラゴン」

そういつてクローズドラゴンを變形を解除させるのであった

セレナ「それじゃあ私が試してあげる」

そういつてビルドドライバ―を装着をして フルボトルを振って  
いる

「ラビット タンク!!ベストマッチ!!ア―ユウ―レディ!!」

セレナ「変身!!」

「鋼のムーンサルト!!ラビットタンク!!いえーい!!」

セレナの姿が変わり 仮面ライダービルドになったのだ  
ビルド「さて実験を始めるわよ」

そういつてドリルクラッシュヤーを構える

フェイス「まじですか・・・」

ブレイブ「やるしかないか・・・」

スナイプ「まじですか」

## ビルド対三人のライダー

ビルド「さあかかってきなさい」

そういつてビルドは構えるのであった

フィス「どうする……」

ブレイブ「戦うしかないよ」

スナイプ「なら私が援護をするよ」

そういつてジェットコンバットのガシヤットを入れる

スナイプ「第三シューティング!!」

「ガチャーンレベルアップ!!ジェットジェットインザスカイ!!

ジェットジェット ジェットコンバット」

コンバットシューティングゲーマーレベル3になった

ブレイブ「いきます!!」

フィス「はああああああああ!!」

フィスとブレイブはライオンモードとクエストゲーマー2になっ

て武器を構える

ビルド「なるほどね……」

まずビルドはドリルクラッシュャーで二人の剣を受け止める

スナイプ「は!!」

スナイプは上空から コンバットガトリングで攻撃をする

ビルド「ふふふ」

ビルドは笑いながら 受け止めた二人の剣をはじいた後 銃モー

ドにして スナイプに攻撃をする

スナイプ「わつと!!」

ビルドはフルボトルを振って 変えたのであった

「タカ!!ガトリング!!ベストマッチ!!」

ビルド「ビルドアップ」

「天空の暴れんぼう!!ホークガトリング!!」

そして翼を広げて 空を飛ぶ

スナイプ「げ!!」

フィス「させない!!」

ファイルス「イーグルモード!!」

翼を広げて 空を飛ぶ

ファイルス「は!!」

イーグルライフルでビルドに攻撃をするが

ビルド「おっと」

ホークガトリンガーで相殺をしていく

さらに風を発生をさせて 二人のスピードを下げる

ブレイブ「空か・・・」

ブレイブは空を飛べないため 攻撃ができない

ビルド「さーて」

そういつてホークガトリンガーをまわしている それを十回する

「フルバレット!!」

ビルド「はああああああああああああ!!」

すると計算式が現れて 2人のライダーにガトリングの雨をあび

せる

2人「うああああああああああ!!」

ブレイブ「愛!!真奈!!」

地上へ降りてきた 二人をキャッチをした

ファイルスはライオンモードに スナイプはシューティングゲーマー

に戻る

ビルドは着地をして 忍者とコミックのフルボトルを振っている

「忍者!!コミック!!ベストマッチ!!」

ビルド「ビルドアップ」

「忍びのエンターティナー ニンニンコミック」

4コマ忍法刀を装備して 攻撃をする

ビルド「は!!」

ビルドは右手から手裏剣状のエネルギーを発生させて それを投

げてきたのだ

ブレイブ「は!!」

ブレイブはガシャコンソードで手裏剣をたたき落とす

ファイルス「ビートルモード!!」

フェイス「チェンジ!!」

フェイスはビートルモードになって 頭部のビートルホーンに雷エネルギーをためた

フェイス「ビートルサンダー!!」

頭部から雷エネルギーが放たれた

ビルド「おっと」

スナイプ「ばーん!!」

ライフルモードにしたガシヤコンマグナムをはなったのだ

ブレイブ「でああああああああ!!」

さらにブレイブが接近をしてきたのだ

ビルド「なら」

ビルドは忍法刀のトリガーを1回引く

「分身の術!!」

3人「!!」

するとビルドが三体に増えたのだ

フェイス「どれが本物!!」

スナイプ「まずいよ 私接近ないよ」

ブレイブ「うろたえるな!!」

そういつてブレイブは氷モードにして ガシヤットをガシヤコンソードにセットをした

「ガシヤットキメワザ!!ダドルクリティカルフィニッシュ!!」

ブレイブ「飛べ!!」

そういつて二人を飛ばすと地面にガシヤコンソードを刺したので あった

ビルド「!!」

一体のビルドが避ける ほかの2体は氷漬けになったのだ

ブレイブ「あれが本物だ!!」

スナイプ「そういうことか!!」

そういつてガシヤコンマグナムを放つ

フェイス「は!!」

ビートルアックスガンモードにして放つ

ビルド「おっと!!」

ビルドは忍法刀ではじかせるが　そこにブレイブが接近をする  
ビルド「いい作戦ね」

ブレイブ「ありがとうございます」

ビルド「でも」

「火遁の術!!」

燃え盛る剣がブレイブを切る

ブレイブ「ぐあ!!」

「ハリネズミ!!消防車!!ベストマッチ!!」

ビルド「ビルドアツプ!!」

「レスキュー剣山　ファイヤーヘッジホッグ!!」

姿が変わったのであった

ブレイブ「また変わった!!」

ビルド「ふん!!」

右手のハリネズミの手から針が発生をして　それを飛ばしてきた  
のだ

フィス「まずいまずい!!」

スナイプ「なら!!」

メダルをとった

「鋼鉄化!!」

ブレイブ「く!!」

ブレイブは高速のメダルをとり

「高速化!!」

素早く動くのであった

フィルス「落ち着け　愛!!リフレクトディフェンダーを使うんだ」

フィス「そうか!!」

そういつてフィルスをとり　ボタンを押す

フィルス「リフレクトディフェンダー!!」

ブレイブ「は!!」

ビルド「おっと!!」

ビルドは左手のラダーで受け止めたのだ

ブレイブ「な!!」

ビルド「残念だけど これで終わりよ!!」

そういつて右手でレバーをまわしていく

「READY GO!!ボルトティックファイニッシュ!!」

するとラダーが伸びて ブレイブを殴り

ブレイブ「ぐ!!」

さらに上空へとび

ビルド「はああああああああ!!」

回転をして針をたくさん放ったのだ

3人「きやああああああ!!」

3人は変身を解除されるのであった

ビルドも着地をして変身を解除をした

セレナ「ふう．．．いい汗を書いたわ」

真奈「つてこれ．．．完全に」

剣「八つ当たりですね．．．」

愛「きゅーーーー」

セレナ「お疲れ様 でもあなたたちはまだまだ強くなるわ．．．

私や響ちゃんや．．．奏さんのように」

そういつてセレナは去るのであった

セレナ「．．．．．健介さん．．．」

セレナはフルボトルを持ちながら思うのであった

司令室

翼「久しぶりだな セレナ」

セレナ「はい 翼さんも．．．司令官がお似合いになってき

ましたよ」

翼「．．．．．そうだな．．．」

セレナ「まだ．．．装着が．．．」

翼「．．．．．ああ．．．」

セレナ「そうですか．．．でもいつまでも逃げているのはだ

めですよ」

3人「．．．．．」

セレナ「あの子たちが戦っている……母親としてはつらい  
かもしれないわ……でもあなたたちが戦えない以上……彼女た  
ちが頑張るしかないのよ……」

3人「……」

セレナ「つらいかもしれないわ……でも健介さんなら……  
戦えなくなっても娘を助けると思うわよ」

そういつてセレナは自分の部屋へ行くのであった

翼「……」

切歌「……」

調「戦えなくても助ける……か……」

そういつて健介が思うことを考えるのであった



## 復活の母親たち 親子のコンビネーション

ガルン 「ここだな・・・奴らの発電所は・・・」  
「は!!その通りであります!!」

ガルン 「よしお前ら!!ここを徹底的に壊せ!!」  
「おーーーーー」

SONG基地

「翼 司令!!」

翼 「どうした!!」

「発電所に敵が!!」

翼 「まずい・・・あの発電所は私たちの本部につながっているもの  
だ・・・もし破壊されたら」

愛 「行こう!!」

そういつて三人は行くのであった

ライオトレイン 「まっていたぞ!!さあ発電所まで直行だ!!」

そういつてライオトレインに乗り込み 変身をしたのだ

発電所

ガルン 「いいぞ!!もつと暴れるんだ!!」

そういつて壊そうとしたとき

「ライオビーム!!」

ガルン達 「どあああああああ!!」

ライオトレイン 「発電所前に到着!!破壊する前だぜ!!」

フェイス 「よいしょ」

スナイプ 「おっと」

ブレイブ 「ふ」

三人のライダーが降りたのであった

ガルン 「なるほど貴様たちが仮面ライダーか」

ブレイブ 「この発電所は破壊させるわけにはいかない!!」

スナイプ 「覚悟して!!」

フェイス 「いくよ!!」

そういつて三人のライダーは武器を構えるのであった

ガルン「やれ!!者ども!!」

「ほいーほいーほいーほいー!!」

大火炎軍団の戦闘員たちがこん棒をもって攻撃をしてきた

ブレイブ「これより 大火炎軍団と戦闘を開始!!」

スナイプ「さーて狙い撃つよ!!」

フェイス「いきます!!」

スナイプはガシャコンマグナムを連射をして戦闘員たちを近づけさせないようにしている

だがそれでも来るが

スナイプ「私 接近戦が苦手とは!!」

そういつて蹴飛ばした

スナイプ「いつてないよーだ!!」

ブレイブ「は!!」

ブレイブはガシャコンソードをふるって切り裂いていく

ブレイブ「……………」

無言で構え……………

ブレイブ「であ!!」

回転切りをして戦闘員たちを倒していく

ブレイブ「……伊達に防人の母上の剣技を見て育ってきた……

わけじゃない!!」

そういつて次々に切っていく

ブレイブ「は!!蒼ノ一閃!!」

エネルギー刃を飛ばす 本来はアmanoハバキリを装着をした技だが……私はこれをガシャコンソードでできるかずっと試した結果できた……………」

ブレイブ「でああああああああ!!」

フェイス「よつと」

私は今敵の攻撃をかわしながら 右腰につけている フェイスガンを抜いて 相手に放つ

フェイス「それぞれ」

連続で放ち 相手を倒していく

フェイス「多いな……」  
ファイル「そうだな 愛!!」  
フェイス「モードチェンジだね!!」  
ファイル「そうだな……」  
フェイス「チェンジ!!」  
ファイル「エレファントモード!!」  
ゾウのエネルギーが纏い ファイス エレファントモードになった  
フェイス「いくよ!!」  
ファイル「エレファントノーズ!!」  
そういつてエレファントノーズが戦闘員を捕まえて  
戦闘員「え?」  
フェイス「それそれ!!」  
そういつて振り回す  
戦闘員「だああああああああああ!!」  
戦闘員Aは目を回しながら言うのであった  
フェイス「そこに整列!!」  
戦闘員たちは並んで  
フェイス「シユート!!」  
投げ飛ばしたのであった  
ファイル「N I C E S T R I K Eだ!!」  
ガルン「馬鹿者!!何並んでいるんだ!!」  
戦闘員「す・すみませんおやびん!!」  
ガルン「全く情けない……今度は俺様が相手だ!!」  
そういつてガルンは武器を持ち 立ちあがるのであった  
フェイス「二人とも」  
ブレイブ「わかっている」  
スナイプ「油断はしないよ!!」  
そういつて構え直すのであった  
私はエレファントソードアンドシールドに変えて 攻撃をする  
ガルン「ふん!!」  
ガルンはその持っている武器で受け止める

ガルン「か!!」

するとガルンの目が光り

フィス「きゃあああああああ!!」

ブレイブ「愛!!」

スナイプ「この!!」

スナイプはガシヤコンマグナムを連射をして放つが

ガルン「そんなもの!!」

もっている武器を回転させて ガードをする

ブレイブ「はあああああああああ!!」

ブレイブも攻撃をするが

ガルン「甘いわ!!小僧ども!!」

そういつてガルンは三人を吹き飛ばしたのであった

三人「きゃあああああ!!」

SONG基地

翼「く・・・・・・・・・・・・・・・・」

翼は悔しいのだ・・・・・・・・自分の娘が戦っているのに・・・・・・・・自分は何  
をしているんだって・・・・・・・・

「それでいいのか・・・・・・・・翼」

翼「え・・・・・・・・・・・・・・・・」

「翼さん？」

翼「今の声は・・・・・・・・・・」

「調 切歌もだ・・・・・・・・」

2人「!!」

三人はあたりを見る

「今 俺たちの娘が戦っているんだ・・・・・・・・お前たちが助けなくてど  
うするんだ・・・・・・・・」

翼「け・・・・・・・・健介さん・・・・・・・・」

調「どこ・・・・・・・・どこなの？」

切歌「健介・・・・・・・・・・」

「やられてしまう・・・・・・・・娘たちが・・・・・・・・それでいいのか!!」

翼「・・・・・・・・そんなこと・・・・・・・・」

調「できるわけないよ!!」

切歌「真奈は・・・私の」

三人「大事な娘だ!!」

そういつて三人は急いで向かうのであった

サーガ「待っていたぜ!!」

翼「サーガ・・・」

サーガ「乗りな!!翼・・・相棒!!」

翼「ああ!!」

そういつて翼はサーガにまたがり

ドラゴン「よう!!」

ドラゴンジエッターが待っていたのだ

ドラゴン「急ぐぜ!!」

そういつて二人を乗せるのであった

調「待っていて・・・愛!!」

切歌「真奈・・・」

翼「剣・・・」

三人「今行くから!!」

そういつて三人はそれぞれの思いで向かったのであった  
一方で

ガルン「おら!!」

フェイス「が!!」

ブレイブ「ぐ・・・」

スナイプ「が・・・」

ガルン「はああああああああああ!!」

三人「きゃああああああ!!」

三人は変身が解除をされてしまったのだ

愛「あう・・・」

剣「こんなところで・・・」

真奈「うう・・・」

ガルン「なかなかやるが・・・俺の敵ではなかったな!!」  
そういつてガルンは攻撃をしようとしたが

ドラゴン「おら!!」

ドラゴン「ジュエツターの口から光弾が放たれたのだ

ガルン「ぐ!!何者だ!!」

するとバイクが止まった

剣「サーガ!?!」

そう母上が使っているサーガだ．．．でも誰が

翼「剣!!」

剣「母上!?!」

どうして母上たちが!!

ガルン「貴様ら．．．．．」

愛「ダメ!!ママ!!」

真奈「そうだよ!!装着ができないのに!!」

調「だとしても．．．娘がピンチなのに．．．いつまでも閉じ

こもっているわけにはいかない!!」

切歌「そうデース!!健介がいたら．．．何て言われるかねw」

そういつて2人は笑っている

翼「そのとおりだ．．．もう二度と．．失うわけにはいか

ないのだ!!」

そういつて三人はギアを持ち

三人「．．．．．」

聖書を唱えるのであった

翼「Imyuteus amenohabakirritron」

調「Various shu; shagana tron」

切歌「Zeious igalimaraizen tron」

するとペンダントがひかって彼女たちの体に装着されていく

アマノハバキリ シュルシャガナ イガリマが今復活をしたのだ

!!

愛「あれが．．．お母さんのシャルシャガナ．．．」

剣「あれこそが．．．母上の．．．」

真奈「ママ．．．．．」

翼「立てるな 剣」

剣「もちろんです」

調「まだいけるでしょ？」

愛「うん!!」

切歌「さあ行くデース!!」

真奈「うんママ!!」

そういつて三人もゲーマードライバーを付けたり ファイルスをか  
まう

愛「いくよ ファイルス!!」

ファイルス「了解だ!!」

剣「いきます!!」

真奈「いくよーーー!!」

ファイルス「ライオトレインモード!!レディ!!」

ライオトレイン「俺の出番だな!!」

「タドルクエスト」

剣「第二剣術」

「バンバンシューティング!!」

真奈「第二シューティング!!」

三人「変身!!」

ファイルスはライオトレインが分離合体をした ライオトレインモ  
ドに

剣はブレイブ 真奈スナイプになったのだ

翼「さあ・・・反撃と行こうじゃないか!!」

そういつてギアの剣を構える

切歌「行くデース!! 久々ですけど!!」

そういつて鎌を構える

調「うん・・・でもいける!!」

ヨーヨーを構えるのであった

オーベル「調ーーーおいらを忘れないでくれーーー」

調「ごめんオーベル」

そういつてオーベルを構えるのであった

ファイルス「いくよ!!」

そういつて六人はガルンに攻撃をする  
ガルン「ふん!!」

ガルンは持つているのを攻撃をするが  
翼「甘い!!」

翼はギアを大きくして受け止めた

翼「剣!!」

ブレイブ「はい!!」

ブレイブはガシヤコンソードで攻撃をする

ガルン「ぐ!!」

調「はああああああああああ!!」

調はたくさんの鋸を放つ

フィス「は!!」

フィスはライオバズーカで攻撃をする

ガルン「ぬ!!」

スナイプ「ママ!!いつて!!」

切歌「任せるデース!!」

そういつて援護射撃をする スナイプ そして鎌をもった切歌が

切りかかるのであった

切歌「であああああああああ!!」

鎌の攻撃がガルンを引かせる

ガルン「ぐ……先ほどよりも力があがっているだ……」

フィス「なんでだろう……お母さんと一緒だからかな……」

調「私もだよ まるで健介と一緒に戦っているみたいだよ」

そういつてお母さんが笑ったのを久々に見たかもしれない……

フィルス「バディ……さあ止めを刺そう!!」

全員「ええ!!」

ブレイブ「いくぞ!!」

スナイプ「うん!!」

「がしゅつと!!キメワザ!!タドル(バンバン)クリティカルストライク  
!!」

翼「はあああ……」



切歌「いくですよ!!」

調「これで!!」

フィス「フィルス!!」

フィルス「もちろん!!必殺!!ライオメテオトレインストライク!!」

光のレールが放たれて ガルンの動きを止める

ガルン「ぐお!!」

翼「でああああああああ!!」

切歌「デース!!」

調「ええい!!」

三人の武器がガルンを切り裂き

三人のライダー「だあああああああああ!!」

三人ライダーのトリプルキックがガルンに命中をするのであった

ガルン「お……お見事……」

そういつて爆散をするのであった

翼「終わったみたいだな……」

ブレイブ「母上……どうして装着が……」

翼「……健介さんが声をかけてきたような気がしたんだ」

愛「お父さんが……」

調「うん……それでいいのか あなたたちが戦っているのに……つてね」

切歌「だから私たちはここへ来ることができたし 再び相棒を装着ができるようになったデース」

調（健介……きつと会えるよね?）

つと思う 調たちであった

一方 SONG基地に向かう人物

「さーて久々に戻ってきたぜ 元気にしてっかな?」

「お母さん だまって帰ってきてよかったの?」

「いいだろう 翼たちを驚かせようとなw」

「はあ……奏お母さんはいつもそうなんだから……」

奏「ったくいいじゃねーか 茜」

茜「お父さんもよく お母さんと」

奏「おいおいひどいな・・・」

茜「さて久々に愛たちにも会えますから」

奏「それじゃあ行くとするかな」

そういつて歩くのであった

## 戻ってきた ガングニール奏者

さて翼たちがライオトレインが基地へ到着をしたのであった  
ライオトレイン「SONG基地へ到着だぜ!!」

翼「皆 お疲れ様だ」

「よう 帰ってきたんだな」

翼「ん？奏!!」

奏「久しぶりだな 翼」

翼「ああ奏も」

愛「奏お母さん!!」

奏「久しぶりだな 愛」

愛「茜は？」

茜「いますよ 愛」

愛「茜ーーーーー」

つとぎゆつと抱き付いたのであった

愛「皆さんもお久しぶりです でも皆さんどこへ？」

剣「ええー！出動をしていました」

奏「出動？」

真奈「そう発電所に敵が現れたので」

奏「だがどうして翼たちも……まさか？」

調「うん 装着ができるようになったの!!」

奏「そうか!!よかったじゃねーか!!」

響「それに マリアさん達も退院が決まりましたし」

奏「そうかあいつらも子どもを産んだもんな……」

剣「そういえば茜も仮面ライダーになれるだったな？」

茜「ええ……」

そういつて出したのはデイケイドドライバーを出したのであった

真奈「なるほどねw」

茜「そういうことです」

そういつてしまうのであった

響「そういえば未来 会ってないな……」

翼「一応 おじさまの本部部隊への転属となったからな……」  
奏「そうだな……あたしらのようにフリーに動ける感じじゃないからな……あつちは」

セレナ「そうだね」

奏「おうセレナ」

セレナ「お久しぶりです 奏さん」

奏「そうだったな お前はアガートラムを今はマリアの方に移植をして」

セレナ「今はビルドで戦っています」

奏「だったな……」

そうセレナのは ずっと前に起った戦いでマリアのが大破をしてしまい 修理が不能になってしまったのを セレナを使って マリアのにしたため セレナはギアをまとうことができなくなったのであった

そして今はビルドに変身をして戦うのであった

一方で大火炎軍団は

セレウス「そう ガルンがね」

フェニックス「まさかギア奏者がな……面白いぜ……さてセレウスどうするか」

セレウス「そうね……」

「フェニックス様」

フェニックス「お前は バルンスト」

バルンスト「仮面ライダー抹殺任務 このわたくし目にお与えください」

フェニックス「バルンスト わかった!!お前に仮面ライダー抹殺任務を授ける!!」

バルンスト「必ずや フェニックス様とセレウス様に仮面ライダー抹殺任務成功の結果を報告します」

そういつて消えるのであった

さて一方で

翼「ふう……」

響「翼さん なにせ久しぶりに装着をしましたからね」

翼「ああ……これほどなまっているとは……自分が情けないさ……」

奏「しようがないさ あの二人もそうだが……お前もあいつの近くにはいたから……」

翼「わかってるさ……」

茜「それじゃ始めましょうか」

そういつてライドブツカーからカードを出して

茜「変身!!」

「カメンライド デイケイド!!」

すると茜の姿が変わり 仮面ライダーデイケイドになった

ブレイブ「なら私が相手をする」

そういつてガシヤコンソードを構える

デイケイド「では始めましょう」

ライドブツカーソードモードにして構える

ブレイブ「はああああああ!!」

ブレイブは接近をしてガシヤコンソードをふるった

デイケイド「おっと」

デイケイドはライドブツカーでうけとめて お互いに引けない

ブレイブ「であ!!」

デイケイド「やるわね ならデイケイドの力見せてあげる」

そういつてカードを出す

デイケイド「変身!!」

「カメンライド ブレイド」

すると姿がベルト以外が仮面ライダーブレイドになったのだ

ブレイブ「変わった?」

デイケイド「姿が変わっただけだと思わないことよ!!」

そういつて接近をして ブレイラウザーをふるった

ブレイブ「なら!!」

そういつて下がりながらメダルをとる

「高速化!!」

ブレイブ「は!!」

デイクライド「ぐ!!」

デイクライドブレイドは高速したブレイブの攻撃を受けてしまう  
デイクライド「なら!!」

「アタックライドメタル」

するとデイクライドブレイドの体が鋼鉄化になった  
ブレイブ「が!!」

攻撃をしようとしたブレイブは固くなった攻撃にはじかれた

「アタックライド スラッシュ」

デイクライド「であ!!」

威力が上がった斬撃が ブレイブのボディを切る

ブレイブ「きゃあああああ!!」

ブレイブは攻撃を受けて下がる

ブレイブ「なら 第三剣術」

「ドレミファビート!!」

「がちやんレベルアップ!!ドドドレミファソラシド オツケドレミ  
ファビート」

そういつてビートクエストゲーマーレベル3になった

ブレイブ「は!!」

ブレイブは右手のDJが使うようにして 踊るように動いたので  
あった

デイクライド「な!!」

デイクライドブレイドは剣で攻撃をしたが交わされて さらにリス  
ムののってガシャコンソードで攻撃をしてきたのだ

デイクライド「なら 変身!!」

「カメンライド 響鬼」

姿が仮面ライダー響鬼になった

「アタックライド 音激棒 烈火」

そういつて烈火を装備して

デイクライド「は!!」

烈火弾を飛ばす

ブレイブ「く!!」

ブレイブも音符爆弾で反撃をするのであった  
「ファイナルアタックライド ヒヒヒビビキ!!」

デイケイド「であ!!」

ぴたっと音激鼓をつけて

デイケイド「爆裂強打の型!!」

そういつて思いつき叩いたのだ

ブレイブ「ぐうううう!!」

吹き飛ばされたのであった

デイケイド「今回は私の勝ちですね」

ブレイブ「今度は負けない!!」

そういつてお互いに握手をするのであった  
一方で

フィス「うわ!!」

スナイプ「う……」

2人は今 母親と戦っていたが

スナイプは切歌の鎌が首のところに

フィスも調の鋸をうけかかっているのだ

調「ふう……久々に動いたから……」

切歌「疲れたデース」

2人「お母さんに負ける私たちって……」

そういつて落ち込むのであった

ビルド「まあ調たちも鍛錬だけはしていたし……ねえ」

そういつてビルドことセレナは苦笑いをするのであった

一方で病院

響「お待たせしました マリアさん クリスちゃん!!」

クリス「おう 響!!」

響「これが……」

クリス「おう 優子だ」

マリア「私のは歌奈よ」

響「よろしくね 優子ちゃん 歌奈ちゃん!!」

ライオトレイン「おーい そろそろ出るぞ」

3人「安全運転でね」

ライオトレイン「まかせろって!!」

そういつてライオトレインで乗って帰るのであった



## 相手の困惑

バルンスト「ここが奴らがいる場所か……」

バルンストは街並みをみているのであった

バルンスト「ふっふっふセレウス様のためにも 出て来い!! 仮面ライダー!!」

そういつて街を破壊するのであった

バルンスト「出てこなければ貴様の愛したこの街を破壊をするぞ!!」

つと戦闘員たちを出すのであった

奏「おいおい」

愛「行こう!!」

そういつて仮面ライダーたちは出動をするのであった

セレナ（みようだわ……何か怪しいわ……）

そういつてセレナは出るのであった

ライオトレインが停車をしたのであった

フィス「やめなさい!!」

そういつて降りる

バルンスト「来たな!! 仮面ライダー……つて一人増えているし!!」

デイケイド「ん? ……あたしか」

バルンスト「おのれ 新たな仮面ライダーか!!」

デイケイド「仮面ライダーデイケイドよ」

バルンスト「おのれ……増えようとも俺は変わりないわ!!」

そういつて構えるのであった

バルンスト「俺は大火炎軍団のバルンスト いざ参る!!」

そういつてバルンストは構えている斧をふるうのであった

ブレイブ「参る!!」

スナイプ「いくよー……!!」

デイケイド「やるさ」

フェイス「いくよ!!」

そういつて全員が戦闘を開始をしたのであった

フェニックス「やっているな……」

そういつてフェニックスは上から見ている

フェニックス「さーて俺も仕事を」

「急行!!」

フェニックス「!!」

すると電車型のエネルギーが飛ぶのであった

そこには海賊ハツシヤーを構えるセレナの姿があつたのだ

フェニックス「ほう これはセレナ・カデンツァヴナ・イヴさん……」

セレナ「私の名前を知っているとみると……」

フェニックス「いかにも俺はバーニングフェニックス 幹部だ」

セレナ「なるほど なら」

そういつてビルドドライバーをセットをして フルボトルを振つた

「ウルフ!!掃除機!!A-YOULADY」

セレナ「変身!!」

トライアルフォーム ウルフ掃除機になつたのだ

フェニックス「ほう……」

ビルド「は!!」

右手のウルフクローで攻撃をする

フェニックス「ぐ!!」

フェニックスは大剣をふるつた

フェニックス「くらえ!!」

フェニックスは炎の弾を飛ばすが

ビルド「そーれ」

掃除機で炎の弾を吸い込むのであった

ビルド「は!!」

さらに接近をしてウルフクローで攻撃をする

フェニックス「く!!やるな」

そういつて大剣で攻撃をする

ビルド「なら!!」

「フェニックス ロボ ベストマッチ!!」

ビルド「ビルドアップ!!」

「不死身の兵器 フェニックスロボ イエーイ」

ビルド「であ!!」

翼を開いて 空を飛び攻撃をする

フェニックス「おっと!!」

そういつてフェニックスも翼を開いて 攻撃をするのであった  
一方で

デイケイド「は!!」

スナイプ「であ!!」

2人はガンモードとガシヤコンマグナムを放つ

バルンスト「ふん!!」

バルンストは盾でガードをする

ブレイブ「は!!」

フィス「であああああああああ!!」

バルンスト「は!!」

光弾を飛ばした

2人「うあ!!」

デイケイド「大丈夫?」

フィス「なんとか」

ブレイブ「ならば!!」

スナイプ「ええ!!」

「ドラゴナイトハンターZ!!」

ブレイブ「第五剣術」

スナイプ「第五シューティング」

「ガチャンレベルアップ!!ドドドラゴナナイト ドラ ドラ ドラ  
ゴナイトハンターZ!!」

そういつて2人はフルドラゴンになった

バルンスト「ほほー面白いパワーアップか」

そういつてバルセントは構えるのであった  
ブレイブ「参る!!」

スナイプ「は!!」

スナイプはドラゴレールガンで攻撃をする  
デイケイド「変身!!」

「カメンライド ゴースト!!」

デイケイドゴーストオレ魂になった

フィス「よし!! チェンジ」

フィルス「ライノスモード!!」

そういつて変わるのであった

バルンスト「いくぞ!!」

そういつて攻撃をする

デイケイド「は!!」

デイケイドはガンガンセイバーでガードをして

フィス「ライノスタツクル!!」

そういつて突撃をしたのであった

バルンスト「おっと」

フェニツクス「どあああああああ!!」

バルンスト「フェニツクス様!？」

ビルド「大丈夫!!」

そういつてビルドも降りてきた

フェニツクス「いたたたた・・・油断をした」

バルンスト「どうしますか!!」

フェニツクス「仕方がない また会おうか 仮面ライダーたち」

そういつて炎を出して消えたのであった

フィス「消えた・・・」

そういつてフィスたちも撤退をしたのであった

## 双子の攻撃!!ブレイブ スナイプ レベル50へ

ここはセレウスの基地内の和式………

「………」

「お頭!!」

「どうしました、夜叉丸に夜切丸」

夜切丸「お頭 我ら武士部隊はいつ出れるのですか!!」

「………」

夜叉丸「弟の言う通りです!!我々武士部隊も……」

「………」

すると彼は立ちあがる

「セレウス様のところへ行きます」

2人「お供します!!」

そういつて彼は立ちあがり セレウスがいる間の扉を開けるのであった

セレウス「ん?これはミスター武者……あなたがここへ来るとは  
どういう要件ですか?」

武者「セレウス様 どうか我々にも仮面ライダー討伐の命を与えて  
ください」

セレウス「あなたがそんなことを言うとは……思ってもなかつ  
たですよ」

武者「申し訳ございません……ですが 部下たちも出撃出撃を待っ  
ているのですが……」

セレウス「そうでしたね……ごめんなさい では今回は武者  
あなたに任せます」

武者「は!!いでよ 夜叉丸 夜切丸!!」

2人「は!!」

武者「おぬしたちに 仮面ライダー討伐任務を授ける」

2人「ありがたき幸せでございます!!」

SONG基地

真奈「……バンバンシユミレーション」

剣「タドルファンタジー……」

そういつてガシャットギアデュアルβを見ている

2人はさらにレベルを上げようとするが……ドラゴナイトハ  
ンターZでもあの状態になる……それをしかも50とくる……

真奈「……」

剣「……」

すると警報が鳴る!!

2人「!!」

愛「二人とも!!」

茜「出撃だ!!」

そういつて四人は出撃をするのであった

響「……」

「ママ……」

響「花菜?」

「ごめん 響 連れて来ちゃった」

響「未来……でもどうして」

花菜「ママ……私も戦いたい……」

響「まだだめ……花菜はまだ15歳……」

花菜「でも!!愛お姉ちゃんたちが戦っているのに!!私だって仮面ラ  
イダーになれるのに!!」

響「花菜……」

確かに 花菜は戦うことができる……仮面ライダーゴーストと  
して……でも私は娘を自分のように戦わしたくない……も  
しかしてお母さんたちもこんな気持ちだったのかな……  
「おいおいお嬢ちゃんが戦っているのに娘さんが戦わないなんてこと  
はないだろ?」

響「ムサシ?」

そういつてアイコンが出てきたのだ 花菜は15のアイコンを  
持っている

エジソン「それに私たちがついていきますし……問題ないですよ  
さらに言えばレジエンドアイコンも手伝ってくれまーす」

響「……………」

響は考えるのであった……………」

響「わかった……………」でも無理だけはしないでね」

花菜「うん!!ありがとうママ!!」

セレナ「……………」

「お母さん?」

セレナ「どうしたの 紗夜」

紗代「……………」うん何でもないよ」

セレナ「あなたも出たいのでしょ?」

紗代「!!」

セレナ「愛たちと一緒に生まれたあなただからわかるでしょ?」

紗代「……………」

セレナ「マリア姉さんやクリスさんが優子 歌奈を産んだからね

あなたも仮面ライダーとして戦いたいのでしょ?」

紗代「……………」うん 私だって……………」お父さんの子だもん……………」

そういつてベルトを付ける……………」そのベルトは

セレナ「……………」

フォーゼドライバーをつける娘を見るのであった

セレナ「行ってきなさい あの子たちと共に」

紗代「うん!!」

そういつてスイッチを入れる

「3 2 1」

紗代「変身!!」

フォーゼ「しゃ!!宇宙きた……………」!!」

そういつて右手のスイッチを押す

「ロケット ON」

右手が変わり ロケットが発生をして出動をしたのであった

一方で愛たちはその出現する場所へ向かってると 敵が現れるの

であった

デイケイド「アンタたちが」

夜叉丸「いかにも!!我らは武者軍団の一人 夜叉丸」

夜切丸「同じく夜切丸!!」

2人「お前たちの命もらい受ける!!」

ブレイブ「……………」

スナイプ「……………」

すると二人が前に立つ

フェイス「剣? 真奈?」

ブレイブ「ここは……………」

スナイプ「私たちに任せて!!」

そういつてガシャットギアデュアルβを出して

「タドルファンタジー」

「バンバンシユミレーション!!」

ブレイブ「第50剣術」

スナイプ「第50シユーテイング!!」

「デュアルガシャット!!ガチャン!!デュアルアップ!!」

「タドルメグルアールピジー タドルファンタジー」

「スクランブルだーっー出撃 発進 バンバンシユミレーション!! 発

進!!」

そういつてブレイブは タドルファンタジー スナイプはバンバ

ンシユミレーションを装着をしたのであった

2人「ぐ……………」

フェイス「二人とも!!」

デイケイド「待って」

フェイス「茜……………」

ブレイブ「負けない……………」

スナイプ「こんなものに……………」

2人「負けてたまるか……………」!!」

2人「どあ!!」

ブレイブ「……………力がみなぎる!!」

スナイプ「これなら!!」

夜叉丸「おのれ……………」

夜切丸「兄者!!」



夜叉丸「やるぞ!!」

「ちよつと待ったー」

「待ってください!!」

6人「!!」

花菜「変身!!」

「開眼 オレ!!レッツゴー覚悟 ゴゴゴゴースト!!」

仮面ライダーゴーストになった

フォーゼ「しゃ!!宇宙きたー!!」

フィス「紗代 花菜ちゃん!」

フォーゼ「おうさ!!仮面ライダーフォーゼ!!」

ゴースト「私も戦います!!」

そういつて構えるのであった

夜叉丸「おのれ!!」

夜切丸「仮面ライダーが増えたとしても!!」

フィス「さあやろう!!」

## 時空発生装置

夜叉丸「くらえ!!」

夜叉丸は手裏剣を投げて 攻撃をしてきた

フィス「は!!」

フィスは腕のライオンクローを展開をして

フィス「ふふふ」

それを受け止めたのだ

ブレイブ「は!!」

フォーゼ「ライダーロケットパンチ!!」

ブレイブはガシャコンソードをフォーゼはロケットパンチを放つのであった

夜叉丸「どあああああ!!」

夜叉丸は吹き飛ばされる

夜切丸「あああああああああ!!」

ゴースト「く!!」

ゴーストはガンガンセイバーで受け止めるが 夜切丸の剣に押さ  
れている

デイケイド「は!!」

デイケイドも参戦をするが 夜切丸は剣で受け止めて さばいて  
いく

スナイプ「私に任せて!!」

するとスナイプから搭載機が発進された

夜切丸「なんだ!!」

夜切丸は剣で落としていくが たくさんだしているスナイプの搭  
載機に苦戦してる

スナイプ「それ!!」

そして砲撃ユニットで攻撃をする

夜切丸「どあ!!」

夜叉丸「夜切丸!!」

そういつて同時に手裏剣を投げるが

ゴースト「ニュートン!!」

「開眼!! ニュートン!! リンゴが落下 引き寄せまつか!!」

ゴースト「えい!!」

右手の斥力で手裏剣を返したのであった

2人「どああああああああ!!」

フィス「ファイルス!!」

ファイルス「うむ!! ウルフモード!!」

フィス「チェンジ!!」

ウルフモードになり

フィス「ウルフカッター!!」

右足についている オオカミのしっぽのカッターが飛ぶ

ファイルス「必殺!! ウルフカッターブレイク!!」

そして戻ってきたウルフカッターを両手でつかんでさらにエネルギーをためて 投げつけていく

するとウルフカッターが分裂をして 二人を切り裂いていく

2人「どああああああああ!!」

ブレイブ「これで!!」

スナイプ「終わりよ!!」

「キメワザ!! タドルクリティカルスラッシュ!!」

「キメワザ!! バンバンクリティカルファイア!!」

「ファイナルアタックライド デイデイデイケイド!!」

「ダイカイガン!! オレ!! オメガドライブ!!」

「ロケット ドリル リミットブレイク!!」

五人「はああああああああああ!!」

五人は一気に飛び そのまま蹴りをくらわせたのであった

夜叉丸「弟!!」

夜切丸「兄上!!」

2人「御屋形様——もうしわけございません!!」

そういつて爆散をしたのであった

基地

武者「む……」

そして巻物開いて

武者「……夜切丸 夜叉丸……ご苦勞であつた……安らかに眠るがいい……」

そういつて巻物に習字の筆で夜切丸たちの名前に線を引くのであつた

武者「どうやら……彼らの力を侮っていたようですね……」

「御屋形様!!」

武者「怒涛丸……」

怒涛丸「お願いです!!俺に出撃を!!」

武者「いいえ……どうやらセレウス様がしばらく我々は待機を  
するようですよ」

怒涛丸「どういうことですか!!」

一方でフェニックスは

フェニックス「セレウス様 完成をしました 時空発生装置でござ  
います!!」

セレウス「うふふふ 楽しみね……さてフェニックス そ  
れを起動したら撤退をして 私たちは様子をうかがうわよ」

フェニックス「は!!」

そういつて通信を切り

フェニックス「よしさつそくスイッチを入れろ」

「は!!」

スイッチが入り 機械が起動をする

フェニックス「よし撤収だ」

「よろしいのですか?」

フェニックス「ああ……今はな……さてどうなるか仮面ラ  
イダー……阻止できるかな?」

そういつてフェニックスは燃えるように戻るのであつた

一方 SONGでは

「大変です!!翼司令!!」

翼「どうした!!」

「大きなエネルギーを感知!!」

翼「エネルギーだと!!」

そういつて翼は指示をする

翼「総員!!戦闘態勢をとれ!!奏者及び仮面ライダーたちは大至急集合だ!!」

そういつて集結をさせるのであった

剣「母上 どうしたのですか!!」

翼「ああ……突然だが高エネルギーが発生をしたのだ……」

クリス「あれかよ……」

そういつて画面が出ていると 何かがこちらへ接近をしている……いや大きな何かだ

翼「うむ……マリアと雪音は待機だ」

2人「え!?!」

セレナ「そうだよ姉さん 子どもがまだ小さいのに……それに姉さんたちは復帰はまだ……」

奏「そういうこつたあたしたちにまかせな」

マリア「皆……」

クリス「悪いな……」

未来「基地は私が守ります!!」

翼「よし出動をする!!」

そういつて出動をするのであった

## 登場人物

相田 愛

健介と調の子どもで 性格は母親みたいにじーっとみたりせず  
明るく接している

普段は元気にふるまっているが 夜になると父がいない悲しみに  
覆われて泣くことがある・・・

子どもが大火炎軍団のクモ男に襲われているのを見て ほっとけ  
ない!!の思いをファイルスに伝えて ファイルスをつかって新たな仮面  
ライダーフェイスへと変身をする

ファイルス

スマホ型のAIを搭載されている ファイスサポートシステムであ  
る

相棒である健介を救えなかったため 娘である愛に仮面ライダーシ  
ステムを使わせない決意をしていたが・・・彼女の目を見て 健介と  
似ているのとその決意に負け 彼女を新たな仮面ライダーフェイスへ  
と変身させる

なれない彼女のためにアドバイスをしたりしているのであった

相田 調

元月読 調である 健介の奥さんとなり 愛を産む・・・

かつて 健介たちと一緒にある遺跡を調査をしているとき 自分  
がいたのに健介が消えてしまったことで ショックを受けてしまい  
シャルシヤガナを装着ができなくなってしまう・・・

だが娘たちが戦っているのに自分たちが戦わないのと健介の声を  
聴いて 再びシャルシヤガナを装着する決意をして 愛と一緒に戦  
うのであった

相田 真奈

健介と切歌の娘であり 健介のことをパパ 切歌のことをママと  
呼んでいる

ゲーマードライバーを使って仮面ライダースナイプに変身をし  
ガシャコンマグナムを使った攻撃や 足蹴りで接近攻撃をしたりす

る

性格は母親同様に明るく、ダンスとかおおよよとか言わないのである

常識は母親よりはあるのであった

変身時は「第二シユータイング」である

相田 切歌

元 暁 切歌で 真奈のおかあさんである 調同様に彼女もイガリマを装着をすることができなかったが……

健介の声や娘たちの戦う姿をみて 復活をしたのであった

イガリマ装着後も娘との模擬戦で勝つなどかつての力を残しているのであった

相田 剣

健介と翼の子どもで 母親同様剣を使った攻撃が得意で 蒼ノ一閃などの技をガシャコンソードで再現をするほどである

名前の剣だが 翼がつけたので 最初は健介はこの名前はなつたが 上目遣いされたので 結局この名前になったのであった

性格は母親同様な性格だが 翼とは違い 家事は得意である

ゲーマードライバーを装着をして 仮面ライダーブレイドに変身をする

変身時は「第二剣術」である

相田 翼

元 風鳴 翼であり 剣のお母さん

現在はSONG基地を弦十郎から受け継いで 司令官になっていく かつての調査で健介を失った悲しみで アマノハバキリを装着ができないほどになっていたのだ……

だが調 切歌と同様に復活をし 司令官兼アマノハバキリの奏者として復活をしたのであった

相棒のバイク サーガと合体をすることで アーマーモードになる

相田 茜

健介と奏の子どもで 母親と一緒にしばらくは旅をしていた 愛  
真奈 剣 茜 紗代は同い年で 仮面ライダーになったのは茜が先  
で先輩ライダーになる

性格は母親に対してツツコミをする担当である でも優しい性格  
で 仲間思いである

変身ライダーはデイケイドである

相田 奏

元 天羽 奏で ガングニール奏者である 彼女は翼たちとは違  
い 健介のそばにいなかった・・・が悲しいのは事実であった・・・  
ガングニール奏者として先輩として娘たちと共に戦っているの  
であった

槍を使った攻撃が得意である

相田 紗代

健介とセレナの娘であり 仮面ライダーフォーゼに変身をする  
性格はセレナ同様に大人しいが 戦いの決意をしたときにフォー  
ゼドライバーを付けてセレナの前に現れたのであった

そして仮面ライダーフォーゼとなり 愛たちに合流をするので  
あった

相田 セレナ

元 セレナ・カデンツアヴナ・イヴである

現在 アガートラムはかつての戦いでマリアのが破損をしてし  
まい それをセレナが譲ったので 現在は健介が作ったビルドドラ  
イバーを使って 仮面ライダービルドに変身をする

戦っていたのが長かったのもあり フィス ブレイブ スナイプ  
相手に一人で勝つほどの実力を持ち

フェニックスとの一騎打ちでも苦戦をしないほどである

ビルド変身時は 「さあ実験を始めましょう」である

相田 花菜

健介と響の娘で 愛たちよりは3歳下である

仮面ライダーゴーストに変身をして戦う

愛たちが戦っているのに自分だけ戦わせてくれない 母 響に自



分も戦いたい!!守りたい!!という思いを伝える

そして合流をしてゴーストに変身をするのであった

相田 響

元立花 響で ガングニール奏者である 髪も長くなっており  
戦うときはポニーテールにしている

花菜を戦わせないために自分が自ら立って 相棒であるコーベル  
トと合体をしたモードで戦ってきたのであったが 娘の思いを聞いて  
決意をして彼女を戦闘へ立たせるのであった

コーベルト

健介が作った 響専用アーマー ステルスシステムを搭載をして  
おり 普段は姿を消している

響が家事に苦戦をしているときにも手伝ったりしている

響に 腕部 脚部 胸部 背部 頭部へ合体をして パワーアツ

プさせる

相田 優子

健介とクリスの子ども 生まれたばかりである

相田 クリス

元 雪音 クリスである 現在は産休をしており イチイバルを  
装着をしてない

言葉も今は男言葉を使わないようにしている・・・それは子どもに  
自分が使っている言葉を覚えさせたくないのと 自分は親が死んで  
しまったから愛情を伝えることができなかつたため 自分が娘の愛  
情を伝えようと決意である

相田 歌奈

健介とマリアの子ども まだ赤ちゃんである

相田 マリア

元マリア・カデンツァヴナ・イヴであり 元歌手 アガートラーム  
の奏者であるが

現在は歌奈を育てるために 産休をしているのであった

相田 未来

現在は弦十郎の総司令官で本部の方へと移籍をしているが 現在

はSONG基地へ戻っており 花菜の面倒を見たりしている 神獣鏡である

#### 仮面ライダー

今作で登場をしている レジエンドライダーたちは健介が作ったものであり 残しておいたものだ

#### 仮面ライダー フイス

ご存知健介が変身をしていたものであり 愛がファイルスをつかって変身をする

#### モードは前作同様

ライオン イーグル ビートル シャーク ゴリラ トータス  
ラビット ドラゴン ライノス エレファント クラブ スコーピオン  
ウルフ クロコダイル カメレオン オクトパス ライオトレイン フェニックス

エレメントスタイルやライトニングドラグユニコーン シャイニングモード  
ダークネスモード  
ダークネスシャイニングモード  
シンフォギアモードなど

そしてレジエンドライダーでクウガからビルドまで変身が可能である

さらに祥平からもらった轟天霸王フォームがある

#### 仮面ライダーブレイド

相田 剣がゲーマードライバーをつかって変身をした姿  
ガシャットはタドルクエスト ドレミファビート ドラゴナイトハタールZ  
ガシャットギアデュアルβ タドルレガシーである

#### 仮面ライダースナイプ

相田 真奈がゲーマードライバーを使って変身をした姿  
ガシャットはバンバンシューティング ジェットコンバット ドラゴナイトハンターZ  
ガシャットギアデュアルβである

#### 仮面ライダーディケイド

相田 茜が変身をした姿  
カメンライドは昭和から平成である  
アタックライドは本編で使わなかったものも使用をする

#### 仮面ライダーゴースト

相田 花菜が変身をする　ゴーストドライバーで変身をする　アイコンは本編で登場をした　15のアイコンに　レジエンドアイコンなどをしようする　グレイトフルやムゲンにもなれる

仮面ライダーフォーゼ

相田 紗代が変身をした姿　コズミックエナジーを使って変身をする　スイッチは全種類を使え　さらにレジエンドスイッチにS-1にランチヤーステイツ用にスイッチもある

さらにフュージョンスイッチでメテオステイツやメテオなでしこステイツになる

仮面ライダービルド

セレナが変身をする　本編みたいにネビュラガスを使用しないため　誰でも変身ができるが　セレナ専用になっている　フルボトルは本編で登場をしていくうちに増えて行く予定

## 仮面ライダーフィスの設定

仮面ライダーフィス

変身の仕方

スマホ型の変身システム フィルスをかまい 仮面ライダーモードが起動をさせる

そしてフィスドライバーが発生をする 動物アイコンか仮面ライダーのアイコンをおして

「変身!!」といい フィスドライバーにフィルスを設定をする

そしてそのアイコンのエネルギーが発生をして 仮面ライダーフィスへと変える

次にモードを紹介をする

ライオンモード

仮面ライダーフィスの基本形態でもあり ライオンの力をモチーフとしたモード

腕部にはライオンクロウを展開をする バランスがとれた姿をしているのである

武器はライオンソードが武器である 最初に変身される形態でもある

イーグルモード

鳥の力を解放した姿のフィス 背中にはイーグルウイングと呼ばれる翼を持ち 空を飛ぶことができるフォーム

武器は イーグルライフルで モードチェンジをして ガトリングモード さらに後ろ部分にはフィスガンを連結をして イーグルバスターモードになることで威力があがるのである

ビートルモード

カブトムシの力を解放したフィス 角のビートルホーンは伸ばすことで貫く角になり さらに雷エネルギーをためることで ビートルサンダーと呼ばれる技を使用することができる

武器はビートルアックスで 持ち手を変えることでガンモードにすることができる

シャークモード

鯨の力を解放させた　フェイス　背中のマントは相手の攻撃をふさいだりできるもので

さらにノコギリザメヘッド　ハンマーヘッドと呼ばれるパーツを両手に装着することが可能である

武器はシャークセイバー　長刀である

ドラゴンモード　この形態だけは　ドラゴンジェットターが分離合体をして装着される姿で　ドラゴンウイングにドラゴンテイル　胸部にはドラゴンヘッドなどが装着される

形態としては強いが制御が難しいのが欠点だが　愛はそれを健介同様に使いこなしているのであった

武器はドラゴンソードとシールドである

ゴリラモード

ゴリラの力を解放した姿で　両手にはゴリラナックルと呼ばれるナックルユニットが装備されており　それをロケットパンチとしてはなったりできる

武器はゴリラハンマー　なおゴリラナックルは必殺技を使うと復元されて戻る

トータスモード

かめの力を解放させた　フェイス　この形態はどの形態よりも防御が強いモードだ

左手に装備されているトータスシールドは飛ばしてトータスブーメランとして投げつけることができ　そのシールドには強力な線が装着をされているため　戻したりできるようになっている

ラビットモード

兔の力で　ラビットダッシュをして高速移動　ラビットジャンプですごく高く飛ぶことができるモードだ

武器はラビットアロー

オクトパスモード

かつては仮面ライダーガーマスが使用していたモードをフェイスがインストールで使用可能にしたモードだ

背中からタコの足が八本でてきて オラオラオララツシユをする  
ことが可能

武器はオクトパスランチャーで砲撃だけじゃなく ビームを放つ  
ことが可能である

スコープオンモード

サソリの力を解放させた フィス かつてはこれを使った悪事を  
しようとした敵のモードを奪った形態だ

しっぽにはさそりのしっぽが生えており それが伸びて相手を刺  
したりして毒を入れたり 逆にそれを味方から毒をとったりするこ  
とができる

武器はスコープオンランサー

シンフォギアモード

本来は形態としてなかった姿・・・奇跡の力と呼ばれている  
シンフォギア奏者の力を使用することができ なったときは響の  
ガングニールモードになるが アマノハバキリやイチイバルモード  
になることでその武器が使用可能になるのであった

シンフォギアモードエクストライブモード

シンフォギアモードがさらにパワーアップをした形態でエクスト  
ライブモードになるモードだ この形態になるためにはみんなの思  
いが一つになったときになれるため ふだんからなれるってわけで  
はない・・・

ライオトレインモード

ライオンモードのパワーアップ形態といえいいだろう ライオ  
トレインが分離合体をしてなる形態

武器もライオンクロウなどの威力が上がっており、ライオビームを  
使用することができライオンモードよりも強力になっている

武器はライオバズーカにライオソード ライオバズーカにライオ  
ソードをセットをすることで砲身が伸びるのであった

フェニックスモード

不死鳥の力を解放した姿 イーグルモードよりも高速で飛ぶこと  
ができ 背中から炎の弾が放たれる

武器はフェニックスライフル×2は連結してロングライフルモード さらに手の甲からフェニックスソードと呼ばれるビームソードが展開される

ライノスモード

サイのちからを解放した姿 ライノスタックルという技を使用することができる

武器はライノスドリルにライノスブレード

エレフアントモード

ゾウの力を解放した姿 足を大きくして地面に叩くことで相手の動きを止めたりできる

武装も豊富で エレフアントソード&シールド エレフアントハンマー エレフアントノーズである

クラブモード

カニの力を解放した姿 頭部の口部からバブル光線と呼ばれる泡を放ち爆発させる

武装はクラブシザース クラブシールドである

カメレオンモード

カメレオンの力を解放した姿 カメレオン同様に保護色をするこ  
とで消えることができる 忍びモードでもある

左手の装甲を展開してそこから舌を出して相手を絡ませたり  
することができる

武器はカメレオンレイピア

ウルフモード

狼の力を解放させた姿 ウルフクローやウルフキックなど接近特  
化型になっているのであった

武器は尻尾のウルフカッターであり それを飛ばして 腕に装着  
をして切りついたり 持つて攻撃をしたりできる

クロコダイルモード

クロコダイルの力を解放させたすがた パワーが特化されており  
蹴りでクロコダイルの口のエネルギーで蹴りを入れたりする

武器は右手にクロコダイルヘッドは相手をつかんでかみついたり

する 左手にはクロコダイルテイルを装着をして 相手を薙ぎ払う  
シャイニングモード

シャイニングエッジという剣を手にしたとき なったモードで  
光の魔法を使った攻撃をしたりするモードで 背中は光の翼を持つ  
ている

ダークネスモード

かつて倒したダークネスが自らの力をフィスにインストールした  
姿であった

ダークネスが使っている 槍と盾を装備しており シャイニング  
の逆で黒く 背中の中も黒いのであった

シャイニングダークネス

シャイニングモードとダークネスモードを一つにした姿 右側が  
シャイニングの白 左側がダークネスの黒になっている

武器もシャイニング ダークネスの武器を使用することができる  
ライトニングドラグユニコーンモード

フィス最強の形態で 一度ドラゴンモードになり それがさらに  
光って ユニコーンが現れて 装着されてパワーアップをした姿!!

今までのフィスの姿の超えるチカラを持っているのであった  
ケンタウルス形態などもとることができるモードでもある

武器もユニコーンジャベリンとドラグーンセイバーと強力な武器  
を持っている

エレメントスタイル

フィスがエレメントアタッチメントをフィスドライバーにセット  
をしたモード フィルスは右腰の方へ移されて 変わる姿であった

この姿のフィスは火 水 風 土 雷などの属性攻撃をフィルス  
を使わなくても使用できるモードである

武器はエレメントバスターであり さらにフィスの武器を全部使  
用でき ウルフカッターやライオソードなどもしようができるので  
あった

仮面ライダーモード

これは平成ライダーたちの力を使用ができ 姿はベルトのファイル



ス以外はその仮面ライダーの姿になることができる

クウガモード

仮面ライダークウガの力を解放させた姿 フォームチェンジボタンでマイティ ドラゴン ペガサス タイタン ライジング アルティメットの姿になることができる

アギトモード

仮面ライダーアギトの力を解放させた姿 フォームチェンジでフレイム ストーム トリニティー バーニング シャイニングになることができる バイクモードを押すとバイクがドラゴンジェットターがアギトのバイクに変わる

龍騎モード

仮面ライダー龍騎の姿になることができ ミラーワールドにはいつて鏡から攻撃をしたりすることができる 武器アイコンでドラグセイバー ドラグシールド ドラグクローを装着ができる フォームチェンジでサバイブになる

ファイズモード

仮面ライダーファイズの姿になる バイクモードを押すことでドラゴンジェットターがオートバジンになる 武器アイコンでフォンブラスター ファイズエッジ ファイズショット ファイズポイントターを出すことができる

フォームチェンジでアクセラ ブラスターになる

ブレイドモード

仮面ライダーブレイドの姿になる 武器アイコンでブレイラウザーを出したり アイコンでラウズカードを使うことができる

フォームチェンジでジャック キングになる

響鬼モード

仮面ライダー響鬼の姿になる 音激棒烈火を武器に必殺技を放つこともできる

フォームチェンジで紅 装甲になる

カブトモード

仮面ライダーカブトの姿になった姿 武器アイコンでカブトモー

ド キヤストオフボタンでライダーモード クロックアップボタンでクロックアップができる

フォームチェンジでハイパーモードになる

電王モード

仮面ライダー電王の姿になった姿 武器アイコンでデングツシャー フォームチェンジボタンで ロッド アックス ガン ウイング クライマックス ライナー 超クライマックスになる

キバモード

仮面ライダーキバの姿になった フォームチェンジボタンでガール バツシャー ドッカー ドカバキ エンペラーになり 必殺技を発動させることでなんでか夜になる

デイクライドモード

仮面ライダーデイクライドの姿になる 武器アイコンでライドブツカーが さらにアイコンを押すことで イリユージュンやインジシブル ギガントなどを発動できる

フォームチェンジボタンでコンプリートフォームになる

ダブルモード

仮面ライダーダブルの姿になる フォームチェンジボタンでハーフ全部 フアングジョーカー エクストリーム ゴールデンエクストリームになる

オーズモード

仮面ライダーオーズの姿になった 武器アイコンでメタジャリバー メダガブリューを

フォームチェンジボタンでガタキリバ ラトラーター サゴーズ タジャドル シャウタ プトティラ タマシー ブラカワニ スーパータトバへと変わる

亜種形態にはなれないようである

フォーゼモード

仮面ライダーフォーゼの姿になる ボタンを押すことでロケットなどのアストロスイッチのが使えるようになり フォームチェンジボタンでエレキ ファイヤー マグネット ロケットステイツ ラ

ンチャーステイツ コズミックスステイツ メテオステイツ メテオ  
なでしこステイツになる

#### ウイザードモード

仮面ライダーウイザードの姿になる 武器アイコンでウイザー  
ソードガン アイコンで押すことで バインドなどの魔法を使つた  
り フォームチェンジボタンでウオーターハリケーン ランド  
さらにドラゴン インフィニティー インフィニティードラゴン  
インフィニティーオールドラゴンへとなることもできる

#### 鎧武モード

仮面ライダー鎧武になる 武器アイコンで無双セイバーを  
フォームチェンジでパイン イチゴ ジンバー系 カチドキ 極  
アームズになる

極アームズでは武器アイコンを押すことで武装を使うことができ  
るようになる

#### ドライブモード

仮面ライダードライブになった姿 武器アイコンでハンドル剣  
ドア銃 トレーラー砲も使用でき タイヤボタンでタイヤを召還し  
て装着をする

フォームチェンジでワイルド テクニック ゲットヒート  
フォーミュラー ネクスト トライドロンになる

#### ゴーストモード

仮面ライダーゴーストの姿になる 武器アイコンでガンガンセイ  
バーを使用することができ フォームチェンジでゴーストがなつた  
魂 グレイトフル ムゲンになることできる

#### エグゼイドモード

仮面ライダーエグゼイドの姿になる レベル2が基本形態になる  
武器アイコンでガシャコンブレイカーを フォームチェンジでゲ  
キトツ シャカリキ ドレミファ ジェット マキシマム ドラゴ  
ナイトハンター ムテキになる  
ビルドモード

仮面ライダービルドの姿になる 武器アイコンでドリルクラッ

シャー ホークガトリンガー 4コマ忍法刀 海賊ハツシャーなどを装備がで

き  
フォームチェンジでゴリラモンドなどのベストマッチの姿になる

必殺技 共通

「○○ストライク」 ライダーキックで その動物のエネルギーや仮面ライダーの力を解放させて放つ蹴り技でもある(ライオンモードならライオメテオストライク)

「○○バスター」 カミが変形をした ブラスターにエネルギーをチャージをして 放つ技(ライオンモードだったら ライオンバスター)

次にモードで放つ技 これはフィリスをそれぞれの武器にセットをして必殺アイコンを押すことで発動ができる

ライオンモード

「ライオメテオブレイク」 ライオン型のエネルギーを飛ばしたり回転切りをする技

「ライオ○○」属性のアイコンを押すことで放つ エネルギー状のライオンを放つ

イーグルモード

「イーグルフルブラスト」 イーグルライフルから放たれる鳥型のエネルギー

ライフルモードは1発の威力で相手に攻撃をし ガトリングモードはたくさんの鳥型のエネルギーを飛ばす技

「イーグルキャノン」 イーグルバスターから放たれる強力な技

ビートルモード

「ビートルブレイク」 相手に斜めに切り裂いたり カブトムシ型のエネルギーを飛ばす技

シャークモード

「シャークスプラッシュ」 鮫型のエネルギーを飛ばか そのまま相手を切る技である

ゴリラモード

「ゴリラボンバー」 ゴリラナックルを装着をして 片手及び両手に

エネルギーをためて放つ技

片手だと 相手を強力なアッパーで吹き飛ばし

両手は地面を叩き あいてを空中に浮かせてロケットパンチで相手を撃破する

「ゴリラジャイアントバーン」ゴリラハンマーを相手にたたきつける技

ドラゴンモード

「ドラゴニックブレイク」剣を一旦ドラゴンシールドに納め エネルギーがたまった剣で相手を切り裂く技

「ドラゴンレクト」相手を落ち着かせたりする技 殺生能力がない技である

ラビットモード

「ラビットシューティングアロー」ラビットジャンプで上空へとび相手にエネルギーの矢を連射をして放つ技

ライオトレインモード

「ライオトレイン砲」ライオバズーカにライオソードをセットした状態からフィルスをセットをして ライオトレインの幻影が放たれて 敵を倒す

「ライオトレインフィニッシュ」蹴り技だが 相手を光のレールで動きを止めて そのまま決める技

オクトパスモード

「オクトパスバニッシュ」タコ型の砲弾がたくさん飛び 相手に張り付いて爆発をする

「オクトパスビーム」ビームモードから放たれる強力なビーム

スコوپオンモード

「スコوپオンインパクト」サソリ型のエネルギーを相手に飛ばすか相手を連続で切り裂く苦技でもある

カメレオンモード

「カメレオン レイピアストライク」カメレオン型のエネルギーを飛ばすか 鞭状になったレイピアを相手に突き刺す技である

クラブモード

「クラブメテオクラッシュ」 クラブシザーズを相手にブーメランの刃を飛ばすか 相手を切り裂く技

ライノスモード

「ライノスドリルクラッシュャー」ライノスドリルを装着をしたまま相手に突撃をして粉碎をする技

「ライノス大の字切り」 ライノスソードで相手を大の字に切り裂く技

エレフアントモード

「エレフアントクラッシュ」 エレフアントソードが伸びて相手を切り裂く技

「エレフアントメテオクラッシュ」 エレフアントハンマーを振り回して相手にたたきつけつ技

「エレフアントノーズスラスト」エレフアントノーズを相手に貫かせる技

フェニックスモード

「フェニックスバード」 自分自身が炎の鳥のように燃え上がり 相手に突撃をする技

「フェニックスバスター」フェニックスライフルから強力なエネルギーの弾が放たれる

エレメントスタイル

「エレメントウェーブ」 エレメントが光 それが両手に集まり 放たれる技

「エレメントキャノン」エレメントバスターに属性のクリスタルをセットをして放たれる技

ウルフモード

「ウルフカッターブレイク」 ウルフカッターをエネルギーを込めて光の刃にして相手に投げつけて切り裂く技

クロコダイルモード

「クロコダイルクラッシュャー」クロコダイルヘッドを相手にかませ て そのまま相手を粉碎をする技

「クロコダイル砲」クロコダイルヘッドの口が開いてそこからエネ

ルギーを放つ技

では最後にフィルスのアイコンを紹介をしよう

動物アイコン これはフィスに変身をする アイコンである

仮面ライダーモード こちらは平成ライダーの姿に変身をする姿

武器アイコン それぞれの姿の武器を出すことができるボタン

必殺アイコン 必殺技を出すアイコン

イリユージョン 分身を作る

リフレクトデイフェンダー 防御の結界を張る

ファイア 炎属性をつける

アイス 氷属性をつける

サンダー 雷属性をつける

ウインド 風の属性をつける

マツハダツシュ スピードを上げる

バインド 相手を拘束する

ドラゴンジェットター フィルスの中にある ドラゴンジェットター

を召喚する

ライオトレイン フィルスの中にある ライオトレインを召喚す

る

## 第二章 コラボ

参上!! 異世界の戦士たち!!

フェニックスが起こした 次元発生装置……  
それによって現れた敵が発生をした……

翼「なんだあれは……」

そういつてSONG基地で翼は言う

響「機械……でしょうか」

そう宇宙に現れた 謎の要塞……それはいつ現れたのか……

翼「いずれにしても……油断はできない……」

そういつて彼女は言うのであった

さてその要塞では

「……」

「マスター……」

「どうした?」

「地球へ到着をしました……」

「ふむ……謎の発生はここでいいのだな?」

「ハイその通りでございます」

そういつて要塞から地球を見ている

「美しい……だがそれを汚そうとしている地球人を抹殺をせねばなるまい……カナリアよ」

カナリア「はいマスター」

「機械兵団を出撃させるのだ」

カナリア「わかりました 機械兵団出撃」

すると要塞からたくさんの機械兵団が出撃をしたのであった

それはSONGでも確認をしたのであった

翼「よし 全員出動だ!!」

そういつて出撃をするのであった

フィスはスナイプと一緒に出撃をする 母親である切歌 調も一

緒だ



ブレイブはデイケイドと一緒に 翼 奏でも一緒である  
フォーゼはゴーストと共に 響 セレナも一緒であった  
それぞれのところには機械兵団の戦闘員たちが降り立とうとして  
いる

スナイプ「させない!!」

そういつてスナイプはガシャコンマグナムをライフルモードにし  
て 次々に放つて落としていく

フィス「ファイルス!!」

ファイルス「わかった!!フェニックスモード!!」

フィス「は!!」

フィスはフェニックスモードになって

ファイルス「必殺!!フェニックスバード!!」

そういつて燃え盛る鳥になって次々に敵を落としていく

切歌「行くデース!!」

調「はああああああああああ!!」

調たちもギアを展開をして 次々に落としていく

スナイプ「よーし!!」

「ジェットコンバット!!」

スナイプ「第三シューティング!!」

「バンバンシューティング!!アガツチャジェットジェットインザス  
カーイ!!ジェットジェット!!ジェットコンバット!!」

コンバットシューティングゲームレベル3になって空を飛び

コンバットガトリングで攻撃をする

フィスもフェニックスライフルで攻撃をする

一方 ブレイブやデイケイドたちも到着をして 攻撃を開始をし  
ていた

ブレイブ「これより 謎の機械に攻撃を開始をする!!」

デイケイド「さてやるか!!」

そういつて二人も武器をとり

翼「サーガ!!」

サーガ「ドッキング!!」

合体をして

翼「参る!!」

奏「いくぞー！ー！ー！！」

ブレイブ「は!!」

ブレイブはガシヤコンソードを使って 次々に機械たちを切つていく

ブレイブ「く!!」

だがその攻撃は届かなかった

ブレイブ「？」

デイケイド「危なかつたですね」

デイケイドがライドブツカーガンモードで敵を撃破したのであつ

た

ブレイブ「助かつた」

デイケイド「気にするな」

ブレイブ「そうですね!!」

そういつてガシヤコンソードを投げたのであつた

デイケイド「・・・ふ」

そういつて抜いて そのまま切り裂いたのであつた

ブレイブ「これで先ほどの貸しはなしですよ」

デイケイド「ふ・・・そうですね」

そういつて剣を返す

翼「はああああああああああ!!」

翼はホイールを投げて 敵を撃破する

奏「どりゃああああああああ!!」

奏も槍で次々に刺していく

翼「であ!!」

翼はランサーを出して 連結させて攻撃をする

翼「参る!!」

ランサーに炎が纏い

翼「一閃両断!!」

そういつて一閃で機械たちを切り裂いたのだ

奏「やるな・・・翼 おっと」

奏は相手の攻撃をかわして 顔面に槍を突き刺したのだ  
奏「あたしだってまけてられないんだよ!!」

そういつて抜いたのであった  
さて一方で

響「あそこだね!!」

ゴーベルトと合体をしてる響

ビルド「さていきましよう!!響さん!!」

響「うん!!セレナちゃん!!」

ビルドはドリルクラッシュャーのドリルを外してガンモードにして  
放つ

響「だああああああああああ!!」

響はパワーアップされた拳でロボットたちを殴っていく

ゴースト「よーし私も 武蔵さん!!」

ムサシ「やるか!!」

「開眼!!ムサシ 剣豪ズバット 超剣豪!!」

ムサシ魂になってガンガンセイバーを二刀流にして攻撃をする

ゴースト「はああああああああ!!」

ガンガンセイバー二刀流モードにしたムサシ魂はロボットを切り  
裂いていく

フォーゼ「おっと!!」

「チェンソー チェンソーON」

右足にチェンソーモジュールが発生をして切りつけていく

「チェンソーアレイ チェンソーアレイON」

さらに右手にチェンソーアレイモジュールが発生させて

フォーゼ「でああああああああ!!」

それを勢いよく叩き落として ロボットたちを浮かせる  
ビルド「は!!」

ゴリラモンドに変わって その剛腕な右手で殴り倒していく  
響「あちよーよーよーよー!!」

響回し蹴りをして 破壊をしていくが・・・・・・

ビルド「これは……………」

響「多すぎません!!」

それはほかの場所でもそうだった……………  
ブレイブ「いくら切っても……………」  
デイケイド「こうも多く来られるとな!!」  
そういつて切っていくが

翼「まだくるのか……………」

奏「まずいぞ 翼……………」

フィス「く!!」

スナイプ「愛!!どあ!!」

切歌「真奈!!」

調「切ちゃん!!」

切歌「く!!邪魔をするなデース!!」

調「愛!!」

フィルス「まずいこのままでは」

まずは響サイドから

4人とも疲労が出ていた……………かなりの敵を倒したが……………  
それ以上に敵は出てきてきりがないのだ……………  
特に

2人「はあ……………はあ……………」

響「まずいね……………」

ビルド「確かに……………特に子どもたちにとっては……………」

響「そうだね……………」

そういつて構えていると

上から 何かが刺さったのだ

4人「!!」

「はああああああああああ!!」

そして降りてきた 戦士はその槍を抜いて

「カモン!!バナナスカッシュ!!」

「でああああああああ!!」

そしてそのまま一撃を加えるのであった

響「あなたは!!」

「戒斗!!」

ビルド「翼さんに奏さん?!いや若い……………」

そう彼こそはかつて健介と共に戦った戦士 駆文 戒斗 仮面ラ  
イダーバロンであつた

バロン「お前たちは……………そうかこの世界は健介がいる世界か」

翼「そうみたいだな」

アルマ「追いついた……………」

バロン「遅いぞ アルマ!!」

アルマ「もう!!勝手に移動をするからだよ!!」

そういつてゴーストドライバーを装着をして

「バッチリミトイターー バッチリミトイターー」

アルマ「変身!!」

「開眼!!アルマ!!魂の戦士!!魂のゴッド!!」

姿はムゲン魂に似ているが オレンジである

アルマ「さて」

そういつてガンガンハンドを出して ガンモードにして放つ

バロン「いくぞ!!」

そういつてバロンたちも攻撃をする

バロン「であ!!」

翼「はああああああああああ!!」

奏「どりゃああああああ!!」

さらに翼や奏も攻撃をしていき次々に撃破していく

ゴースト「すごい……………」

響「前よりもパワーアップをしている……………」

ビルド「うん……………」

バロン「これで終わりだ!!」

「カモン!!バナナスパーキング!!」

バロン「は!!」

地面にバナスピアーを刺して バナナのエネルギーが発生をして  
敵を撃破していく

一方で翼たちの方も苦戦をしているのであった

翼「く……………」

ブレイブ「母上……………」

デイケイド「ちよつとこれは……………」

奏「いくらあたしたちでもこれはな……………」

そういつてさらに敵が増えて行く……………」

だが

「キメワザ!!マイテイクリティカルフィニッシュ!!」

「はああああああああああ!!」

4人「!!」

さらに

「マッスル化!!」

とう音声と共に上から戦士が降りてきたのであった

くらった敵は爆散をしたのであった

「キメワザ!!ガングニール(アマノハバキリ)クリティカルストライク!!」

2人「はああああああああ!!」

さらに二人の戦士も降りてきて 攻撃をしたのであった

翼「今のは」

「久しぶりだな……………もしかして健介の私」

翼「その台詞を言うってことは お前はクロトの世界の私だな」

エグゼイド「どうやら無事のようなだな パラド」

するとエグゼイドの体からパラドが出てきた

パラド「任せろ」

「パーフェクトパズル」

パラド「変身」

「デュアルアップ ゲットザグローリ インザ チェイン!パーフェクトパズル!!」

そういつて仮面ライダー パラドクス パズルゲーマーになった

エグゼイド「さて いくぞ!!翼 響!!」

2人「うん!!(ああ!!)」

そういつて3人は攻撃を開始をする

ブレイブ「母上 彼らはいったい」

翼「安心をしろ 彼らはあなたの父上と一緒に戦った人たちだ」

ブレイブ「父上と共に戦った・・・・・・・・・・」

パラドクス「大丈夫だろう」

そういつてパラドクスは守るために来た敵を

パラドクス「おら!!」

蹴りなどで倒していく

エグゼイド「おりや!!」

エグゼイドはガシヤコンブレイカーをソードモードにして攻撃をする

翼「はああああああああああ!!」

響「であああああああ!!」

さらに連続で切っていく 殴っていくのであった

デイケイド「ねえ母さん」

奏「なんだ茜」

デイケイド「どうしてあちらの翼お母さんたちはゲーマードライバーをつけているのですか?」

奏「ん?あーあれか あれはシンフォギアライダーというらしいぜ」

デイケイド「シンフォギアライダー・・・・・・・・・・」

奏「そう あたしたちの姿をモチーフした いわばブレイブみたいな感じだ」

ブレイブ「私・・・・・・・・ですか」

そういつて戦いを見る

エグゼイド「とどめだ!!」

「ガシヤットキメワザ!!」

二人もキメワザホルダーにセットをする

「ガシヤットキメワザ!!」

「マイティ(ガングニール)(アマノハバキリ)クリティカルストライク!!」

3人は一気に飛び 蹴りをかましたのであった  
エグゼイド「さて………」

そういつて翼たちのところへいくのであった  
一方でフィスたちの方も

フィス「はあ……はあ………」

フィルス「数が違いすぎる……このままでは!!」

「どりゃああああああ!!」

「シャカリキ クリティカルストライク!!」

すると車輪が飛んできたのだ

フィルス「彼は………」

スナイプ「私と同じベルト!」

エグゼイド「どうやら間に合ったようだね」

フィルス「君はもしかして 祥平か!!」

エグゼイド「おう フィルス 健介さんもお久しぶりです!!」

フィス「……?」

フィスは首を傾けたのだ

エグゼイド「ちよつと健介さん!!一緒に星のせいを倒したじゃない

ですか!!」

フィス「えつとごめんなさい……私 戦ってないです」

エグゼイド「え!」

フィルス「話は後だ!!」

フィス「そうだった!!アーナス!!」

アーナス「わかったわ!!」

そういつて仮面ライダールミナスになった

ルミナス「ああああああ!!」

ルミナスはレミア スカーレットのスピア・ザ・グングニグルを

構えて 投げて貫通させていくのであった

エグゼイド「よしおれも!!」

そういつてすぽーすアクションゲーマーレベル3から

「マイティブラザーズ ダブルエックス!!ダブルアップ!!マイティマ

イティブラザーズ ダブルエックス!!」



つとレベルXXになったのであった

パラド「それじゃあいくぜ!!」

祥平「いくよ!!」

そういつて2人は分裂をして ガシヤコンキースラツシヤーとガシヤコンブレイカーを装備して 撃破をしていく

フィス「ねえファイルス」

ファイルス「なんだい 愛」

フィス「あの人私のことお父さんって言っていたけど……」

ファイルス「彼は高田 翔平 仮面ライダーエグゼイドだ……前

に一緒に戦ったことがあってね」

フィス「それで私のことを健介さんって呼んでいたんだね」

3人「はああああああああああ!!」

3人の攻撃が命中をして 撃破したのであった

私たちはとりあえずこの人たちをSONGへ連れていくのであつ

た

## 健介のお話と新たな仲間

SONG基地 司令室

翼「ようこそSONG基地へ 知っておると思いますが・・・桐野翼です」

戒斗「貴様のことはいい・・・ところで  
そういつて戒斗が言った

戒斗「こいつらは誰だ？」

翼「彼女たちは私たちの娘です」

クロト「娘だと!!」

翼（ク）「まさか結婚をして・・・子供まで・・・」

響（ク）「すごいですね・・・健介さんって・・・」

翼（戒）「だが・・・私はまさか別世界の私を見るとは」

奏（戒）「あああたしもだ・・・」

祥平「そういえば・・・フェイスに変身をしていた君は・・・」

愛「相田 愛です」

クロト「愛?・・・だがどうして君がフェイスに 確か健介が変身をしていると思ったが・・・」

全員「・・・」

戒斗「確かにな・・・そして健介の姿が見えないが・・・奴は」

翼「健介さんは・・・いません・・・」

異世界の人たち「な!!」

調「今から数年前・・・私たちはある遺跡を調査をしました・・・その調査をしているとき・・・」

ファイルス「バディは謎の光に包まれて・・・行方がわからなくなってしまったのだ・・・」

全員「・・・」

戒斗「すまん・・・」

祥平「まさか・・・」

クロト「お前は確かエグゼイドに変身をしていた」

祥平「高田 祥平です」

切歌「どういうことですか？」

祥平「実は おれがこの世界から帰る時……俺は健介さんと握手をしたんです……その時 皆さんが悲しむ姿が映ったのです」

クロト「一種の未来予知って奴か……」

戒斗「……だが健介が行方不明か……」

響（ク）「でも私たちはどうしてここへ」

翼「どういうことですか？」

クロト「俺たちに世界にもそいつらが現れて 戦っていたんだ……そうしたらいきなりホールが現れて 俺たちは吸い込まれてしまっただ」

戒斗「そっちもか……俺たちも戦っている時に」

祥平「俺はあの予知夢を見てから嫌な予感がして 内緒でここへ来たんです」

翼「……」

クロト「……そうか……（しかし健介が行方不明で……その娘たち……か……）」

戒斗（時間が俺たちの世界よりも早い……子どもが成長をしているとみると……）

そういつて2人は考えていると 警報がなる!!

全員「!!」

愛「この警報は」

そういつて愛が言う

「敵反応です!!」

見ると 先ほどの機械兵団たちが暴れているのであった

愛「行こう!!お父さんが守ってきた世界を守らないと!!」

だが愛はバランスを崩しかける

クロト「おっと……お前らは疲れている……ここは俺たちがやるさ」

剣「しかし!!」

戒斗「そんな疲れ切っている奴らを連れて行ったら足手まとい

だ……休んでおけ」

そういつて祥平たちも行くのであった

真奈「あたしたちが守らないといけないのに……」

茜「だが私たちはこの状態だ……」

紗代「悔しいよ……お父さんが守ってきたのに……」

花菜「そうだね……」

そういつている子どもたちであった

調「……」

一方で異世界の戦士たちは戦っている女性がいたのだ

「はあ……はあ……」

クロト「あれは……もしかしてルノか？」

戒斗「お前の知り合いみたいだな」

祥平「とにかく助けましょう!!」

クロト「だな」

「マイティアクションX!!」

「バナナ!!」

「マイティアクションX!!」

三人「(大) 変身!!」

「がちやん!!レベルアップ!!マイティジャンプ!!マイティキック!!マ

イティマイティアクションX!!」

「カモン!!バナナアームズ!!NIGHT OF SPEAR」

2人はエグゼイド 戒斗はバロンになった

エグゼイド(ク)「え?」

エグゼイド(祥)「え?」

翼(ク)「エグゼイドが二人!？」

響(ク)「ええええええええええええ!!」

翼(戒斗)「どつちがどつちだ!!」

奏(戒斗)「ありやー」

つとこちらも混乱をしたのであった

「?????」

敵も混乱をしているみたいであった

ルノ「えつと・・・え？」

2人エグゼイド「とりあえず!!ノーコンテニューでクリアしてやるぜ!!」

そういつて2人のエグゼイドはガシヤコンブレイカーで攻撃をするのであった

バロン「俺たちもいくぞ!!」

そういつて攻撃をするのであった

エグゼイド(ク)「は!!」

高速化!!メダルをとり 攻撃をしていく

エグゼイド(祥)「よーし!!」

エグゼイド(祥)は何かをみて投げる

「混乱!!」

すると相手は味方に砲撃をするのであった

バロン「は!!」

「マンガーアームズ!!FIGHTOFHAMMER!!」

そういつてマンガーパニツシャーで敵にたたきつける

パラドクス(ク)「心がたぎるな」

そういつてパラドクスはノックアウトファイターになっており

殴って殴って敵を撃破していくのであった

奏たちも協力をして 撃破をしていく

すると砲撃が飛んできたのだ

全員「!!」

ルノ「大丈夫ですか？」

そういつてルノがワイバーンでガードをしたのであった

エグゼイド(ク)「助かる!!」

すると

「ライオビーム発射!!」

ビームが飛んできたのだ

降りてきたのはフェイスたちであった

バロン「貴様ら」

フェイス「皆さんの気持ちはうれしいです!!」

ブレイブ「ですが……この世界は父上が命をかけて守ってきた……」

スナイプ「私たちが頑張らないでどうするのっての!!」

デイケイド「そういうこつた」

ゴースト「私もみんなの役に立ちたいです!!」

フォーゼ「いくぜー……」

そういつてフェイスたちも参戦をするのであった

バロン「なら見せてみる!!お前らの覚悟を!!」

全員「はい!!」

## 激闘!!戦士たちとの戦い

フィス「はああああああああああ!!」

フィスはライオンクロウで敵を切りつけていく

バロン「は!!」

バロンもマンゴーパニツシャーで吹き飛ばす

フィス「であああああああああ!!」

バロンが吹き飛ばした敵をフィスは追撃をして

ゴースト「は!!」

ロビン魂になってアローモードで撃ちぬいていく

バロン「ほういい連携だな」

フィス「ありがとうございます!!」

ブレイブ「はああああああああああ!!」

ブレイブはガシヤコンソードで切っていく

エグゼイド(ク)「ほーう・・・・・・・・」

スナイプ「は!!」

銃で撃っていく

響(ク)「この二人とも連携がすごいね!!」

エグゼイド(ク)「そうだな・・・戦いはまだまだだが・・・連

携に関してはいいみたいだ」

翼(ク)「そうだな・・・・・・・・」

デイケイド「きて」

「カメンライド ファイズ!!」

デイケイドファイズになって

フォーゼ「どうするの?」

デイケイドFZ「まあ見ておいて」

エグゼイド(祥)「何をするのでですか?」

「フォームライド ファイズ アクセル!!」

スタートアップ!!

すると高速で移動をして 次々に撃破をしていく

フォーゼ「そーれ!!」

「ガトリングON!!」

そういつて左足にガトリングモジュールが出てきて 攻撃をしたのであった

ルノ「すごい．．．です」

フィス「はあああああああああああ!!」

フィスはライオメテオストライクを発動させて 撃破したのであった

敵は撤退をして 基地へ帰還をするのであった

パラド(ク)「しかし．．．．．」

パラド(祥)「なんだ?」

パラド(ク)「いやエグゼイドを見たとき 俺もいるかと思っただが．．．やっぱりいるんだなって」

パラド(祥)「だな 俺もだぜ」

アーナス「．．．．．パラドが二人」

クロト「お前もバクスターなのか?」

アーナス「そうね 私は祥平の中のバクスターよ」

戒斗「そういえば愛たちはどうしたんだ?」

調「愛たちは今は休憩室で休ませている」

翼「さすがにな」

祥平「ですね．．．．．」

響「そういえば 祥平さん」

祥平「なんですか?」

響「あの時 健介さんと握手をしたとき何を見たんです?」

祥平「．．．．．俺が見えたのは 涙を全員が流していました．．．．．セレナや響．．．翼さんたちも．．．．．」

翼「おそらく．．．．．」

セレナ「うん．．．．．健介が消えた日だね．．．．．」

切歌「．．．．．健介．．．．．」

クロト(しかし．．．．．健介はいつたどこに消えたのか．．．．．)

アルマ(．．．．．うーん)

戒斗(どうだアルマ．．．．．)



アルマ(だめだね……彼がどこにいるかってのはわからないな……)

戒斗(そうか……すまない)

フィルス「バデイ……」

祥平「いつか会えますよ!!」

戒斗「そうだな……永遠に別れじゃない……あいつはそういう男だからな……」

クロト「だな……あいつが簡単に死ぬとは思えんからな……」  
そういつてかつて共に戦った友たちは言う……相田 健介という男が死ぬはずがない……彼らは信じているからだ……必ず帰ってくる……

奏「だな……あたしたちはできるかぎりのことをするだけだな？」

セレナ「はい!!姉さんやクリスさんが戦えない今……私たちが頑張ります!!」  
さて一方で 敵はというと

「カナリアよ どうやら邪魔者が地上にいるようだな……」

カナリア「はい 仮面ライダー シンフォギアと呼ばれる者たちで  
ございます……」

「なるほど……仮面ライダーとシンフォギアと呼ばれる……か……ふむ……」

「マスター 私たちを出動をしましょう」

「ほう お前らが行くというのか」

「ええ奴らの戦力を考えますと このまま機械兵団を出せば 私たちが不利だと思います」

「確かにな いいだろう いけ!!ゼーバス ガリユー ジータ バスー グリユーヨ」

「はは!!」

そういつて五人は出動をしたのであった

祥平「うぐ……」

ゼロ「おい大丈夫か 祥平」

祥平「なんとか・・・ね」  
「素晴らしいながら体を引きずるのであった」

## 祥平の体の異変

祥平「うう……」

ゼロ（おいやっぱり……）

祥平「ゼロさん 今は黙っておいてください……パラドたちも」

2人（わかったが……）

そういつて祥平は歩いていくのであった

愛「へえ……ルノさんつてワイバーンの操縦者なんですネ」

ルノ「はい……でも私体が弱いですから……」

愛「そうなんだ……」

ルノ「でもクロトさんたちと出会ったんですよね」

愛「クロトさんつて確かエグゼイドに変身をしていた」

ルノ「はい!!」

愛「へー……」

そういつて2人は歩いていくと

祥平「はあ……はあ……」

2人「祥平さん!？」

そういつて2人は走つて 祥平を医務室へ連れていくのであった  
連絡を聞いた全員が祥平がいる 医務室へ向かったのであった

クロト「これは……」

「これはレイブラッドの影響だろう」

戒斗「誰だ」

あたりを見るが声をした人物はいない すると祥平の左手のブレ  
スレットがひかって姿が投影される

ゼロ「俺はウルトラマンゼロ」

翼「ウルトラマンゼロ……」

真奈「そのゼロさん 祥平さんにいったい」

ゼロ「今 祥平の体はレイブラッド星人がこいつの体に乗っ取ろう  
としている……」

響（ク）「それつてもしそうなら……」

ゼロ「……完全にこいつの意識はなくなり 体はレイブラッド  
星人に乗っ取られてしまう」

全員「!!」

祥平「うう……」

レイブラッド星人「くつくつく……」

すると祥平が起き上がって……ゲームードライバーを装着を  
した

全員「!!」

みるとマイティアアクションXの色が黒くなっていく

クロト「プロト……いや違う」

レイブラッド「変身」

「ダークマイティX」

すると黒い音声流れる

「ガシヤット レベルアップ!!ダークジャンプ ダークキック ダー

クマイティX」

色はゲンムみたいだが……ダークエグゼイドに変身をしたのだ

ダークエグゼイド「くつくつく……」

「ステージセレクト!!」

するとステージが変わる!!

翼（戒斗）「これは!!」

クロト「ステージセレクトをしたのか……なら!!」

そういつてクロトもゲームードライバー クロトの翼たちもゲー

マドライバーを

戒斗はロツクシードを 戒斗の世界の翼たちもシンフォギアを

そして愛たちも変身をしたのだ

ダークエグゼイド「くつくつく……」

「ガシヤコンバトルナイザー」

するとベリアルが装備している ギガバトルナイザーみたいなの  
を持ち 振り回してくる

ゲンム「いくぞ」

「ガシヤコンブレイカー」

バロンもバナスピアーを構えて それぞれ全員が武器を構える  
フェイスはスコープオンモードになっている

ダークエグゼイド「くらえ!!」

ダークエグゼイドはガシヤコンバトルナイザーから光弾を放って  
きた

ルノ「えい!!」

ルノはそれを剣ではじいていく

デイケイド「は!!」

ブレイブ「はあああああああああああ!!」

デイケイドとブレイブは接近をして攻撃をするが

ダークエグゼイド「くつくつく」

ダークエグゼイドはそれをふさいで はじかせる

ゲンム「させん!!」

ゲンムはマツスル化のメダルをとり 攻撃をする

バロン「は!!」

バロンもその隙を使って バナスピアーをさす

ダークエグゼイド「ちい」

ダークエグゼイドは下がるが

スナイプ「くらえ!!」

「ガシヤット キメワザ!! ジェットクリティカルストライク!!」

フォーゼ「ライダー100億ボルトバースト!!」

エレキステイツになった フォーゼは攻撃をする

ダークエグゼイド「ふん!!」

だがそれをはじいてフォーゼのボディにダメージを与えて 飛ん  
でいるスナイプを撃退した

スナイプ「きやあああああああ!!」

切歌「真奈!!」

「開眼!! ツタンカーメン!! ピラミッドは三角 王家の資格!!」

そういつてガンガンハンド鎌モードにして攻撃をする

ゴースト「は!!」

響「どりやあああああああ!!」

相棒であるゴーベルトを合体させた 親子の攻撃がダークエグゼイドをふきとばす

ダークエグゼイド「くつくつく……」

ゲンム「ちいさなそういうことか」

バロン「攻撃をするな!!」

翼（戒斗）「戒斗!」

アルマ「まさか奴は……」

フィス「まさか今までの攻撃は」

ダークエグゼイド「そのとおりだ こいつの体を受けているのだよ……」

ゲンム「ちい……」

そういつてゲンム達は攻撃を止める

ダークエグゼイド「では……ぐ!!」

ビルド「止まった!」

祥平「お……お願いです……い……今のうちに……攻撃を!!」

するとパラドクス（祥）とアーナスがダークエグゼイドを止めたのだ

パラドクス（祥）「祥平!!」

ルミナス「暴走はとめて!!」

ダークエグゼイド「邪魔だ!!」

そういつて二人を吹き飛ばしたのであった  
すると祥平に戻る

祥平「ぐ……」

パラドクス（祥）「……頼みがある……」

フィス「え?」

パラドクス（祥）「フィス……確かフィスにはエグゼイドのモーターがあったな」

フィス「ああ確かにある……まさか!!」

パラドクス（祥）「そうだリクロミングをつかって祥平にあてる……だが」

調「・・・反対よ」

パレードクス（祥）「な!!」

調「・・・愛にそんなことはできない・・・させない」

クロト（母親としては・・・その反応だな・・・）

パレード「だが俺だって祥平を失いたくないんだ!!」

調「だとしても!! 私たちは健介を失った!! こんな思いを娘たちにさせたくない!!」

切歌「調・・・・・・・・・・」

戒斗「・・・・・・・・・・」

愛「お母さん・・・私やる!!」

そういつて

ファイルス「エグゼイドモード!! マキシマムマイティモード!!」

そしてガシャコンキースラッシュヤーを構えて

「ガシャットキメワザ!! マキシマムマイティクリティカルフィニッシュ!!」

そういつてリクロミングが入ったのを放ったのだ

だが

ダークエグゼイド「ふっふっふ・・・・・・・・」

そうくらったのは祥平だけだったのだ やつはすでに祥平の力を手にしていたのだ

ダークエグゼイド「だが貴様らに受けた傷が大きい 逃げるとでも」

祥平「させない!!」

ダークエグゼイド「無駄だ・・・貴様に何ができる・・・エグゼイドの力を失ったお前などに!!」

そういつてダークエグゼイドは光弾を放ち

祥平「!!」

祥平は爆散をしたのだ

ルミナス「祥平!!」

ダークエグゼイド「はっはっはっはっは!!」

祥平 side

祥平 「俺は・・・死んだのでしょうか」

「お前は、まだ死んでないさ」

祥平 「あなたは!!」



祥平の新たな力 そしてあつた人物とは

祥平「あなたは……健介さん!!」

彼が目覚めた場所は白い場所……そして彼が見た人物は……  
かつて仮面ライダーフィスとしてともに戦った人物 相田 健介  
がいたのだ

健介「……」

祥平「ここは……」

健介「お前は死んじやいない……」

祥平「え……」

健介「そしてお前はまだ戦える……」

祥平「でも……僕はもうエグゼイドには……」

健介「……これを受け取れ」

そういつて投げたのはスマホであつた

祥平「これって……」

健介「フィルス同様の性能をもつた変身アイテムだ……」

祥平「え……」

健介「その中には……」

祥平「健介さん？」

健介「どうやら時間のようだ……その中にはいいものが入つて  
いるさ……調たちを……頼んだぞ」

祥平「待ってください!!健介さん!!健介さ……」  
!!

一方で地上つまり フィスたちは

ダークエグゼイド「ふっはっはっはっはっは!!」

パラドクス(祥)「よくも祥平を!!」

パラドクス(ク)「よせ!!」

パラドクス(祥)「離せ!!あいつに祥平が!!」

フィス「許さない!!」

そういつて全員が攻撃をしようとしたとき  
光が発生をした

全員「!!」

ダークエグゼイド「なに!!」

そうそこにいたのは祥平だからだ

パラドクス(祥)「祥平!!」

ゲンム「お前……」

バロン「さつき奴の攻撃で」

祥平「話はあとです……」

ダークエグゼイド「バカめ……貴様は変身さえもできないくせに……私に勝てるんでもおもっているのか!!」

祥平「そんなことはない!!俺には……新たな力を得たんだ!!」  
そういつて出したのは

フィス「あれって!!」

フィルス「私!?!」

そう祥平が持っているのはフィルスと同じ型をしたものだったからだ!!

ダークエグゼイド「なんだそれは……」

祥平「これこそ……俺の新しい力です!!」

ゼロ「力を感じるぜ!!」

するとスマホが光りだした

祥平「!!」

ゼロ「どあああああああ!!なんだ!!」

するとアイコンが出てきたのだ

祥平「これが……俺の新しい変身!!」

「ゼロモード!!」

すると彼の体が装甲が発生をして その姿はゼロの力が入った姿になったのだ

ダークエグゼイド「なんだキサマは!!」

「俺は……いや俺たちは……仮面ライダーエグゼイドゼロ!!」

そう仮面ライダーエグゼイドゼロの誕生だ!!

ダークエグゼイド「エグゼイドゼロだと……返り討ちにしてくれるわ!!」

そういつてガシャコンバトルナイザーを構えて攻撃をしてきた  
エグゼイドゼロ「であ!!」

エグゼイドゼロは走り そのままけりをかましたのだ

ダークエグゼイド「どあ!!」

ダークエグゼイドは後ろへ吹き飛ばされる

ダークエグゼイド「馬鹿な!!ただのけりで私が吹き飛ばだと!!ふざけるな!!」

そういつて光弾を発射したが

エグゼイドゼロ「ゼロスラッガー!!」

そういつて飛ばして 光弾をはじいたのだ

エグゼイドゼロ「であ!!」

さらにそのまま飛ばして ダークエグゼイドにダメージを与える

ダークエグゼイド「ぐおおおおおおおおおおおおおおお  
おおお!!」

エグゼイドゼロ「でああああああああ!!」

さらに接近をして こぶしのラッシュをかますのであった

ダークエグゼイド「おのれ……」

ダークエグゼイドは武器を構えて

ダークエグゼイド「出でよ!!怪獣たちよ!!」

すると光りだして 怪獣たちが発生をした

ゲンム「なら あいつらは」

バロン「俺たちに任せろ」

フィス「ええ 祥平さんはやつをお願いします!!」

エグゼイドゼロ「はい!!」

そういつて仮面ライダーたちや奏者たちは怪獣たちを相手に戦っている中 エグゼイドゼロはダークエグゼイドを倒すために行く!!

エグゼイドゼロ「でああああああ!!」

「ガシャコンブレイカー!!」

スマホ型の武器アイコンを押して ガシャコンブレイカーを出して攻撃をする

ダークエグゼイド「ちい!!」

ゲムム「遅いぞ」

そういつてプロトスポーツゲーマーを装着をして ホイールを投げつける

「ぶっ飛びモノトーン ロケットパンダ!!」

ビルド「はああああああああああああああ!!」

空を飛び 大きな爪で切り裂いていく

響ズ「はああああああああああああ!!」

二人の響は同じけりで吹き飛ばしていく

「バンバンクリティカルファイアー!!」

スナイプ「は!!」

「タドルクリティカルスラッシュ!!」

ブレイブ「であああああああああ!!」

翼ズ「参る!!」

三人の翼たちは次々に切り裂いていくのであった

「ファイナルアタックライド デイデイデイケイド」

「ファイアーリミットブレイク」

フォーゼ「ライダー爆熱シユート!!」

デイケイド「は!!」

デイケイドはデイメンションブラストで爆熱シユートともに放ち  
かいじゅうたちを撃破をしていく

フィルス「クラブモード!!」

フィス「は!!」

クラブシザースで攻撃をしていく

調「はああああああああああ!!」

切歌「デース!!」

アルマ「それ!!」

ゴースト「は!!」

ガンガンハンドで攻撃をしていくのであった

エグゼイドゼロ「であああああああああ!!」

エグゼイドゼロのエグゼイドゼロキックが命中をして ダークエ

グゼイドの武器を吹き飛ばす

ダークエグゼイド「馬鹿な……なぜおまえに私が……」  
エグゼイドゼロ「当たり前だ!!この力は……おれ一人の力じゃない……これは……ある人が俺に託した 力なんだ!!」  
ゼロ「決めようぜ!!」

「必殺!!エグゼイドゼロメテオストライク!!」

エグゼイドゼロ「とう!!」

エグゼイドゼロは空を飛び

エグゼイドゼロ「でああああああああ!!」

エグゼイド そしてゼロの幻影が発生をして

ダークエグゼイド「おのれ!!」

「キメワザ!!ダーク クリテイカルストライク」

ダークエグゼイド「死ねー！ー！ー！ー!!」

そういつて飛び お互いの蹴りが命中をする

ばちばちと両方のエネルギーが激突をしていく

エグゼイドゼロ「俺は……ウルトラマンの力と仮面ライダーの力が一つになった……俺は仮面ライダーエグゼイドゼロだ!!  
でああああああああ!!」

ダークエグゼイド「ぐ……ぐううう……」

エグゼイドゼロ「でああああああ!!」

ついに激突は終わり エグゼイドゼロのけりがダークエグゼイドを吹き飛ばした

ダークエグゼイド「ば……馬鹿な……この……レイ  
ブラッド星人である……私が……!!」

そういつて爆散をしたのであった

ゲンム「どうやら向こうも終わったようだな」

そういつてガシヤットを抜いた

バロン「そうだな」

そういつてロックシードを解除をした

アーナス「祥平あんた」

祥平「迷惑をかけたね ごめん」

パラド(祥)「全くしんぱいかけさせやがって!!」

調「……ねえ 聞かせて……どうしてあなたがそれを」

調がさしたのは スマホである……

祥平「あつたんです……彼に」

ファイル「彼……まさか!!」

祥平「そうです……健介さんです」

翼「な!!健介さんだ!!」

調「ねえ……どこで……どこであつたの!!ねえ!!」

そういつて調は祥平に聞き出そうとするが

切歌「調 落ち着いてほしいデース!!」

愛「お母さん!!これじゃあ祥平さんが話せないよ」

調「ごめん……」

祥平「あつたのは 白い場所でした」

ルノ「白い場所ですか？」

祥平「はい……俺はまだ死んじやいない……新たな力を渡すつ

て言われたのが」

クロト「このスマホってことか……」

そういつてクロトはスマホを見ている

戒斗「ただのスマホだな……」

ファイル「だが彼は変身をしている……」

するとスマホが光りだした

全員「!!」

すると何かが移りだした

調「あ……ああああ……けん……すけ……」

そう映っていたのは 相田 健介だったのだ

健介「……久しぶりだね……調」

健介の真実!! . . . . .そして

SONG基地にて

翼「けんすけ . . . . .さん . . . . .」

健介「 . . . . .といっても姿はこの状態だけだな . . . . .」

クロト「さて健介 話してもらおうぞ」

健介「といっても話せることは少ない . . . . .」

愛「お父さん . . . . .」

健介「愛 大きくなった . . . . . 剣に真奈 紗代 花菜 . . . . .」

剣「父上 . . . . .」

真奈「パパ . . . . .」

健介「さて話すでしょう . . . . . 俺の状態のことも . . . . . 今の

俺は危険な状態だ . . . . .」

全員「!!」

クロト「どういうことだ!!」

祥平「そうですよ!!」

健介「 . . . . .今 邪悪な力が目覚めかけようとしている . . . . .

そして俺はあの遺跡を調査の時 光に飲み込まれた . . . . . だがそ

れは邪悪な意思が出ようとしていた . . . . . 俺は奴を俺の体に封じ込

めた . . . . .」

クロトside

そうだったのか . . . . . 健介 お前はずっと闇と戦ってきたの

か . . . . .

みると 調たちが泣いている . . . . .

セレナ「健介さん . . . . .」

調「そ . . . . .そんな . . . . .」

健介「ううう . . . . .」

すると光が消えかけようとしている . . . . .

調「健介!!」

健介「 . . . . .すまない . . . . .クロト 戒斗 祥平 . . . . .も

し俺が現れて お前たちに攻撃をしようとしたら . . . . .」

「俺を殺してくれ」

そういつて消える

翼「……殺してくれ……って」

響「どうして……どうしてなんですか……健介さん……」

切歌「どうして……自分が死のうとするのデース……」

調「……」

調は部屋を出ていく

愛「お母さん!!」

祥平「俺が追いかけますよ!!」

そういつて愛と祥平は追いかけるのであった

セレナ「……」

翼(ク)「クロト……」

クロト「ああ……(俺は奴を殺せるのか……あいつを……

健介を……)」

奏(戒斗)「なあ戒斗」

戒斗「……なんだ……」

奏(戒斗)「あんたは……健介を殺せるのか……」

戒斗「……昔の俺だったら……やっていたかもしれない……

だが……今俺はあいつを殺すことは……できない……」

翼「……すまない少し 調のところへ行く」

そういつて翼も追いかける

さして一方で追いかけている二人は

パラド(祥)「よつと」

アーナス「ふう」

そういつて増えたのであった

追いかけていくと 座っている調がいたのだ

愛「お母さん……」

調「……」

調は無言だった……体育座りをしていたのだ

祥平「……」

パラド(祥)「……」



アーナス「……………」

調「……………してなの……………」

愛「お母さん？」

調「どうして健介はいつも一人で抱えているの!!」

いつものとは違う母に愛もびっくりをしている

調「……………どうして……………どうして……………健介……………あなた

はいつも……………一人で……………」

ファイルス「……………バディ」

調「うう……………あああ……………うああああああああ

ああああああああああああああああああああああ

ああああああああああああ

調の大きな声は……………とても悲しい声であった……………愛する人

は生きている……………だけどその体は闇に徐々に侵されている……………

そしてもし自分が攻撃をしようとするなら……………殺してくれ……………

おそらくそれは相田 健介として死にたいという彼の思い

だ……………」

だけど調たちは死んでほしくない気持ちだから……………つらいの

だ……………」

「見つけたぞ!! 仮面ライダー!!」

全員「!!」

「ガリュー!!」

「ジーター!!」

「バスー!!」

「グリューヨ!!」

「ゼーバス!!」

「!!!ゼーバス特戦隊!!!」

そういつてポーズを決めたのであった

愛「えつと敵？」

パラド（祥）「みただな」

そういつて全員がゲーマードライバーを装着をして

愛「ファイルス!!」

祥平「ゼロさん」

ゼロ「いくぜ!!」

ファイル「愛」

調「・・・・・・・・・・・・・・・・」

調はぎりつとにらんで・・・・・・・・シャルシャガナを装着をした

ファイル「ライオンモード!!」

「ゼロモード!!」

「パーフェクトノックアウト!!」

つと変身をしたのであった

ルミナス「いくわよ!!」

そういつてレイフラになつて攻撃をする

グリユーヨ「きええええええ!!」

ルミナス「な・・・・・・・・え？」

パラドクス（祥）「どあ!!」

ルミナスがパラドクス（祥）に激突をしたのであった

エグゼイドゼロ「なんだ!!」

フィス「超能力つてこと!!」

調「・・・・・・・・・・・・・・・・」

フィス「でああああああああああ!!」

フィスもフィスガンソードモードにして攻撃をしたが

ガリユー「ふん!!」

エグゼイドゼロ「であ!!」

ゼロスラツガーを投げる

バスー「は!!」

バスーは光弾をだして　ゼロスラツガーをはじいたのだ

ジータ「いくぜ!!」

するとダツシユをして連続の蹴りをいれていく

パラドクス（祥）「ちい!!」

ガシャコンパラブレイガンアックスモードでガードをする

調「・・・・・・・・ぎり」

ファイル「調?」

調「……………お前らが……………」  
全員「!!」

調「お前らがいなかったら……………健介は……………」  
SONG基地

「シャルシヤガナの力が……………あがつて……………きや!!」  
翼「!!」

クロト「なんだ……………」

戒斗「俺たちもいくぞ!!アルマ!!」

アルマ「任せて!!」

そういつて扉を開いて 行くのであった  
一方

調「うああああああああ!!」

大きな鋸が4つに増えて まずグリユーヨを刻んでいったのだ  
グリユーヨ「ぎやああああああ!!」

ゼーバス「グリユーヨ!!」

調「お前らが!!お前らが!!」

そういつて怒りのまま攻撃をする

フィス「お母さん!!」

エグゼイドゼロ「だめです!!」

調「邪魔だ!!」

そういつて二人に攻撃をしたのだ

フィス「ぐ!!」

エグゼイドゼロ「ぐあ!!」

調「があああああああああああああ!!」

そのまま ジータ バスーに攻撃を続ける

ゼーバス「ちい!!」

ゼーバスはバスターをはなち 調に当てたのだ

調「……………イグナイト 抜剣!!」

さらにイグナイトを発動させたのだ

フィス（お母さん……………いつたいどうして……………）

調「があああああああああああ!!」

そのまま ガリユーを貫いたのだ  
ガリユー「ぐほ……」

ガリユーはそのまま倒れたのだ

調「あはははははははは!!」

切歌「調!!やめるデース!!」

そういつて切歌が止めるが

調「邪魔……切ちゃん」

そういつてひじ打ちをしたのだ

切歌「が!!」

スナイプ「ママ!!」

そういつてスナイプは行く

調「殺す……あいつらをみんな……ころしてやる!!」

そういつて調が行こうとしたとき

「だめだ!!」

何かが現れたのだ

ファイル「あれはバディ!!」

そう現れたのは健介だった

健介「やめるんだ……調……」

調「離して……健介……」

健介「自ら闇へと行こうとするな……」

調「……」

健介「……うぐ」

健介は調から離れて

健介「うぐ……ぐあああ……」

すると黒い スマホを持ち

「ダークライオンモード」

すると姿が黒いフェイス ライオンモードになったのだ

ダークフェイス「があああああああああああ!!」

ダークフェイスはそのままゼーバスたちに攻撃をしたのだ

ゼーバスたち3人は攻撃をするが ダークフェイスそれを受けても

そのまま攻撃をして ダークスマホをダークライオセイバーにセツ

トをして

「ダークライオブレイク」

ダークフェイス「があああああああああああああああああ!!」

そのまま三体を切り裂いたのであった

そして標的を　フェイスたちに変えたのだ

バロン「くるのか」

エグゼイド「健介………」

ガシャコンブレイカーを構えるが

エグゼイド「………」

エグゼイドゼロ「俺たちに」

バロン「あいつを倒せというのか………」

ダークフェイス「があああああああああああああああ!!」

ブレイブ「父上!!」

デイケイド「く……お父さん相手に戦えなんて」

ゴースト「嫌だよお父さん!!」

スナイプ「会えたのに………」

フェイス「お父さん!!」

ダークフェイス「があああああああああああああ!!」

ダークフェイスはダークライオソードを振りかざしながら　攻撃を

してきたのだ

パラドクス（祥）「しっかりしやがれ!!」

パラドクス（ク）「クロト!!なんかないのか!!」

エグゼイド「くそ……こんな時に何も思いつかないなんて………」

ダークフェイス「ぐああああああああ!!」

2人のパラドクスを吹き飛ばしたのだ

エグゼイドゼロ「パラド!!」

エグゼイドゼロはエメリウムスラッシュを放ったのだ

ダークフェイス「が!!」

それを両手のダークライオンクロウを展開をして　ふさいだのだ

調「健介!!もうやめて!!」

そういつて調が前に立ったのだ

フェイス「お母さん!!だめ!!」

だがダークフェイスの攻撃は調の前で止まる

ダークフェイス「ぐ……ううう……ぐおおおおお

おおおおおおおおおおお!!」

そういつてダークフェイスは消えるのであった

調「けん……すけ……」

すると倒れたのだ

フェイス「お母さん」

そういつてフェイスは母親を抱きかかえると

調「す……す……」

寝ているのであった

エグゼイド「おそらく緊張が解けたんだろう……」

バロン「あれが健介が暴走をした姿……」

フェイス「お父さん……」

一方で

健介「はあ……はあ……」

「まだ抵抗を続けるか……人間」

健介「だまれ……俺の体がどうなろうとも……お前を……

必ず止める……」

そういつて健介はオッドアイになりかかっていたが……また元

に戻るのであった

さして一方で

「カナリアよ」

カナリア「はいマスター」

「ゼーバス特戦隊が敗れたそうだ」

カナリア「まさか……かの者たちが……」

「そのとおりだ……さてどうするか……」

そうちて考えている

SONG基地

「そうか 健介が生きていたんだな」

翼「はい おじさま……」

翼は今連絡をしているのは 本部司令官として行っている 風鳴  
弦十郎であった

弦十郎「・・・わかった 麗菜君には連絡をしておく 未来君に  
は・・・」

翼「すでに立花が向かっています」

弦十郎「そうか・・・もう少しで俺もそっちへ行く」

翼「おじさまがですか？」

弦十郎「そうだ お前も指揮よりも戦った方がいいだろう？」

翼「感謝をします」

さて一方で

未来「あれ・・・」

健介「・・・」

未来「にい・・・さん・・・」

兄妹が再会をしていたのであった

## 破壊獣襲来!!

未来 side

今 私の前に・・・行方不明になっている・・・健介兄さんがいた・・・

未来「にい・・・さん・・・」

健介「未来・・・」

未来「にいさ「くるな!!」兄さん?」

健介「来るな 未来・・・」

未来「どうして!!」

健介「今の俺は・・・自分でも何をするのかわからない・・・もう抑えているのが限界になってきているんだ!!」

未来「いったいどういうことなの!!」

健介「ぐ・・・ぐおおお・・・ぐおおおおおおおお!!」

「ダークライオンモード!!」

すると健介はダークフェイスになって未来に攻撃をしようとしたのだ!!

「未来!!」

ダークライオンソードを受け止めたのは

未来「響!!」

受け止めたのは立花 響であった

響「健介さん!!」

ダークフェイス「ぐおおおおおお!!」

ダークフェイスはそのまま逃げたので・・・

響「未来!!大丈夫!!」

未来「ねえ響・・・」

響の肩に未来は手を置いた

未来「兄さんは・・・兄さんはどうしてなの・・・」

見ると未来は目から涙を流していたのだ

響「未来・・・」

未来「どうして兄さんばかり・・・あんな目に合わないといけ



ないのよ!!」

響「・・・・・・・・・・・・・・・・」

未来「ああああああああああああああああああ!!」

響は未来を抱きしめることしかできなかったのだ・・・・・・・・どう  
いう風に声をかけるのか・・・・・・・・何を話したらいいのか・・・・・・・・  
今の未来にはつらすぎるからだ・・・・・・・・だからこそ彼女が落ち着い  
たとき・・・・・・・・この話をするにしたのであった

一方でSONG基地では 健介の今の体の状況をファイルスがとっ  
ていたので見ることにしたのであった

翼「・・・・・・・・これは!!」

そこに映っていたのは・・・・・・・・健介のほとんどが黒くなっているの  
だ

クロト「これは・・・・・・・・ここまで闇が進んでいたのか・・・・・・・・」

切歌「もし・・・・・・・・これが完全になったら・・・・・・・・」

全員「・・・・・・・・・・・・・・・・」

すると警報が鳴る!!

愛「どうしたの!!」

「新たな反応です!!」

モニターを見ると

戒斗「あれは!!」

セレナ「ネフィリム・・・・・・・・どうしてあれが!!」

翼「あれがどうであれ・・・・・・・・私たちがやることはひとつ!! 出動だ!!」

そういつて全員が出動をした

ライオトレイン「到着だぜ!!」

そういつて降り立つ

ビルド「ネフィリム・・・・・・・・」

エグゼイドゼロ「セレナ」

ビルド「私にとってはあんまり会いたくなかったわ・・・・・・・・」

そういつてビルドはドリルクラッシュャーを構えている

エグゼイド「いくぞ!!」

そういつて全員が武器を構えたとき

「ダークストライク!!」

すると上空から何かがネフィリムを蹴り飛ばしたのだ……

フィス「お父さん……」

ダークフィス「……そうかてめえらが……俺の敵だな」

そういつて構えている

エグゼイドゼロ「健介さん 何を言っているのですか!!」

ダークフィス「健介? あーこの体の奴か……俺の邪魔をした男だな」

調「……」

切歌「……」

ダークフィス「愚かな男よ……私の邪魔をしなければよかったのを自分の体で……愚かすぎる」

調「黙れ……黙れ黙れ!!」

切歌「健介の体でしゃべるんじゃないやねえ!!」

そういつて2人は切りかかる

エグゼイド「おい!!」

翼「貴様!!」

ブレイブ「父上の体を返せ!!」

そういつて行くのであった

バロン「ちい!!」

エグゼイドゼロ「俺たちも止めましょう!!」

そういつて彼女たちの後へ続く

調「はああああああああああ!!」

切歌「くらうデース!!」

そういつて2人は鋸と鎌で攻撃をする

ダークフィスはそれをダークライオソードで受け止めたのだ

ビルド「はああああああああああ!!」

ドリルククラッシャーで攻撃をする

翼「でああああああああああ!!」

「タドルファンタジー!!」

「バンバンシュミレーション!!」

そういつてブレイブ スナイプはレベル50になったのだ  
スナイプ「この!!」

砲撃を放つ

ダークフェイス「ちい」

ブレイブ「はああああああああああああああ!!」

ブレイブが上からガシャコンソードで攻撃が当たる

ダークフェイス「ぐ」

デイケイド「は!!」

ゴースト「であああああああああああ!!」

さらにライドブツカーソードモードとガンガンセイバーがダーク  
フェイスに命中をしたのだ

エグゼイド「ならこれだ」

「ドラゴナイトハンターZ!!」

バロン「なら俺は」

「レモンエナジー」

エグゼイドゼロ「ルナミラクルゼロ!!」

そういつて青くなつたのであつた

ハンターアクションゲーマーレベル5 フルドラゴン バロン

レモンエナジーになつたのであつた

バロン「は!!」

バロンは接近をして ソニックアローで攻撃をした

ダークフェイス「は!!」

ダークフェイスはダークライオンクローで攻撃をしたが

エグゼイド「であああああああああああ!!」

エグゼイドのドラゴブレードがそれをふさいで さらにドラゴン

フアングから火炎放射が放たれたのだ

ダークフェイス「ぐあ!!」

フェイス「祥平さん!!」

エグゼイドゼロ「ああ!!ミラクルゼロスラッガー」

そういつて切り裂いていくのだ

フェイス「であああああああああ!!」

ファイルス「ライオブレイク!!」

斬撃が命中して ダークフィスを吹き飛ばしたのだ

ダークフィス「ぐ……まだこの体になれないからか……」  
そういつて抑えているのであった

調「健介の体を返して!!」

そういつて攻撃をしたが

健介「いいのか？」

調「!!」

健介「俺を攻撃したら この体に傷がつくぞ？」

調「ぐ」

ダークフィス「馬鹿め!!」

するとダークフィスになって調を蹴つたのだ

調「がは!!」

フィス「お母さん!!」

ダークフィス「さてこれでとどめを刺してくれるわ!!」

ダークライオソードを振りかざしたが

調「……?」

ダークフィス「ぐ……き……貴様……まだ意識があつたのか!!」

そうダークフィスの動きがカクカクになっているのだ

バロン「まさか 健介の意識があいつを抑えているってことなのか!!」

ダークフィス「ぐ……相田 健介!!俺の邪魔をしおつて!!」

調「健介!!」

ダークフィス「ぐうう……やむを得ん!!」

そういつて消えるのであった

調「健介……!!」

エグゼイドたちも変身を解除をしたのであった

クロト「……」

戒斗「……」

祥平「……」

誰も声をかけられなかったのだ……  
さて一方で

ダークフェイス「おのれ……相田 健介……いつまでも私の邪魔をしようって……まだ慣れていないからかもしれないが……まあいい いずれこの体も私になるだろう……ふっはっはっはっはっはっは!!」

そっいいながら変身を解除をしたのであった

SONG 基地へ戻ると

弦十郎「どうやら戻ってきたようだな……」

翼「おじさま……」

風鳴 弦十郎がいたのであった

## 遺跡の秘密

弦十郎「・・・・・・・・・・・・・・・・」

クロト「お久しぶりです」

弦十郎「そうだなクロト君　さて君たちにはすぐに出発をしてもらうぞ」

戒斗「どういうことだ・・・・・・・・俺たちにどこへ行かせようとしている・・・・・・・・」

弦十郎「それは遺跡だ」

三人「!!」

ファイルス「まさか・・・・・・・・再びあそこへ行くことになるとは・・・・・・・・」  
祥平「その場所とは？」

弦十郎「健介が行方不明になった遺跡だ・・・・・・・・」

そして全員が向かったのであった

クロト「ここが・・・・・・・・その遺跡なのか」

その場所は広く　中には文字などがかかっている・・・・・・・・

調「まさか・・・・・・・・またここへ来るなんて・・・・・・・・」

切歌「・・・・・・・・ですね・・・・・・・・ここには二度と来たくなかったな・・・・・・・・」

翼「ああ・・・・・・・・」

そういつて三人はあるく

セレナ「・・・・・・・・今のところは何もありません・・・・・・・・」

「・・・・・・・・ますか？」

クロト「ん？」

戒斗「なんだ」

アルマ「何か聞こえた？」

「私の声が・・・・・・・・聞こえますか？」

全員「!!」

すると光が発生をして彼女たちを包み込んでいくのであった

愛「・・・・・・・・ここは？」

剣「何も無い場所だ・・・・・・・・」

「お待ちしております……………」

全員「!!」

見ると女性が立っていた……………  
真奈「あなたは?」

「私はアママウス……………」

クロト「アママウスだと……………」

アママウス「……………今 健介さんの体にいるものは……………かつ  
て私たちが封印をしていた闇……………」

戒斗「だがなぜその封印が解けたんだ……………そして奴はどうして健  
介の中に」

アママウス「……………健介さんは……………奴の封印が解かれたと  
き すぐにその強大な闇を自分の体に取り込んだのです……………」

調「……………健介はどうなるの……………」

アママウス「……………おそらく闇に支配されて……………彼とい  
う意識はなくなってしまうでしょう……………」

調「ふぎけないで!!あんたたちのせいで!!健介は!!」

調は怒っていた……………そのせいで健介は自ら苦しんでいる……………  
何もできない……………」

アママウス「…………………………」

クロト「俺たちがすることは決まった……………健介から闇を追い払  
うことだ」

戒斗「そうだな……………俺たちがすることはまずそこからだな」

アママウス「ならこれをお持ちください」

そういつてアママウスは何かを渡した

愛「それは?」

アママウス「闇が彼の体から出たときにこれをやつにおかけくださ  
い」

そういつて愛は受け取るのであった

そして光が消えて……………愛たちは先ほどいた場所にいたのであつ  
た……………」

クロト「……………」

戒斗「戻るか」

そういつて戻る時 連絡が来た

弦十郎「皆 よく聞いてくれ 敵が出現をした……そこに健介が現れて 敵と交戦をしている」

全員は急いで向かっていた

ダークフェイス「ぐああああああああああああああああ!!」

現場へつくと ダークフェイスが咆哮をあげながら敵を切っていたのだ

ダークフェイス「……ぐぐ……み……んな……」

エグゼイド「健介か!!」

ダークフェイス「はや……く……俺を……たお……してくれ……」

バロン「ふぎけるな!!」

エグゼイドゼロ「健介さん あきらめないでください!!」

ダークフェイス「ぐ……ぐおおおおおおおおおおお おおおおおお!!」

そういつておそいかかってきたのだ

デイケイド「お父さん!!」

ゴースト「パパ!!」

そういつて2人は抑えるが ダークフェイスは攻撃をした

2人「きゃああああああ!!」

ブレイブ「く!!」

スナイプ「う……」

二人も武器を構えるが

スナイプ「撃てない……パパを撃つなんて……」

ブレイブ「切れない……私には」

ダークフェイス「ぐああああああ!!」

2人「が!!」

2人は蹴り飛ばされた

フェイス「お父さん……」

ファイルス「バディ やめるんだ!!これ以上は!!」



ダークフェイス「ぐあああああああ!!」

フェイス「く!!」

フィルス「ライオンソード!!」

そういつて受け止めた

同じライオンモードが激突をする

エグゼイド「であ!!」

エグゼイドゼロ「でああああああああ!!」

二人も入り

バロン「は!!」バロンのバナスピアーが刺さった

ダークフェイス「ぐうううう……」

ダークフェイスは抑えているが

ダークフェイス「くつくつく」

先ほどとは違う雰囲気になった

フェイス「お前か……」

ダークフェイス「死ね」

そういつて連続した斬撃刃を飛ばし　フェイスたちを吹き飛ばした

エグゼイド「なら!!」

「マイティ　シャイニング!!」

そしてゲーマードライバーを外して

エグゼイド「だ——いへんしん!!」

エグゼイド　シャイニングゲーマーになった

エグゼイド「は!!」

ガシャコンブレイカーで攻撃をする　ダークフェイスのダークライ

オソードを受け止めている

バロン「は!!」

マンゴーアームズになって攻撃をしていく

ダークフェイス「ぐお!!」

エグゼイドゼロ「ストロングコロナモード!!」

そういつてパワー形態になって攻撃をしていく

ダークフェイス「おのれ……」

そういつて構える

フェイス「お父さん!!もうおねがい!!目を覚まして!!」

ダークフェイス「無駄だ!!お前の父親は私に負けた!!」

ブレイブ「父上はそんな弱くない!!」

スナイプ「この世界を守ろうとしてきた男なんだよ!!パパは!!」

デイケイド「それにお母さんたちを守ってきたんだ・・・」

ゴースト「だから!!お父さん!!」

五人「目を覚まして!!」

ダークフェイス「無駄だと・・・うぐ!!」

するとダークフェイスが苦しみだしたのだ

ダークフェイス「ぐおおおおおおおおお・・・馬鹿

な!!」

(娘たちが俺を呼んでいる・・・だからこそ俺は頑張れる!!)

すると光が発生をして

ダークフェイス「ぐあ!!」

ダークフェイスが倒れていた

そして もう一人の男が立っていた

健介「・・・」

相田 健介だった

調「け・・・健介?」

健介「・・・随分待たせてしまったね・・・調」

調「健介・・・健介!!」

調は健介に抱きついた 長い間行方不明になっていた・・・彼・・・

戻ってきてくれた・・・

ファイルス「バディ」

健介「ファイルス 迷惑をかけたな」

フェイス「お父さん ファイルス返すよ」

健介「いいや・・・愛 それはお前が持っていてほしい・・・」

フェイス「でも・・・」

健介「見せてほしい・・・お父さんにお前が使うフェイスを!!」

フェイス「うん!!」

健介「剣 真奈 紗代 花菜!!お前たちの力も見せてほしい!!」

四人「はい!!」

ダークフェイス「おのれ……だがようやく我も自由になれた……  
なら遠慮はしないぞ!!」

フェイス「それは私たちの台詞です!!」

ブレイブ「父上の体をもてあそんでくれた罪は重いぞ!!」

ディケイド「そういうことだ」

ゴースト「覚悟をしてください!!」

ファイルス「ライトニングドラグユニコーン!!」

「タドルレガシー!!」

「バンバンシュミレーション!!」

「クウガ アギト 龍騎 ファイズ ブレイド 響鬼 カブト 電王

キバ ダブル オーズ フォーゼ ウィザード 鎧武 ドライブ

ゴースト エグゼイド!!ファイナルカメンライド ディケイド!!」

「グレイトフル!!ガッチリミナーコッチニシナ!!」

全員「変身!!」

フェイスはライトニングドラグユニコーン ブレイブはレガシー  
ゲーマーレベル100 スナイプはシュミレーションゲーマーレベ  
ル50 ディケイドはスーパーコンプリートフォームに ゴースト  
はグレイトフルになったのだ

フェイス「覚悟をしてください!!」

エグゼイド「なら俺たちは……雑魚たちを倒す」

バロン「お前たちは奴を倒せ!!」

エグゼイドゼロ「見せてあげましょう!!」

ルノ「皆 頑張つて!!」

五人「はい!!」

ダークフェイス「こい!!仮面ライダー!!」

帰ってきた相田 健介 激突 ダークフェイス!!

ダークフェイス「くらうがいい!!」

ダークフェイスはダークライオソードから斬撃刃を飛ばした

スナイプ「は!!」

スナイプは砲撃でその斬撃を消して そのまま砲撃を続けたのだ

ダークフェイス「どあ!!」

ダークフェイスはスナイプの砲撃で ダメージを受けた

ブレイブ「はああああああああああ!!」

ゴースト「でああああああああああ!!」

さらにブレイブ ゴーストの二人の斬撃がとび ダークフェイスは

さらにダメージを受ける

フォーゼ「でああああああああああ!!」

さらにフォーゼ コズミックスティツが

「エレキ ON!!」

バリスンソードにエレキスイッチをセットをして ソードモード

にしたバリスンソードでダークフェイスを切りつける

ダークフェイス「ぐおおおおおおおお!!」

ダークフェイスはダメージを受けていく

エグゼイド「はああああああああ!!」

さらにエグゼイド シャイニングゲーマー

バロン「は!!」

バロン レモンエナジーアームズ

エグゼイドゼロ「でああああああああ!!」

エグゼイドエロ

ルノ「ええい!!」

ルノのワイバーンがそれぞれの武器で ダークフェイスに攻撃をし

た

フェイス「だああああああああ!!」

さらにフェイスが接近をしてユニコーンヘッドで連続したドリルパ  
ンチをダークフェイスに当てていく

「ダークフェイス「ぐお!!」」

フェイス「あなただけは絶対に許さない!!お父さんの体をつかつたこと!!」

「そういつて蹴り」

フェイス「私たちやお母さんを悲しませたこと!!」

「そういつてユニコーンジャベリンでさらに攻撃をして」

フェイス「さらにお父さんの体を使って人質にしたこと!!」

「ドラグーンセイバーで切っていく」

フェイス「私たちは絶対に許さない!!」

「デイケイド「愛!!」」

「ファイズ カメンライド ブラストー」

するとデイケイド 超コンプリートフォームの隣にファイズ ブラストーが立っていた

「ファイナルアタックライド ファアファアファイズ!!」

「デイケイド「はあああ・・・は!!」」

2人はフォトンバスターを放つたのだ

「ダークフェイス「ぐああああああ!!」」

「ダークフェイスは吹き飛ばす」

「ダークフェイス「馬鹿な・・・闇である私が・・・なぜ人間に押されているのだ!!」」

フェイス「当たり前です!!あなたにはわからないことです!!」

「ファイルス「愛!!これでとどめをさすぞ!!」」

「フェイス「うん!!」」

「デイケイド「なら私たちも!!」」

「そういつて全員が隣に立った」

「ファイナルアタックライド デイデイデイケイド!!」

「リミットブレイク!!」

「ゼンダイカイガン グレイトフル オメガドライブ!!」

「キメワザ!!タドル クリティカルストライク!!」

「バンバンクリティカルファイアー!!」

「ファイルス「必殺!!ライトニングメテオストライク!!」」

6人「はああああああああああああああああああ!!」

6人は一気に飛び

6人「はああああああああああああああああああ!!」

シックスライダーキックをダークフェイスにお見舞いさせようとしたが

「させませんよ」

エグゼイド「な!!」

見ると ひとりの女性が 6人のライダーキックを受け止めていたのだからだ

アルマ「戒斗!!」

そこに避難を終わらせてきた 奏者たちが到着をした

翼（ク）「なんだあれは……」

切歌「健介!？」

健介「話は後だ!!」

そういつて見ているのであった

カナリア「は!!」

カナリアは6人のライダーたちを吹き飛ばしたのだ

6人「きゃああああああああ!!」

エグゼイドゼロ「貴様は!!」

カナリア「始めまして 私はカナリア……あなたたちが戦っている機械兵団の幹部とでも言っておきましょう」

奏（ク）「その幹部が何の用だい!!」

カナリア「そうですね……私が用があるのは」

ダークフェイスへ振り向いた

そして ぐさ!!

ダークフェイス「ぐお……ぐあああああああ!!」

そうダークフェイスを貫いて そのまま消滅をさせたのであった

全員「な!!」

カナリア「私がほしかったのは この闇の力……そしてこれですよ」

そういつて持っていたのは

「ダークライオンモード」

カナリア「変身」

すると彼女の体を覆う 仮面ライダーダークフィスへと変身をしたのであった

健介「お前はそれが目的だったのか」

ダークフィス「そうですね、我がマスターの命であなたたちの戦いを見ましたので・・・それであなたたちが彼をピンチにさしてくれたので、このチャンスをおうかがっていたのですよw」

そういつて笑うのであった

バロン「貴様!!」

そういつてバロンたちは攻撃をしようとしたが

ダークフィス「・・・無駄ですよ」

「ポーズ」

すると時が止まったようになって

ダークフィス「は!!」

そういつて右腰についているダークフィスガンガンモードで彼らを撃つたのだ

ダークフィス「ふ」

「リストアート」

3人「ぐあああああああ!!」

エグゼイド「今のは・・・ポーズだと・・・」

ダークフィス「その通りです 神童 クロト・・・いいえ 織斑

一夏」

クロト「どうして俺の前の名前を・・・」

ダークフィス「簡単ですよ、あなたたちの戦いはずっと見てきましたので・・・そこにいる 駆文 戒斗 高田 祥平 ルノ・アーカディア・・・あなたたちの戦いは見てきたのですから・・・ずっとね」

バロン「なんだと・・・」

祥平「まさか!!」

ダークフィス「ええ夢の星との戦いも、そしてあなたたちが共闘を

して マーベル博士やダークジェネラルと戦ったことも……」  
健介「……………」

ダークフェイス「まあ今は関係ないでしょう……さて私の役目はここまでです……それでは彼らが相手をしてくれますよ」

そういつてダークフェイスが指を鳴らすと 機械が現れる

ダークフェイス「合体機械 アクスタイン 彼らをやっつけなさい」  
そういつてダークフェイスは消えるのであった

フェイス「ぐ……………」

健介「……………変身ができたらな……………」

そう健介は今 変身アイテムがなかったからだ……ファイルスは  
今 愛が使用をしているため フェイスになることができないのだ

すると光が発生をした

健介「!!」

調「健介!!」

健介「ここは……………」

アマメウス「……………」

健介「あなたは……………」

アマメウス「本当にごめんなさい……私たちが奴の封印を……」

健介「あの時感じた……………あなただっただんですね」

アマメウス「そうです……………あの闇は私たちがここへ封印をした  
もの……………そしてあなたには多大なご迷惑をおかけしまし  
た……………」

健介「奴がもし出ていたらこの世界は終わっていた……………だから  
俺はこの中に奴をいれたんです……………」

アマメウス「……………でもあなたは……………」

健介「わかっているつもりです……………今 俺の体には光と闇が  
流れているのを……………」

そういつて彼は目を開く 先ほどの目の色が変わっており 片目  
は赤くなっており もう一つは青になっている

アマメウス「これを受け取りください」

そういつて彼女が投げたのは



健介「カードとベルト？」

するとカードが光りだした

健介「これは……」

カードが光って 名前が出てきた

「よろしく頼むよ」

健介「？」

「ここだ ベルトです」

すると先ほど静かだったベルトがしゃべりだした

健介「お前は」

「私には名前がありません……」

健介は少しだけ考えて

健介「お前の名前はデステイニーだ」

デステイニー「デステイニー 運命ですね……インプット 私は

デステイニーです」

健介「よろしく頼むよデステイニー」

デステイニー「ではマスター 私を腰にセットをしてください」

健介「こうだな？」

そういつてセットをした

デステイニー「はい それで先ほどのカードを私にインストールを  
してください」

そういつて健介はベルトにカードを近づけると カードが消えて  
ベルトに吸収される

デステイニー「仮面ライダーデステイニー!!コンプリート!!」

すると健介の体が光りだして 姿が変わったのだ

「これが……」

デステイニー「そうですマスター 名前は仮面ライダーデステイ  
ニー」

デステイニー「……デステイニー」

テイニ「はい!!」

わかりずらくなるため ベルトの方がテイニになりますので  
デステイニー「テイニ いくぞ!!」

ティニ「はいマスター!!」

そういつて彼は背中の翼を開いて空を飛ぶ

光が消えてそこに立っていたのがいた

エグゼイド「なんだあれは……………」

バロン「先ほどまでいなかったぞ」

ルノ「一体誰なんでしょうか……………」

「俺は 仮面ライダーデステイニーだ!!」

そういつて 彼はカードを出して

ティニ「スラッシュブレイカー」

すると剣が出てきて装備をする

デステイニー「であああああああああ!!」

背中の翼が開いて 彼は空を飛ぶ

アクスタイン「……………」

アクスタインは右手をふりかざしてデステイニーにめがけてくる

デステイニー「甘い!!」

デステイニーはそれをかわして スラッシュブレイカーで攻撃をする

デステイニー「ティニ ほかに何かがある」

ティニ「フォームを変えるカードがあります」

デステイニー「これか!!」

そういつてカードを出して ティニにかざす

ティニ「フォームカード デステイニー ヘビーウェポンモード

!!」

すると地上へ着地をすると デステイニーの肩部には脚部にミサイルが装着をされていき さらに両手にはツインガトリングが装着されていく 色も先ほどよりも青くなっていく

翼「雪音みたいになったのか!!」

デステイニー「は!!」

胸部装甲が展開をして ガトリングが回転をして弾が放たれる

さらに肩部 脚部のポットが開いてミサイルが飛ぶ

アクスタインはその攻撃を受けて ダメージを与えられる

デステイニー「まだまだ!!」

ティニ「フォームチェンジ ミラーモード」

すると色が今度は緑になり ミラーモードとなった

デステイニー「ミラーナイフ!!」

そういつて右手を前に出すと ミラーナイフが飛び アクスタインに命中をしていく

アクスタインは砲撃をして 仮面ライダーデステイニーは命中をした・・・だが

バロン「な!!」

そうデステイニーは割れて 落ちたのは鏡だったのだ

デステイニー「残念」

そういつて武器カードをかぎす

ティニ「ミラートマホーク」

そういつて二丁投げて アクスタインの頭部の角を切ったのだ

デステイニー「この姿だと鏡を使ったトリツキーが使えるってわけさ」

そういつて鏡を出して 右腰についていた銃を出して 鏡に放つ  
すると鏡にはいつた弾が別の鏡から出てきたのだ

そしてその弾がアクスタインに命中をして アクスタインは倒れる

デステイニー「まだまだ」

そういつてフォームカードを出して

ティニ「工事現場モード!!」

すると色が黄色くなったのだ

デステイニー「であああああああああ!!」

すると機械が現れた ミキサー車だ  
それが左手に装着されて

デステイニー「ウォールシュート!!」

ミキサー車からコンクリートが放たれて アクスタインの足に命中をしたのだ

さらにシヨベル クレーン車が現れて それが両手に装着された  
デステイニー「ワイヤーフックパンチ!!」

そういつてクレーンを放ち 体を巻き付かせて

デステイニー「シヨベルナツクル!!」

そういつて連続した バケツトで殴り

そして右手にドリルが装着された

デステイニー「いくぞ!!」

そういつてカードを出した

テイニ「必殺!!マキシナムテンペスト!!」

すると右手のドリルが回転をしてデステイニーの背中の翼が開い

て 空を飛ぶ

デステイニー「ああああああああああ!!」

ドリルで次々にアクスタインを攻撃をしていき 穴を開けていく

デステイニー「これで終わりだーーーーー!!」

そして腹部に穴が空いて……それがとどめとなりアクスタイン

は爆散したのであった

そして着地をして 手をベルトの前に出すと カードが出てきた

のだ

すると姿が戻り 健介になったのだ

ルノ「健介さん? 正しいのですか」

健介「君は始めましてだね 俺は相田 健介 ありがとうね」

ルノ「いいです!!ルノ・アーカディアです!!」

クロト「健介 久しぶりだな」

健介「クロト 戒斗 祥平……えつと何十年ぶり?」

戒斗「まあそうなるか……だが俺たちよりもお前に会いた

いひとがいるだろ?」

祥平「そうですよ」

健介はそう思い振り返ると

そこに立っているのは自分が守りたいと思っていた 愛する人と

娘たちであったからだ

調「け……健介……」

調は涙を流しながら 愛する人の名前を言う

健介「……………これが本当の再開だな……………ただいま 調

切歌 翼 セレナ 響 奏」

調「健介……………健介……………!!」

そういつて彼女たちは健介のところに行き 彼に抱き付いたのだ

切歌「夢じゃないですよね!!本物の健介ですよね!!」

健介「ああ俺は本物だよ 切歌」

翼「よかった……………よかったです……………健介さん」

奏「ばつかやろう!!あたしたちがどれだけ心配をしたと思ってるんだ!!」

健介「それに関してはすまない……………」

ファイルス「バデイ」

健介「ファイルス……………娘たちを守ってくれてありがとうな」

ファイルス「バデイ 私は何もしてない……………彼女たちを仮面ラ

イダーにしてみました……………だから」

健介「いいや それでも俺はお礼を言うぜ……………ありがとうな」

ティニ「あのー私をわすれないでください マスター」

ファイルス「なんだ 女の人だと!!」

ティニ「私です」

するとベルトが人になった

ファイルス「なんとベルトが人になれるのか!!」

ティニ「まあそうですね 変身が必要な時は私を呼べばすぐに飛び

ますよ」

健介「それよりも」

ティニ「そうでした 始めまして ファイルスさん 私は今 マス

ターのパートナーを務めています デステイニーといっています ティ

ニでかまいません」

ファイルス「そうか……………私はファイルスだ よろしく頼む」

ティニ「はい」

戒斗「だが問題はカナリアという女だ」

クロト「そうだな……………」

祥平「奴はダークフェイスの力と闇を自分の中に入れた．．．しかも人格を消滅をさせたのでしょうか？」

アーナス「だったら厄介じゃない？」

愛「お父さん．．．．．」

健介「大きくなったな 愛．．．．真奈 剣 茜 紗代．．．花菜も」

そういつて大きくなった 娘たちになでなでをしている

剣「父上．．．．恥ずかしいですが．．．でも今は．．．．．」

健介「はっはっは 剣 母親に似てきたな 美人になるさ」

剣「び．．．美人．．．．．ありがとうございます 父上」

そういつて笑っている娘たちを見る

真奈「そういえばパパ!!」

健介「どうしたんだ？」

真奈「実はねクリスマスママとママアママも子供を」

健介「子どもだと!!誰の子どもだ!!」

茜「お父さん落ち着いて お父さんの子どもだよ」

健介「え．．．．．そうか．．．．．」

紗代（まあ不安になるよね．．．お父さんだって．．．本当は私たちと一緒に暮らしたかった．．．でもその体に取り込んでいる闇がいつ私たちを襲ってくるかわからないから．．．お父さんは行方をくりましたんだ．．．．．）

つとセレナの娘である紗代はそう思ったのであった

そしてその様子を見ているクロト達

クロト「よかったな 健介．．．．．本当の意味で帰ってこれたんだからな」

響（ク）「うう 感動ですよ．．．これ健介さんだつてつらかったのに．．．仲間たちから離れないといけないから．．．．．」

翼（ク）「そうだな．．．．．彼女たちだけじゃない．．．彼も苦しんでいた．．．．．」

戒斗「．．．．．」

アルマ「あれ？戒斗涙を流してるね」

2人「え!？」

戒斗「……俺だつて泣くときはある……あいつは帰ってきた……あいつらの元に……あいつが行方不明と聞いたときは俺もびっくりをした……あいつは共に戦ったからな……あいつの強さを俺も知っているからな……」

アルマ「あーこの間 世界から戻ってきたときに言っていたね」

戒斗「そうだ……再びこの世界へ来た時……あいつに娘なんていなかったからな……俺たちが来た時よりもこの世界は進んでいることになった……だがあいつの姿を見えなかったからな……まさか自ら闇をとりこんでいたとはな……だがあいつらしいやり方だと俺は思ったのさ」

アルマ「そうだね」

祥平「よかった……」

アーナス「そういえば祥平 黙ってきたのはこのため?」

祥平「そうだね」

パラド(祥平)「いったい何が見えたんだ?あの時」

祥平「翼さん達が涙を流していた……のが見えたんだ」

ゼロ「だがそれが現実になった……それがあの映像だったってわけか……だがお前はエグゼイドになれない……」

祥平「だとしても俺には皆がいる……まあ説明が大変だけどねw」

そういつて笑っている祥平

ゼロ「……」

ゼロは無言でウルティメイトブレスの中で見ているのであった

そして彼らはSONG基地へ戻る時

ライオトレイン「久しぶりだな 健介」

健介「ああライオトレイン お前もありがとうな」

ライオトレイン「俺ができることはこいつらに力を貸してやることだけだ」

そういつて再びライオトレインに乗り込むのであった

SONG基地に帰還をした俺たちを待っていたのは

クリス「健介!!」

マリア「健介!!」

クリスとマリアであつた

麗奈「おかえり 健介」

未来「兄さん……」

健介「ああ心配をかけたな 未来……もう大丈夫だ」

未来「にいさん……」

そういつて未来は健介に抱き付いた

ティニ「……む……」

ファイルス（おかしいな……彼女の健介を見る目が……まるで

乙女……ま……まさかね……）

つとファイルスがティニを見て思ったことであつた……

健介は戻ってきた だが敵はまだまだいるのであつた



## 仮面ライダーデステイニーの設定

デステイニードライバー

意思を持つているベルトで 人間状態になることが可能なベルト  
姿は高町なのはで `strikerS`の姿である CVも田村  
ゆかり

健介のことはマスターと呼び 健介が呼べばいつのまにかそばに  
いるってことらしい

性格はやさしく ライダーの人たちに互角で戦えるのであつた  
人間の姿のまま

だが彼女には何か秘密を抱えているようだ……その隠  
していることとは

ドラグーン 健介がつくった ドラゴンジェッター同様に人工A  
Iを搭載をしているマシンであり 相棒である

ドラゴンジェッター同様にバイクやジェットモード さらに車  
モードになることも可能である

変身

健介がデステイニードライバーを腰にセットをして 左腰につい  
ているからカードを出す

仮面ライダーデステイニーと書いたカードを ベルトの前にかざ  
して 変身という

カードがベルトに吸収されて 仮面ライダーデステイニーに変身  
が完了をする

カードには武器カード フォームカード 必殺カード 仮面ライ  
ダーカードと四種類ある

フォームを紹介しよう  
デステイニーフォーム 基本形態で 最初はこの姿から変身をす  
る

基本形態ながら 背中の翼を展開をして 空を飛ぶことができる

姿は デステイニーガンダムそのものであり 武器はデステイ

ニーの武器がそのままに

スラツシユブレイカーという剣を装備している 主に高機動な戦いをする戦法でもある

フルバーストモード フォームカードで変わったデステイニーの姿

色はヘビーアームズカスタムがモチーフであり 武装もヘビーアームズカスタムだが 背中には翼が残っており それ以外が変わった感じである

弾切れなども起こることもないので撃ち放題である

工事現場モード 言ってしまうえば ダイボウケンのような姿になる 両手は通常の腕をいているが そこに ドリル ショベル ミキサー クレーンが合体をして それぞれの技が使用可能になる

さらに両手両足に 合体をしたら ダイタンケンみたいになり 必殺技はアルティメットフラツシユである

ミラーモード 鏡を使った姿になる デステイニーで 色は緑とミラーマンがモチーフである

武器はミラートマホークという斧以外にも ミラーマンが使ったミラーナイフ シルバークロス ミラーローリングが使える

そのほかにもミラーナイトがした 鏡の姿を作ったり 鏡を作つて そこから銃を放ち 弾がどこかの鏡から出てくるようにしている

エレメントモード この姿はフィスのエレメントスタイルと同様な姿になり 主に属性を使った攻撃が得意である

こちらはフォームカードで変身をするため 楽は楽である

炎 風 水 土 雷 岩などの属性を使用することで様々攻撃が可能になる 武器もエレメントソードにエレメントライフルが装備されており エレメントパワーを注入することで その属性の攻撃をしようすることができるようになる

シャイニングダークネスモード 健介の中にある光と闇の力を解放させることで使えるフォームカードで 姿はフィスのシャイニングダークネスモードと同様である

武器はシャイニングカリバーとダークネスブレイドとフィスが使用しているのは違う武器になっている。二刀流の剣から放たれる斬撃で相手を切ることができる。

必殺技はシャイニングダークネススラッシュ

ドラグーンモード デステイニーにドラグーンが合体をした姿。背中のウイングなども収納されて、ドラグーンの翼に変わる。武器もドラグーンセイバーを使用して、フィス、ドラゴンモードのように、ドラグーンの顔や爪を出したりして攻撃をすることが可能である。

シンフォギアモード これはフィス同様に、シンフォギアの力を使うことができるフォーム。デステイニーの通常はシャルシヤガナが基本形態でそこから帰ることができるようになっていて、

さらに奇跡のシンフォギアモード、イグナイトモードになることが可能である。

百獣モード ガオキング、ガオマツスル、ガオイカルスなどの百獣の力を使用することができ、さらに両手が光って変わることが可能で、スピーアモード、ソード&シールド、ストライカー、ダブルナツクルモード、クロスホーンモードになれる。

通常はガオキングモードだが、ガオマツスルモードやガオイカルスモードに変身が可能。

魔法モード この姿ではリリカルなのはに登場をした、レイジングハート、バルディッシュなどが使用可能になるフォームで、姿は白くなる。デステイニーの姿が白くなり武器もレイジングハートたちを使用するみたいになっているのだ。

ほかにはレヴァティン、クロスミラージュなども変えることができるのであった。

この姿の時はティミがサポートをする。

#### カード紹介

「仮面ライダーデステイニー」 デステイニーに変身をするカード

「武器アイコン」 武器を出す

- 「フルバースト」 フルバーストモードへと変身をするカード
- 「ミラー」 ミラーモードへと変わるカード
- 「工事現場」 工事現場モードへ変えるカード
- 「エレメント」 エレメントモードへ変えるカード
- 「シャイニングダークネス」 シャイニングダークネスモードへ変えるカード
- 「必殺」 必殺技を発動させるカード
- 「分身」 自身を分身をするカード
- 「透明」 自身の姿を消すカード
- 「高速」 自身のスピードを上げるカード
- 「剛力」 自身のパワーをあげるカード
- 「ドラグーン」 ドラグーンを呼び出して バイクモードジェットモード 合体をしてドラグーンモードになる

## 動きだす 歯車

SONG基地

健介「……………」

ティニ「えつと……マスター？」

健介「いやーティニってかわいいなって」

ティニ「かわ……いいですか？」

ティニは赤くしているのであった

健介「ふーむ……本当にベルトだとは思えないからな」

クロト「何しているんだお前」

健介「クロトか なーにティミのことを調べていたんだよ」

クロト「そうか」

パラド（ク）「なあ健介!!俺と勝負をしてくれ!!」

健介「パラドと?」

パラド（ク）「いいだろ?」

健介（確かにデステイニの力を試すのもありか）「いいぜ!!」

パラド（ク）「よっしゃ!!早速やろうぜ!!」

健介「さーてティニ」

ティニ「わかつてますよ」

そういつて手に抱き付いたのだ

健介「え!?!」

ティニ「へっへーん」

そういいながら歩くのであった

シュミレーション室では フィスたちが戦いをしているのであつ

た

スナイプ「くらいなさい!!」

そういつてバンバンシュミレーションの砲撃で攻撃をしている

ブレイブ「おっと」

ブレイブはタドルファンタジーでよけている

健介「お疲れ」

2人「パパ!!（父上）」

フィス「お父さん どうしたの？」

フィルス「そうだな バディ」

健介「ああパラドと今から戦うんだよ」

そういつてお互いに変身をする準備をする

戒斗たちも見学しに来たのだ

戒斗「みせてもらうぞ 健介 お前の新しい力とやらを」

健介「それじゃあティミ」

ティミ「わかりました」

そういつてティミは光りだすと健介の腰にベルトが巻かれている

健介は左腰についているのを開いてカードを出す

ティミ「デステイニー COMPLETTE!!」

健介「変身!!」

パラド(ク)「変身」

「デュアルアップ!!ノックアウトファイター!!」

仮面ライダーデステイニーに仮面ライダーパラドクスになったの  
だ

パラドクス「さーていくぜ!!」

そういつてパラドクスは拳で攻撃をしてきた

デステイニー「は!!」

デステイニーも拳で攻撃をしていく

パラドクス「は!!」

パラドクスは炎を飛ばして攻撃をしてきた

デステイニー「おっと」

デステイニーは背中の中の翼を開いて ライフルで攻撃をする

パラドクス「ちい!!」

パラドクスはライフルの弾をかわしながら ゲーマードライバー

を付けて パーフェクトノックアウトになった

デステイニー「ああああああああああ!!」

デステイニーは接近をしてアロンダイトを展開して攻撃をする

パラドクス「おっと」

パラドクスはガシャコンパラブレイガンでそれを受け止めた

デステイニー「なら」

テイニ「スラツシユブレイカー」

剣を出して 二刀流で攻撃をする

パラドクス（ク）「く!!」

デステイニー「ああああああああああああああ!!」

そういつて吹き飛ばす

パラドクス（ク）「なら!!」

ガンモードにしてガシヤットギアデュアルを刺した

「パーフェクトクリティカルフィニッシュ!!」

そしてさらにメダルを自身に投入をしたのだ

「鋼鉄化 分身化!!」

するとパラドクスは分身をして 鋼鉄の弾を放ったのだ

デステイニー「!!」

デステイニーは必殺カードをテイニの前にかざす

テイニ「必殺!!デステイニーブレイク!!」

両手の剣が光って

デステイニー「は!!」

鋼鉄化した弾を切り裂いたのだ

デステイニー「なら」

テイニ「フォームカード!!エレメント!!」

するとデステイニーの色が赤くなっていく

デステイニー「は!!」

ばさり!!赤くなったデステイニー……

デステイニー「であ!!」

両手から炎の弾をだして攻撃をする

パラドクス「どあ!!」

さらに接近をして緑色になった

デステイニー「はああああああああああああああ!!」

接近をして風の蹴りを噛ましていく

パラドクス「ぐ!!」

パラドクスは攻撃の隙をついてデステイニーのボディを切った

が・・・

パラドクス「な!!」

するとパラドクスの体を巻き付いて 姿が現す デステイニーエ  
レメントウオーターになっていたので

デステイニー「サブミッシヨン!!」

そういつて関節技をかけていたのだ

パラドクス「いていて!!」

デステイニー「どりゃ!!」

そのままバツクドロップをかました

パラドクス「いつて!!」

そういつて立ちあがってパラブレイガンで撃ってきたのだ

デステイニー「どあ!!」

さすがにくらってしまったが 黄色になって岩を作って飛ばした  
のだ

パラドクス「ちい!!」

パラドクスは岩をくらってしまったのだ

デステイニー「さーて」

そういつてデステイニーはエレメントソードでエレメントパワー  
を注入している

デステイニー「は!!」

そういつて地面に刺して パラドクスの足を凍らせたのだ!!

パラドクス「な!!」

デステイニー「さて」

ティニ「必殺!!エレメントスラッシュ!!」

すると属性の色が集まって赤 青 黄 緑が集まって 刀身が光  
る

デステイニー「でああああああああああ!!」

そういつて攻撃をしたが・・・ぴたっと止めたのであった

パラドクス「降参だ ったく」

そういつてお互いに変身を解除をして テイミも人間に戻るの  
であった



愛「あれが……お父さんの……」

そういつて愛は走って

愛「お父さん!!」

健介「ん?」

愛「私と戦って!!」

健介「……お前とか?」

そういつて健介は考える……

健介「いいだろう フィルス遠慮をするなよ?」

フィルス「ああわかつているさ!!愛!!」

愛「うん!!」

健介「ティミ もう一回頼む」

ティミ「わかりましたマスター」

そういつてお互いにフィス デステイニーへと変身をした

一方で宇宙

「カナリアよ」

カナリア「ハイ主」

「どうだ?闇の力は」

カナリア「はい いい調子です」

「進行はどうなっている?」

カナリア「ええ奴らも邪魔をしてくましてなかなか」

「ふむ……ならば奴を出撃をさせるがいい」

カナリア「ですが……奴はAIが」

「この際 仕方があるまい……」

カナリア「わかりました 主」

一方で大火炎軍団は

セイレン「フェニックス どうやら面白いことになっているわね」

フェニックス「その通りですね 相田 健介……奴が元に戻り

新たな力を手にしたようです」

セイレン「そのようね……だが私たちは温存しておくの

よ……」

フェニックス「は!!その間に準備を終わらせておきます」

そういつてフェニックスは去るのであった

さてSONG基地では

祥平「フィスとデステイニーですか……」

戒斗「かつて健介が使っていたのと 今健介がつかっている  
力……」

ルノ「どちらが勝つのでしょうか？」

クロト「戦闘的には健介が勝つだろう……だが……フィルス  
もいるからな……これはどう転がるかわからないぞ」

そういつて全員が見ている

フィス「いくよお父さん!!」

ライオンクロウを展開をして 攻撃をしてきた

デステイニー「!!」

デステイニーは肩のフラッシュエッジを抜いて ビームサーベル  
にしてライオンクロウをはじいていく

フィス「はああああああああああああああ!!」

さらに蹴りを噛ましてくる

デステイニー「く!!」

デステイニーは左手についている盾で蹴りをふさぐ

さらにフィスは姿を変えた

フィルス「オクトパス!!」

フィス「チェンジ!!」

オクトパスランチャーを構えて砲撃をしてきた

デステイニー「く!!」

デステイニーはライフルで攻撃をして 砲撃の弾を撃破していく

デステイニー「なら!!」

テイニ「ミラーモード COMPLETE」

すると緑色のミラーモードになった

フィルス「気を付けたまえ 愛」

フィス「みたいだね」

そういつて砲撃をしていく

デステイニー「ミラーローリング!!」

そういつて連続した 光輪を投げてきた

フィス「ファイルス!!」

ファイルス「任せたまえ リフレクトデイフェンダー!!」

そういつてリフレクトデイフェンダーを起動させて 光輪をガードをしていく

フィス「なら!!」

ファイルス「必殺!!オクトパスバニツシュ!!」

そういつて砲撃をする

デステイニー「・・・げ」

するとタコが爆発をしたのだ

デステイニー「どああああああ!!」

デステイニーは光弾を受けるが

デステイニー「であ!!」

フィス「いた!!え?」

そう後ろに鏡が発生させて ミラーナイフを投げたのだ

フィス「いたたた・・・もうお父さんたら!!」

そういつてダツシュをしてデステイニーに接近をしていく

デステイニー「なら!!必殺技!!」

そういつてカードを出して

テイニ「必殺 ミラーデステイニーキック」

フィス「こつちも!!」

ファイルス「必殺!!オクトパスメテオストライク!!」

2人「はああああああああああああああ!!」

2人の蹴りが命中をしてお互いに力を押しをしていくが・・・

フィス「ぐ!!」

デステイニー「せいやああああああ!!」

フィス「きやああああああ!!」

わずかでデステイニーの勝利で終わったのであった

フィス「いたたた・・・やっぱりお父さん強い」

デステイニー「なーにまだまだ子供には負けないつもりさ」

そういつてお互いに変身を解除をして それぞれが部屋へ戻って

いく

その夜

健介「ちゅ……はむ」

調「うむ……ちゅぽ……はむ」

つと健介と調はキスをしていた……なにせずつと離れていたのもあつて……調はすぐに健介がいる部屋へ来て キスをしてきたのだ

調「ねえ……健介……私を今日は抱いてほしい……もう二度と離れたくないから……私を……壊すほどに……」

健介「いいだろう……俺もかなりの久しぶりだから……」  
そういつて二つの影は一つになったのであつた……

## 大火炎軍団と機械軍団

朝

調「・・・・・・・・・・・・・・・・」

私は起きた・・・・・・・・今の私は裸であつた・・・・・・・・ちらつと私は隣を見る

健介「すー・・・・・・・・」

私の愛する人が隣にいる・・・・・・・・夢じゃない・・・・・・・・本物の健介がここにいる・・・・・・・・

そしてお腹を私はさすつた

調「うふふふ」

つと笑っている

(ずいぶん幸せそうだな)

調(まあね・・・・・・・・了子さん)

了子(そのようね・・・・・・・・良かったわね・・・・・・・・全くあなたってこは調(ごめんなさい・・・・・・・・))

了子(まあ彼が無事だったからよかったじゃないの)

そういつていう了子さん・・・・・・・・

健介「ん・・・・・・・・」

調「おはよう 健介」

健介「おはよう 調」

調「昨日は激しかったわw」

健介「あ、はい」

そういつて私たちは起きて着替える

調「・・・・・・・・なんかまた胸 大きくなったような・・・・・・・・」

そういうながら私はブラジャーをつける・・・・・・・・だが

調「きつ・・・・・・・・」

Dになったのかな・・・・・・・・前まではAとかBだったのに・・・・・・・・いつ大きくなつたんだろう・・・・・・・・

そして健介は

健介「これが俺の子どもなんだな？」

クリス「ええ・・・名前は優子」

マリア「私たちの子どもは歌奈よ」

健介「そうか 優子と歌奈か・・・」

そういつて健介は見ている・・・

愛「お母さん なんか幸せそうだよ？」

調「そう？」

愛「うん!!前よりも明るくなった」

愛にまで言われるって・・・どれだけ私落ち込んでいたのかな・・・

心配をかけちゃったな・・・

調「ごめんね愛 心配をかけて」

愛「ううん大丈夫だよ」

剣「母上も」

真奈「ママも」

2人「げんきになってよかったね!!」

翼「あ・・・ああ」

切歌「あはははは・・・デース」

翼(ク)「しかし・・・私が子供を産んでるってのも・・・」

響(ク)「翼さん・・・それ私もそうなんですけど・・・」

戒斗「子どもか・・・」

翼(戒斗)(戒斗との子どもか・・・)

奏(戒斗)(一番に産みたいな・・・あたしは)

アルマ(あらーこの二人乙女の顔になっているしw)「そういえばこ

ちらの世界の翼」

翼「なんですか？」

アルマ「今は歌手はしてないのですか？」

翼「ああそのことですか・・・今は引退をしてますね・・・」

健介「ああ俺と結婚を発表をしてから 引退宣言をしてなw」

奏「んであたしやマリアも引退をしているんだよな」

マリア「そうね・・・」

翼(戒斗)「え？」

奏(戒斗)「まじかよ」

奏「ああ……年かもしれないが 昔みたいに長く歌えなくなっ  
ちまつてな……結婚を機に引退をしたんだよ」

祥平「なるほど……」

アーナス「なら納得ね」

パレード(祥平)「だな」

すると警報がなった!!

弦十郎「どうした!!」

「弦十郎総司令!!敵が現れました!!」

見ると

翼「あれは 大火炎軍団!!」

セレナ「まさか彼らが動くなんて」

さらに警報がなった

健介「今度は!!」

「さらに機械軍団が現れました!!」

弦十郎「一気に二つの軍団が動くとは……」

健介「愛!!お前たちは大火炎軍団の方へ向かってくれ 俺は機械軍

団の方へ行く」

クロト「なら俺や戒斗はお前と一緒に行くとするか」

戒斗「そうだな」

クリス「待ちな」

マリア「私たちも戦うわ」

全員「!!」

響「クリスちゃん!」

セレナ「姉さん!」

クリス「丁度なまっているからな……復帰相手にはふさわしいぜ」

マリア「そうね……いいでしょ?健介」

健介「わかった 祥平たちは愛の方へついてくれ」

祥平「わかりました」

そういつて二手に別れるのであった

愛side

私たちは出てきた大火炎軍団太刀を倒すためにライオトレインに

のって向かっています

来ているのは私 真奈 剣 紗代 花菜 茜 調お母さん 切歌  
お母さん 翼お母さん 響お母さん セレナお母さん 奏お母さん  
祥平さんにアーナスさんにパラドさん ルノさんだ

目的の場所へついた私たちは変身をした

エグゼイドゼロ「いた!!」

火炎魔人「げ!!仮面ライダー!!」

フィス「あんたは 火炎魔人!!」

ブレイブ「前は逃がしてしまっただが……」

スナイプ「今度は逃がさないよ!!」

そういつて武器を構えていると

「は!!」

上から火炎弾が飛んできた

ビルド「は!!」

「ボルティックブレイク!!」

そういつてガンモードにしてガトリングのボトルをセットをして  
放ったのだ

フェニックス「仮面ライダーにシンフォギアが集まってくるとは  
ね……」

翼「お前たちが何を考えているか知らないが……これ以上の行  
動を見過ごすわけにはいかない!!」

フェニックス「なるほど 見たことがないライダーもいるね……  
まあ相手に不足はない!!やれ!!戦闘員たち」

「ぐおおおおおおおおお!!」

そういつてフェニックスが投げた炎から戦闘員たちが出てきたの  
だ

ゴースト「戦闘員たちが現れました!!」

デイケイド「なら相手をするだけだ」

フォーゼ「やるわよ!!」

ルノ「いきます!!」

そういつて全員が武器を構えるのであつた



フェイス「ファイルス 行こう!!」

ファイルス「そうだな愛!!行こう!!」

そういつて私たちは戦闘を始めるのであった

健介 side

俺たちはクロトとその奏者 戒斗とアルマと奏者 クリス マリアというメンバーだ 優子と歌奈はエルフナインとキャロルと母に預けてきた

クリス「久しぶりにいけるな アイビス」

アイビス「ええ問題ないわ クリス」

マリア「私たちもいけるわね イビルス」

イビルス「ああいけるぜ!!」

そういつて話しているのは クリスのサポートシステム アイビス マリアのサポートシステムのイビルスだ

そして目的の場所へ到着をした俺たち

クリス「いくぜ!!じゃなかつたいきます!!Killiter I c  
h a i v a l t r o n」

マリア「Seilien coffin air get—lam h  
t r o n」

そういつて2人はイチイバル アガートラームを装着をして

2人「合体!!」

そういつてアイビス イビルスは分離合体をした

アイビスは分離をしてクリスの腕部 脚部 さらに胸部 背中に合体して キャノン砲が装着された

マリアの方も合体をして翼が発生をしたのであった

健介「テイミ 俺たちも行くとするか」

テイミ「はいマスター」

クロト「なら俺も」

バロン「なら俺は今日はこっちなだ」

そういつて全員がドライバを構える

テイミ「仮面ライダーデステイニー インプット」

「マイティアクションX」

「タドルクエスト」

「パーフェクトパズル」

四人「変身!!」

仮面ライダーデステイニー デステイニーモード

仮面ライダーエグゼイド アクシヨンゲーマーレベル2

仮面ライダーバロン クエストゲーマーレベル2

仮面ライダーパラドクス パズルゲーマー50になった 奏者た

ちもそれぞれのアマノハバキリ ガングニール

そしてシンフォギアライダーになったのだ

デステイニー「でああああああああああ!!」

ダークフェイス「!!」

ダークフェイスにアロンドイトをふるったが交わされる

ダークフェイス「仮面ライダーの皆さんですか・・・」

クリス「なるほどてめえが健介の闇をとった奴か」

そういつてクリスは背中の中のキャノン砲を構える

ダークフェイス「これは・・・イチバルの雪音 クリスさんにア

ガートラームのマリア・カデンツァヴナ・イヴさん・・・なるほど復

帰をしたってことですか・・・」

そういつてダークフェイスは機械軍団を差し向ける

クリス「上等だ!!」

そういつてギアを構える

マリア「いくわよ!!」

そういつてマリアも短剣を抜いて戦う準備をする

エグゼイド「いくぜ!!」

「ガシヤコンブレイカー!!」

バロン「これより機械兵団を撃退をする!!」

パラドクス「さあお前らは俺の心をたぎらせてくれるか？」

デステイニー「さーてん？」

するとカードが光りだした 3枚ほど

デステイニー「これは」

そこにはフォームカードでシンフォギア 百獣 魔法と書かれて

いるのが書いてあった

デステイニー「……………ならまずは!!」

ティミ「百獣モード インプット」

そういつて姿が変わったのだ

デステイニー百獣モードになった その姿はガオキングみたいになっ  
ているが 顔はデステイニーのままであった 翼は消えて右手

は鯨 左はホワイトタイガーになっている

脚部はバイソンになったいるのであった

デステイニー「さていくぞ!!」

## 吠える動物　ダークチエンジ

火炎魔人「くらえ!! 大火炎!!」

火炎魔人はエグゼイドゼロたちに火炎をぶつけてきた

パラドクス（祥平）「祥平!!」

エグゼイドゼロ「わかってる!!」

そういつてパラドクスは反射のメダル　エグゼイドゼロはゼロ

デیفエンダーを使ってガードをした

ルミナスはフラァミリアになって

ルミナス「であああああああああああ!!」

戦闘員たちを切っていく

ブレイブ「第三剣術」

「ドレミファビート」

スナイプ「第三シューティング」

「ジェットコンバット」

レベルアップをして戦う　ブレイブとスナイプ

スナイプ「剣　援護をするよ!!」

ブレイブ「ああ!!」

そういつてブレイブはガシャコンソードをリズムよく切っていく

スナイプ「そーれ!! ミサイル発射!!」

そういつてミサイルを放ったのだ

ゴースト「く!!」

グリム「ここは俺を使って!!」

ゴースト「わかった!!」

「開眼!! グリム　心のドア! 開く童話!!」

仮面ライダーゴースト　グリム魂になった

ゴースト「それ!!」

そういつて左手に本みたいのを出して　戦闘員たちに対してペン

みたいのをだして攻撃をする

フォーゼ「はああああああああああああああ!!」

「ホイールON」

そういつて左足にホイールモジュールが現れて 移動をして体当たりをする

フォーゼ「さらに!!」

「フラッシュON」

そういつて光らせて 目をくらましたのだ

デイケイド「まずはこれだ」

「カメンライド クウガ!!」

デイケイドクウガになって 蹴りを噛ましていく

デイケイドクウガ「ああああああああああああ!!」

さらに連続した拳で敵を吹き飛ばしていく

フィス「はああああああああああああああ!!」

ビルド「は!!」

フェニックス「おっと」

フェニックスは二人の剣を自慢の大剣で受け止める

フィス「ファイルス!!」

ファイルス「ああ!!クロコダイル!!」

フィス「チェンジ!!」

ファイルス「クロコダイルモード!!」

そして姿が変わり 武器アイコンを押す

フェニックス「であ!!」

ファイルス「クロコダイルヘッド」

そういつて右手にクロコダイルヘッドがつき 大剣を受け止めた

のだ

ビルド「ビルドアップ!!」

姿がキードラゴンに変わり左手のキーで切りかかる

フェニックス「ぐ!!」

フィス「であ!!」

そして剣を離してクロコダイルヘッドでフェニックスのボディに

当てる

フェニックス「どあ!!」

ブレイブ「は!!」

「タドルファンタジー!!」

そういつてブレイブはガシャコンソードで火炎魔人を切る

「バンバンシューミレーション」

スナイプ「それ!!」

スナイプは砲撃で 火炎魔人にダメージを与える

「俺がブースト 皆でゴースト!!」

ゴースト「であああああああああ!!」

「NSマグネット ON」

フォーゼ「は!!」

ゴーストは闘魂魂になってサンングラススラッシュャーブラスターモード フォーゼはマグネットステイツになってマグネットキャノンで攻撃をした

火炎魔人「ぐおおおお・・・・・・」

「カメンライドドライブ!!アタックライド ハンドル剣 ドア銃!!」

ディケイドドライブ「であああああああああ!!」

ドア銃を撃ちながら接近をしてハンドル剣で火炎魔人を切る

火炎魔人「ぐ・・・・・・」

翼「だああああああああ!!」

翼の剣が火炎魔人の胴体を貫く

奏「とどめは任せろ!!」

そういつて槍が変形をして砲撃モードになって

奏「いつけーーーーー!!」

砲撃が飛び

火炎魔人「フェニックス様ーーーーー!!」

フェニックス「火炎魔人!!」

ルノ「えい!!」

ルミナス「であああああああああ!!」

フェニックス「ぐあ!!」

エグゼイドゼロ「であああああああ!!」

パラドクス（祥平）「はああああああああ!!」

2人の蹴りが命中をしてフェニックスは吹き飛ぶ

フェニックス「ぐ……まさかここまで追い込まれるなんて」  
ファイルス「愛 エレメントアタッチメントだ」

フィス「わかった!!」

そういつてファイルスを外して右腰にエレメントアタッチメントを装着をした

ファイルス「エレメントスタイル!!」

姿が変わり エレメントスタイルにかわる

フェニックス「であああああああああ!!」

フェニックスは大剣で攻撃をする

フィス「は!!」

フィスはかわして 右手にカメレオンレイピア 左手にエレファ

ントシールドが装備された

フィス「は!!」

エレファントシールドでガードをして カメレオンレイピアで攻撃をする

フェニックス「ぐ!!」

フィス「は!!」

イーグルライフルで攻撃をする

フェニックス「であ!!」

フェニックスは火炎の弾を飛ばす

フィス「は!!」

フィスは水のバリアーを発生をして 火炎の弾をふさいだ

フィス「はああああああああああああああ!!」

さらに接近をして風の蹴りをかまして 炎のパンチをフェニックスを殴る

フェニックス「ぐうううううううう」

フェニックスは攻撃をする

フィス「は!!」

堅い土をだしてガードをする

エグゼイドゼロ「は!!」

ゼロスラッガーを飛ばして フェニックスを傷つけていく

フェニックス「…………ぐ…………ま…………まさか…………僕  
が」

フェイス「これでとどめです!!」

ファイルス「必殺!!エレメントストライク!!」

フェイス「はあああ…………とう!!」

そういつてフェイスは上空へとび

フェイス「であああああああああ!!」

四つのエレメントの力を集結させた蹴りをフェニックスにむかっ

て放つ

「ふん!!」

フェイス「きやああああああ!!」

だがそれを邪魔をしてさらにフェイスをダメージを与えたものが現れたのだ

フェニックス「武者…………どうして」

武者「…………フェニックス殿申し訳ない…………だが拙者の夜叉丸  
たちを倒した仮面ライダーたちとは戦ってみたくての」

フェイス「あなたは」

武者「拙者は武者軍団の頭領 武者…………怒涛丸!!」

怒涛丸「は!!御屋形様」

武者「思う存分に戦うがいい!!」

怒涛丸「ありがとうございます」

そういつて武者たちは消える

ブレイブ「なんだこいつ」

怒涛丸「我こそは怒涛丸!!さあいざ勝負!!」

一方で健介たちの方は

エグゼイド「雑魚は任せろ」

バロン「お前はダークフェイスを」

デステイニー「ありがとうな!!」

エグゼイド「いくぞ!!」

バロン「ああ!!」

「ガシャコンブレイカー!!」



「ガシヤコンソード」

そういつて2人は機械兵団に攻撃をする

アルマ「は!!」

アルマはガンガンセイバーガンモードとバットクロックライフルモードにして二丁にして撃つ

翼ズ「はああああああああああ!!」

2人の翼はアームドギアで次々に切っていく

響「せい!!でああああああああああ!!」

さらに響の拳

奏「どりゃああああああああ!!」

奏の槍が次々に刺していく

クリス「いくぜ!!アイビス!!」

アイビス（いつでもいいですよ!!）

クリスはギアを変えて ガトリング キヤノン ミサイルを放つ

た 一斉射撃であった

マリア「だああああああああ!!」

マリアは右手の変形をしたイビルのソードで切りつけていく

エグゼイド「はああああああああああ!!」

さらに切っていく ゲキトツロボッツを起動させて ロボッツア

クションゲーマーレベル3になって 殴っていく

パラドクス「はああああああああ!!」

ノックアウトファイターになって次々にKOしていく

バロン「はああああああああ!!」

バロンは次々にガシヤコンソードで切っていく

デステイニー「シャークショット!!」

そういつて右手の拳でダークフェイスに当てていく

デステイニー「タイガーアタック!!」

左手で殴る

ダークフェイス「く・・・」

デステイニー「でああああああ!!」

さらに上空へとび バyson連続キックをお見舞いさせる

ティニ「クロスホーン!!」

そういつて左手がクロスホーンになり　ダークフィスをつかんで  
投げ飛ばす

ダークフィス「やりますね・・・・・・であ!!」

ダークフィスはダークライオソードから斬撃刃を飛ばした

デステイニー「なら」

ティニ「リフレクト」

そういつてバリアーをはり　ガードをした

ティニ「マツスルモード」

そういつてマツスルアンカーを出して絡ませる

デステイニー「であああああああああ!!」

ダークフィス「ぐ!!」

デステイニー「さあ覚悟をしろ!!」

ダークフィス「うふふふ」

デステイニー「何がおかしい」

ダークフィス「お忘れですか?このダークフィスはあなたのフィス  
をもちーふにしていることを」

デステイニー「まさか!!」

ダークフィス「その通りですよ　チェンジ」

「ダークイーグルモード」

すると変わり　ダークイーグルモードになったのだ

デステイニー「!!」

ティニ「気をつけください　マスター」

ダークフィス「は!!」

ダークフィスは上空から　ダークイーグルライフルで攻撃をする

デステイニー「ぐ!!」

「ゲキトツクリティカルストライク!!」

エグゼイド「であ!!」

ゲキトツスマツシャーを飛ばす

ダークフィス「甘いですよ」

そういつてかわしたが

バロン「せい!!」

ダークフェイス「ぐ!!チエンジ」

「ダークビートルモード」

ダークフェイス「ダークサンダー!!」

バロン「ぐああああああ!!」

デステイニー「なら!!」

テイニ「……………魔法モード!!」

そういつて姿が変わり 魔法モードになった

テイニ「なつちやつた……………マスターが」

デステイニー「テイニ?」

テイニ「マスター私がサポートをします!!」

デステイニー「あ……………」

そういつて持つている杖から 光弾を出す

ダークフェイス「ぐ!!」

ダークフェイスはダークビートルアックスを持ち 光弾をふさいで  
いく

デステイニー「であああああああ!!」

デバイスが変わり バルディッシュになり サイスモードにして

切りかかる

ダークフェイス「は!!」

デステイニー「ぐ!!」

さらに変えて クロスミラーージュにして

デステイニー「であ!!」

光弾が飛ぶ

ダークフェイス「ぐ!!」

エグゼイド「こつちもいるのを忘れるな!!」

「マイティマイティブラザーズ ダブルエックス!!」

パラド「そういうこつた!!」

そういつて エグゼイド Rが攻撃をする

エグゼイド「こつちもいるんだよ!!」

そういつて エグゼイドLが攻撃をした

ダークフェイス「ぐ!!」

デステイニー「ああああああああああ!!」

そういつて必殺のカードをインプットさせる

テイニ「クロスファイアー!!」

デステイニー「あああああ!!」

砲撃をした

ダークフェイス「ぐ!!」

ダークフェイスはそれを受けて下がる

バロン「やったのか?」

エグゼイド「いやまだのようだ」

アルマ「戒斗!!」

そういつてアルマたちも来たのだ

ダークフェイス「なるほど これはあなたたちの戦闘が上がっている

と計算をしておきましょう」

そういつて消えるのであった

デステイニー「まで!!」

ダークフェイスは逃げたのであった

デステイニー「・・・・・・・・・・テイニ」

テイニ「はい・・・・・・・・・・」

デステイニー「何か隠してないか?」

テイニ「え・・・・・・・・・・」

デステイニー「お前は魔法モードを使うときだけ反応が違っている

た・・・・・・・・そうだろう」

テイニ「・・・・・・・・・・」

デステイニー「今は話せないってことか・・・・・・・・・・」

テイニ「・・・・・・・・・・」

エグゼイド「不思議なベルトだな」

デステイニー「まあな・・・・・・・・」

そういつてデステイニーたちはまだフェイスたちが戦闘をしている

ので向かうのであった

怒涛丸「ふん!!」

デイケイド「あう!!」

ビルド「は!!」

怒涛丸「ぬお!!」

フィス「は!!」

エレメントバスターを放った

怒涛丸「ふん!!」

怒涛丸は剣でエレメントバスターが放った弾をはじいていくのだ  
ビルド「くらいなさい!!」

海賊ハッシャーを使つて 射撃攻撃をする

スナイプ「それ!!」

砲撃をする

怒涛丸「ぐお!!」

ブレイブ「でああああ!!」

ゴースト「はああああああああああああ!!」

デイケイド「であ!!」

怒涛丸「ぐおおおおおおおおおお!!」

フォーゼ「それ!!」

「エアロON!!」

そういつて風で強風で吹き飛ばす

怒涛丸「ぐああああああ!!」

ビルド「今よ!!」

フィス「ファイルス!!」

ファイルス「ああ!!決めよう!!バインド!!」

そういつて動きを止めた

怒涛丸「動けない!!」

ファイルス「必殺!!エレメントストライク!!」

フィス「はああ．．．．．とう!!であああ!!」

フィスのエレメントストライクが命中をした

怒涛丸「ぐおおお．．．．．」

怒涛丸は吹き飛ばされるが

怒涛丸「まだだ．．．．．」

全員「!!」

デステイニー「愛!!」

デステイニーたちも駆けつける

怒涛丸「まだ．．．．．御屋形様のためにも．．．．．」

そういつて剣を抜いて構えるが．．．．．

怒涛丸「ぐああああ．．．．．」

そのまま前のめりに倒れて爆発をしたのであった

デステイニー「．．．．．なんて奴だ」

エグゼイド「ああ．．．．．」

帰還をした

フエニツクス「悪いな武者」

武者「．．．．．」

すると武者は巻物を出して

武者「怒涛丸．．．．．ご苦労であった．．．．．」

フエニツクス「すまん」

武者「気にしないでほしいでござる．．．怒涛丸は自ら殿を務めた

でござる．．．．．」

そういつて武者は言うのであった

帰還した健介はテイニと話をしている

健介「テイニ．．．．．君は本当は何者なんだ？」

テイニ「．．．．．」

健介「．．．．．」

テイニ「私はこことは違う世界の．．．住民なんです．．．私

は高町なのは．．．それが私の本当の名前なんです」

健介「高町なのは．．．．．」

## ティニの秘密　そして現れた女性たち

SONG 司令室

今　全員が司令室に集まっていた．．．．．そう一人の女性を見て

弦十郎「ではティニ君．．．いやなのはくん」

なのは「はい．．．．．」

弦十郎「君はこの世界とは違う場所から来たってことでいいのかね」

なのは「その通りです」

クロト「だがどうして君は」

なのは「．．．．．私たちの世界は滅ぼされてしまいました．．．．．」  
全員「!!」

なのは「．．．突然現れた　謎の敵．．．私たちは戦いました．．．．．でも奴らの猛攻を食い止めることができませんでした．．．．．」

健介「．．．．．」

なのは「私たちは最後の賭けで　このデステイニードライバーへと転送をしたのです．．．．．」

祥平「そうだったんですか．．．．．」

健介「なるほど．．．あの時感じた力は君以外の人物だったのか」  
なのは「え？」

健介「装着をしたとき　色んな人の力を感じたのでね．．．納得をしたよ」

調「そうだったんだ．．．．．」

ファイルス（やはり彼女が健介を見ていたのは．．．．．）  
つとファイルスは機械に汗を流している

「なのはちゃん!!そろそろ私たちも出してな!!」  
「そうだよ　なのは!!」

なのは「あ．．．あのマスター」

健介「なんだ？」

なのは「えっと　その出してもらえますか？」

健介「俺が出すのか」

なのは「はい」

健介はデステイニードライバーを持ち

なのは「左側のボタンを」

そういつて押すと 光が二つ現れた

「ふいー久々の外や」

「そうだね」

翼「あの・・・あなたたちは」

「あー自己紹介がまだやったな うちが八神 はやてや」

「私はフェイト T ハラオウンです」

はやて「なるほど マスターってことやな」

フェイト「みたいだね」

2人は健介を見るのであった

健介「えつと？」

はやて「なるほどな・・・」

つとはやてはニヤニヤしているのであった

祥平「えつと話を戻しますよ」

三人「あ はい」

切歌「つてことはその中にずっといたのデース？」

はやて「そうやな うちの世界は滅んでしまったからね」

フェイト「そうだね・・・私たちがこの中へ逃がすために・・・」

健介「一応 確認をするが その中にはあとどれくらいいるんだ

？」

はやて「えつとうちやろ フェイトちゃん なのはちゃん シグナ

ム ヴィータ シヤマル ザフィーラ スバル ギンガ エリオ

キヤロ ティアナかな」

健介「ずいぶん この中にいるんだな デステイニードライバー」

「そうなんですよ!!」

全員「？」

翼「今の声は」

剣「どこから聞こえたんでしょうか？」



「あーここです」

響（ク）「どこですか？」

「えっとですね 弦十郎さんの肩を見てください」

弦十郎「どあ!!」

弦十郎もびつくりをしているのであった

戒斗「いつのまに」

ルノ「かわいいです!!」

「始めまして マスター 私はリインといいます」

健介「これはご丁寧に 相田 健介だ」

茜「しかし お父さんのベルトの中にいたのですね．．．かなり  
の人物が」

なのは「そうだね．．．普段は私がメインですけど」

フェイト「これで私たちも声を出したり出ることができるとこと  
だね」

はやて「長かったなー」

健介「ふむ．．．．．」

そういつて光になって戻るのであった

健介「やれやれ うるさくなりそうだな．．．．．」

そう思う健介であった  
すると警報がなった!!

戒斗「今度は解決をしたと思ったら 警報がなるな」

クロト「しかし 奴らの計画がわからないばかりだからな」

愛「はい 私もそう思います まるで何かをたくらんでいるってわ  
けでもなく．．．．．」

祥平「ふむ．．．．．」

アーナス「相手は何かをしようとしている．．．のかな」

健介「いずれにしても現れたのなら戦うしかあるまい」  
そういつて出動をしたのであった

そこには機械兵団の機械たちが暴れていたのだ

今回は愛 クロト 戒斗 剣 真奈 健介が出動をしている  
ほかのみんなは待機をしている その理由は もし敵が現れた際

に対処をできるようにするために

愛「あれですね!!」

戒斗「健介」

健介「なんだ？」

クロト「こいつらでやらしてみないか？」

健介「愛たちに？」

戒斗「そうだ」

健介「・・・愛 真奈 剣」

三人「はい」

健介「今回はお前たち三人でやってみるかい？俺たちは変身はするけど 手を出さない」

愛「わかった!!」

剣「みせてあげますよ」

真奈「うん!!」

そういつて三人はフィス ブレイブ スナイプに変身をした  
フィス「さあ覚悟をしなさい!!」

ブレイブ「これより機械軍団へ攻撃をする」

スナイプ「さーて狙い撃つわよ!!」

そういつて三人は攻撃を開始をしたのであった

デステイニー「・・・」

フェイト（心配ですか？マスター）

デステイニー「まあな・・・」

フェイト（その・・・ごめんなさい・・・）

デステイニー「どうして謝るんだ？」

フェイト（実は見たんです・・・あなたの記憶を・・・全員が）

デステイニー「あー別に気にしてないよ」

ゲナム「しかし しゃべるベルトか・・・」

デステイニー「いやフィスは確かに喋るが・・・あれは」

バロン「見ないでいいのか？」

デステイニー「ああ・・・あの子たちを信じているからな  
王手」

バロン「……な!!」

フィス「てい!!」

フィスはライオソードで切りつけていき

フィルス「シャーーク!!」

フィス「チエンジ!!」

フィルス「シャークモード!!」

フィス「一気に決めるよ!!」

ブレイブ「ああ!!」

スナイプ「もちろん!!」

「ガシャットキメワザ!!タドル(バンバン)クリティカルフィニッシュ!!」

フィルス「必殺!!シャークスプラッシュ!!」

三人「は!!」

三人の攻撃が飛び 機械兵団のロボットたちは破壊されたのであつた

だがダークフィスはそれを上から見ているのであつた

ダークフィス「うふふふ……」

そう笑いながらだ……映っているのは フィス以外にもクロトが変身をした 仮面ライダークロノスや祥平が変身をした エグゼイド 戒斗が変身をしたオーバーバロンやルノのワイバーンなどが写っている……

そう彼女が持っているのは各世界で手に入れたデータなのだ

あの機械軍団は囷として使われたのだ

ダークフィス「集まってきたわね……でもまだまだ足りない……」  
そういうしながらダークフィスは撤退をしたのであつた

デステイニー「……おかしい」

クロト「確かにな……」

フィス「お父さん!!」

デステイニー「よくやったな……愛たち」

三人「はい!!」

そして戻る途中で健介は考えるのであつた

「健介（やつらの目的って……俺たちのデータを……何か  
に使うつもりか……）」

「そういつて健介は考えるのであった」

その夜

切歌「健介……今日は私が相手をしますね」

健介「切歌……」

切歌「これは全員で決めたことですよ……離れていたからね……  
今日は私を壊すほどに私を……」

「そういつて健介と切歌は一つのベットに入つて」

「これがかカナリアよ」

カナリア「はい……奴らの戦闘データを元に作りだした 機械」

001です」

「ふむ……」

カナリア「ですがまだ足りてませんね だからこそまだまだ」

「お前に任せる」

カナリア「は!!」

現れた 武者 ゲンム グレードビリオン

ここはセイレンの基地

武者「……………」

武者軍団頭領 武者は今習字をしている

「御屋形様!!」

武者「これは 五王丸どうしました」

五王丸「は……御屋形様出撃の許可をいただくて参上つかまりました」

武者「出撃ですか……………ふむ」

そういつて考える

「あらー御屋形様 出撃ですか?」

武者「む……アヤマルか」

五王丸「アヤマル 何のようだ!!」

アヤマル「なにつてあんたが御屋形様に出撃をしようとしているんだろ? だつたらあたしもついでいこうかなつて」

五王丸「ふむ……………」

武者「いいでしょう アヤマル あなたも出撃をなさい」

アヤマル「は 御屋形様」

そういつて2人は出動をしたのであつた

一方で基地では

フィス「はああああああああああああああ!!」

デステイニー「は!!」

フィスとデステイニーがぶつかっている そう今は訓練を行っているのだ

フィスは今ドラゴンモードで デステイニーは魔法モードで対抗をしている

デステイニー「アクセルシューター!!」

そういつて光弾を飛ばして 攻撃をする

フィス「ドラゴンソード!!」

そういつて剣でアクセルシューターを切り裂いたのだ

ファイルス「愛!!左からだ!!」

ファイルス「!!」

ファイルスはすぐにドラゴンシールドでふさいだのだ

デステイニー「ほーう……」

そういつてバルディッシュ ザンパーモードを受け止めたのだ

フェイト（やるわね……）

デステイニー「俺の娘だからな」

そういつて攻撃をかわしているのであった

ファイルス「当たらなかつた」

ドラゴン「まああいつが相手だしな」

そういつてドラゴンは戻る

デステイニー「さてこれで決める!!スターライト」

つと攻撃をしようとしたときに警報がなつたのだ

2人「!!」

全員がすでに司令室に集まっていた

そこでは 大火炎軍団の戦闘員たちが街で暴れているのであった

クロト「奴らめ……どれだけの人々の平和を壊すつもりだ!!」

そういつて全員で出動をしたのであった

五王丸「アヤマル どうやら奴らが来たようだな」

アヤマル「そのようね」

そういつて2人は構えているのであった

ゲンム「貴様たちが」

デステイニー「む!!」

バロン「どうした健介」

デステイニー「まだ避難が終わってない人たちがいる……だが

この姿では」

するとカードが一枚出てきたのだ

デステイニー「なるほど」

そういつてデステイニードライバーの前にかざすと

「レスキューモード インプット」

すると装甲が現れて デステイニーの色も変わる さらに背中に

ウイングが装着されたのであった。さらにビークルの幻影が現れて合体

デステイニー レスキューモードへと変身をしたのであった

エグゼイドゼロ「変わった………」

デステイニー「さてまずは」

そういつて背中の中のウイングが回転をして デステイニーは空を飛び 両手から 冷却断が放たれた。すると炎が消えていくのであった

デステイニー「もう大丈夫だ」

そういつてデステイニーは避難できなかつたひとたちを救出をしている

エグゼイドゼロ「であ!!」

外ではフィスたちが戦闘をしている

ゲムム「なら」

ゲムムはシャカリキスポーツを装着をした。それはプロトガシャツであった

そしてプロトスポーツゲーマーを装着をして 車輪を投げて 戦闘員たちを吹き飛ばす

バロン「ならこれだ」

「キウイアームズ!!」  
そういつてキウイ撃輪を装備して バロンは攻撃をするのであった

エグゼイドゼロ「ワイドゼロショット!!」

そういつて光線が放たれて戦闘員たちを吹き飛ばす  
ブレイブ「でああああ!!」

デイケイド「甘い」

そういつて戦士たちは次々に戦闘員たちを倒していく  
五王丸「次は拙者たちが相手だ!!」

アヤマル「うふふふふ」

ゲムム「ここは俺がやろう」

そういつてガシャツを出した

「ゴットマキシマムマイティX」

すると上空から エグゼイド マキシマムゲームマーの色がゲンム色のが出てきたのだ

ゲンム「グレードビリオン・・・変身!!」

そういつてゴッドマキシマムゲームマーを装着をしたのだ

五王丸「そんな鎧を装着をしたことで!!」

そういつて槍で攻撃をするが

ゲンム「ふん」

ゲンムはそれもビクともせず 槍を叩き折ったのだ

五王丸「ぬお!!」

アヤマル「はああああああああああああああああ!!」

バロン「させん!!」

そういつてロードバロンロックシードで アームズを装着をしたのであった

バロン「ふん!!」

そういつてヘルヘイムのツタを操ってアヤマルをしばって投げ飛ばす

アヤマル「きゃああああああ!!」

エグゼイドゼロ「ならおれも!!」

「マキシマムモード!!」

そういつてマキシマムゲームマーを装着をしたのであった

フェイスたちは戦闘員たちを相手に戦っていると

デステイニー「よいしょ」

避難活動を終えた デステイニーが到着をしたのであった

デステイニー「さーてこれでもくらいな!!ウォーターキャノン!!」

そういつて強力な放水が放たれて 二人を吹き飛ばすのであった

2人「どああああああ!!」

アヤマル「ここは撤退よ!!」

そういつ 撤退をしたのであった

フェイス「お父さん!!」

そこにフェイスたちも駆けつけた



フォーゼ「ありや敵は」

デステイニー「もう撤退をしたよ」

そういつて全員が解除をしたのであった

さて宇宙にある 基地

カナリア「もう少しで完成です」

「そうか．．．ならば急ぐがいい」

カナリア「は!!」

## 機械兵団 兵器登場!!

カナリア「マスター……完成をしました」

「完成をしたのか……」

カナリア「はい ですが……」

するとダークフェイスに変身をしたのだ

「な!!」

カナリア「あなたが邪魔です さようなら」

そういつてダークフェイスガンを抜いて 殺したのであった

ダークフェイス「あなたは最初から邪魔な存在だった……ですが

あなたに復讐をする私の目的は達成をしました……お母さんを殺した お父さん……」

そういつて彼女はある機械の場所へ行くのであった

ダークフェイス「うふふふふ」

そして起動スイッチを押したのだ

ダークフェイス「目覚めなさい……ダークキラー」

するとその機械は起動をしたのであった

さて地上 SONG基地

ファイルス「ふーむ」

愛「どうしたの ファイルス」

ファイルス「いや少し調べ物をしていたんだよ」

愛「調べ物？」

クロト「そうだ ダークフェイスがやっていることについてのな」

健介「奴がやりそうなことね……」

祥平「まさか僕たちの戦闘データとか？」

戒斗「可能性はあるだろう……奴は俺たちのことを知っている  
ようだったからな……」

ルノ「怖いですね……」

剣「もしそうでしたら……」

真奈「うん私たちがやばくない？」

すると警報がなったのだ

全員「!!」

モニターが開くと　ダークフェイスともう一体何かがいるのだ  
クロト「なんだあの黒いのは」

健介「いずれにしても奴らが動いたんだ　俺たちも行こう!!」

そういつて全員で出動をしたのであつた

現場へついた戦士たちは変身をして　到着をした

ダークフェイス「待っていましたよ　仮面ライダーたち」

ルノ「なんですかそれは!!」

ダークフェイス「ついに完成をしたのですよ　あなたたちの戦闘デー  
タが入っている　名前はダークキラー」

ゲンム「ダークキラーだと」

ダークフェイス「さあダークキラーあなたの力を見せてあげなさい  
!!」

ダークキラー「イエス」

そういつてダークキラーは地上へ降りてきたのだ

エグゼイドゼロ「なら俺からだ!!」

そういつてエグゼイドゼロはエメリウムスラッシュを放つたのだ

ダークキラー「・・・・・・・・・・・・・・・・」

だがダークキラーのボディにエメリウムスラッシュは効かなかつ  
たのだ

エグゼイドゼロ「な!!」

ゲンム「はああああああああああああああああ!!」

バロン「でああああああああああ!!」

さらにゲンム　バロンが武器で攻撃をしていく

ダークキラー「・・・・・・・・・・・・・・・・」

2人「!!」

ダークキラーはなんと腕でつかんだのだ

その武器を持ったまま振り回したのであつた

2人「が!!」

スナイプ「この!!」

スナイプはガシヤコンマグナム

ゴースト「は!!」

ゴーストはガンガンセイバーガンモードで攻撃をする

ダークキラーはそれを受けても前進をしていく

ブレイブ「はああああああああああああああああ!!」

デイケイド「ああああああああああああ!!」

二人も攻撃をしていく

フィス「であ!!」

さらにフィスもライオンソードで攻撃をしたが

ダークキラー「・・・・・・・・・・」

ダークキラーはその攻撃を受けてもビクともしてないのだ

デステイニー「であああああああああ!!」

デステイニーは接近をして切りかかるが それを受けてもダーク

キラーはデステイニーを攻撃をしたのだ

ダークキラー「・・・・・・・・・・」

デステイニー「!!」

ダークキラーはさらにデステイニーをつかんで投げ飛ばしたのだ

デステイニー「が!!」

デステイニーは壁にめり込むのであった

ゲナム「ちい!!」

「シャカリキスポーツ」

バロン「は!!」

「マンガーアームズ!!」

そういつて二人もフォームチェンジをして攻撃をする

ダークキラー「・・・・・・・・・・」

ブレイブ「はああああああああああああ!!」

「ブレイブ!!」

スナイプ「くらいなさい!!」

「スナイプ!!」

ドラゴナイトハンターZを起動させて ブレード ガンを装着を

して攻撃をする二人

ダークキラー「ダークサンダー」

すると全体に黒い雷を落としてきたのだ

全員「ぐあああああああ!!」

フィス「なんて力なの」

ダークフィス「言ったでしょ? あんたたちのデータを入れたのよ  
それがどういう意味かわかるかしら?」

エグゼイドゼロ「だとしても!!」

ゼロツインソードを構える

エグゼイドゼロ「俺たちはこんな奴に負けるわけない!!」

ゲナム「そうだな・・・」

「ゴッドマキシマムマイティX!!」

ゲナム「データが入ってたとしても・・・それがどうした」

バロン「だな・・・」

「ロードバロン!!」

バロン「そんなので俺たちが負けることはない!! たとえ機械だろう  
とな!!」

デステイニー「そうだな・・・」

フェイト「レスキューモード」

デステイニー「俺たちは負けるわけにはいかないからな!!」

フィス「ファイルス・・・いけるよね?」

ファイルス「当たり前だ バディが立っているのなら 私もまだいけ  
るってことだ!!」

フィス「そうだね・・・ならもうひと踏ん張りしよう!!」

そういつて全員が立ちあがる

ダークフィス「馬鹿な・・・お前たちの戦闘データはあるのよ・・・  
ダークキラー!!」

そういつてダークキラーは襲い掛かる

スナイプ「これでも!!」

そういつて砲撃ユニットを起動させて

ブレイブ「くらうがいい!!」

タドルレガシーになったブレイブの剣がダークキラーを攻撃をし  
ただ

「ダークキラー」!!」

「クウガ カメンライド アルティメット ファイナルアタックライ  
ド ククククウガ!!」

「デイケイド」せい!!」

「バイオキネシスの発火能力で攻撃をしていく

ダークキラーは攻撃をしようとしたが

「マジックハンドON!!」

するとバリズンソードの刀身が伸びて ダークキラーを切っ  
ていくのだ

ゴースト「ああああああああああ!!」

「サングラススラッシュヤーとガンガンセイバーで切り裂いていく

デステイニー「こい!!」

するとビークルが現れて それがデステイニーに装着をしていく

デステイニー「完成 ケルベロスモード!!」

そういつてビークルの全力を解放させて 右側のライザーと左

側クレインのアームがダークキラーをおして

胸部についた ドリルとシヨベルの攻撃

さらに左手につけられた ドーザーのバケットで殴り さらに右

手のターボトルネードが発動をして ダークキラーを吹き飛ばす

ゲンム「は!!」

ゲンムは太陽の光を集めて ダークキラーに光線として当ててい  
く

「バロン」ふん!!」

バロン ロードバロンアームズは専用武器 かつてロードバロン

として使っていた武器で切りつけていくのだ

エグゼイドゼロ「ああああああああああ!!」

ムテキビヨンドゼロになり ゼロツインソードとガシヤコンキ  
ースラッシュヤーで切り裂いていくのだ

フィス「はああああああああああああ!!」

ライトニングドラグユニコーンになって ダークキラーをドラ  
グーンセイバーで切りつけていく

ダークキラー「・・・理解不能理解不能・・・戦闘能力上昇を  
確認・・・理解不能理解不能」

そういつてダークキラーはばちばちと火花を散らせている

フィス「これでとどめです!!」

そういつてフィスは必殺アイコンを押す

フィルス「必殺!!ライトニングメテオストライク!!」

フィス「はああああああああああああああああ!!」

背中の翼を広げて フィスは空を飛ぶ

フィス「であああああああああああ!!」

必殺のライトニングメテオストライクがダークキラーを破壊した  
のであった

ダークキラー「じじじ・・・・・・・・・・」

爆散をしたのであった

ダークフィス「馬鹿な・・・ダークキラーが」

ルノ「どうしますか まだ戦うのですか・・・・・・・・」

ダークフィス「覚えていなさい!!あんたたちは必ず!!倒す!!」

そういつてダークフィスは消えるのであった

健介「・・・・・・・・・・」

クロト「成功か?」

健介「ああ発信機を付けておいた・・・・・・・・後は調整をすればい  
けるぞ」

戒斗「乗り込むのだな」

健介「ああ!!」

## 要塞へ

### SONG基地

健介「……………」

健介は今 パソコンでかまっている それは前回の戦いでクロトがつけてくれた発信器を探しているのだ

全員「……………」

フィルス「バディ!!反応あり!!」

健介「反応がわかったな」

そういつてフィルスをとって 愛に渡したのであった

愛「お父さん わかったのですか?」

健介「ああ……場所は宇宙」

調「宇宙……………」

祥平「まさか奴はそこに……………」

ルノ「宇宙に奴らの基地があるのですね」

健介「そのとおりだ……………おそらくそこから ヤツラは機械軍団を出していたのだろう……………」

戒斗「なるほどな……………」

健介「そして……………」

そしてパソコンを押す

赤く光っている

健介「奴はここだ……………今からテレポートジエムでそこへ侵入をする……………だが……………」

クロト「どうした?」

健介「全員で行くと おそらくだが……………奴は機械兵団を出すと  
思う」

翼（く）「ならそれは私たちが対応をします」

クロト「翼……………」

奏（戒斗）「そうだな……………あたしたちが奴らと戦ってやるさ」

戒斗「奏……………」

パラド（く）「なら俺はクロトと一緒に行くぜ」



祥平「アーナスとパラド 二人には」

アーナス「わかっているわ」

パラド（祥平）「こっちは任せろ お前は宇宙で暴れてこい」

祥平「ああ!!」

翼「健介さん」

健介「決まったみたいだな……」

そういつて 健介たちの世界の奏者 そして娘たち

クロト&パラド 戒斗とアルマ 祥平 ルノが中へ入るのであつた

健介「……よし 弦十郎さんあとは」

弦十郎「こっちは任せろ」

未来「待つてください!!私も行きます!!」

健介「未来……わかった!!いくぞ!!」

そういつて健介はテレポートジェムを割り 光りだす!!

健介たちは光に包まれて 消える

弦十郎「頼むぞ……みんな!!」

一方で

カナリア「まさか……ダークキラーが……こうなったら……機械兵団を地上へ」

すると警報がなった

カナリア「!!」

画像が現れた そこには健介たちが写っていたのだ

カナリア「な!!なんで奴らがこの場所へ……」

そういつてカナリアは軍団を呼び出して奴らに対応させるために  
出動をさせたのであつた

さて侵入をした健介達

切歌「ついでです!!」

調「切ちゃん ここは敵の本拠地だよ」

切歌「うーごめんなさい……デース」

すると機械たちが出てきたのだ

クロト「どうやら 敵が現れたみたいだな……」

戒斗「そうだな・・・こい」

するとガタツクゼクターが現れた

愛「みなさん!!」

全員「おう!!」

そういつて全員が並ぶ

愛「フイス!!」

ファイル「了解だ 愛!!仮面ライダーモードレディ?」

愛は動物アイコンを押す

ファイル「ライオン!!」

剣「第二剣術」

「タドルクエスト!!」

真奈「第二シューティング!!」

「バンバンシューティング!!」

茜「さて」

「カメンライド」

紗代はスイッチを押していく

「3, 2, 1」

セレナ「さて実験を始めましょう」

「ラビット タンク!!ベストマッチ!!アユーレレディ?」

花菜「よーし」

「アーイ バッチリミナー バッチリミナー」

響「B a l w i s y a l l N e s c e l l g u n g n i r t

r o n

翼「I m y u t e u s a m e n o h a b a k i r i t r o n

クリス「K i l l i t e r I c h a i v a l t r o n

マリア「S e i l l i e n c o f f i n a i r g e t — l a m h

t r o n

調「V a r i o u s s h u l s h a g a n a t r o n

切歌「Z e i o s i g a l i m a r a i z e n t r o n

未来「R e i s h e n s h o u j i n g r e i z i z z

l

奏「Croitzal ronzell gungnir ziz  
zi」

「マイティアクションX!!」

クロト「ノーコンテニューでクリアしてやるぜ!!」

パレード「心が躍るな」

「パーフェクトパズル」

「バナナ!!」

「アーイ!!バツチリミトイター バツチリミトイター」

祥平「ゼロさん」

ゼロ「ああ!!俺たちの力を見せてやろうぜ!!」

「マイティゼロエックスモードレディ!!」

二人「俺たちに限界はねえ!!」

ルノ「きて!!ワイバーン!!」

健介「さて力を貸してくれるな?」

なのは「うん マスター」

健介「健介」

なのは「え?」

健介「俺たちは仲間だ バディだ 名前で呼んでほしい」

なのは「・・・わかりました 健介さん!!」

健介「オーライ・・・いくぜ!!」

そういつてカードを出して デステイニードライバーの前に出す

なのは「デステイニード インストール!!」

仮面ライダーたち「変身!!」

フィルス「ライオンモード!!」

「タドルメグル!タドルメグル!タドルクエスト!」

「バンバン!バンバン!バンバンシューティング!!」

「ディケイド!!」

「開眼 オレ! レッツゴー! カクゴ!ゴゴゴゴースト!!」

「鋼のムーンサルト ラビットタンク!!」

音声流れ中

「マイティジャンプ!マイティキック!マイティマイティアクション

X!!」

「Get tha glory in the chain PER  
FECT PUZZLE」

「カモン バナナアームズ NIGHT OF SPEAR」

「開眼!!アルマ!! 魂の戦士!!魂のゴッド!!」

「二人で一人 エグゼイドゼロ!!」

ルノはワイバーンに搭乗をしたのであった

なのは「デステイニーモード!!」

全員が装着をされたのだ ここに仮面ライダー シンフォギアな  
ど集結をしたのであった

デステイニー「みんな・・・いくぞ!!」

全員「おう!!」

機械兵団が集結をしていたのだ

すると全員が攻撃を開始をしたのだ

ブレイブ「これより 機械兵団の排除を始めます!!」

そういつてガシャコンソードを持ち 機械兵団を切っていく

ブレイブ「はああああああああああああああああ!!」

さらに氷モードにした

「コ・チーン!」

ブレイブ「であ!!」さらに切り付けていき

「ガシャットキメワザ! タドルクリティカルフィニッシュユ!!」

ブレイブ「はああああああああああああああああ!!」

地面にさして 機械兵団を凍らせていく

ブレイブ「第三剣術」

「ドレミファ ビート」

そして第二スロットに刺したのだ

「ガチャン!!レベルアップ!!タドルメグル!タドルメグル!タドルク  
エスト アガツチャド・ド・ドレミファ ソラシド!OK!ドレミ  
ファビート!」

ビートクエストゲーマーレベル三になったのだ

ブレイブ「乗らせていただきます」

そういつて右腕のドレミファターンテーブルをスクラッチして  
攻撃をしていく

ブレイブ「は!!」

リズムのようにけりを入れていき

ブレイブ「それ!!」

チョップなどで機械兵団を攻撃をしていく

ブレイブ「はああああああああああああああああ!!」

さらにガシヤコンソードを切り付けていくのだ

「ガシヤットキメワザ!ドレミファクリティカルストライク!!」

ドラミファターンテーブルをスクラッチをしていくと 左肩の  
ワッツアツプサウンダーからたくさんのエネルギーボムが放たれた  
のだ

ブレイブ「剣術50!!」

「タドルメグル RPG タドルファンタジー」

ファンタジーゲーマーレベル50になった

ブレイブ「は!!」

ブレイブは手から炎の球を出して 機械兵団に攻撃をし さらに  
テレポトをして 切りつけていくのだ

ブレイブ「これできめる!!」

「キメワザ!!タドルクリティカルスラッシュ!!」

ブレイブ「はあああああ………」

空中に浮いて

ブレイブ「であああああああああ!!」

ライダーキックをかましたのだ

スナイプ「あーもう!!しつこいなー」

そういつてガシヤコンマグナムを放ちながら 機械兵団を攻撃を  
していく

スナイプ「なら!!」

「ズ・キューン!!」

ライフルモードにした ガシヤコンマグナムにガシヤットをセッ  
トをした

「ガシヤット キメワザ!!バンバンクリティカルフィニッシュ!!」

スナイプ「は!!」

巨大な球が放たれて 敵を撃破していく

「ジェットコンバット!!」

スナイプ「第三シューティング」

「ガチャンレベルアップ!ババンバン!バンバン!バンバンシューティング アガツチャ ジェットジェットインザスカイ!ジェットジェット ジェットコンバット!!」

コンバットシューティングゲームレベル3になったのだ

スナイプ「はあああああ……」

スナイプは空を飛び ガトリングコンバットで攻撃をして 機械兵団を破壊していく

スナイプ「空の敵って感じかな?」

そういつて敵が来たので

スナイプ「ミサイルの雨を受けてみる!!」

そういつてミサイルを放ち 攻撃をしていく

スナイプ「決めるよ!!」

「ガシヤット キメワザ!!ジェットクリティカルストライク!!」

スナイプ「一斉発射!!」

そういつてガトリングコンバット ミサイルが放たれて敵を撃破していく

スナイプは地上へ降りて

「バンバンタンク!!」

スナイプ「第40シューティング」

「ガチャン レベルアップ バンバンシューティング アガツチャ!突き進めー!パワフル戦車!バンバンタンク!どごーん!!」

脚部にキャタピラーが装着されて 両手には戦車の砲塔が装着されている 胸部アーマーはガードをする硬さを持っている タンクシューティングゲームレベル40になったのだ

スナイプ「は!!」

両手の砲塔を持ち 砲撃をしていく 機械兵団は壊されていく



撃っていく

「デイケイド「は!!」」

さらに乱射をして カードを出す

「フォームライド 電王 アックス!!」

今度はアックスフォームになって デンガツシャーもアックスモードにして切り付けていく

「デイケイド「はああああああああああああああ!!」」

切っていく

「アタックライド ツツパリ!!」

そういつて連続したツツパリで機械兵団を機械たちを吹き飛ばしていく

「フォームライド 電王 ロッド」

ロッドフォームへ変えて デンガツシャーもロッドモードになり刺した

「デイケイド「さてまだまだ敵がいますね」

そういつて抜いて さらに切り付けていくのであった

「デイケイド「この数 きりがありませんね」

「カメンライド 龍騎!!」

「デイケイド龍騎になった

「アタックライド アドベント」

ドラグレッッターが現れて 口から火炎の光弾を放ち 撃破していく

「デイケイド「なら これだ」

「カメンライド オーズ!!」

「デイケイドオーズになって トラクローで切っていくのであった

「フォーゼ「おわわわわ!!」」

「シールドON」

シールドモジュールでガードをして

「フォーゼ「お返しだ!!」」

「クローON ボードON」

そういつてボードモジュールに乗り そのままクローモジュール



で切り裂いたのだ

スイッチをOFFにして

「ジャイアントフックON」

フォーゼ「巨大な足をくらえー！ー！ー！！」

そういつて巨大な足で機械兵団を攻撃をする

「ジャイロON ガトリングON」

そういつて上空へとび ガトリングが放たれたのだ

機械兵団は攻撃を受けて破壊されていく

フォーゼ「まだいるのー！ー！ー！ー」

そういつてスイッチを変えていく

ゴースト「だあああああああ！！」

ゴーストはガンガンセイバーで切っていく

ゴースト「ベートベンさん！！」

「開眼 ベートベン！！曲名 運命 ジャジャジャー！！」

ベートベン魂になって

ゴースト「せい！！」

ピアノの幻影が現れて それをひくと音符が飛び 爆発をしてい

く

ゴースト「は！！ビリーザキッドさん！！」

「開眼！！ビリーザキッド！！百発百中！ズキyunバキyun！」

ガンガンセイバーガンモード バットクロックガンモードにして

連続で放っていく

ゴースト「でああああああああ！！」

さらに乱射をして回転をして撃ちまくる

ゴースト「弁慶さん！！」

「開眼ベンケイ！！兄貴 ムキムキ 仁王立ち！」

ガンガンセイバーハンマーモードにして

ゴースト「でああああああああ！！」

地面にたたきつけるのであった

ビルド「はあああああああ！！」

ドリルクラッシャーで次々に攻撃をして

ビルド「ビルドアップ!!」

「天かける ビックウェーブ クジラジェット」

ビルド「さーて」

そういつてガンモードにした ドリルクラッシュャーを構えて 空を飛び 空中から連続して放つ

機械兵団は攻撃をするも

ビルド「当たりません!!」

回避をして さらに大波をだして機械兵団はさらわれて破壊されたのであった

「輝きのデストロイヤー ゴリラモンド」

そういつて変わり 右手のゴリラハンドで殴りつけていく

ビルド「もう・・・多すぎるですよ」

そういつてビルドはダイヤモンドでガードをして それを殴りつけたのであった

響「だああああああ!!」

響はそのこぶしで次々に 機械兵団のロボットを壊していく 後ろから攻撃を受けようとしている

響「しま!!」

だがそれをビームが飛び 機械兵団のロボットを倒す

未来「もう 響はいつもそうなんだから!!」

響「ごめんごめん ありがとう未来」

未来「おっと」

響「まったく 少しはお話をさせてくれてもいいよね!!」

そういつてロボットの顔面を破壊したのであった

翼「マリア 少し戦線離脱をしていたが・・・もういいのか？」

マリア「あら？そういうあなただって・・・」

そういつて剣と短剣で攻撃をしながら話している

クリス「つてか話をしている場合かよ!!」

そういつてガトリングで掃射をしているクリスであった

翼「そうだったな」

奏「まああたしからしたら」

そういつて突き刺した

奏「あんたが戻ってくれたのがうれしかったぜ？」

翼「ああ……私も戻れてうれしいさ……」

切歌「調!!あれを使うデース!!」

調「これだね!!」

二人が出したのは ドラゴナイトハンターZだった

「ドラゴナイトハンターZ!!」

すると二つのハンターゲーマーが現れて 二人をフルドラゴンにしたのであった

切歌「でーりーす!!」

そういつて火炎放射を放ち 兵団を燃やしていく

調「だああああああ!!」

さらにドラゴブレードで切っていく 調コンビであった

エグゼイド「いくぜ!!」

クロトが変身をした エグゼイドはガシャコンブレイカーで切っていく

エグゼイド「大大変身!!」

「マイティマイティアクションX!アガツチャ!ぶっ飛ばせ!突撃!ゲキトツパンチ!ゲキトツロボツツ!」

ロボツツアクションゲーマーレベル3になった

エグゼイド「どりやああああ!!」

接近をして ゲキトツスマッシュャーで殴り さらにメダルを取り

「高速化!!」

エグゼイド「どりやああああ!!」

「キメワザ!!ゲキトツクリティカルストライク!!」

エグゼイド「であああああああ!!」

ゲキトツスマッシュャーを飛ばして 連続で殴っていくのだ

エグゼイド「健介!!ここは俺たちが引き受ける!!お前たちは先へいけ!!」

フェイス「ですが!!」

デステイニー「わかった!!頼む!!」

そういつてフェイスとデステイニーは行くのであった

エグゼイド「ちい!!パラド!!」

パラドクス「わかった!!」

そういつてパラドクスはエグゼイドの中へ入り

「マイティブラザーズダブルエックス!!」

エグゼイド「だーーーーーい変身!!」

「ダブルアップ!!俺がお前で お前が俺で ウィーアー マイティマ

イティブラザーズ ダブルエックス!!」

ダブルアクションゲーマーレベルXXになって

二人「超強力プレイでクリアしてやるぜ!!」

エグゼイド R「はああああああああああああああ!!」

こっちはパラドがメインとなっており ガシヤコンキースラツ  
シヤードで攻撃をしている

エグゼイド L「は!!」

こちらはクロトがメインとなっており ガシヤコンブレイカーで  
攻撃をしていく

二人のエグゼイド「だああああああああ!!」

二人の斬撃で次々に切り裂かれていく

バロン「やるな あの二人!!」

アルマ「そうだね」

そういつてガンガンハンドをだして

アルマ「援護をするからいつて 戒斗」

バロン「ふん いくぞ!!」

そういつてバロンはバナスピアーを構えて突撃をする

バロン「は!!」

バナスピアーで次々に刺していく バロン それを狙っていく口  
ポットたちだが

アルマ「させないよ」

「ダイカイガン オメガスパーク!!」

散弾のように ガンガンハンドが現れて砲撃をする

バロン「はああああああああああああああ!!」

「カモン バナナスカツシュ!!」

バロン「ああああああああああ!!」

バナスピアーにエネルギーが発生をして 突き刺していくので  
あった

「マンガアームズ FIGHT OF HAMMER」

マンガーパーニッシャーで次々に攻撃をしていく

バロン「遅い!!」

かわして

アルマ「はああああああああああああああ!!」

ディープスラッシャーとサン格拉斯スラッシャーを二刀流にして  
切り裂いたのだ

バロン「であ!!」

さらに吹き飛ばしたのであった

バロン「さて・・・まだいるか」

アルマ「あー多いね」

ルノ「えい!!」

ルノは剣で次々に切っていく

エグゼイドゼロ「であああああああああ!!」

エグゼイドゼロはマイティゼロキックを使って 蹴り飛ばしてい  
く

ルノ「すごいですね 祥平さん」

エグゼイドゼロ「そうかな・・・」

そういつてウルトラゼロランスで刺した

エグゼイドゼロ「ならルノちゃんだつてすごいじゃないか」

ルノ「そうですか?」

そういつてさししながら言う

エグゼイドゼロ「さーて」

「ダブルモード!!」

するとエグゼイド ウルトラマンゼロに分離をした

エグゼイド「いくぜ!!」

エグゼイドはガシヤコンブレイカー

ゼロ「であ!!」

ゼロは走り、ゼロスラッガーを投げる

ルノ「よし私だつて!!」

そういつて走るのであつた

さて一方で

フェイス「ダークフェイス!!」

カナリア「なるほど・・・やってくれましたね」

デステイニー「貴様が」

カナリア「そうよ」

そういつてダークフェイスドライバーをつける

カナリア「変身」

「ダークライオンモード」

そういつて姿が変わつたのであつた

フェイス「私たちはあなたを止めます!!」

デステイニー「そして勝つて見せる!!」

ダークフェイス「やれるか!!お前たちに!!」

二人「いくぞ!!」

フェイス デステイニー対ダークフェイス

デステイニー「は!!」

デステイニーはビームライフルでダークフェイスに攻撃をしてきた

ダークフェイス「ふふふ」

ダークフェイスは背中のマントでガードをして消す

フェイス「だあああああああ!!」

フェイスはライオンソードで切りつけるが

ダークフェイス「甘いわ!!」

そういつてフェイスを蹴り飛ばす

フェイス「きやああああああ!!」

デステイニー「はあああああああああああ!!」

デステイニーは空を飛び

フェイト「フルバーストモード インストール」

すると姿が変わり 仮面ライダーデステイニー フルバースト

モードになった

デステイニー「はあああああああああああ!!」

装甲が展開されて ガトリング ミサイルなどが現れて 放たれ

た

ダークフェイス「ぐ!!」

ダークフェイスはかわそうとしたが

ファイル「カメレオンモード!!」

するとダークフェイスに絡まる

ダークフェイス「!!」

フェイス「逃がしません!!」

フェイス カメレオンモードが左手の装甲が展開されて ダーク

フェイスを絡ませただ

ダークフェイス「ぐあああああああ!!」

ダークフェイスはデステイニーフルバーストの攻撃が命中をした

フェイス「はあああああああああああ!!」

さらに接近をしてカメレオンレイピアでダークフェイスのボディに

突いたのだ!!

「ダークフェイス「ぐ!!」

「フェイト「デステイニーストライク!!」

「デステイニー「であああああああああ!!」

「背中の翼が開いて 蹴りを噛ましたのであった

「ダークフェイス「ぐ・・・・・・・・」

「するとベルトに罅が入り ベルトは崩壊をしたのだ

「カナリア「・・・・・・・・」

「フェイス「もうこれ以上はやめてください!!戦ったって意味ないですよ!!」

「カナリア「私もなめられたものね・・・・・・・・私はこれだけだと思ったかしら?」

「するとゲーマードライバーを出した

「デステイニー「ゲーマードライバーだ!!」

「そしてカナリアは装着をし さらに二つのガシヤットを出したのだ

「フェイス「あれって!!」

「ファイル「マキシマムマイティXにハイパームテキだ!!」

「カナリア「残念ね・・・・・・・・確かに似ているけど・・・・・・・・」

「ダークマキシマムマイティ!!」

「ダークネスムテキ!!」

「カナリア「ダークネス 大変身」

「ぱかーん ダークネス!!黒きー獄滅のごとく 暗黒の漆黒のゲー

「マー ダークネスムテキ エグゼイード」

「姿は黒いハイパームテキの姿をしている

「ダークエグゼイド ダークネスムテキゲーマーになったのだ

「デステイニー「その姿・・・・・・・・そしてそのゲーマードライバー・・・・・・・・まさか!!」

「ダークエグゼイド「その通りよ あの時 高田 祥平が使っていたゲーマードライバーを私は奴を倒した時に回収をして 改良を加えたのよ・・・・・・・・」



フェイス「でもそのガシヤットは!!」

ダークエグゼイド「そうね・・・そのデータを使って改良をし  
さ  
らなる力をあげたのよ」

すると一瞬で デステイニーの後ろに来ていたのだ

デステイニー「!!」

デステイニーは蹴りを噛ますが ガードされる

デステイニー「ぐ!!」

ダークエグゼイド「はああああああああああああああ!!」

ダークエグゼイドの拳が命中をして デステイニーが吹き飛ぶ

デステイニー「ぐああああああああ!!」

フェイス「お父さん!!」

そういつてフェイスも攻撃をしようとしたが

「ズ・キュン!!」

フェイス「きゃああああああ!!」

みるとダークエグゼイドの手にガシヤコンマグナムを持って放つ  
たのだ

デステイニー「ぐ・・・」

デステイニーはフォームカードを出す

はやて「工事現場モード!!」

そういつて姿が変わり

はやて「轟轟剣!!」

現れた剣を持ち 攻撃をする

デステイニー「はああああああああああああ!!」

デステイニーの轟轟剣で攻撃をするが

「ガシヤコンスパロー」

ガシヤコンスパローで受け止めたのだ

ダークエグゼイド「甘いですわ!!」

そういつて鎌モードにして デステイニーのボディを切りつけた  
のだ

デステイニー「が!!」

フェイス「この!!」

フェイスはゴリラモードになって攻撃をするが  
ダークエグゼイド「どうしたのかしら？」

フェイス「な!!」

ファイル「ゴリラモードの拳を受け止めただ!!」

ダークエグゼイド「力とは・・・こう使うのよ!!」

そういつて引き寄せて フェイスのおなかを殴ったのだ

フェイス「が・・・あ・・・」

そして投げ飛ばした

デステイニー「愛!!ぐお!!」

受け止めたが・・・後ろへ吹き飛ばされる

ダークエグゼイド「うふふふ・・・どうしたのかしら?仮面ラ

イダー」

フェイス「つ・・・強い・・・」

デステイニー「なんて力だ・・・」

ダークエグゼイド「さーてトドメを刺してあげるわ」

そういつてガシヤコンキースラッシャーを構える

「キメワザ!!マキシマムクリティカルフィニッシュ!!」

ダークエグゼイド「!!」

ダークエグゼイドはそれをかわした

エグゼイド「大丈夫か 健介!!」

バロンはレモンエナジーアームズ エグゼイドゼロはルナミラク

ルになってきたのだ

ブレイブ スナイプはレベル50 ゴーストは平成魂 デイケイ

ドはデイケイドウィザード フォーゼはロケットステイツになって

きたのだ

ビルドはラビットタンクスパークリングになってきたのだ

調「健介!!」

調たちも到着をした

クリス「あいつ・・・なんかエグゼイドみたいだな」

エグゼイドゼロ「あれは!!」

ダークエグゼイド「ええあなたのですよ 高田 祥平・・・」

バロン「あの時に回収をしていたってことか」  
そういつてソニックアローを構える

ダークエグゼイド「うふふふ……」

エグゼイド「何がおかしい」

ダークエグゼイド「この姿でできることはこれだけじゃないですわ」

すると何かを出して

「ポーズ」

ダークエグゼイド「うふふふ……」

笑いながら 何かを出していく

それは武器などが現れて 全員に攻撃をしたのだ

ダークエグゼイド「そして始まる」

「リスタート」

全員「ぐああああああああああああああ!!」

全員がボロボロになり 変身が解除をされる

健介「が……」

愛「あぐ……」

ダークエグゼイド「どうかしら?」

クロト「なぜ奴が……」

ダークエグゼイド「言ったでしょ?あなたたちの力を調べたのです

よ 簡単ですよ」

戒斗「……ぐ……」

祥平「が……あ……」

ルノ「あう……」

全員が倒れてしまったのだ……調たちはギアが解除されてしま

う……

ファイルス「バディ……」

なのは「健介さん」

健介「ぐ……」

全員が立ちあがろうとするが ボロボロで立ちあがることできない

ダークエグゼイド「さてこの地球を破壊をしましょうかしら?」  
祥平「なに!？」

そういつてダークエグゼイドは何かのボタンを押す・・・すると砲撃ユニットが現れたのだ

健介「!!」

ダークエグゼイド「これでこの地球は滅びるわ・・・おっほっほっほっほ!!」

そしてチャージを開始をしている

健介「・・・させるか!!」

健介はボロボロの体で立ちあがり デステイニードライバーを持ち 変身をして宇宙へ出る!!

ダークエグゼイド「愚かな・・・」

調「健介!!やめて!!」

調は泣きながら言うが・・・

デステイニー「・・・」

デステイニーは何かをしようとしている

なのは「まさか・・・健介さん!!」

デステイニー「・・・」

デステイニーはカードを出す

それをベルトのところにかぎす

なのは「リミッター解除・・・」

ダークエグゼイド「発射!!」

そういつて砲撃が放たれた

デステイニー「であああああああああ!!」

デステイニーは力を解放させて その砲撃を受けながら前へ行く

ダークエグゼイド「!!」

デステイニー「うおおおおおおお!!」

そしてそのままキャノン砲に入って 爆発が起こったのだ

キャノン砲は爆発をしたのだ!!

調「いやああああああああああああああああああああああああああああ!!」

翼「健介さん!!」

切歌「いや・・・いやいや!!」

つと奏者たちはパニツクになってしまった・・・

クリス「あ・・・あああ・・・」

マリア「うそよね・・・うそよ!!」

セレナ「健介さん!!」

ダークエグゼイド「おのれ!!」

クロト「・・・許さん!!」

アルマ「戒斗!!」

戒斗「やるぞ!!」

祥平「ゼロさん!!」

ゼロ「ああ!!俺も許さねえ!!」

愛「よくも・・・よくもよくも!!」

全員が変身をする

## 怒りの激突!!

全員「うああああああああ!!」

ダークエグゼイド「怒りで攻撃など 私には当たりませんわ」

調「黙れ黙れ黙れ黙れ!!」

そういつて調はシャルシヤガナの鋸で攻撃をする

切歌「殺す!!」

そういつて切歌も鎌で攻撃をするが

ダークエグゼイド「甘いわ!!」

すると地面からツタが現れて 二人を吹き飛ばす

2人「きやああああああ!!」

翼「切歌 調!!」

クリス「この野郎!!」

そういつてクリスはギアを展開をして 一斉射撃で攻撃をする

ダークエグゼイド「ふん」

ダークエグゼイドはマントでガードをしたのだ

奏「どりやああああああ!!」

翼「はああああああああああ!!」

奏と翼は槍と剣を構えて

マリア「はああああああああああ!!」

マリアは光の短剣で攻撃をしようとするが

ダークエグゼイド「は!!」

ダークエグゼイドはバリアーで攻撃をふさいだのだ

三人「きやああああああ!!」

響「だああああああ!!」

響は拳で攻撃をしていくが ダークエグゼイドにすべてふさがれ

ている

響「だ!!」

未来「響ふせて!!」

響「!!」

響はしゃがんで



いるんだ それで残っている力で私たちに助けを求めているのだ!!」  
ゴースト「まさか……あの人がやってきたことって」  
フィルス「おそらく彼女の体に乗った奴がしたことだろう……」  
翼「……だが……やつを許すなんて……」  
マリア「そうよ……あいつによつて健介が……」  
パラドクス「くそ……奴はそいつの体に乗っ取っているから……」  
攻撃をしたらそいつがダメージを受けてしまうぜ……」  
ゲナム「ああ……だがどうしたら……」  
そういつて考える戦士たち……」  
ゼロ「あるぜ……方法が」  
エグゼイドゼロ「ゼロさん？」  
ゼロ「俺にはダイナとコスモスというウルトラマンの力が今ある  
その一つ コスモスの力を使う」  
ゲナム「コスモスの力？」  
ルノ「どうするのですか？」  
ゼロ「祥平 ルナミラクルモードだ」  
エグゼイドゼロ「わかりました」  
するとエグゼイドゼロの色が青くなり ルラミラクルゼロモード  
になったのだ  
ダークエグゼイド「変わろうと私に勝てるはずがない!!」  
ゼロ「うるせ!! 大人しくしやがれ!!」  
エグゼイドゼロ「はあ!!」  
エグゼイドゼロは攻撃を回避をしたのだ  
エグゼイドゼロ「すこし大人しくさせましょう!! ミラクルゼロス  
ラッガー!!」  
そういつてゼロスラッガーが飛び ダークエグゼイドを切りつけ  
ていく  
ダークエグゼイド「ぐ!!」  
すると轟が発生をしたのだ  
ダークエグゼイド「う……動かないだ!!」  
バロン「ぐ……なんて力だ」



エグゼイドゼロ「戒斗さん!!」

バロン「心配するな!!お前は今 自分が何をするのかを考えろ!!」

エグゼイドゼロ「はい!!」

そういつてエグゼイドゼロは行き

エグゼイドゼロ「フルムーンウェーブ!!」

そういつて光を出したのだ

ダークエグゼイド「ぐ……ぐああ……な……なんだこれは!!」

そういつてダークエグゼイドに光を与えていくのだ

ゲナム「効いている!!ならば!!」

「ゴツドマキシナムマイティX!!」

ゲナム「グレードビリオン 変身!!」

「最大級の神の神の才能!!クロトダーン クロトダーン ゴツドマキシナムエックス!!」

そういつて着地をしたのだ

ダークエグゼイド「ぐああああああああああああ!!」  
すると 彼女が分離されたので

ゲナム「は!!」

ゲナムは腕を伸ばして彼女を助けたのだ

ダークエグゼイド「おのれ……」

フィス「はああああああああああああ!!」

フィスはダツシユをして ライオソードで切りつけていく

ダークエグゼイド「ぐ……」

フィス「あなたのような人を許すわけにはいきません!!」

そういつてフィスは切っていく

フィス「カナリアさんを利用したことを絶対に絶対に許すわけにはいきません!!」

そういつてイーグルモードになり イーグルライフルで攻撃をした後

フィルス「愛!!」

フィス「なにこのアイコンは」

ファイル「これは祥平がくれた フォームだ ただし今の君の状態では一度しか使えないのだ……. . . . .それほど強力なフォームだからだ!!」

フィス「わかった!!」

フィスはそのボタンを押す

ファイル「轟天霸王モード!!」

するとフィスの姿が変わり 轟天霸王モードへチェンジをしたのだ

ダークエグゼイド「おのれ!!」

そういつてダークエグゼイドは攻撃をしてくるが

フィス「は!!」

まずフィスがしたことはゲーマードライバーをとったのだ

ダークエグゼイド「な!!」

すると姿が解除をされたのだ

カナリア黒「おのれ……. . . . .」

するとカナリア黒はネフシュタンに似た鎧を装着をしたのだ

クリス「ネフシュタンだ!!」

カナリア黒「くらうがいい!!」

そういつて鞭を飛ばすが

フィス「であああああああああああ!!」

現れた剣でそれをはじいたのだ

カナリア黒「な!!」

フィス「これで終わりです!!」

そういつてファイルの必殺アイコンを押す

ファイル「必殺!!轟天霸王ブレイカー!!」

フィス「はあああ……. . . . .はああああああああああああ

あ!!」

そういつて強力な攻撃が飛ぶ

カナリア黒「ぐ……. . . . .ぐあああ……. . . . .ぐああああああああ

あああああ!!」

カナリア黒は吹き飛ばされるのであった

そして基地が爆発が始まろうとしている

ファイルス「愛!!」

愛は倒れたのだ

ブレイブ「大丈夫気絶をしているだけよ」

そういつて全員がレポートジェムで脱出をしたのだ

基地へ戻ったが

「おのれ!!」

全員「!!」

そこには黒い何かがあったのだ

「貴様たちを生かすわけにはいかないのだ!!」

ゲナム「貴様!!」

愛「ファイルス」

ファイルス「愛!!」

愛「変身」

ファイルス「無理になったのだ

ファイルス「無理をしてはいけない!!」

ファイルス「でもお父さんが守ってきた世界だから!!守る!!」

「ぐおおおおおおおおおお!!」

その黒き龍は襲おうとしたが

「必殺!!シンフォギアストライク!!」

「であ!!」

黒き龍に攻撃が当たり 着地をした

調「あ……あああ……健介!!」

そう攻撃をしたのは仮面ライダーデステイニーだった

デステイニー「すまないな………心配をかけた」

ファイルス「お父さん!!」

デステイニー「受け取れ 娘たち!!」

そういつてガシヤット カード アイコン スイッチを投げたの

だ

フォーゼ「これは………」

ディケイド「お父さん これは」

デステイニー「いいから使ってみろ」

「シンフォギアON」

「カメンライド シンフォギアモード!!」

「戦姫絶唱 シンフォギア!!レベルアップ!!装着 欠片の力を出せよ シンフォギアーーーーー」

「開眼!!シンフォギア!!新たな力 目覚めるシンフォギア!!」

フォーゼ シンフォギアステイツ デイケイド シンフォギア

ブレイブ スナイプ シンフォギアゲーマー ゴースト シンフォ

ギア魂になったのだ

フォーゼ「これはお母さんのアガートラム」

ブレイブ「これは母上の」

スナイプ「こっちはママの」

ゴースト「これはお母さんのだ!!」

ファイルス「愛!!」

フィス「うん!!」

ファイルス「シンフォギアモード!!」

バロン「なら!!」

「カモン!!シンフォギアアームズ 真!!つながりし世界の歌!!」

エグゼイドゼロ「うおおおおおおおお!!」

ゲナム「なら」

「ハイパームテキゴッド!!」

それぞれも解放させて

ルノ「来てバハムート!!」

そういつて全員が姿を変える

バロンはシンフォギアアームズ真となり

ゲナムはムテキゴッドゲーマーに

エグゼイドゼロはムテキビヨンドモードに

ルノはバハムートに乗り

パラドクスはゲナムの中へ入ったのだ

調たちもギアがエクストライブモードになり

ビルド「なら私も」

「ラビットタンクスパークリング!!」

ビルド「ビルドアップ!!」

そういつて姿を変えたのだ

デステイニー「さあいくぞ!!これが最後の決戦だ!!」

## 奇跡の戦い

黒い龍「くらえ!!」

黒い龍は口から光弾を放ってきた

全員「はああああああああああああああああああ!!」

全員が空中に飛び

クリス「くらいやがれ!!」

クリスはギアを展開 ガトリングで攻撃をする

バロン「はああああああああああああああああああ!!」

さらにバロンもクリスのギアに変えて攻撃をする

黒い龍「ぐおおおおおおおお!!」

ルノ「はああああああああああああああああ!!」

バハムートの高機動攻撃で黒い龍を切っていく

黒い龍「おのれ!!」

さらに黒い龍は口から破壊光線をはなった

エグゼイドゼロ「であ!!」

ゲンム「はああああああああああああああ!!」

エグゼイドゼロのゼロツインスラツガーとゲンムのガシヤコン

キースラツシャーで

その攻撃をはじめたのだ

響「はああああああああああああ!!」

ゴースト「であああああああああ!!」

親子のダブル拳が連続で放たれていく

ブレイブ「母上!!」

翼「ああ!!いくぞ!!」

そういつて2人は同じ刀のギアを持ち ダツシユをする

2人「せい!!」

黒い龍「ぐおおおお・・・」

奏「やるじゃん」

デイケイド「お母さんなら私たちも」

奏「あああいつらに負けないところ 見せてやるぜ!!」

そういつて空を飛び

2人「はああああああああああああああああああ!!」

親子のコンビで槍を突き刺した

ビルド「さーて」

フォーゼ「お母さん!!」

ビルド「姉さん!!」

マリア「ええ!!いいわねアガートラムは短剣で攻撃をする以外にもあるのよ」

フォーゼ「そうなんですか!!」

ビルド「さーて私とその間時間を稼ぎますから」

そういつてビルドはドリルクラッシュャーとホークガトリンガーを構えて攻撃をする

ビルド「よつと!!」

マリア「さあ構えるわよ!!」

そういつてフォーゼは右手を マリアは左手を構える

マリア「セレナ!!」

ビルド「了解!!」

ビルドは回避をして

2人「いつけー！ー！ー！ー!!」

強力な砲撃を放つたのだ

黒い龍「ぐおおおおお・・・・・・・・・・」

切歌「真奈!!」

スナイプ「はい!!」

2人「だああああああああ!!」

2人の鎌がさらに切りつけていく

調「愛!!」

フィス「うん!!」

2人「せいああああああああああああ!!」

大きな鋸が発生をして 黒い龍を切りつけていくのだ!!

黒い龍「ぐおおおお・・・・・・・・なぜだ・・・・・・・・なぜ貴様たちに私がダメージを与えることができないのだ・・・・・・・・私は・・・・・・・・不滅

の悪魔・・・お前たちを滅ぼすための・・・悪魔なのだぞい!!」

デステイニー「だまれ!!」

デステイニーが言う

デステイニー「お前に殺された人たち・・・そして罪のない親子を使い 自らの野望のために利用をしたお前を俺は・・・いや俺たちは許すことはできない!!」

黒い龍「黙れ!!」

「そういつて攻撃をするが

デステイニー「はああああああああああああああああ!!」

デステイニーの両手にはイガリマの鎌とシャルシヤガナの鋸 そして右手にはアマノハバキリの剣が装着をされていた

デステイニー「であああああああああああ!!」

デステイニーが放った斬撃は黒い龍を切り刻んでいったのだ

黒い龍「ぐああ・・・・・・ぐああ・・・・・・」

デステイニー「今だ!!」

全員「おう!!」

「カモン!!シンフォギアスカツシュ!!」

「ハイパーゴッドクリティカルスパークキング!!」

「必殺!!ムテキビヨンドブレイク!!」

「シンフォギア リミットブレイク」

「ダイカイガン!!シンフォギア オメガドライブ!!」

「ニガシャットキメワザ!!戦姫絶唱 クリティカルストライク!!」

「ボルティックフィニッシュ!!」

フィルス「必殺!!シンフォギアメテオストライク!!」

全員「はああああ・・・・・・」

全員が空を飛び

全員「であああああああああああ!!」

黒い龍に全員が放った 奇跡の蹴りが命中をしたのだ

黒い龍「ぐあああ・・・・・・馬鹿な・・・我は・・・こんな

ところで!!」

デステイニー「逃がさん!!」



デステイニーは背中の中を開いて

デステイニー「なのは 皆 いくぞ!!」

全員「はい!!」

そういつて必殺アイコンをかざす

全員「デステイニー ハイパーメテオブレイク!!」

デステイニー「せいやああああああああああああああああ!!」

デステイニーの翼が光の羽となり 黒い龍だったものに蹴りを噛

ましたのだ!!

「ぐああああああああああああああ!!おのれ・・・仮面ライ

ダー・・・余は必ず・・・復活を!!」

デステイニー「させない!!絶対に!!うおおおおおおおおお

!!」

「ぎゃああああああああああああああああああああああ!!」

デステイニー「・・・終わったな」

そういつてデステイニーは空中からゆっくりと着地をしたので

あつた

調「健介!!」

調と切歌がデステイニーに抱き付いてきた

デステイニー「心配かけてしまったな」

切歌「そうですね!!もういつもいつも心配をかける旦那さんです

!!」

ゲンム「だがお前はどうかやって生きていたんだ・・・あの時」

デステイニー「・・・」

デステイニーは変身を解除をした

健介「あの時 俺は確実にキャノン砲を壊すために突撃をし

た・・・」

マリア「ええ・・・」

健介「だが俺を助けてくれた人物がいたんだ」

愛「それって」

そういつて健介はあるものを出した

セレナ「これって・・・ギア」

健介「別世界の調たちだった……自分たちの命と引き換えに……俺を生かしてくれたんだ」

全員「!!」

健介「……あいつらはこういった」

調「生きて……」

健介「つとな……そしておれは彼女たちに助けてもらい……体の回復させて シンフォギアの力をガシヤット スイッチ アイコン カードの力へと変換させたんだ……それが」

茜「この力ってことか……」

なのは（みんな……敵はとつたよ……）

健介「……」

愛たち仮面ライダーの活躍で 機械帝国は崩壊をしたのであった

健介「よし……」

健介が改修をしたのは 大火炎軍団が使用をしていた 異次元装置だった

あの後次元装置を見つけて 停止をして SONGが改修をして 健介がさらに改造をしたのであった

健介「さてこれでクロト達を無事に世界へ返すことができる」

クロト「ありがとうな 健介」

健介「気にするなつて まあたファイルスのデータを活用させてもらったしね」

そういつて笑うのであった

健介「それじゃあまずはクロト達から」

そういつてスイッチを押して

クロト「それじゃあ健介」

翼（ク）「お世話になりました」

響（ク）「また会えることを願って!!」

パラド（ク）「今度は負けないからな!!」

健介「もう勘弁してくれよw」

クロト「それじゃあ……またな 健介」

健介「そちらもな 一夏」

クロト「お前……………」

健介「……………ふふ」

そういつてクロト達は入っていくのであった

健介「それじゃあ次はルノちゃんだよ」

ルノ「はい!!クロトさん以外にも仮面ライダーがいたこと……………」

そして共に戦ったことを私は忘れません!!」

健介「もし今度俺たちが行くことになったら……………よろしくな?」

ルノ「はい!!」

健介「それじゃあルノちゃん」

そういつてスイッチを押す

ルノ「それじゃあ皆さん!!お元気で!!」

そういつてルノちゃんは入っていった

戒斗「次は俺たちだな」

健介「戒斗助かった」

戒斗「気にするな おれがしたかったから助けただけだ」

健介「それでもだ」

そういつてスイッチを押す

戒斗「今度は俺たちの世界へ来るがいい」

アルマ「その時は僕が送るよ!!」

翼（戒斗）「ぜひ来てください!!」

奏（戒斗）「あたし的にはあたしと戦ってみたいけどな」

奏「お、それは楽しみな!!」

そういつて笑う奏で同士であった

健介「それじゃあ スイッチを押すよ」

そういつてスイッチを押して 扉が開いた

戒斗「じゃあな 健介」

そういつて戒斗たちも中へ入っていき

健介「さて……………祥平」

祥平「はい」

健介「ありがとうな わざわざ助けに来てくれてよ」

祥平「いいえ 俺も新たな力をもらいました……………それでお相子

です・・・それと」

そういつて渡したのは

健介「これは・・・ゲームードライバーとガシャット」

祥平「俺はもう使えません・・・だから」

健介「いいのだな？」

祥平「はい」

健介「わかった 大事にもらっておくよ それとカナリアを任せるとこつちじゃ・・・」

祥平「わかってますよ・・・」

カナリア「あの・・・ありがとうございます・・・色々ご迷惑をおかけしまして・・・」

健介「気にしてないさ・・・君は操られてやったことだから・・・」

健介はそういつてスイッチを押す

もらったガシャットはマイティアクションX ゲキトツロボツツ  
シャカリキスポーツ マイティブラザーズダブルエックス マキシ  
シラムマイティX ハイパームテキだ

健介「さて・・・その前に どうやら祥平 お前に対して怒っている人たちがこちらへ来るそうだw」

祥平「え？」

すると来たのは

セレナ（祥平）「祥平・・・」

そういたのは セレナ 奏 翼 調と祥平が付き合っている人物  
たちが怒りのオーラを纏ってきていたのだ

祥平「ガタガタブルブルガタガタブルブル（；。D。）」

アーナス「あちゃー・・・」

パレード「ばれちまったな」

マリア「ごめんなさい祥平・・・皆にばれてしまったわ・・・」

セレナ「あら・・・」

調「祥平さんだまってきちやっただですか・・・」

切歌「それは皆怒って当然デース・・・」

クリス「だな・・・」



### 第三章 日常とギャラホルン

#### セレナ 怪盗をする

セレナ「えっと……」

今セレナはブルーレイを出して 何かを見ようとしているのだ

セレナ「切歌がこれは面白いから見たほうがいいデースって言うからどんなのか気になって……」

セレナはそれを見ることにしたのであった

「待て——ルパン——」

「あばよとっちゃん——」

セレナ「……これだ!!」

何かをひらめいたのかセレナは急いである場所へ向かった

SONH基地 健介の部屋

健介「……ふむ」

今健介は 別世界での未来の調たちが救ってくれたギアをなんとかしている……

なのは「どうなんですか？健介さん」

健介「ああ……だいぶなおつて……」

セレナ「健介さん!!」

健介「せ・セレナ!?!」

突然ドアが開いた あれ？そこって自動ドアじゃなかったっけ？

セレナ「お願いがあります!!」

健介「はい？」

セレナ「アガートルームありますか!!」

健介「アガートルーム？どうして」

セレナ「怪盗をしたいのです!!」

健介「……え？」

なのは「ふえ？」

健介「えっとセレナもう一度言ってくれろ？」

セレナ「怪盗!!」

健介「OUTーーー!!何言っているの君!!怪盗!!なぜ!!ホワイ!!」

セレナ「健介さん 落ちついてください!!」

健介「すまないな．．．だがどうして怪盗」

セレナはあるものを出した

健介「ルパン三世．．．．．」

つと頭を抑えるのであった

セレナ「それで悪事を働いている輩を成敗をするのです!!」

健介「ふーむ．．．怪盗ね．．．．」

健介は何かを考えると

健介「そうだ ならでも怪盗つて一人じゃ」

セレナ「大丈夫です!!」

すると入ってきたのは

マリア「えつと．．．．．」

調「えへへ．．．．．」

切歌「ごめんでーす．．．．．」

健介「このメンバーね．．．．．」

つと健介は苦笑いをするのであった

マリア「セレナが上目遣いで．．．見てきて．．．．．」

調「私は巻き込まれて．．．．．」

切歌「私は責任者として出そうデース．．．．．」

健介「まあいいわ ほい」

そういつて健介が出したのは

セレナ「これつて!!」

健介「前の戦いで俺を助けてくれた 別世界の未来のセレナが使っていたのを修復したんだ．．．．．」

セレナ「これでまた私は奏者として戦えますね」

健介「まずは．．．皆で怪盗というのを見ていこう」

そういつて怪盗というブルーレイなどを探してみるのであった

そして数時間後

健介「それじゃあ次は ギアを使った特訓だよ」

四人「はい!!」

つと動くが

健介「まだ音が出ているよ これじゃあすぐに見つかってしまう!!」

愛「ねえファイルス」

ファイルス「なんだい？」

愛「お母さんたち何をしているの？」

ファイルス「怪盗とやらをするそうだ」

愛「怪盗・・・ってどろぼーーーーー!!」

ファイルス「どあ!!」

ファイルスは愛の大きな声にびっくりをしてしまったそうだ

健介「あー大丈夫 実はあるものを取り返してもらおうんだよ」

二人「あるもの？」

健介「ファイルスのデータだよ」

ファイルス「私のデータだ!!」

健介「そうだ お前のデータを使った奴らがいるんだよ」

ファイルス「あの時か 翼のお兄さんが使っていたのとかだな」

健介「そういうこと」

こうして特訓が始まって 数時間がたったのだ

健介「それじゃあ四人ともギアをまとつてみて」

四人「うん!!」

マリアたちは聖書を唱えると その姿は普段とはちがいで 怪盗ができる格好になっているのだ

セレナ「すごい・・・これが怪盗なのですね!!」

調「うん ギアが軽い」

切歌「これならどこでも侵入ができるデース!!」

健介「それじゃあ今からテストをする・・・ 四人はある場所へ侵入をしてもらいよう」

そういつて渡したのであった

そしてある場所では

ブレイブ「ふむ・・・異常なし」



スナイプ「こつちもだよ・・・敵が攻めてくるってお父さんが言っていたけど」

ブレイブ「父上が言うんだ　とりあえず警戒はしておこう」  
スナイプ「だね」

切歌「真奈!?!」

調「とりあえず移動をしよう」

そういつて移動をして探す

デイケイド「はあ・・・」

そういつて警戒をしている

ゴースト「どうですか?」

デイケイド「いいや異常なし」

ゴースト「こつちもですー」

調「ここもだめ」

セレナ「あそこだね!!」

そういつて侵入をして移動をするのであった

マリア「健介の部屋をチェックをしましょう」

そういつて入る

調「ここにはないわ」

切歌「あ、健介寝ているデース」

セレナ「まって切歌　あれは罠があるわ」

切歌「ででです!?」

そういつてやめるのであった

そして色々と探すが

シユミレーション室

健介「待っていたぞ　さあこいつを倒せるかな?」

そういつて出したのはノイズであった

愛（あれーお父さん　ノリノリなんだけど・・・）

っと思う娘たちであった

そして彼女たちはノイズを倒したのであった

健介「さて合格をした皆に依頼を頼みたいな」

セレナ「はい!!なんですか!!」

健介「それはある研究所にあるファイルのデータをとってきてほしいんだ」

マリア「ファイルスのデータ？」

健介「そうだ 前に翼の兄貴がガーマスに変身をしたときにつかっていたあれ・・・おそらくあれはファイルスのデータが使用をされているんだ・・・そしてその場所が判明をしたんだよ」

セレナ「そうなんですかね」

健介「それでセレナにはこれを渡しておくよ」

そういつて渡したのは

セレナ「これは？」

健介「クローズドラゴンというものさ 相棒として使ってくれ」

セレナ「よろしくねクローズ」

クローズ「ぎやおぎやお!!」

そしてセレナたちは準備をしていくのであった

セレナたちは移動をして その研究所へ到着をしたのであった

マリア「あの研究所ね」

セレナ「あの中にデータが入っている可能性が高い研究所なのでですね」

調「とりあえず センサーを確認をしよう」

そういつて調はバイザーを降ろす

調「・・・・・・・・・・ 赤外線センサーは起動をしてない」

切歌「なら大丈夫ですね」

そういつて侵入をしてデータを探し出す

マリアたちは抜き足 差し足 忍び足でギアを使用した姿のため

移動を素早くできるのであった

切歌「ここですね・・・・・・・・・・」

そういつて中へ入ると あたりにはデータがある

セレナはその確認をする・・・・・・・・・・

セレナ「これじゃない」

そうファイルスの画面があつたのだ

セレナは急いでそのデータを回収作業をしている

マリアたちは警戒をしているのであった  
セレナ「……………」

切歌「セレナ まだでーす?」

セレナ「よしできた!!」

そういつて四人は脱出をするために移動をする

脱出に成功をしたのであった

セレナ「ちゃんと盗みましたって書いておきましたし」

三人「いつのまに」

「大変だ!!データが盗まれた!!」

全員「なにー……」

「仮面ライダーフェイスのデータは確かにいただきました 怪盗 ムー

ンジェイル」

つと

セレナ「私たちはムーンジェイル!!悪い奴らを成敗する怪盗よ!!」

そういつて去るのであった

健介「ありがとう……………」

健介は確認をしている

健介「うん 間違いないフィルスのデータだ」

そういつて確認をしたのであった

マリア「ふうでも面白かったわ」

切歌「スリル満点で楽しかったデース!!」

調「うん」

そこに

剣「父上 異常なかつたですよ」

真奈「いったい誰が侵入者だったのですか?」

健介「やれやれお前たち侵入されたのにのんきだな」

二人「え!!誰が侵入をしたのですか!!」

切歌「私たちでーす!!」

真奈「え!!お母さんたち!!」

剣「どういうことですか?」

健介説明中

剣「そういうことでしたか」

真奈「まさかお母さんたちが怪盗したなんて」

健介「まあおかげでファイルがもう増えることはないだろう」  
そういつて健介は思うのであった

## ギヤラホルンへ

ある日のこと大火炎軍団が大人しくしているのであった

翼「しかし 大火炎軍団が動きませんね」

弦十郎「ああ：：奴らは機械兵団が消えて動くと思っただが：：：」

愛「でも動いてきませんね」

その大火炎軍団はというと

セイレン「ふにゆ．．．．．」

武者「なあフェニックス殿」

フェニックス「なんだ武者殿」

武者「セイレン殿はいかがした」

フェニックス「なんか知らんがふてくされて 全員出動停止だそう  
だ」

武者「まじですか」

フェニックス「まじまじ」

つとなっているからであつた

ファイル「だがそれでも油断はできないからな」

調「あれ？ファイル 愛と一緒にやなかつたの？」

ファイル「愛が忘れていったのだ」

調「あの子．．．．．」

一方で

愛「しまった．．．ファイル忘れてきた．．．」

つとりディアン学園で言う愛であつた

さしてきて戻って警報がなつたSONG基地

あおい「これは!!ノイズ反応です!!」

全員「!!」

弦十郎「ノイズだと!!」

健介「子どもたちは学校だな．．．仕方がない ファイルス 久々

に使うぜ？」

ファイル「了解だバディ!!」

そういつて久々にデステイニーじゃなく

フェイスに変身をすることにしたのであった  
はやて「なんや留守番かいな」

健介「悪いね」

そういつて出動をしたのであった

健介「さーて久々に」

フィリスをかまって

フィリス「ライオン」

するとドライバーが現れて

健介「変身!!」

フィリス「ライオンモード!!」

本家仮面ライダーフェイスになったのだ

フェイス「悪くない」

翼たちもギアをまとい ノイズたちに対応をする

フェイス「は!!」

フェイスはライオンクローで対抗をする

ビルド「は!!」

ビルドはドリルクラッシュャーで攻撃をして ノイズを粉碎をして

いく

調「でもどうしてノイズが」

切歌「それがわかったら苦勞をしないデース!!」

そういつて攻撃をしていく

翼「だがソロモンの杖は健介さんが」

フェイス「そのはずだ」

そういつて攻撃をしていく

マリア「じゃあこいつらはいったい」

奏「さあな」

短剣と槍で攻撃をする

クリス「くらいやがれ!! 大型ミサイル発射!!」

そういつて四問のミサイルが放たれて ノイズたちを吹き飛ばし

ていくのであった

フェイス「さーて久々の!!」

必殺アイコンを押しした

ファイル「必殺!!ライオンメテオストライク!!」

フィス「とう!!」

フィスは上空を飛び

フィス「であああああああああああ!!」

フィスのライオンメテオストライクが命中をして ノイズたちは  
粉碎を粉碎をした

フィス「久々に……ふう……」

ファイル「久しぶりにそれを聞いたなバディ」

フィス「まあね」

そういつて変身を解除をした

セレナ「いつたいノイズはどこから出てきたのでしょうか」

全員が基地へ戻ると

愛「お父さん!!ノイズが現れたって本当!!」

健介「ああ撃退をしてきたよ」

ファイル「やれやれ愛 私を忘れていくなんてな」

愛「ごめんつてお父さんが持つていつていたんだ デステイニード

ライバーが置いてあったから」

健介「ああ久々にフィスをねw」

そういつてファイルを愛を渡したのであった

翼「でどうだったの?」

健介「なにがだ?」

翼「久々にフィスになった感想ですよ」

健介「かわつてなかつたよw」

翼「そうですかw」

弦十郎「さて諸君 原因がわかつたぞ」

剣「おじさま といいますと」

キャロル「原因はギヤラホルンが起動をしていやがつた……」

クリス「つてことは異次元かよ」

健介「ふむ……」

愛「あのギヤラホルンつて」

マリア「愛 パラレルワールドってのを知っているわね」

愛「はい 並行世界のことですよね」

調「そう私たちの世界のようにいろんな場所があるの 例えば……  
健介がいない世界……」

健介「そうだな……」

奏「あたしが死んでいる世界に」

セレナ「私が死んでいる世界など……世界は色々あるのよ」  
紗代「でもギヤラホルンが起動をしているってことはどこかの世界  
がつかっているってことですよね？」

花菜「どうするの？」

弦十郎「うむ……ギヤラホルンへ入り 調査をする必要がある  
が……」

健介「……なら俺はこちらへ残っておいた方がいいな」

調「え？」

健介「敵がいつ現れるかわからないからな……」

愛「なら私調査に行きたい!!その別世界へ……行ってみたい  
のです!!」

真奈「私も!!」

弦十郎「ふむ……」

調「なら私が行きます」

切歌「私もデース!!」

健介「となると」

剣「私もいいでしょうか」

翼「なら私がお供をしよう」

健介「なら決まりだ フィルス何かあったら頼むぞ」  
フィルス「任せてくれ」

そして彼女たちはギヤラホルンの前に立っていた  
調「まさかギヤラホルンへ行くことになるなんてね」  
そういつてギアを装着をしている

愛「私たち仮面ライダーへ変身をしているのだ」

翼「いいか どの世界にいくかわからないから……油断はす



るなよ?」

ブレイブ「もちろんです」

スナイプ「わかってますよ!!」

翼「うむではいくぞ!!」

そういつて中へ入っていくのであった

ギヤラホルンの中へ入っていった翼たち

外

フィス「……ここは?」

調「ここつて……リディアン近くの公園だね」

切歌「そのようデース……」

ブレイブ「あまり変わりませんね」

スナイプ「そうだね」

翼「月は……かけている……ルナアタックがあつた世界か……」

つと考える翼であった

フィス「とりあえず移動をしましょう ドラゴンジェッター」

そういつてフィルスをかまうと フィルスからドラゴンジェッ

ターが出てきたのだ

ドラゴンジェッター「任せろ」

そういつてドラゴンジェッターはジェットモードになってフィス

たちはその上へ乗ろうとしたとき

何かの攻撃が飛んできたのだ

翼「は!!」

翼は小刀でそれをはじかせたのだ

ドラゴン「なんだ!!」

すると現れたのは……

クリス「……」

翼「クリス?」

クリス「……」

クリスは無言でガトリングを構えて放ってきたのだ

フィス「危ない!!」

ファイルス「リフレクトデイフェンダー!!」

ファイルスはリフレクトデイフェンダーでクリスが放ってきたガトリングをふさいだ

切歌「どうしてクリス先輩が攻撃をしてくるデース!!」

調「それがわかったら苦労をしてない!!」

スナイプ「どうしようか」

ブレイブ「真奈 何かある?」

スナイプ「うーん麻痺属性の攻撃をすればいいじゃないかな……」

ファイルス「麻痺麻痺……あつた!!」

そういつてファイルスは考えたようだ

ファイルス「仮面ライダーブレイド!!」

そういつてファイルス ブレイドモードになったのだ

翼「何をする気だ?」

ファイルス「いくよー!!」

そういつて接近をして ブレイラウザーをだして

ファイルス「サンダー」

ブレイラウザーをクリスに当てたのであつた

クリス「あびやびやばばあつばばあつばばあ!!」

そして倒れるのであつた

ファイルス「ふう……」

調「大丈夫かな」

そういつてツンツンさす

クリスが目覚めるまで待つことにした

クリス「……うう」

翼「目覚めたようだな」

クリス「あたしはいたい……つて……先輩!？」

翼「なんだ私を見て叫ぶとは」

クリス「どういふことだ……確か……」

翼「クリス 詳しく話してもらおうぞ」

クリス「え……ああ……」

クリスから話を聞くと 突然として現れた謎のノイズ……そ

れに立ち向かったクリスたちであったが・・・意識がなくなったそう  
だ・・・

切歌「クリス先輩は私たちを襲ってきたのデース!!」

クリス「そうだったのか・・・すまねえ・・・ってそういうえばあ  
んたらは・・・」

フィス「・・・まあ今は味方と思ってください」

クリス「お、おう・・・」

調（どうするです 翼さん）

翼（いずれにしてもどうやらこちらで起こったのに間違いないだろ  
う・・・解決をするためにもその謎のノイズを倒すことが先決だ）  
切歌（つてことは）

翼（ああ仕方がないが接触をするしかあるまい・・・おじさまた  
ちと）

クリスの案内で 翼たちはSONG基地へ

弦十郎「翼!?それに切歌君に 調君だと・・・」

翼「おじさま 私たちはおじさまが知っている翼じゃありませ  
ん・・・」

弦十郎たちに説明をする

弦十郎「なるほど・・・ギャラホルンが開いて君たちの世界に・・・  
ということだな」

翼「そういうことです それで私たちはこの世界へ来ました」

弦十郎「なるほど・・・それでその子たちは・・・」

翼「あれは私の娘 剣といいます」

切歌「この子は私の娘で真奈です」

調「私の娘の愛です」

愛「愛です」

真奈「真奈です!!」

剣「剣です おじさま」

弦十郎「うむ・・・だがクリス君だけでも取り返すことができた・・・」

調「つてことは私たちも操られているつてことですね?」

翼「なら助けるのみだ」

すると警報が鳴った

朔也「イガリマ シャルシャガナの反応です!!」

切歌「なら私たちが相手をするデース!!」

全員が出動をした

調（並行）「・・・・・・・・・・・・・・・・」

切歌（並行）「・・・・・・・・・・・・・・・・」

フィス「お母さんたちが暴れている」

調「止めないと」

フィスはモードを変えることにしたのであった

ファイルス「ウルフモード!!」

そういつてウルフモードに変身したのであった

フィス「はああああああああああああああああ!!」

素早い動きで ウルフクローで攻撃をする

切歌（並行）「・・・・・・・・・・・・・・・・」

切歌（並行）は鎌で攻撃をするが

切歌「させないデース!!」

鎌で受け止めたのだ

翼「少し大人しくしてもらおうぞ!!」

そういつて翼は小刀で影を狙ったのだ

二人「!!」

ブレイブ「あれは母上の影縫い・・・・・・・・」

すると上空から短剣がたくさん降ってきたのだ

ブレイブ「危ない!!」

「ガシャット キメワザ!!タドルクリティカルフィニッシュ!!」

ブレイブ「はああああああああああああああああ!!」

ブレイブは炎の剣で短剣をはじかせのだ

スナイプ「つてことは」

マリア「・・・・・・・・・・・・・・・・」

翼「やはりマリアか・・・・・・・・」

するとさらに

響「・・・・・・・・・・・・・・・・」

翼（並行）「……………」

翼「やはり私もいるのか……………」

フィス「まずは」

ウルフカッターを構えて

フィルス「必殺!!ウルフメテオカッター!!」

フィス「ごめん!!」

そういつて投げて調（並行）たちを気絶させたのであった

響「!!」

切歌「響先輩我慢をしてくださいデース!!」

そういつて両肩の鎌を展開をして抑え込もうとする

スナイプ「もう大人しくしてください!!」

そういつて2人で抑えるのであった

ブレイブ「ぐ!!」

翼（並行）「……………」

翼「させん!!」

翼は剣ではじかせる

クリス「このマリア!!」

マリア「……………」

調「強い……………でも!!」

フィス「止めて見せる!!」

クロコダイルモードになってクロコダイルヘッドで短剣を抑えて

いるのだ

スナイプ「あれは!!」

そういつてメダルをとる 武器に

「麻痺化!!」

スナイプ「お母さん離れて!!」

「キメワザ!!バンバンクリティカルファイニッシュ!!」

そういつてライフルモードにした ガシャコンマグナムから弾が

放たれた

響はそのまましびれて倒れたのであった

翼「は!!」

翼は剣をおなかにあてて気絶させたのであった

翼「許せ……」

ブレイブ「やりましたね」

マリア「……」

マリアはたくさんの短剣を放ってきた

フィス「させない!!」

ファイルス「必殺!!イーグルフルブラスト!!」

そういつてガトリングモードにしたイーグルライフルで相殺をしたのだ

調「はああああああああああああああああ!!」

調は飛び 反転キックで地面に叩き落としたのだ

調「後は……」

するとノイズが現れたのだ

クリス「あいつだ!!あたしたちを襲ってきて……」

「……」

ノイズは何かを伸ばしてきた

ブレイブ「させない!!」

そういつてガシャコンソードで切り裂いた

「!!」

スナイプ「は!!」

さらにスナイプがガシャコンマグナムで連射をする

フィス「でああああああああああ!!」

ビートルモードになって ビートルアックスで切り裂いた

「!!」

「タドルレガシー!!」

ブレイブ「第100剣術!!」

「バンバンシユミレーション!!」

スナイプ「第50シューティング!!」

「レベルアップ!!タドルメグル!目覚める騎士!タドルレガシー!」

「デュアルアップ!スクランブルだー!出撃 発進! バンバンシユ

ミレーション 発進!!」

レガシーゲーマーとシュミレーションゲーマーへアップをしたの  
だ

フィス「フィルス!! 私たちも!!」

フィルス「うむ!! ライオトレイン!!」

ライオトレイン「出番だな!!」

フィルス「ライオトレインモード!!」

そういつてライオトレインが分離をして合体をしたのだ

翼「これは私たちを操ってくれたお礼だ」

調「だね」

切歌「行くデース!!」

フィス「私たちも!!」

ブレイブ「ああ!!」

スナイプ「いくよ!!」

フィルス「必殺!! ライオトレイン砲!!」

「ガシヤットキメワザ!! タドルクリティカルストライク!!」

「バンバンクリティカルファイア!!」

六人はエネルギーをためて

「六人」であああああああああああ!!」

「一斉に攻撃を放ち

」

そのノイズを倒したのであった

「ブレイブ」これにて一件落着

翼「だな」

こうしてこちらの事件で起こったことが終わり

響「えつとありがとうございました」

翼（並行）「面目ない……まさか操られていたとは……」

二人（並行）「ごめんなさい」

調「ううんもう大丈夫ですよ」

切歌「そうデース さて私たちは戻るとするデース」

そういつてギヤラホルンに入って元の世界へ戻るのであった

健介「どうやら解決をしたようだね」

翼「はいそちらでも？」

マリア「ええ戦っていたらノイズが突然消えたわ」

茜「ええまるで何か停止をしたかのように……………」

奏「ああ……でそっちではいったい何が？」

愛「向こうでは奏者たちが操られていたのです」

セレナ「そうだったんだ」

切歌「でも大丈夫デース!! 解決をしてきたのデスから!!」

そういつて切歌はPEACEをするのであった

響「そうなんだ!!」



## 復活の歌姫たち

ある部屋にて

「……………のはどうでしょうか……………」

「確かに……………歌姫たちの復活を望んでいる人たちはいますからね……………」

愛「お父さんたちの声だ」

そういつて愛は入ることにしたのであった

愛「お父さん 何の話をしているの？」

健介「ん？愛か」

緒川「こんにちは 愛さん」

愛「あ、緒川さん!!」

彼は緒川 慎次 かつてはツヴァイウイングのマネージャーをしており またなを忍者でもあったのだ

愛「でも一体何の話をしているのですか？」

健介「これだよ」

そういつて見せたのは

愛「ツヴァイウイングって……………確か」

緒川「奏さんと翼さんが組んでいたユニットですよ」

健介「二人とも俺と結婚を機に引退をしたんだよ……………それで復活をしようかと考えているんだよ」

愛「私 翼お母さんたちが歌っているのをみたことがない!!」

健介「そうだな……………せっかくだしな」

そういつて全員を集めるのであった

翼「いったいどうしたのですか？」

健介「ああ……………翼 奏 マリア……………久々に歌を歌ってみないか？」

翼「え……………」

奏「歌って……………」

マリア「まさか」

健介「そうだ……………ツヴァイウイング復活ライブアンド歌姫復活の

ね」

剣「ツヴァイウイング？」

茜「お母さん あたしそんな話知らないよ」

奏「あははは．．．話してなかったっけ？」

翼「ツヴァイウイング復活ですか」

マリア「私も歌姫復活ってことね．．．」

子どもたちは歌っているのをみたことがなかったからだ

奏「面白いじゃねーか．．．翼!!マリア!!やってやろうじゃねーか!!」

翼「うん!!」

マリア「私も燃えてきたわ!!」

健介「決まりだな 子どもたちも見に来るから 後俺もな」

三人「燃えてくるわ!!」

こうして ツヴァイウイングアンド歌姫復活コンサートは決まりその発表されるとすぐに予約が完売をするほどであった

剣「すごい．．．」

翼「ああ．．．私もびつくりをしているよ．．．まだこんなに皆に愛されているとは．．．」

こうして始まった 復活コンサートは準備を進めている 場所はかつて被害があつたあの場所で行う．．．

響「あそこか．．．」

花菜「確かお母さんが．．．」

響「うんでももう大丈夫だよ．．．」

そういつて笑うのであつた

健介たちも準備に大忙しであつた マリアたちも歌詞やダンスなどの復習などをしている

ステージなどもSONGがすべて負担を持ち準備を急がしているのだ

それから準備は進んでいき リハーサルも行われた．．．衣装なども色々と準備をされており あつという間に時間は過ぎていくのであつた

次の日 コンサート会場 健介たちはすでにお客さんとしてコンサート会場へ入っている

剣「これがコンサート……」

茜「お母さんが出るんだね……」

健介「そうだな……」

さて裏では

翼「……」

奏「なんだ緊張をしているのか翼」

翼「当たり前だよしかも健介さんや娘たちも見ているんだよ」

マリア「まあ私もだけどねw」

歌奈「あーうー」

マリア「よしよし 見ててね ママ 頑張ってくるから」

歌奈「きやきや!!」

緒川「皆さん 準備をお願いします!!」

三人「わかりました!!」

セレナ「頑張つてね姉さん 歌奈は見ておくから」

マリア「お願いね セレナ」

そういつて三人はステージへ行くのであった

さてこちらでは

響「さーてさて」

準備をする 響であった

花菜「お母さん何それ」

響「コンサートとはこういうのだよ」

そういつて全員に渡すのであった

健介「そろそろ始まるぞ」

そして歌が始まり……まず登場したのは ツヴァイウイ

ングだ!!

「うおおおおおおおおお!!」

「翼ちゃん……」

「奏ちゃん……!!」

つとツヴァイウイングは今でも人気らしい

つと歌を歌い　そこにマリアも参戦をするとさらにステージは盛り上がっているのだ

切歌「マリアーーーーー!!」

そういつて振っているのであった

ステージも盛り上がっていき

奏「久しぶりーーーーーみんなーーーーー」

つと奏が声をかけてきたのだ

奏「盛り上がっているかーーーーー」

「いええええええい!!」

奏「今日は楽しんでいってくれよーーーーー!!」

「いええええええええええい!!」

つと盛り上げていったのであった

そしていよいよ最後の曲はそう：あのコンサートでは歌えなかつ

た逆光フリーゲルを三人VERSIONで歌ったからであった

三人「今日はありがとう!!」

そういつて降りていった彼女たち

さてそのあととはというと

全員「お疲れ様でしたーーーーー」

つと子どもたちも参加をした　打ち上げパーティーであった

子どもたちはさすがにお酒を飲ませるわけにはいかなないので

ジュースで乾杯であった

翼「・・・・・・・・」

翼もお酒を飲んでる

健介「やれやれ」

素晴らしいながらも健介もお酒を飲むのであった

健介「でどうだった久々のステージは」

奏「ああ・・・気持ち良かったぜ」

マリア「ええ・・・とても」

翼「悪く・・・にやい・・・」

健介（ありや・・・翼　酔ってきているな・・・）

そう思い　健介は部屋へ連れて行くのであった

健介「全く お酒飲めないだろうが」

翼「……いいや二人きりになるのを待っていたのですよ」

健介「え？」

翼「……ありがとうございます 健介さん」

健介「ん？」

翼「私はもう一度歌いたいと思いました……まさかまたあの場所です立るとは思ってもなかったですから」

健介「そうか……」

翼「あと……もう一つおねがいをしてもいいですか？」

健介「なんだい？」

翼「……年を取ってしまいましたが……私を抱いてくれますか？」

健介「……当たり前だろ……」

そういつて翼とキスをして……お互いに……服を脱ぎ……一つになった……

次の日

健介「……」

健介は倉庫で何かをしている

調「健介 何をしているの？」

健介「ん？バイク作っているの」

調「バイク……って人型だよな」

健介「名前はオートバジンとって 仮面ライダーファイズが使っていたバイクだよ」

調「へー」

そういつて見ている

健介「だがまだ完成をしてないんだよな……」

調「そうなんだ……」

健介「……さて疲れたな」

そういつて健介は戻るのであった

愛「あーバイクだ」

ファイルス「どうやらバディが新しく作ったものだね」

愛「そうなんだ」

ファイル「これはファイズのオートバジンだ」

愛「オートバジン？」

ファイル「バイクから人型へ変形をして援護をするらしい」

愛「そうなんだ」

健介「ふぁー疲れた」

愛「あ、お父さん 昨日はお疲れ様」

健介「まあね・・・あの後から時々だけ歌うらしいからね」

そういつて結果を言うのであった

健介「まあ成功だねw」

愛「だね!!」

剣「母上 私にも歌を!!」

茜「あたしも!!」

翼「え・・・・・・・・・・」

奏「おいおい」

つと二人とも困っているのであったw

動きだす 大火炎軍団 新たな幹部現る

さてここは大火炎軍団の基地

セイレン「……………」

「セイレンの嬢ちゃん!!」

セイレン「その声は……あなたですか ワイレীগ」

ワイレীগ「おうよ!! フェニックスや武者が仮面ライダーに苦戦をしていると聞いてな!!」

セイレン「なるほど ならあなたが勝てるって言うのですね?」

ワイレীগ「おうよ!! いだよ!! ガングラー!!」

ガングラー「へい!! 旦那!!」

そういつて出てきたのであった

セイレン「いいでしょう ワイレীগあなたに命じます」

ワイレীগ「任せろ!!」

そういつてワイレীগは出るのであった

さて一方でSONG基地では

「嵐を呼ぶ 巨塔 キリンサイクロン!!」

ビルド「は!!」

左手の扇風機が回転をさせて

フォーゼ「うおおおおおおお!!」

フォーゼも負けじとスイッチを変える

「エアロON」

フォーゼ「どりやあああああ!!」

つと風は風で返すのであった

ビルド「お……やるわね 紗代」

フォーゼ「その勢いで!!」

ビルド「うえ!?!」

フォーゼ「メガトン頭突き!!」

そういつてずつきをお見舞いさせる

ビルド「いった!! この!!」

そういつて右手のキリン槍で攻撃をしたのだ

フォーゼ「がふ!!」

ビルド「こうなったら」

さらにフルボトルを変える

「ローズ ヘリコプター ベストマッチ!!」

ビルド「ビルドアップ!!」

「情熱の扇風機!・ローズコプター!・イエーイ!」

ビルド「は!!」

右手から黒い茨が放たれて フォーゼを巻き付ける

フォーゼ「え!?!」

ビルド「せい!!」

ローターブレードを外して切りつけたのであった

フォーゼ「げふん!!」

フィス「すごいねあそこ」

デイケイド「そうだな」

つと見ている二人であった

すると警報が鳴ったのであった

全員「!!」

全員が出動をしたのであった

デステイニー「あれか」

「おらおらおら!!」

そういつて銃を放ちながら攻撃をしているのだ

クリス「やめろ!!」

クリスはギアを構えて放ったのだ

ワルグーレ「おっと来たな」

フィス「あなたは何者なのですか!!」

ワルグーレ「俺はワルグーレ!! 大火炎軍団幹部だ!!」

ブレイブ「幹部か」

ワルグーレ「いでよ!! ガングラー!!」

ガングラー「どしん!!」

つと現れた

デイケイド「怪人が現れた」



ガングラ―「くらえ!!」

そうってガングラ―はガトリングを放ってきた

スナイプ「は!!」

スパイクがガシヤコンマグナムを連射をして相殺をする

フィス「ぐ!!」

デステイニー「うおおおおおおおおお!!」

なのは「フルバーストモード!!」

デステイニーは姿が変わり 砲撃をする

ワルグーレ「おらおらおら!!」

翼「ぐ!!」

奏「接近ができねえ!!」

ビルド「ビルドアツプ!!」

「未確認ジャングルハンター トラユーフォー」

ビルド「は!!」

ユーフォーをだして 空から飛び体当たりをする

ワルグーレ「ご!!」

フォーゼ「はああああああああああああああ!!」

「ハンマーON!!」

そういつて強力な一撃を入れる

ワルグーレ「ぐお!!」

フィス「は!!」

フィスはスコープオンランサーで切りつけていく

調「ティミ!!」

そういつてティミをもって放つ

ワルグーレ「どあ!!」

切歌「切りつけるデース!!」

そういつて鎌でダメージを与えていく

ワルグーレ「おのれ・・・やるじゃねーか」

そういつて構えていた銃をしまって

ワルグーレ「ガングラ―!!」

ガングラ―「へい!!」

そういつて何かを出したのだ  
ガングラ―「いでよ!!」

そういつてガングラ―は地面に叩いて 何かを出したのだ  
「……………」

マリア「ノイズですつて!!」

ガングラ―「いけ!!火炎ノイズ!!」

燃えるノイズが襲い掛かってきたのだ

ゴースト「きゃ!!」

フィス「熱い!!」

翼「なんて炎だ……………」

クリス「くそ先輩たちは離れてい…じゃなかった はなれてくだ  
さい!!」

そういつて砲撃をする

翼「……………クリス無理をしてないか？」

クリス「……………」

ビルド「そうだ!!」

「クジラ ジェット ベストマッチ!!」

ビルド「ビルドアップ!!」

「天かける ビックウエーブ クジラジェット!」

そういつて姿が変わり

ビルド「であああああああああ!!」

すると水が大量に現れて火炎ノイズの炎を消した

ガングラ―「!!」

響「今だ!!」

そういつて響の拳がノイズを貫いたのだ

デステイニー「はああああああああああああ!!」

なのは「魔法モード!!」

デステイニー「これで決めるぞ」

そういつて必殺アイコンをかざした

なのは「必殺!!スターライトブレイカー!!」

デステイニー「はああ……………であああああ!!」

砲撃が放たれて 命中をしたのであった  
ガングラー「ぐお!!」

ワルグーレ「ほう火炎ノイズの火炎を消す威力をもっているってことか・・・さて今日は撤退をするぜ」

そういつて銃を地面に放ち 消えたのであった

ブレイブ「逃げたか」

そういつて全員が変身を解除をした

セレナ「・・・・・・・・動いてきましたね 大火炎軍団も」

健介「ああ・・・・・・・・これからは油断ができないな・・・・・・・・そして火炎ノイズ・・・・・・・・」

翼「あの炎があつては私たちはやけどをしてしまうぐらいです」

切歌「やけどは嫌デース・・・・・・・・」

そういつて苦笑いをするのであった

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・」

マリア「健介どうしたの？」

健介「いやなんでもない・・・・・・・・」

その夜

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・」

デステイニードライバーが浮いている

はやて「どうしたんや？健介はん」

健介「はやてか・・・なーに今日の戦いを考えているんだ」

ヴィータ「戦いか？」

健介「そうだ奴の目的がさっぱりだ・・・・・・・・」

シグナム「確かにそうですね・・・・・・・・」

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・いずれにしても・・・・・・・・どうするかな」

そういつて健介は寝ることにしたのであった

## 現れた黒いパラドクス

あるショッピングセンター

健介「……………」

健介は乳母車に二人の娘 優子と歌奈と一緒に買い物をしている  
クリス マリアを待っているのだ

健介「長いね・・・お母さんたちは」

そういつて娘たちに笑顔で接していると・・・何者かが近づいて  
きている

健介「……………」

健介は顔を上げると パラドがいたのだ

健介「パラド？」

パラド「相田 健介 俺と戦え」

健介「なに……………」

するとパラドはゲームードライバーをつけて

「ステージセレクト!!」

するとステージを変えたのだ

健介「……………」

健介はデステイニードライバーを装着をして なのは フェイト  
を出した

健介「二人とも娘を頼む」

そしてカードを出した

はやて「ほなくて!!仮面ライダーデステイニー!!」

健介「変身!!」

仮面ライダーデステイニーだったのであった

パラドも黒いパラドクスになっている ダークパラドクスつて  
つけておこう

パラドクス「さーていくぞ」

そういつてガシャコンパラブレイガンが黒くなったのを俺に向け  
てきた

はやて「スラッシュブレイカー!!」

そういつて剣を装備して ダークパラドクスが放ってきた攻撃を受け止めた

ダークパラドクス「おらおら!!」

連続して攻撃をしてきたのだ

デステイニー「なら!!」

俺はいったん離れて 砲撃ユニットを出して 構えて攻撃をする

ダークパラドクス「は」

するとダークパラドクスはメダルを取り

「反射」

デステイニーが放った砲撃を返したのだ

デステイニー「ぐ!!」

ダークパラドクス「は!!」

ダークパラドクスのけりが俺に命中をした

デステイニー「なら!!」

俺はカードを出して

はやて「百獣モード!!」

そういつて回転をして 姿を変えたのだ

デステイニー「は!!」

接近をしてシャークショット タイガーアタックを放ち ダーク

パラドクスを吹き飛ばす

ダークパラドクス「は!!」

ダークパラドクスはパラブレイガンをガンモードにして デス

テイニーに放つ

デステイニー「であ!!」

フィンガーブレードで放った球を切っていくのだ

ダークパラドクス「ならば!!」

「ガシャット パーフエクトクリティカルフィニッシュ!!」

そういつて球を放ってきた

デステイニー「なら!!」

はやて「必殺!!スーパーアニマルハート!!」

デステイニー「おら!!」

砲撃をして ダークパラドクスに当たるのであった

ダークパラドクス「が!!」

デステイニー「さあどうする・・・お前の負けだ!!」

ダークパラドクス「まだだ!!」

そういつて立ち上がり ダークパラドクスはデステイニーのボ  
ディを殴ったのだ

デステイニー「ぐあ!!」

デステイニーは吹き飛ばされる

デステイニー「ぐ・・・」

はやて「大丈夫かいな!!」

デステイニー「なんとかな・・・」

そういつて立ち上がる

ダークパラドクス「・・・ち・・・時間切れか」

そういつてダークパラドクスは撤退をしたのであった

健介「・・・」

健介はデステイニードライバーを外し 変身を解除をした

クリス「健介!!」

マリア「なにがあつたの!!」

そういつて二人が駆け付けたのであった

健介「パラドに襲われたんだ」

二人「パラドに!!」

健介「なのは フェイトありがとうな」

そういつてベルトに戻す

クリス「でもよかった・・・健介や優子が無事で」

マリア「そうね・・・」

健介「だが・・・あのパラドはいつたい・・・」

そういつて考える健介であった  
一方で

パラド「・・・」

「失敗をしたようだな パラド」

パラド「あんたか・・・」

「……相田 健介は厄介みたいだな」

パラド「次はかつ」

そういつて消えたのであった

「せいぜい 私のために働いてもらうぞ パラド……そう私 マーベルのために!!」

なんとパラドを送ったのは かつて健介の父を殺した バクテスの生みの親マーベル博士であった

だが彼は健介によって倒されたはずだが……どうして彼は生きているのか

SONG基地

翼「パラドに襲われた……」

健介「だがあれは クロトのところや祥平のところとは違う……別の存在だったな……」

愛「お父さん……」

健介「大丈夫だって……」

そういいながら部屋を後にした健介であった

弦十郎「念のために健介の周りをガードをしよう」

そういつて指示を出す

健介は部屋へ戻ると何かを考えていたのであった

健介「いつたい誰が……パラドを送ったんだ……」

## 大激突

そして今 SONG基地

愛「大火炎軍団にダークパラドクス……………」

ファイル「バディが襲われたからな……………油断はできないぞ」

愛「わかっているよ ファイルス」

そういつてファイルに言う 愛であった

一方で

セイレン「……………さてどうするかしら……………フェニックス 武者

そしてワルグーレ……………今回の作戦は合同作戦はうまくいくかし

らw」

そういつて笑うのであった

そして警報が鳴る

全員「!!」

弦十郎「諸君 三か所で大火炎軍団が暴れているそうだ……………出動を頼む!!」

全員「了解!!」

そういつて三か所へ別れるが 健介は嫌な予感がしたため 待機をしている

健介「……………」

フェイト「健介さん どうして待機を」

健介「いや何か嫌な予感がな……………そう」

そういつて後ろを向いて

パラド「ばれていたか」

そういつてパラドが現れたのであった

健介「貴様がいることはわかっている感じだからな……………」

そういつてパラドはパラドクスへと変身したのであった

健介「変身!!」

仮面ライダーデステイニーへ変身したのであった

さて一方で三か所へ別れた 戦士たちは

ワルグーレ「待っていたぞ!!仮面ライダーども!!」



ワルグーレのところに行ったのは ビルド フォーゼ ゴースト  
響であつた

響「お前は!!ワルグーレ!!」

ワルグーレ「ふっはははは!!覚えていてうれしいぜ!!」  
そういつて銃を放つた

ゴースト「させません!!」

ガンガンセイバーではじかせる

ワルグーレ「ほう俺の攻撃を流したか……」

そういつて二丁の銃を構えて攻撃をする

フォーゼ「ぐ!!」

ビルド「ビルドアツプ!!」

キードラゴンになったビルドは左手の鎖で攻撃をする

ワルグーレ「は!!」

ワルグーレはそれを回避をして ビルドに銃の弾が当たつた

フォーゼ「お母さん!!」

ビルド「大丈夫よ!!」

そういつて蹴りを入れる

ワルグーレ「ぐ!!」

さて一方で

武者「……きたでござるな……」

そういつていたのは武者であつた

ブレイブ「お前は……」

武者「すでにこの人たちは避難を済ませた」

翼「どういふつもりだ」

武者「邪魔者がいたらお前たちは全力で戦えないと思っただけでこ

ぎる……」

そういつて刀を抜いたのだ

翼「くるぞ」

デイケイド「なら このライダーに」

そういつてカードを入れる

「カメンライド 鎧武」

デイケイド鎧武になって 大橙丸が装着される  
ブレイブ「これより幹部 武者を倒す!!」

奏「いくぜ!!」

そういつて構えるのであった

さてこちらでも

フェニックス「くつくつく・・・きたみたいだな」

フィス「フェニックス!!」

スナイプ「私たちの相手がフェニックスだったのね」

調「・・・・・・・・・・・・・・・・」

切歌「・・・・・・・・・・・・・・・・」

二人も武器を構えている

マリア「四人とも気を付けて!!」

マリアも短剣を装着をして構えるのであった

さて一方では

パラドクス「は!!」

デステイニー「ぐ!!」

ガシャコンパラブレイガンを受けて デステイニーはダメージを

受けてしまう

するとミサイルがたくさん飛んできたのだ

パラドクス「ぐあ!!」

デステイニー「クリスか!!」

クリス「正解だぜ!!」

そういつて現れたのは アメリスを装着をしてパワーアップをし

たクリスであった

クリス「さてうちの旦那をいじめているのはお前か?」

そういつてクロスボウを構えている

パラドクス「甘いんだよ!!」

そういつて回避をして 立ちあがる

デステイニー「逃がすか!!」

そういつてスラッシュブレイカーを構えて

なのは「必殺!!デステイニーブレイク!!」

デステイニー「でああああああああああ!!」

そういつて衝撃刃を飛ばすが

パラドクス「ふん!!」

「ノックアウトクリティカルフィニッシュ!!」

そういつてアックスモードで攻撃を受け流そうとしたが

クリス「おまけだ!!」

そういつてキャノン砲が放たれて パラドクスに命中をしたのだ

パラドクス「ぐあ!!」

パラドクスは二人の攻撃を受けて ライダーゲージが減っているのだ

パラドクス「ここは引くとするか」

そういつてパラドクスは撤退をしたのであった

デステイニー「・・・・・・・・・・・・・・・・」

クリス「いったみたいだな・・・・・・・・」

デステイニー「ああ・・・・・・・・だが奴はいつたい・・・・・・・・」

一方で

武者「ぬ・・・・・・・・」

攻撃を受けたようだ

四人「はあ・・・・・・・・はあ・・・・・・・・」

武者「ここは撤退をしよう」そういつて撤退をしたのであった

フェニックス「了解だ」

ワルグーレ「ち」

そういつて2人も撤退をしたのであった

フィス「いつたい・・・・・・・・」

愛たちは何かを考えるが 調べてみてもなにも出なかったのであった

基地にて

セレウス「さて準備はいいみたいですね・・・・・・・・」

武者「やつらの囷作戦に引つかかったおかげで作業が順調にできたのでござる」

フエニックス「そういうこつた」  
ワルグーレ「ち もつと楽しみたかつたが」  
セレウス「さて始めるとしましょう・・・最初で最後の大作戦  
日本大噴火作戦をね」

## 日本大噴火作戦

SONG 基地

弦十郎「・・・・・・・・・・・・・・・・」

健介「弦十郎さん いったいどうしたのですか!!」

弦十郎「今富士山から高エネルギー反応が発生をした」

翼「富士山から」

弦十郎「ああ出動をしてほしいのだ」

愛「怪しいですね」

そういつて健介たちは出動をしたのであった

ライオトレインの中

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・ふむ」

調「健介 どうしたの？」

健介「奴らの目的だ・・・・・・・・おそろくだが富士山を噴火させることで日本を轟沈させようとしているじゃないかな・・・・・・・・」

切歌「それって大変じゃないデースか!!」

健介「そうだ・・・・・・・・そこでだ・・・・・・・・おそろくヤツラは地下で何かをしようとしているのはわかっている・・・・・・・・そこでだ まず匣となるのが 俺 翼 奏 マリア クリス 仮面ライダーからは剣 真奈 紗代だ」

調「名前を呼ばれなかった人たちは」

健介「調 切歌 響 セレナ 愛 華菜 茜は奴らの地下にある装置を破壊をしてほしいのだ」

調「わかった・・・・・・・・でも」

健介「わかっている とりあえず作戦は決行をするぞ!!」

作戦が決まり ライオトレインは調たちを降ろして 出発をしたのであった

調「よし」

そういつて奏者はシンフォギアを 仮面ライダーたちは変身をする

さて匣をする健介たちも戦闘がいつでもできるように変身をして

いるのであった

デステイニー「さていくぞ!!ライオトレイン!!」

ライオトレイン「おうよ!!ライオビーム!!」

ライオビームが放たれて敵を吹き飛ばした

フェニックス「なんだ!!」

武者「仮面ライダー・・・やはりきたでござるな」

ワルグーレ「ふん!!俺は戦い足りないと思っていたからな!!くらいやがれ!!」

そういつてガトリングを放った

ライオトレイン「おっと!!」

ライオトレインはかわして デステイニーたちは降りる!!

デステイニー「はああああああああああああああああ!!」

アロンダイトを振り下ろして切り裂いたのだ

クリス「おらおらおら!!」

そういつてガトリングを連射をしていく

スナイプ「は!!」

ライフルモードにして 敵を撃ちぬいていく

ブレイブ「はああああああああああああああああ!!」

翼「参る!!」

そういつて切っていく

奏「さーて・・・」

マリア「いくわ!!」

そういつて槍と短剣で切っていく

フェニックス「くらいやがれ!!」

なのは「リフレクト!!」

そういつてバリアーをはってガードをした

武者「はああああああああああああああああ!!」

翼「なんの!!」

ワルグーレ「くらいやがれ!!」

クリス「遅いんだよ!!」

デステイニー(頼むぞ・・・皆)

「そういつて攻撃をするのであった  
さて一方で

切歌「富士山の地下にこんなところがあるなんて」  
調「おそらく敵が掘った穴だと思うよ」

ファイルス「そのとおりだ調　そこから強大なエネルギー反応が出て  
いる」

ビルド「ってことはこの先だね」

デイケイド「行きましょう」

そういつて中へ入っていく戦士たち

ゴースト「じめじめしてるー」

デイケイド「・・・そうね」

響「でも中へ入ったしね」

そういつてゴベルトを合体をした状態で言う響であった  
ファイルス「気を付けたまえ　何か　いるようだ」

そういつて全員が警戒をしながら見ると　敵の戦闘員だ  
デイケイド「何かを運んでいるようですね」

ゴースト「もしかしてあの先に何かあるってことかな？」

フィス「きつとそうだよ」

そういつて彼らの後を追い欠けることにしたのであった  
一方外では!! 激しい戦闘をしているのであった

フェニックス「くらいやがれ!! 俺様のバーニングをな!!」  
そういつて炎を飛ばしてきたのだ

ブレイブ「甘い!!」

ブレイブはガシャコンソードで炎の弾をふさいだ

スナイプ「これはお返し!!」

そういつてガシャコンマグナムを放つが交わされた

フェニックス「おつとあぶね!!」

フォーゼ「ライダーロケットパンチ!!」

武者「ふん!!」

武者はフォーゼのロケットモジュールを刀ではじかせた  
翼「はああああああああああああああああ!!」

翼はアームドギアの剣で攻撃をするが武者はそれをはじいたりしている

クリス「くらえ!!」

そういつてミサイルをとばす

武者「ぐお!!」

ワルグーレ「くらいやがれ!!」

マリア「甘いわよ!!」

奏「どりゃ!!」

槍がワルグーレの銃を壊す

ワルグーレ「これだけが俺の武器だと思うなよ!!」

そういつてさらに銃をだしたのだ

デステイニー「はああああああああああああああああ!!」

肩のフラッシュエッジIIを投げる

ワルグーレ「ぐ!!」

さて一方で中へはいった調たちは戦闘員たちの後をおつて謎の部

屋へ入る!!

調「あれが……」

ビルド「間違いない……あれが噴火装置だよ」

フィス「とりあえず……」

そういつて全員が構えて

全員「うおおおおおおお!!」

戦闘員たち「どあ!!仮面ライダー!!」

そういつて追撃をしようとしたが

フィス「遅い!!」

フィルス「イーグルライフル!!」

イーグルモードになってイーグルライフルで攻撃をしていく

調「はああああああああああああああ!!」

切歌「行くデース!!」

そういつて2人は武器を構えて切っていくのだ

ビルド「は!!」

ドリルクラッシャーで攻撃をして 切りつけていく



ゴースト「いきます!!」

ガンガンセイバーを構えて攻撃をして切っていく

「カメンライド アギト」

デイケイド「は!!」

仮面ライダーアギトになったデイケイドは殴りながら 後ろから襲ってきた敵を蹴りを入れる

響「どりゃあああああああ!!」

右手の装甲が展開をして 炎を纏った拳で相手を吹き飛ばしていく

パラドクス「面白いことをしているな」

調「お前が・・・黒いパラドクス」

そういつて構えるのであった

## ダークパラドクスの目的

ダークパラドクス「きーて」

「デュアルガシヤット!!キメワザ!!ノックアウトクリティカルフィニッシュ!!」

ダークパラドクス「は!!」

ダークパラドクスが放った ガシヤコンパレイガンアックス

モードの斬撃が噴火装置を破壊をしたのだ

全員「!!」

調「何のつもり?」

ダークパラドクス「さあな・・・さて俺は撤退をするぜ」

そういつて消えるのであった

調「さて!!」

切歌「調!!今は脱出をするのデース!!」

調「そうだね」

ビルド「・・・・・・・・・・・・・・・・」

一方で外でも

フェニックス「な!!」

武者「む!!」

ワルギーレ「装置が破壊されただ!!」

そういつて外でも爆発が確認をされたのだ

デステイニー「調たちがやったのか?」

翼「にしては速すぎるような・・・・」

フェニックス「やむを得ん 撤退をする!!」

そういつて撤退をしたのであった

デステイニー「いったい」

フィス「お父さん!!」

そこにフィスたちが駆けつけたのだ

デステイニー「愛たち いったい破壊をしたのか?」

切歌「それが・・・・・・・・」

基地へ戻る途中

健介「なに パラドクスが破壊をしていった？」

調「そう・・・いきなり私たちの前に現れたと思ったら装置を破壊をしていったの」

健介「いったい何が目的なのか・・・わからないな・・・」

そういつて健介は考えるのであった

一方で基地へ帰還をしたフェニックスたち

フェニックス「セイレンさま 帰投を」

パラド「おう遅かったな」

武者「貴様!!何者だ!!」

パラド「悪いがお前らの基地は俺がいただいた」

ワルギーレ「貴様!!セイレンはどうした!!」

パラド「あーあいつなら 俺が支配をしてやったぜ？」

三人「!!」

セイレン「・・・」

パラド「MAX大変身」

「パーフェクトノックアウトーーー」

パラドクス「さーてお前らも侵略させてもらうぜ」

そういつてガシャコンバグヴァイザーを出したのであった

すると何かを三人に放ったのだ

フェニックス「ぐああああああああああああああああああ  
!!」

武者「む・・・無念・・・」

ワルギーレ「ちくしょーーー!!」

そういつて三人は倒れたのであった

パラドクス「さーて立て」

そういつて三人は立ちあがるのであった

パラドクス「お前たちは誰の部下だ」

三人「パラドさまの部下です」

パラドクス「いや俺はパラドじゃない」

すると変身が解除をされて 一人の男性になった

「お前たちはこの私・・・壇 黎斗神のな!!」

そういつて一人の男 壇 黎斗神と名乗る男であった  
さてSONGへ戻った 健介たちは

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・」

健介は 祥平からもらった ゲーマードライバー そしてガ  
シヤットを見ている

改良をしており 誰でも装着ができるようにしているが 誰も使  
う人がいないからだ

健介「これを祥平に返しても・・・・・・・・大丈夫かな」

そういいながらも それを大事にしまう 友が使っていたものだ  
からだ

健介「だがいずれ使うかもしれないな・・・・・・・・」

デステイニードライバーが空中に浮かんで光っている

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・」

健介は今回の事件を考えていたのだ

愛「お父さん」

健介「愛にファイルか」

ファイル「バディ 今回の事件 なにか裏があると考えているのか  
い？」

健介「そうだ パラドクスがどうして機械を破壊をしたのか……

そして奴は一体何者なのか・・・・・・・・」

そういいながら健介は考えるのであった

ファイル「いずれにしても 嫌な感じはしているってこと……だ  
な」

健介「そうだ・・・・・・・・」

愛「お父さん」

健介「心配をするな お父さんはもうどこへも消えないから」

そういつて愛の頭を撫でる健介であった

なのは「健介さん・・・・・・・・」

なのはあの感じを思い出した……かつての自身の父を

なのは「・・・・・・・・何も・・・・・・・・」

守れなかった・・・・・・・・魔力があっても・・・・・・・・守れな

かった・・・父母 兄弟 姉 そして友達・・・なのはやフェイトたちは失ってしまった・・・

健介「・・・・・・・・心配をするな お前たちだって 俺の大事な仲間だ」

そういつてデステイニードライバーをなでるのであった

健介「・・・・・・・・さて」

健介は部屋を出ようとしたら 何かを感じたのだ

健介「祥平のゲームマードライバー？」

健介は祥平のゲームマードライバーが光ったように見えたのであった

健介「気のせいかな」

そういつて健介たちは部屋を出るのであった

黎斗「さて・・・・・・・・」

黎斗は新たな何かを作ろうとしていたのだ

黎斗「さてみせてもらうぞ この世界の仮面ライダーの力をな」

そういつてバクスターを出現させるのであった

## 現れた 仮面ライダーゲーム

黎斗「さて……行くがいい」

そういつて黎斗はリボルバクスターとソルティバクスターを出して出撃させたのだ

一方でSONGでは

警報がなり 仮面ライダーたちは出動をしたのであった

デイケイド「確か この辺だったよね？」

ブレイブ「ああ……」

スナイプ「あれだ!!」

リボル「おらおらおら!!」

そういつて右手のマシンガンで攻撃をしている

ソルティ「おや仮面ライダーって!!」

リボル「なんでスナイプがここにいるんだ!？」

スナイプ「私のこと？」

そういつて聞くのであった

フォーゼ「とりあえず!!」

「ランチャーON」

フォーゼ「ファイア!!」

そういつてランチャーが放たれたのだ

二人「どああああああ!!」

フィス「いくよーローロー!!」

フィスはイーグルモードになり イーグルライフルで攻撃をする

ソルティ「おのれ……」

ブレイブ「は!!」

ブレイブは接近をしてガシャコンソードで切りつけていく

ソルティ「げ!!ブレイブまでいるのかよ」

デイケイド「なんだこいつらは」

そういいながらガンモードでリボルバクスターに攻撃をしているのだ

リボル「仮面ライダー多すぎるだろ!!」

「ダイカイガン!!ビリーザ・キッド オメガインパクト!!」

ゴースト「えい!!」

ガンガンセイバーライフルモードにして オメガインパクトを放ったのだ

二人「どああああああ!!」

ブレイブ「いくぞ!!」

スナイプ「これで!!」

「ガシャット!!キメワザ!!タドル(バンバン)クリティカルストライク!!」

二人はクリティカルストライクで二人のバグスターを蹴飛ばしたのだ

二人「どああああああ!!」

そういつてバグスターを撃破したのであつた

ブレイブ「完了をしました」

フィス「でもなんでバグスターが?」

「それは私が召還をしたからさ」

全員「!!」

そこには一人の男性が立っている

フィス「あなたは」

黎斗「私は 壇 黎斗神・・・」

そういつてガシャットを出した

ゴースト「あれつて!!」

デイケイド「マイティアクションエックス・・・でも」

黎斗「グレード0・・・変身!!」

「がちやん!!レベルアップ マイティジャンプ!マイティキック!マイティ——アクション——エックス」

そういつて仮面ライダー ゲンム レベル0になったのだ

フィルス「気を付けたまえ!!彼は敵だ!!」

ゲンム「ふあ!!」

ゲンムはガシャコンブレイカーを装備して攻撃をしてきたのだ

ブレイブ「あなたは一体何が目的なんですか!!」

ゲンム「しれたことよ・・・神の才能さ」

スナイプ「わけのわからないことを!!」

そういつてガシヤコンマグナムを撃つ

ゲンム「ふあ!!」

ゲンムはそれをかわした

ゲンム「君たちのガシヤットは回収させてもらおうよ・・・私以外がそんなガシヤットを作られたのがたまらん!!」

ブレイブ「ふぎけるな!!」

スナイプ「パパが作ったのを馬鹿にするな!!」

フォーゼ「その通りよ!!」

そういつてフォーゼはライダードリルキックをお見舞いさせたのだ

ゲンム「ぐ!!」

「オオメダマ!!」

ゴースト「えい!!」

オレ魂に戻ったゴーストのオオメダマが発動をしてゲンムに命中をしたのだ

ゲンム「ぐ・・・さすがにこの人数相手は・・・」

フィス「だあああああああああああ!!」

フィスはシャークモードになってシャークセイバーで切りつけたのだ

ゲンム「ぐあああああああああああああああああああ!!」

デイケイド「逃がさない!!」

そういつてライドブツカーガンモードからカードを出して

「アタックライド ブラスト!!」

デイケイド「は!!」

ゲンム「ぐあ!!」

ゴースト「どうしますか!!」

ゲンム「やむを得まい・・・」

そういつて撤退をしたのであった



ブレイブ「いったいあの人は何者なのでしょうか？」

スナイプ「あの姿って・・・前にお父さんと一緒に戦っていたクロトさんが変身をしていたのだよね？」

フィス「うん・・・とりあえずもどってお父さんに報告をしよう」

そういつて基地へ帰還をするのであった

フィルス（ふーむ・・・あのゲンム・・・いったい何者だろうか・・・）

そう考えている フィルスであった

そして基地へ戻った愛たち

健介「お帰り 愛たち」

愛「お父さん 実は」

愛たちは戦ったゲンムのことを話したのだ

健介「ゲンムね・・・フィルス」

フィルス「わかった」

そういつてフィルスが出した映像を見ているのであった

健介「・・・」

フィルス「以上だバディ」

健介「なるほどね・・・これはクロトが変身をしたゲンムじゃないね」

茜「つてことは偽物か!!」

健介「どうだろうか・・・それはわからないが・・・いずれにしても油断はできないさ」

剣「そうですね・・・それに奴があゝの怪人たちを出した可能性もありますしね」

健介「何よりも大火炎軍団が動いていないのもある・・・」

真奈「そういえば動いてないね」

紗代「いったい何があったんだろう？」

花菜「でも油断はできないよね・・・お父さん」

健介「花菜の言う通りだ・・・皆も警戒をしておくことを言っておく」

そういつて健介は考えながら部屋へ行く  
デステイニードライバーが浮いている

健介「ん どうしたんだ」

するとなのはたちが出てきたのだ

なのは「健介さん 大変です!!」

健介「何が大変なんだい？」

フェイト「前に祥平つて人からゲームードライバーとガシヤットを  
もらったでしょ？」

健介「ああ確かそれは大切にしてしまっているはずだが……」  
はやて「とにかくきてな!!」

そういつてその場所へ行くと

健介「……ない……なくなっているだと……」

そう 保管をしてあった ゲームードライバーそしてガシヤット  
がなくなっているからだ

健介「……」

あれからゲームードライバーとガシヤットはデータをとった後  
は大切に保管をしていた……だがとられたのに警報も何も鳴つて  
いない

健介「いつたい……」

## 行く場所

響「健介さん」

健介「響かい どうしたんだい？」

響「いいえ ただ暇だなって思いました」

健介「そうだな……敵が動かないのが不思議でたまらないんだ……」

響「そうですよね……」

健介「……ちよつと娘たちとある場所へ行つてくるよ」

響「ある場所？」

健介「ああ……報告を兼ねてね」

そういつて健介は愛たちを連れてある場所へ連れて行くのであった

ライオトレインの中

愛「お父さん 一体どこに行くのですか？」

健介「それはついてからお楽しみに」

そういつて健介は言うのであった

剣「いったい父上はどこに連れて行くのでしょうか？」

茜「さあ私もわからない……」

真奈「私も……」

紗代「ついたららのお楽しみにってことでしょうか？」

花菜「楽しみ……」

ライオトレイン「まもなく到着をするぜ？」

ライオトレインのスピードが遅くなっていき 健介たちは降りる

愛「……え……」

剣「こつて……」

そして健介は墓のところへ行く

健介「父さん……」

真奈「お父さん……こつて」

健介「……ここはお前たちのおじいさんが眠つて

いる場所だよ」

茜「おじいちゃんが・・・・・・・・・・」

健介「そう 俺の父・・・・・・・・お前たちのおじいさんは昔 お父さんが倒したバクテスに殺されたんだ・・・・・・・・母さんを守るために」

子どもたち「!!」

健介「本当はすぐにでも連れて行きたかったが・・・・・・・・まあ俺が色々あったからねw」

剣「・・・・・・・・父上 あれって」

健介「前までうちがあつた場所だ」

全員「!!」

健介「さあ愛たちもおじいさんの墓に」

愛「わかった」

そういつて線香を立てて 手を合わせる

SONG 墓地

弦十郎「そうか・・・・・・・・健介はあの場所へ連れていったんだな」

翼「はい・・・・・・・・」

未来「兄さん」

麗菜「・・・・・・・・」

未来「お母さん」

麗菜「大丈夫よ 未来・・・・・・・・あの人はいつもそうよ・・・・・・・・私を守るために・・・・・・・・うう・・・・・・・・」

お墓

健介「さて戻るとしよう・・・・・・・・お父さん・・・・・・・・これが俺の娘ですよ」

そういつて健介はお墓にそう報告をすると

「・・・・・・・・そうか・・・・・・・・俺の孫か・・・・・・・・大事に育てろよ?」

健介「!!」

愛「お父さん?」

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・何でもないよ(ありがたい父さん)」

そういつて健介たちはライオトレインに再び乗り込む



そういつて笑うのであった

火炎弾がダンブダンブに命中をしたのだ

ダンブダンブ「どああああああ!!」

「ダンブダンブさまが吹き飛ばされた!!」

ダンブダンブ「ええいだれだ!!俺様を吹き飛ばしたのは!!」

健介「なんだあれ」

ドラグーン「知らんな」

ダンブダンブ「そうか 貴様が仮面ライダーだな!!」

健介「そうだが？」

ダンブダンブ「この俺 大火炎軍団の一人 ダンブダンブさまが相手をしてやるわ!!」

健介「そうか……ならこの俺が相手をしてやるよ」

そういつてデステイニードライバーを装着する

健介（今日は誰の声だ？）

そういつてカードを出す

「仮面ライダーデステイニー!!」

健介「誰？」

「あ、はじめまして!!高町 ヴィヴィオです!!」

健介「あ、これはご丁寧に相田 健介です」

そういつて挨拶をしまったのであった

なのは「ちよつと!!二人とも!!挨拶をしている場合じゃないでしょ!!」

「そうですよ ヴィヴィオさん!!」

ヴィヴィオ「あ、つつい挨拶をしちゃったw」

「全く……」

健介「えつと聞いたことがない声が聞こえてくるのですが」

「あ、私はギンガ ナカジマといます」

「私はアインハルトです」

健介「あ……どうも 相田 健介です」

ダンブダンブ「ごらーーーーー貴様!!」

健介「あ……忘れていた」

そういつてデステイニーに変身をしたのであった  
ダンプダンプ「やつと変身をしたわ!!いくぞ!!」

ダンプダンプは棍棒をもって攻撃をしてきた

デステイニー「は!!」

デステイニーはライフルで攻撃をする

ダンプダンプ「ふん!!」

ダンプダンプは棍棒でライフルの弾を回転させてはじいたのだ

「くらえ!!」

戦闘員が攻撃してきた

デステイニー「おっと」

デステイニーはかわして 蹴りを入れる

「どああああああ!!」

ボーリングのように当たり 倒されていくのであった

デステイニー「くらえ!!」

高エネルギー砲をだして 戦闘員たちを薙ぎ払ったのであった

ダンプダンプ「これでもくらえ!!」

ダンプダンプは火炎弾を飛ばした

デステイニー「!!」

ライフルが破壊されてしまったのだ

デステイニー「ちい」

ダンプダンプ「であああああああああ!!」

ダンプダンプは棍棒で攻撃をしてきたのだ

デステイニー「なら!!」

デステイニーは両手のパルマフィオキーナ掌ビーム砲でこん棒を

受け止めたのだ

ダンプダンプ「ぐお!!」

デステイニー「はああああああああああああああああ!!」

そしてビーム砲をだして こん棒を壊したのであった

ダンプダンプ「な!!俺のこん棒が!!」

デステイニー「さーていくぜ!!」

ヴィヴィオ「スラッシュブレイカー!!」

そういつて剣を装備をして 攻撃をする  
ダンブダンブ「おのれ!!」

ダンブダンブは攻撃をするが デステイニーは素早い動きでかわ  
していき 切りつけていく

ダンブダンブ「ぐお!!」

デステイニー「は!!」

さらに連続で切りつけていくのであった

ダンブダンブ「がは!!」

デステイニー「さてこれでとどめだ!!」

そういつて必殺のカードを出した

ヴィヴィオ「必殺!! デステイニーブレイザー!!」

背中の翼を開いて デステイニーは空を飛ぶ

デステイニー「であああああああああ!!」

そして上空から一気に降りてきて そのままダンブダンブを切り

裂いたのだ

ダンブダンブ「ぎやああああああああああああああああああ

ああ!!

ダンブダンブは攻撃を受けて爆散をしたのであった

すると燃える炎が発生をしたのだ

デステイニー「フェニックス」

フェニックス「仮面ライダー抹殺をする」

そういつて大剣を構えてこうげきをしてきたのだ

デステイニー「なんか普段と違う気が」

そーいいながらフォームカードを出す

ヴィヴィオ「ミラー」

緑色になつていき ミラーモードとなつたのだ

フェニックス「ぐあああああああああああああああああああ

!!

フェニックスは攻撃をしてきたが 攻撃が単調になっているのだ

デステイニー「……………」

デステイニーはなんかフェニックスがいつもと違う気がしてたま



らないのだ

デステイニー「いったいどうしたんだ!!フェニックス!!」

フェニックス「仮面ライダーは倒す敵」

そういつて攻撃をするのだ

デステイニー「やむを得まい ミラーナイフ!!」

そういつて光のナイフを飛ばす

フェニックス「!!」

フェニックスはそれでも攻撃をしてくる

デステイニー「ぐあ!!」

デステイニーのボディをフェニックスの剣が命中をしたのだ

デステイニー「スライサーH!!」

そういつてカッター光線を飛ばして フェニックスにダメージを与えた

フェニックス「ぐ……ぐぐぐううう」

デステイニー「なんか知らんが いまだ!!」

そういつて必殺のカードを前に出す

ヴィヴィオ「必殺!!シルバークロス!!」

デステイニー「であ!!」

シルバークロスがフェニックスに命中をしたのだ

フェニックス「ぐ……つて……仮面ライダー?……俺は

いったい……」

デステイニー「覚えてないのか」

フェニックス「ああ……何も覚えてない……確か 基地へ戻った後に……そうだ!!パラドクスと名乗るやつに!!セイレンたちが!!」

デステイニー「なに……パラドクスだと!!」

フェニックス「そうだ……それで俺は……」

そういつてフェニックスは思い出したかのように

デステイニー「そういうことか……」

フェニックス「こうもしてられない!!基地へ戻って奴らを」

デステイニー「やめた方がいい……お前たちがやられたんだろ

？」

フェニックス「だったな……くそ!!」

デステイニー「……………」

デステイニーは少し考えると

デステイニー「ならお前らの基地の案内をしてくれないか？」

フェニックス「……………本当だったら断るところだ……

だが……頼む 俺の仲間たちを助けてくれ!!」

デステイニー「わかったただし 条件がある」

フェニックス「条件？」

デステイニー「そうだ……助けたら大人しく地球侵略をやめてほしい」

フェニックス「……………わかった その条件を乗る」

デステイニー「交渉成功だな」

## 燃え盛る 勇気 フェニックスモード!!

健介 side

今 俺たちはフェニックスの案内で 奴らの基地へ向かっていたのだ

フェニックス「あそこだ」

翼「ウソを言ってるじゃないだろうか？」

フェニックス「俺を疑っているのはわかっているが……. . . . . できれば かりは本当だ」

そういつていると 攻撃が飛んできたのだ!!

全員「!!」

ワルギーレ「. . . . .」

フェニックス「ワルギーレ!!」

すると. . . . .

デステイニー「ちい!!」

剣を受け止めたのだ

武者「. . . . .」

フェニックス「武者まで. . . . .」

二体が現れたのだ

デステイニー「愛たちは先に行ってくれ!!」

フェイス「でも!!」

デステイニー「奴らの基地を叩くチャンス. . . . . お前らならでき  
る!!」

フェイス「お父さん. . . . .」

調「わかった. . . . .でも健介 生きて帰ってきて」

デステイニー「ああ. . . . .約束!!」

そういつて調たちは先へ急ぐのであった

フェニックス「いいのかよ」

デステイニー「あああいつらだって戦い抜いてきたんだ. . . . .」

そういつてカードを出す

フェニックス「だったら 武者を任せるぜ」

デステイニー「なら俺は」

フェイト「レスキューモード!!」

「そういつて姿が変わる」

デステイニー「フェイトなのね」

フェイト「どうしたの?」

デステイニー「いや さて」

「そういつて武器アイコンカードを出す」

フェイト「レスキューブレイカー!!」

「そういつて出てきた武器をとる」

デステイニー「は!!」

ブレイクアックスにして攻撃をする

武者「……………」

武者は剣でブレイクアックスを受け止めたのだ

フェニックス「くらいな!!バーニングサラマンダー!!」

「そういつて火炎弾を作りだして ワルギーレに放ったのだ」

ワルギーレは銃でバーニングサラマンダーを相殺をしたのだ

デステイニー「なら!!」

フェイト「レスキューターボ」

デステイニー「ハイパーアップ!!」

「そういつて左肩に装着されたのだ」

武者は攻撃をしてきたが デステイニーは左手の盾でこうげきを

ふさいで 左肩のターボの回転させて風を起こして 吹き飛ばした

のだ

武者「!!」

フェニックス「ちい!!」

デステイニー「大丈夫か?」

ワルギーレはガトリングでフェニックスを攻撃をしたのであつた

フェニックス「なあ健介 俺の賭けにのらないか?」

デステイニー「かけ?」

フェニックス「俺の力をあんたに渡すんだよ」

デステイニー「まさか?」

フェニックス「合体だ!!」

デステイニー「いいだろう・・・その賭け 乗ってやるぜ!!」  
するとカードが光りだして 燃え盛る翼のマークであった

そしてデステイニーはそのカードをドライバーの前に出す

フェイト「フェニックス!!」

するとフェニックスがデステイニーに装着されていくのであった

デステイニー「ぐ・・・ぐああああああああああああああ

ああああ!!」

そして背中の翼が開いて 燃え盛る炎のマークが発生をして ボ

デイも赤くなる

デステイニー バーニングフェニックスモードになったのだ

デステイニー「ふん!!」

武器アイコンカードを出して 前に出す

フェイト「バーニングセイバー!!」

炎の剣が発生をして デステイニーはつかむ

ワルギーレは攻撃をしてきた

デステイニー「おっと」

背中の燃え盛る 翼で空を飛ぶ

武者「・・・・・・・・・・・・・・・・」

武者も空を飛び攻撃をしてきたが

デステイニー「であ!!」

バーニングセイバーで受け止めて そのまま切ったのだ

武者「!!」

ワルギーレ「・・・・・・・・・・・・・・・・」

ワルギーレはガトリングで攻撃をするが デステイニーはそれを

もかわして ガトリングを切ったのだ

デステイニー「これで決める!!」

そういつて必殺アイコンを出して

フェイト「必殺!!バーニングブレイカー!!」

デステイニー「とう!!」

デステイニーは上空から回転蹴りを噛ましたのだ

二人は吹き飛び 壁に激突をしたのであった

武者「……………ぐ……………」

ワルギーレ「俺たちは……………いつたい……………」

フェニックス（二人とも!!どうやら目を覚ましたな!!）

武者「フェニックス殿？」

デステイニーは説明をしたのであった

ワルギーレ「なるほどな……………くそつたれ」

武者「健介殿 我らも協力をさせてください……………奴に一太刀嘯ま

さないと腹の怒りが収まらないでござる」

デステイニー「わかった共に行こう」

## グレートビリオン

デステイニーたちが武者たちと戦っている時

ファイルス「この先に反応がある!!」

フィス「であああああああああ!!」

私は蹴り飛ばしてドアを破壊した

ブレイブ「あなたね……」

つと剣が言うが 大丈夫だ問題ない(・ω・)です!!

「よく来た……」

そういつて壇 黎斗 「壇 黎斗神だ!!」どっちでもいいでしょう

が

スナイプ「あなたがこの事件を起こしているのですか!!」

黎斗神「いかにも」

そういつてゲーマードライバーを装着をして 何かのガシヤットを出した

調「あれって」

黎斗神「グレードビリオン……変身!!」

「マキシمامガシヤット!!ゴツドマキシمامパワーX!!」

そういつて黒いマキシمامマイティを装着をしたのだ

翼「あれって……」

クリス「クロトって奴が装着をしていたやつにそっくりだ!!」

そういつて全員がびっくりをしている

ゲンム「ふっはっはっはっはっはっはっはっは!!」

つと笑い 攻撃をしてきたのだ

ファイルス「来るぞ!!」

響「だああああああああああ!!」

響お母さんは接近をして ナツクルを放つが

ゲンム「ふん!!」

彼はそれをはじいて 響お母さんを蹴り飛ばした

響「が!!」

ゴースト「お母さんを!!」

「開眼 ノブナガ!! 我の生き様 桶狭間!!」

ゴーストノブナガ魂になって ガンガンハンドを構える

「ダイカイガン ノブナガ!! オメガスパーク!!」

ゴースト「だああああああああああ!!」

そういつて放つが

ゲムム「ふん」

するとゲムムはペンみたいなのを出して バリアーを張ったのだ

スナイプ「バリアー!!」

ゲムム「コズミックパワー発動!!」

フォーゼ「な!!」

すると上空から隕石がたくさん降ってきたのだ

全員「ぐああああああああああああああああああ!!」

翼「なんだあのゲーマーは」

調「隕石とかバリアーとか……」

ゲムム「ふっはっはっはっはっはっは!! このゲーマーは私

の考えた通りのゲームができるようになっていたのだ!!」

フォーゼ「もしかして先ほどのも」

ゲムム「そうだ 攻撃を通さないようにしただけさ」

ブレイブ「なんて奴だ」

そういつてガシヤットを出す

ブレイブ「第100戦術」

スナイプ「第50シユューティング!!」

そういつてレガシーゲーマー シュミレーシヨンゲーマーを装着

をしたのだ

ゴースト「なら!!」

「無限進化!! 超カイガン!! 無限!!」

「ファイナルカメンライド デイケイド!!」

「コズミックON!!」

そういつて仮面ライダーたちは最強の姿になったのだ

ブレイブ「はああああああああああああ!!」

スナイプ「くらいなさい!!」



そういつて砲撃をして ガシヤコンソードで切りかかるが  
ゲンム「無駄さ」

透明化

ブレイブ「消えた………」

デイケイド「剣 後ろだ!!」

ゲンム「は!!」

ブレイブ「が!!」

ゲンムの拳がブレイブのおなかに当たる

フォーゼ「この!!」

バリズンソードを構えて攻撃をする

「イノチダイカイガン!!シンネンインパクト!!」

ゴースト「ええい!!」

そういつて放つも

ゲンム「ふん!!」

神らしく上空へ浮かびかわしたのだ

デイケイド「ちい!!」

「クウガ カメンライド アルティメット」

隣にクウガ アルティメットフォームが現れた

「ファイナルアタックライド クククククウガ!!」

デイケイド「は!!」

パイオキネシスを放つ

ゲンム「ちい」

スナイプ「そこよ!!」

そういつて砲撃をして

クリス「続いて食らいな!!」

そういつてクリスは起き上がり ミサイルを放ったのだ

ゲンム「私に傷を付けただど!!」

フィス「だああああああああああ!!」

さらにフィスが接近をして ボディを切りつけていく

ゲンム「貴様!!」

そういつて殴ったのだが

ゲンム「なに!？」

そうファイルを殴ったが

ファイル「残念だったね 私はバディがつくったシステム……  
このような拳では壊れないようになっていいるのだ!!」

そういつてファイルは蹴りを入れて 着地をした

ゲンム「おのれ!!」

そういつてゲンムは何かをしようとしたとき

何かがゲンムに当たったのだ

ゲンム「？」

見ると デステイニーがいたのだが……姿がいつものと違うの  
だ

デステイニー「デステイニーワルギーレモード!!」

そういつてもっていた スナイパーライフルを持ちながら降りて  
きたのだ

調「健介!!」

デステイニー「お待ちせ」

ゲンム「貴様!!あいつらと戦っていただろ!!」

(あ?誰が戦っていただつて?)

そういつてデステイニーの目が光ったのであった

切歌「健介?」

デステイニー「今 俺の姿はこいつらの力を借りているんだよ」

そういつてカードを出して

シグナム「無双武者モード!!」

そういつて鎧が装着をされていき 剣が発生をする

武者(……拙者たちを操った罪……貴様を切りつけることで

味わせてやるでござる!!)

そういつてデステイニーは剣を構える

ゲンム「ふん……たかが」

つと言った瞬間

デステイニーは剣をしまっていた

ゲンム「ぐ!!ぐああああああああああああああああああ!!」

するとベルトのガシヤットがバチバチつと音を立てているのだ  
ゲムム「ぐ!!」

するとゲムムのマキシマムゲーマーが解除をされたのだ

デステイニー「・・・・・・・・・・・・・・・・」

ゲムム「な・・・ば・・・馬鹿な・・・なぜゲーマーが解けたのだ」

全員がびっくりをしているからだ

デステイニー「簡単さ」

そういつてデステイニーは弾を出したのだ

ゲムム「!!」

デステイニー「アンタの中にあつた 天才ゲーマーと才能を消させてもらった」

そういつて説明をしたのだ

ゲムム「なに!!」

デステイニー「言つてしまえば リクロミングプログラムを撃つたのさ さつきの弾だよ」

ゲムム「さつきののか!!」

そういつて言う

デステイニー「・・・・・・・・・・・・・・・・」

そういつて構える

ゲムム「おのれおのれおのれおのれ!!」

そういつて構えるが

デステイニー「・・・・・・・・・・・・・・・・!!」

みると時空の穴が広がっているのだ!!

ゲムム「ふっへっはっはっは!!この世界を壊してくれるわ!!」

フェイス「このままじゃ!!」

デステイニー「・・・・・・・・・・愛 皆を頼むぞ」

そういつてデステイニーは何かをする

ゲムム「な!!貴様 何をする気だ!!」

なんとデステイニーがゲムムをつかみ 時空の穴に向かっていくのだ



ゲンム「ぐああああああああああああああああああ!!」  
フェニックス（・・・あばよ・・・アクエス）

健介たちが脱出をすると 基地は爆発をしたのであった

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・」

病院

アクエス「・・・・・・・・・・・・・・・・うう・・・・・・・・」

アクエスは目を覚ましたのであった

健介「目を覚ましたようだね アクエス・・・いいや 冴島 麗香

さん」

麗香「・・・・・・・・・・・・調べていたのね・・・・・・・・私は・・・・・・・・」

健介「・・・・・・・・・・・・」

健介はすつと出したのだ

麗香「!!」

麗香はすぐにわかったのだ・・・・・・・・

麗香「ふ・・・フェニックスたちは・・・・・・・・」

健介「それをあんたに渡してくれて・・・・・・・・彼らはゲンム

を止めるために・・・・・・・・」

麗香「・・・・・・・・うう・・・・・・・・うううう・・・・・・・・」

麗香は涙を流したのだ

麗香は元々は普通の女性だった・・・・・・・・だがある日 さらにわれ

て今のような状態になったのだ・・・・・・・・

そしてその復讐をするために組織を作ったのであった・・・・・・・・

そしてゲンムに倒されたのであった・・・・・・・・

麗香「・・・・・・・・」

そして今は普通の体になっているのは・・・おそらくフェニック

スたちが起こした奇跡ともいえるのであろう・・・・・・・・

麗香「・・・・・・・・私は・・・・・・・・」

健介「今は泣いてもいい・・・・・・・・」

麗香「け・・・健介・・・さん」

そういつて抱きしめるのであった・・・・・・・・

そして数日後

健介「もう行くのか？」

麗香「ええ……今は少しでも休みたいですからね……」  
調「どうかお元気で」

麗香「はい……たまに手紙を送りますね」

そういつて麗香は空港へ行き 飛行機にのって海外へ旅立ったのであった

切歌「……寂しい人ですね」

健介「ああ……親を殺され……そして自分はなぞの組織にさらわれて……殺し屋として……」

そういつて健介は言うのであった

愛「……お父さん」

健介「大丈夫だ 愛」

そういつて頭を撫でるのであった

## 第四章 コラボ再び 復活のバクテス

### 復活のバクテス!! 駆けつけた戦士たち!!

ゲナムが開けた 時空の穴はフェニックスたちが自らの命と引き換えにゲナムと共に消滅をしたのであった

アクエスは元の麗香に戻り 海外へ旅立っていったのであった

愛「そういえばお父さんってどうして戦っていたの?」

健介「え?」

愛「いやお父さんとお母さんが出会った話聞いてなかったって」

調「そ・それは」

健介「まあいざれ話すことだと思ったよ なら話すとするかな」

そういつて子どもたちは聞くのであった

健介「お父さんは 当時 10歳の時に海外へ奴らを追いかけていったんだよ 相棒である フィルスと共にね」

剣「奴ら?」

フィルス「そう 健介が仮面ライダーになったきつかけを作った奴ら・・・バクテス率いる ガーデム軍団だ」

真奈「ガーデム軍団?」

健介「当時 マーベル博士が作ったのと俺の父 つまりお前たちのおじいちゃんとおばあちゃんが合同で作ったロボットだ・・・だがマーベル博士はそんな父を殺し 自らもバクテスに殺されたんだ」

茜「そんなことが」

健介「そして俺は旅をして奴らを探したが キャロルと出会って戦ったのもその時だったな」

キャロル「ん?」

現在のキャロルは大人モードになっており 聞いてなかったのであった

健介「そして俺は医者としての活動もその時からしていたんだ もちろんちゃんと医者の免許はとっているけどねw」

そういつて笑うのであった

調「その時かな 出会ったのって」

健介「かもね」

そういつて笑っている

「警報がなったのだ!!」

全員「!!」

紗代「警報!!」

花菜「でも大火災軍団は解散をしたはずです!!」

そういつて指令室へ行く

弦十郎「来たか」

翼「おじさま いったい」

弦十郎「あおいくん」

あおい「はい ノイズ反応が発生をしました」

奏「ノイズだって!!」

マリア「でもソロモンの杖は……………」

セレナ「健介さんがあの時」

健介「……………」

弦十郎「いずれにしても市民をノイズから守らないといけない!!」

響「行きましょう!!」

そういつて出動をするのであった

マリア「いくわよ!!セレナ!!」

セレナ「はい!!」

そういつてサイドバツシャーに乗る

健介「愛 ライオトレインだ」

健介は相棒である ドラグーンバイクモードに乗り先に行く

フィルス「ライオトレイン!!」

そういつてライオトレインがフィルスから出てきたのだ

ライオトレイン「現場まで直行だ!!」

そういつて出動をしたのであった

翼「あれは間違いないノイズだ」

そういつて翼はアマノハバキリを装着をした

マリアはアガートラーム



セレナ「さて実験を始めましょう」

「ラビット タンク ベストマッチ!!」

セレナ「変身」

「鋼のムーンサルトーラビットタンク!!イエーイ」

つとビルドに変身をして

ビルド「よいしょ」

ドリルクラツシャーをガンモードにして ノイズに放ったのだ

健介「まさか ノイズが復活をしているとは」

そういつてデステイニードライバーを装着をして

健介「変身!!」

なのは「デステイニーマード コンプリート!!」

そういつてデステイニーに変身をして 降りる

そこにライオトレインも到着をして 全員が降りて 奏者はシン

フオギアを纏い 仮面ライダーたちは変身をしたのであった

フオーゼ「しゃ!!宇宙きたー!ー!ー!ー!ー!ー!ー!ー!ー!ー!!」

ブレイブ「あなたはそれを言わないといけないのですか!!」

フオーゼ「まあつい言ってしまうなw」

そういつて笑い

フオーゼ「さーて仮面ライダーフオーゼ!!タイマンをはらせてもら

うぜ!!」

ゴースト「でも多数だからタイマンとは」

フオーゼ「おりゃ!!」

そういつて殴りに行った

スナイプ「全く」

そういつてガシャコンマグナムを構えて攻撃をする

ブレイブ「これよりノイズを切り裂いていきます!!」

そういつてガシャコンソードを持ち 攻撃をする

フェイス「えい!!」

フェイスはライオンクロードでノイズたちを切り裂いていく

調「でもどうして……ノイズが」

切歌「確かにデース……」

そういつて2人は攻撃をしながらも構えるのであった  
マリア「だとしても!!」

短剣で切り裂いていき

ビルド「ノイズたちをほっとくわけにはいかないよ!!」

そういつてガトリングのフルボトルをドリルクラッシュャーにセツトをして

「ボルティックブレイク!!」

ビルド「であ!!」

そういつてガトリングの弾が放たれたのだ

フォーゼ「うおおおおお!!」

ロケットモジュールでノイズたちを倒していく

すると何かの光弾が飛んできたのだ

フォーゼ「おっと!!」

そういつて着地をした

ブレイブ「なんだ」

「.....」

するとずしんずしんと歩いてきたのだ

ファイルス「そんな馬鹿な!!」

ファイルス「ファイルス？」

「久しぶりだな 仮面ライダー」

ファイルス「バクテス!!」

全員「!!」

一方でデステイニーは別の場所でノイズたちと戦っていたのだ

弦十郎「健介君!!」

デステイニー「弦十郎さんどうしました？」

弦十郎「バクテスが現れたんだ」

デステイニー「な!!」

そういつてデステイニーは背中の翼を開いて 空へ飛ぶのであつた

一方で

バクテス「.....」

クリス「てめえ……なんで生きてやがるんだ」

バクテス「ほう……シンフォギア奏者か……そうだなな  
ぜ私が生きているかか……」

そういつてバクテスは武器を構えて

バクテス「私を倒してから聞くといい!!」

そういつてバクテスは武器を構えて 攻撃をする

ブレイブ「ぐ!!」

ゴースト「きゃ!!」

二人はガシヤコンソードとガンがセイバーで受け止めたのだ

バクテス「ほう……仮面ライダーいつのまにか増えているの  
か……」

スナイプ「せい!!」

スナイプはライフルモードにしたガシヤコンマグナムから弾が放  
たれたのだ

バクテス「ふん!!」

バクテスは左手の装甲が展開をしてフィールドを張ったのだ

フォーゼ「な!!」

デイケイド「フィールドを張ったのね」

クリス「くらいやがれ!!」

クリスはガトリングで攻撃をする

デイケイド「変身」

「カメンライド 龍騎!!アタックライドソードベント!!」

デイケイド龍騎になってドラグセイバーで攻撃をする

バクテス「甘い!!」

そういつてバクテスは回避をして デイケイド龍騎が放った剣を

受け止めたのだ

デイケイド龍騎「な!!」

バクテス「とうあ!!」

そういつて右手の拳で殴ったのだ

デイケイド「が!!」

ブレイブ「茜!!」

そういつて駆け寄る

バクテス「あまいわ!!」

そういつてバクテスは左手に発生させた銃でブレイブを撃つたのだ

ブレイブ「が!!」

フィス「はああああああああああああああああああ!!」

ライオンソードで攻撃をする

バクテス「貴様を倒せるときたようだな 仮面ライダー!!」

そういつてバクテスはフィスの剣を剣で受け止めたのだ

フィス「ぐ!!」

バクテス「くあ!!」

そういつてきりさいたのだ

フィス「きゃああああああああ!!」

調「お前!!」

そういつて調たちも攻撃をするが

バクテス「マツハシステム!!」

そういつて高速で走り 止まったのだ

全員「うああああああああああ!!」

全員が倒れる

ビルド「・・・な・・・なにが」

バクテス「マツハシステム・・・高速で移動をしてお前たちを

切りつけたのだ」

ビルド「こうなったら」

「ハザードON!!ラビットタンク!!スーパーベストマッチ!!」

ビルド「ビルドアップ!!」

そういつてラビットタンクハザードになったのだ

ビルド「はああああああああああああああああ!!」

そういつて攻撃をするも バクテスにダメージを与える

バクテス「なるほど・・・だが!!」

そういつてバクテスは離れて 攻撃をしてきたのだ

ビルド「ああああああああああああああ!!」

ビルドはダメージを受けてしまい  
ビルド「ぐああああああああああああああああああああああああああああああ!!」  
暴走をしてしまう!!

マリア「せ・・・セレナ!!」

デステイニー「であ!!」

デステイニーがハザードトリガーをとったのだ

セレナ「あうん・・・」

デステイニー「バクテス!!」

バクテス「その声・・・そうか 貴様・・・」

そういつてフェイスを見る

バクテス「なるほど・・・そういうことか・・・それが貴様の  
新しい力か」

デステイニー「バクテス・・・なぜお前が蘇っている!!」

バクテス「貴様と再び戦うためだ!!」

そういつてバクテスは攻撃をしてきたのだ

デステイニー「!!」

デステイニーは左手の盾で攻撃をふさいだ

バクテス「ほう 俺の攻撃をふさいだか」

デステイニー「であ!!」

デステイニーは蹴りでバクテスを蹴り飛ばした

バクテス「やはり貴様は俺を高ぶらせる・・・」

そういつてライフルと剣を構えるのであった

デステイニー「いくぞ!!」

デステイニーは背中のアロンダイトを抜いて 攻撃をする

バクテス「ふん!!」

バクテスも剣でアロンダイトをふさいで 右手に持っているライ  
フルで攻撃をする

デステイニー「おっと」

そういつてかわして 蹴りを入れたのだ

バクテス「ぐ・・・やるな・・・ならば」

そういつてバクテスはライフルと剣を合体させて　ライフルモードにしたのだ

スナイプ「す……すごい」

ブレイブ「ああ……私たちが手も足も出なかったのに……」  
バクテス「やるな……仮面ライダー　だが!!」

そういつてバクテスの装甲が開いて　光弾が放たれたのだ

デステイニー「ぐああああああああああああああああああ!!」

デステイニーはそれを受けてしまい　地面に叩き落とされたのだ  
デステイニー「が……あ……あ……さす

バクテス「私の弾を受けて生きていたのは貴様だけだ……さすが仮面ライダー……だがこれで止めだ!!」

調「健介!!」

フィス「お父さん!!」

デステイニーに剣が刺さろうとしたとき

「はい　曲がるよ!!」

「いきなりマガール!!」

バクテス「ぐあ!!」

突然弾が飛んできて　バクテスに命中をしたのだ

バクテス「誰だ!!」

デステイニー「……あれは」

「追跡!!撲滅!!いずれも　マツハ!!仮面ライダーマツハ!!」  
と構えているのだ

「おいおいいきなりかよ　剛」

マツハ「いいのいいの」

バクテス「仮面ライダーだと」

奏「あたしかよ!!」

そういつてツツコミをする奏であった

バクテス「ならば」

そういつて銃を構えるが

「ゲキトツ!!クリティカルストライク!!」

バクテス「ぐあ!!」

謎のロケットパンチがバクテスに当たり バクテスは吹き飛ぶ

「ゲキトツロボツツ!!」

「よし」

デステイニー「あれはエグゼイド」

翼「はああああああああああああああああ!!」

セレナ「であ!!」

二人の剣と短剣が命中をしたのだ

ビルド「あれって……別の世界の私!!」

そういつてベルトにはゲームードライバーが装着をされていたのだ

翼「つてことは久しぶりだな クロトの世界の私」

翼（クロト）「ああ……その通りだな 健介の世界の私」

マツハ「あらー翼が二人もいるぜ!!」

バクテス「己……貴様たち!!」

「マイティクリティカルストライク!!」

エグゼイド「であああああああああ!!」

バクテス「ぐああああああああああああああ!!」

バクテスは蹴りをくらい吹き飛ぶ

「祥平……」

そこにビルドにオーブが現れたのだ

デステイニー「祥平……それは!!ゲームードライバー!!」

バクテス「まさか仮面ライダーがこんなに集まるとは……撤

退をする」

そういつて消えるのであった

デステイニー「まで バクテス……ぐあ!!」

そういつて膝をつこうとしたとき

二人のエグゼイドがデステイニーを支えたのだ

そして変身を解除をしたのであった

健介「久しぶりだな クロトに祥平……助かったぞ」

クロト「なーに久しぶりだな本当に」

祥平「そうですね」

健介「それと助かったよ」

「いいって気にするなって」

健介「俺は 相田 健介 あんたは？」

「おれ？俺は朝倉 剛だ!!よろしく!!」

そういつて仮面ライダーたちは集まったのであった

バクテス「……………仮面ライダー……………」

「バクテスさま」

バクテス「ケーラスか」

そういつて現れたのは バクテスと行動をしていた ケーラスであった

ケーラス「ずいぶんやられてしまいましたね」

バクテス「ああ……………仮面ライダーたちにやられたさが宣戦布告をするでしょう」

そういつてバクテスは何かをするのであった

バクテス「いでよ エレキング」

エレキング「きiiiiiiiiii!!」



## 光の戦士 ウルトラマンジード

### SONG 基地

弦十郎「それで君が」

剛「朝倉 剛だ よろしく頼むぜ おっさん!!」

弦十郎「まあおっさんだからいいが……」

健介「それでそこのお嬢さんは？」

那奈「始めまして 高田 那奈といいます!!」

セレナ「私の娘って……」

紗代「ママ 私はこっちだよ」

セレナ「ごめん 紗代」

セレナ（クロト）「私が……三人も……」

つと落ち込む セレナがいたのであった

愛「祥平さんそういえば 左手のブレスレットがなくなっていますよ」

祥平「ゼロさんは元の宇宙へ戻りました」

愛「そうなんですネ」

そういつて愛は思うのであった

ファイルス「しかしバディ……」

健介「ああ……バクテスが蘇っているなんて……」

クロト「そのバクテスとは……」

健介「かつて俺が倒した ガーデムの総統……」

祥平「つてことは……」

健介「そのとおりだ……誰が奴を蘇らせたのかわからないんだ……」

そういつて健介は言うのであった

すると映像が流れる

バクテス「きけい!! わがなはバクテス……この世界を支配をするものだ」

翼「あれは……」

バクテス「我が組織の名前はガーデム!! かつてのガーデムを超え

た組織となったのだ!!まずは・・・私の挨拶を受けてもらおう・・・  
いでよ!!エレキング!!」

エレキング「きいいいいいい!!」

すると地面から怪獣エレキングがしゅつげんをしたのだ

奏「怪獣!?!」

剛「まさかあいつ 怪獣なんて持つていやがるのか」

健介「怪獣か・・・大きい敵とは戦ったことがないからな」

剛「大丈夫だ!!俺の考えがある!!」

調「考え?」

剛「俺にはもう一つ 姿があるんだ まあ見てなつて」

そういつて何かを出す

剛「融合!!」

ウルトラマン「シエア!!」

剛「アイゴー!!」

ベリアル「しえ!!」

剛「ファイアーウィーゴー!!」

そういつてカプセルをセットして ジードライザーに読み込ませ  
る

「フュージョンライズ!!」

剛「決めるぜ 覚悟!!ジード!!」

「ウルトラマン ウルトラマンベリアル!!ウルトラマンジード プリ  
ミティブ!!」

すると光が発生をして エレキングを蹴り飛ばしたのだ

エレキング「きいいいいいい!!」

あおい「巨人が出現をしました!!」

ジード「つい・・・あーマツハじやなかった・・・俺はジード!!  
ウルトラマンジード!!」

そういつて構えるのであつた

健介「ウルトラマンジード」

エレキング「きいいいいいい!!」

エレキングは攻撃をしようと歩きだす

ジード「シユア!!」

ジードが先に先制攻撃をする 膝蹴りをしたのだ

エレキング「きいいいい!!」

エレキングはそのまま倒れて ジードはその上に乗り 殴る殴る殴るのであった

エレキング「きいいいい!!」

するとエレキングは尻尾を巻き付けて 電気ショックを与える

ジード「しゅああああああ!!」

ジードは払うと

ジード「やるじゃん・・・でも まだまだ!!」

そういつて構えてジャンプ蹴りを噛ましたのだ

エレキング「きいいいい!!」

エレキングは口から三日月の光弾を放つが

ジード「ジードバリア!!」

そういつてバリアをはって エレキングが放った光弾をガードをする

エレキング「きい!!」

ジード「これでとどめだ!!」

すると全員が発行をしていき 十字にする

ジード「レッキングバースト!!」

ジードの必殺技 レッキングバーストが放たれて エレキングに命中をして エレキングはそのまま爆散をしたのであった

切歌「すごいデース」

クロト「あれが・・・ウルトラマンの力か」

ジード「いえい!!」

そしてジードは空を飛び 基地の方へ帰還をしたのだ

剛「ただいまー！ー！ー！ー！」

健介「あれがもう一つの姿なんだな？」

剛「そう 俺のもう一つの姿 ウルトラマンジードさ!!」

そういつてくるつと回転をして いうのであった

そして健介は今 ビルドのハザードトリガーの調整をしてお

り……そして今 その道具が完成をしようとしているのだ

健介「あともう少しで完成だな……フルフルラビットタンク  
ボトルがね」

そういつて完成をしようと……そしてもう一つを作っているの  
だ

健介「これはクロトと祥平にプレゼントをするためのものさ」

なのは「これって……」

健介「そう フィスとデステイニーの力を入った ガシヤツ  
ト……名前はガシヤツトデュアルK……」

そしてその移った エグゼイドの姿……マザルアップをした姿  
が……フィスとデステイニーが混ざった姿

健介「仮面ライダーエグゼイド フィスデステイニー レベル9  
9」

つとそこには文字で書いてあったのだ

なのは「フィスデステイニー……」

健介「……だがまずはセレナのビルドのこつち  
が先だな」

そういつて作るのであった

さて一方で

マツハ「おっと」

「ダイヤ交換!!ヒツパーレ」

マツハ「おら!!」

するとフツキングレッカーが発生をして 飛ばす

ブレイブ「きゃ!!」

ブレイブの足を絡ませて 浮かせたのだ

スナイプ「は!!」

マツハ「おっと なら」

「シグナル交換!!トマーレ」

マツハ「よっと」

「急にトマーレ!!」

スナイプ「え!?!」

すると動きが止まったのだ

ディケイド「変身」

「カメンライド キバ!!」

ゲンム「は!!」

ゲンムに対して ディケイドキバになって攻撃をする ディケイド

フォーゼ「ファイア!!」

リーダーとランチャーを使って放ったのだ

ゲンム「おっと」

ゲンムはディケイド キバを蹴り飛ばすと 飛んできた ランチャーの弾を ガシヤコンブレイカーで切っていくのだ

「フォームライド キバ バツシャー!!」

ディケイドキバ「は!!」

バツシャーマグナムから弾が放たれて ゲンムに当たる

ゲンム「ぐ」

ゴースト「それ!!」

「オメガストライク!!」

そういつてアローモードから弾がはなたれる

エグゼイド「なら!!」

「シヤカリキスポーツ!!」

エグゼイド「なら 大大大変身!!」

スポーツアクションゲーマーになっている

フィス「はああああああああああああああああ!!」

接近をして ゴリラモードになって攻撃をする

ビルド（那奈）「おっと」

ビルドはゴリラモードのゴリラナックルをかわして 反撃をする

今 子どもたちは特訓をしているのであった

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・」

## 最初の敵

バクテス「ケーラスよ」

ケーラス「はいバクテスさま」

バクテス「怪人たちの再生は今 どれくらいだ？」

ケーラス「は、すでに完了をしている怪人はおります」

バクテス「では出させてくれ」

ケーラス「はい プラツシユ!!」

するとバラが舞い降りてきて プラツシユが現れたのだ

プラツシユ「バクテスさま 私を蘇らせていただき ありがとうございます

ございます」

バクテス「気にするな スプラツシユよ お前を倒した仮面ライ

ダーに復讐をするチャンスを与える」

プラツシユ「ありがたき幸せでございます」

バクテス「行け!!そして暴れて来い!!」

プラツシユ「はは!!」

そういつてプラツシユを向かわせたのであった

ケーラス「いいのですか？」

バクテス「奴の復讐をする 心が強いからな……奴はわが怪人

でも 仮面ライダーに倒されてしまったが 強い方だ……」

そういつてバクテスは言うのであった

さて一方で剛はブランクのシグナルバイクを出している

剛（うーん 奏と翼の力が入ったのはできたが……）

そういつてまだブランクのがあったのだ

剛「どうすつか……」

つと考える

さて一方で

エグゼイド「はあああああああああああああああ!!」

祥平がエグゼイドが戦っているのは

デステイニー「……」

デステイニーに変身をした 健介とであった

エグゼイドの攻撃をかわして デステイニーの蹴りが当たる  
エグゼイド「さすが健介さんだ なら!!」

「ゲキトツロボツツ!!」

エグゼイド「大大大变身!!」

「ゲキトツロボツツ!!」

ロボツツアクションゲーマーになった

エグゼイド「だああああああああああ!!」

ゲキトツスマツシヤーをつけた拳がデステイニーに襲い掛かる

デステイニー「ぐ!!」

デステイニーは左手の盾で塞いでいるが

デステイニー「なら」

そういつてカードを出す

「工事現場モード!!」

そういつて姿が変わる

デステイニー「轟轟剣!!」

そういつて剣を持ち ゲキトツスマツシヤーをはじかせる

エグゼイド「は!!」

さらに攻撃をしてきた!!

デステイニー「シヨベル!!」

そういつて左手に装着をして シヨベルナツクルでゲキトツスマツシヤーとぶつかる!!

二人「ぐ!!」

クロト「すごいな……………」

翼（クロト）「ああ……………ってクロト 何をしているの?」

クロト「ああデステイニーの力をな」

そういつていつの間にか持つていたパソコンでデステイニーのデータが出ていたのだ

クロト「俺でもこんなスペックを作るのは難しいな」

セレナ（クロト）「でもあれって健介さんが作ったものじゃないんですよね?」

クロト「そうだ……………確か 高町たちの世界で作ったものだから

な……どれだけの技術が使われているのか……

そういつてクロトはデータを見ながら言うのであった

愛「すごい……」

ファイルス「大丈夫だ愛 君もあーなるさ」

そういつて言う ファイルスであった

愛「ありがとうファイルス」

そういつて笑顔でいると警報が鳴ったのだ

全員がその場所へ行く

調「あいつは!!」

プラツシュ「おっほっほ あらーあなたたちはあの時の子どもぢゃんじゃないの」

切歌「……」

調「……」

プラツシュ「ん!!あんたはあの時の仮面ライダー!!」

健介「なるほど……お前はあの時倒したゲーデムの怪人だな……

なら 愛 悪いがファイルスを貸してくれるか？」

愛「いいよ はい」

ファイルス「バディ 久々にやるか？」

健介「ああ悪いが祥平たちは見ていてほしい」

そういつてファイルスのボタンを押す

クロト「わかった」

プラツシュ「ずいぶんなめられているわね」

健介「一度倒したことがある怪人だからな……だからこそ 俺

が倒すんだ ファイルス」

ファイルス「おーらい!!仮面ライダーモード!!ライオン!!」

健介「変身!!」

フィスドライバーにファイルスをセットをする

ファイルス「ライオンモード!!」

健介の体をライオンのエネルギーが回り 仮面ライダーフィスへと変わったのだ

フィス「仮面ライダーフィス」



そういつて構える

プラッシュ「仮面ライダー……これでもくらうといいわ!!」

そういつて両手を茨の鞭に変えて とげを放ってきた

フィス「おっと」

フィスはフィスガンを取り 撃ちおとす

剣「あれが……父上の戦い方……」

フィス「は!!」

ソードモードにしてプラッシュに攻撃をする

プラッシュ「ちい!!」

プラッシュは両手の鞭でガードをして 巻き付けてこようとする

が

フィス「甘い!!」

そういつてアイコンを押した

ファイルス「ファイアー!!」

するとフィスの全身が燃えるようになり 鞭を焼き切ったのだ

プラッシュ「なんですって!!」

フィス「であああああああ!!」

蹴り飛ばしたのだ

剛「へえ強いな」

祥平「さすが健介さんだ」

フィス「さて止めは必殺技で終わりだ!!」

そういつてファイルスが必殺ボタンに変わる

ファイルス「必殺!!ライオメテオストライク!!」

フィス「とう!!」

フィスは上空に飛び

フィス「であああああああ!!」

ライオン型のエネルギーを纏い 蹴りをいれてきたのだ

プラッシュ「バラのバリアー!!」

そういつてガードをする

フィス「どあ!!」

バラのバリアーでガードされたが フィスはさらに上空で回転を

して

フェイス「反転キック!!」

さらに威力をあげて バラのバリアーを破り プラツシユのボディに蹴りが決まったのだ

プラツシユ「ば．．．馬鹿な!! プラツシユがやられるなんて!!」

そういつて爆散をしたのであった

フェイス「ふい．．．．．」

バディ「ナイスだバディ」

そういつてフィルスを外して解除をしたのだ

健介「しかし 怪人が復活をするなんてな．．．．．」

フィルス「おそらくだが．．．かつて戦った敵がまた出てくる可能性が高い．．．．．」

健介「そうだな．．．．．」

クロト「お疲れだな 健介」

健介「ありがとうな．．．．．」

祥平「何を考えていたのですか？」

健介「なーにかつて戦った敵が再びと考えるとな．．．いやあの仮面ライダーたちもでてくるかなって」

剛「仮面ライダー？」

翼「まさか．．．．．でも．．．．．」

翼がそういうのであった

剣「母上？」

翼「．．．．．」

## あの戦いが再び ガーマス

### SONG 基地

愛「お父さん どうしたんだろう」

剣「わからない……だが父上もなにか考えがあるんだろう」

真奈「そうだね……」

つと話している子どもたちであった

ファイルス「どうしたんだい？」

ファイルスをなのはが持っているのであった

愛「あ、ファイルス 充電終わったんだ」

ファイルス「ああなのは ありがとう」

なのは「どういたしまして」

そういつて笑顔で言うのであった

剣「なのはさん父上は？」

なのは「健介さんならステイニードライバーを調べるから私たち

全員でしたんだよね」

愛「それって大丈夫なんですか？」

なのは「うん!!大丈夫だよ 普通に出ても大丈夫だしねw」

そういつて笑顔でいるなのは

ファイルス「ふむ……」

すると警報が鳴ったのだ

健介「警報!!」

そういつてステイニードライバーを持って出る

なのは「あ、健介さん」

健介「ああ丁度いい 警報が鳴ったらしい」

なのは「そうですね 行きましょう!!」

そういつて全員が待っている

弦十郎「……」

健介「どうしたのですか？」

翼「健介さん……今回は私が戦います」

クロト「どうということだ？」

剛「そう 教えてもらってもいいよね」

そういつてモニターを見ると

健介「あれは……」

そう暴れているのが仮面ライダーガーマスだからだ

翼「あれは……私の兄さんだったもの……」

翼（クロト）「え……」

健介「……だめだ ここは全員でいくぞ!!」

そういつて全員で出動をしたのであった

ライオトレインの中

翼「……」

奏「翼 気を張り過ぎだぜ」

翼「わかつている……でも……」

そして現場に到着をすると 仮面ライダーやシンフォギア奏者

シンフォギアライダーに変身をしたのだ

ゲンム「いたぞ!!」

そこでランチャーをもって街を破壊している ガーマスがいたのだ

ガーマス「……」

ガーマスはこちらを見る

すると襲い掛かってきたのだ!!

翼「させない!!」

ガーマスが襲い掛かってきた拳を翼はギアの剣を大きくしてガードをしたのだ

ゲンム「は!!」

エグゼイド「ああああああああ!!」

二つのガシヤコンブレイカーでボディに当たり

マツハ「おら!!」

つとゼンリンシューターを放ち ガーマスのボディに命中をしたのだ

ガーマス「……」

ガーマスはもっているランチャーをビームモードにしてこちらへ

放ってきたのだ

デステイニー「であ!!」

デステイニーはスラッシュブレイカーを装備して ビームモードをはじかせたのだ

ビルド(那奈)「は!!」

那奈が変身をした ビルドのドリルクラッシュャーが命中をして

セレナ「はああああああああああああああああ!!」

さすがにセレナはビルドがいるため アガートラームを装着をして 短剣で攻撃をする

ガーマス「・・・・・・・・・・・・・・・・」

ガーマスはたこのあしを出してきたのだ

ファイル「なら!!」

フェイス「うん!!」

ファイル「オクトパスモード!!」

そういつて姿が変わり タコの足同士がぶつかり合う!!

クリス「くらいやがれ!!」

スナイプ「は!!」

ゴースト「であ!!」

ガンモードにして放ったのだ

ガーマスは吹き飛ばが立ちあがったのだ

マリア「うそでしょ!!」

セレナ(クロト)「あれだけの攻撃をしても・・・・・・・・」

ガーマスは必殺技ボタンを押す

デステイニー「!!」

デステイニーはビームシールドを展開をして全員を守るようにガードをしたのだ

デステイニー「ぐぐぐ・・・・・・・・ぐあ!!」

デステイニーは吹き飛ばされたのだ

翼「健介さん!!」

ゲナム「なんて威力だ・・・・・・・・」

デステイニーはビルに激突をしたのだ

エグゼイド「こうなったら……」

そういつて構えるが オクトパス爆弾がつけられている  
ゲナム「なんだこれは……」

マツハ「やば!!」

そういつてマツハはマツハドライバー炎のスイッチを押す  
「ずつとマツハ!!」

そういつて高速移動をしてガーマスに攻撃をしたのだ

二人「ぐああああああああああああああああああ!!」

タコ型の爆弾が爆発をして 二人も吹き飛ばされた

マツハ「ちい!! だつたらこれだ!!」

「シグナルバイク!! レジエンド!! 電王!!」

するとボディ以外が電王のようになり 頭部の色も電王になった  
電王マツハになったのだ!!

マツハ「いくぞー!!」

そういつて右手にデンガツシャーが現れて ガーマスに攻撃をす  
る

フィス「は!!」

フィスも攻撃に加わる

デイケイド「は!!」

援護をするようにデイケイドはライドブツカーガンモードで攻撃  
をする

ガーマス「!!」

ガーマスは吹き飛び……ビルに激突をしたのだ

マツハ「さすがに……な」

だが……

マツハ「まじかよ……」

響「やめてください!! これ以上は!!」

フィルス「皆!! 聞いてくれ!! やつから生命反応がないんだ!!」

全員「!!」

デステイニー「まさか……ロボットってことか?」

フィルス「わからないが……」

「デステイニー」なら正体を明かしやがれ!!」

そういつて魔法モードになって レイジングハートエクセリオンを構える

なのは「必殺!!」

二人「スターライトブレイカー!!」

そういつて砲撃が放たれて ガーマスに命中をしたのだ

ガーマスの装甲がバチバチといわせてきたのだ

マツハ「なーるほど ロボットだったんだな!!」

エグゼイド「ならば!!」

ゲナム「決めるぞ!!」

「ガシャット!!キメワザ!!マイテイクリテイカルストライク!!」

「必殺!!フルスロットル!!電王!!」

三人「とう!!」

三人は飛び トリプルライダーキックをお見舞いさせたのだ!!

ガーマスは爆発をしたのであった

翼「・・・・・・・・・・・・・・・・」

するとガーマスが倒れる・・・・・・・・そしてその姿を見たのだ・・・

翼「にい・・・・・・・・さん・・・・・・・・」

健介「まさか・・・・・・・・あの人が使われていたのか・・・・・・・・」

そういつて全員が駆けつけたのだ・・・・・・・・

翼「・・・・・・・・・・・・・・・・」

剣「母上・・・・・・・・」

クロト「許せないな・・・・・・・・」

祥平「はい・・・・・・・・」

剛「だな」

一方でガージェム基地

バクテス「そうか・・・・・・・・」

ケーラス「失敗をしました 申し訳ありません・・・・・・・・」

バクテス「・・・・・・・・気にするな ケーラス 奴らの戦闘力

は我らが予想を超えるからな・・・・・・・・楽しみだ」

そういつてバクテスは楽しみをしているのであった

## エグゼイドゼロ 再び!!

大ガーデム基地

バクテス「ケーラスよ」

ケーラス「はいバクテスさま」

バクテス「どうやら私は仮面ライダーたちを侮っているようだ……」

ケーラス「バクテスさま……」

バクテス「奴らは私が創造をした以上にパワーアップをしてる……私は彼らと戦うのが楽しみだよ……異世界の仮面ライダーともね」

そういつてバクテスは何かのスイッチを押す

ケーラス「そのスイッチは!!」

バクテス「戦闘員たち出撃せよ」

一方でSONG基地では警報が鳴り続けている!!  
セレナ「私がいきます!!」

現在 戦闘員たちが現れて 出動をしていくのであった  
今はセレナがビルドとなって出撃をしていくのであった

健介「奴らの目的がわからない」

そういつて健介は言った

クロト「俺たちを疲労をさせてから攻撃をするのか？」  
健介「それだとしても近すぎるだろ!!」

そう出てきた場所はほとんど基地の近くののだ

響「ただいま……」

花菜「つかれました……」

つと出撃をしてきた 響と花菜が帰ってきたのだ

健介「おかえり」

マリア「あ……」

クリス「くそだり……!!」

つと戻ってきた 2人であった

健介「ほれ」

そういつてジューズを渡した



クリス「ありがとうな」

マリア「疲れるわ」

剛「でもよ いったい確かにどうなってやがんだ？」

健介「だがまずいな・・・近くとはいえこども何度も出動をしているんだ そろそろ疲労がたまる・・・」

そういつて実はなのはたちにも頼んで出動をしてもらっているのだ

クロト「うちのシンフォオギアライダーたちも戻ってきたな」

祥平「セレナさん 那奈 おかえり」

セレナ（祥平）「うーん」

那奈「疲れました・・・」

そして警報が鳴ったのだ

切歌「もう!!いい加減にしてほしいデース!!」

そういつて切歌は出撃をしたのだ

調「まって!!切ちゃん!!」

健介「俺も出るか」

そういつて二人を追いかける

祥平「待ってください!!」

祥平もであった

クロト「おい!!」

剛「あらら 行っちゃったねー」

一方で出撃をした 切歌たちは

切歌「もう!!しつこいデース!!」

調「いくら私たちでも!!」

デステイニー「でああああああああ!!」

デステイニーはアロンダイトで切り裂いていく

エグゼイド「は!!」

エグゼイドはガシャコンブレイカーで切っていく

切歌「あう!!」

デステイニー「切歌!!どあ!!」

切歌がくらったのを見て デステイニーは助けに行こうとしたが  
攻撃を受けてしまったのだ

調「健介!! きゃ!!」

エグゼイド「皆さん!! ぐあああああああああああああああああ  
ああ!!」

そしてエグゼイドの吹き飛ばされたのだ

「ふっふっふ バクテスさまの言う通りだ・・・疲れが出てきている  
ようですね」

デステイニー「ちい・・・・・・百獣モード!!」

そういつてモードチェンジをして

デステイニー「ダブルナックル!!」

そういつて両手にガオポローラーガオベアーが合体をして デス  
テイニーは攻撃をする

「おっと 大ガードム怪人 ガルラーさまのガトリングをくらえ!!」

そういつてガトリングを放ったのだ

デステイニー「どあ!!」

デステイニーはそのガトリングを受けてしまう

二人「健介!!」

エグゼイド「こうなったら・・・・・・」

そういつて出すが

エグゼイド「しまった・・・ゼロさんがいないからなれないん  
だ・・・・・・」

ガルラー「馬鹿め!!」

そういつて攻撃をしてきたのだ

エグゼイド「ぐあああああああああああああああああ!!」

現在 クロト達も出動しており 誰も援護をできる余裕がない  
のだ・・・・・・

ガルラー「さあ止めを刺してくれるわ!!」

そういつてガトリングを構えてトリガーを引こうとしたが

何かが飛んできたのだ

ガルラー「誰だ!! 俺様のガトリングを切った奴は!!」

「俺だーーーーー!!!」

つと蹴りを入れてきたのだ

ガルラー「ぐああああああああああああああああああ!!!」

つとガルラーが吹き飛ばされる

デステイニー「今のは」

「全く、だらしねえぞ!!祥平!!」

エグゼイド「え!?ゼロさん!!」

ガルラー「なんだ貴様は!!」

「教えてやるぜ……俺は……俺の名前をよ!!俺はウルトラマン  
ゼロ!!セブンの息子だ!!」

つと構えるのであった

ガルラー「なにウルトラマンゼロだと!!」

つとガルラーがびつくりをしているのだ

ゼロ「さーて……祥平!!」

エグゼイド「はい!!」

そういつてエグゼイドゼロドライバーをつける

エグゼイド「ゼロ大变身!!」

つとゼロが光となり 祥平の中へ入っていく

するとエグゼイドの装甲がパージされて、ゼロの模様などが発生  
をして 頭部にゼロスラッガーとビームランプが発生をした エグ  
ゼイドゼロになったのだ!!

エグゼイドゼロ「いくぞ!!」

そういつてエグゼイドゼロは構える

ガルラー「は!!」

ガルラーはミサイルを放つが

エグゼイドゼロ「であ!!」

エグゼイドゼロは頭部のゼロスラッガーを放ち ミサイルを撃破  
していく

デステイニー「今 誰がデステイニードライバーにいたっけ?」

そうなんですか変身ができていますのだ

「私だよーーーーー!!!」



あ!!

つと爆散をしたのであつた

そして基地へ戻ると　なのはたちも戻っているのだ

フェイト「健介　おかえり」

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・」

するとデステイニードライバーのすいっちを押しすと

アリシア「しゅたつと!!」

つとフェイトそっくりで　髪をツインテールにした女性が出てき

たのだ

全員「え?」

アリシア「私参上!!」

つとポーズをしてまで

剛「えつとお嬢ちゃん?今ベルトから出てきたよな?」

クロト「ああ・・・・・・・・俺もそう見えたぞ」

アリシア「そうだよーーーーーって私の体ーーーーー!!成長をして  
いるやつーーーーー」

つと喜ぶアリシアに

フェイト「え・・・・・・・・ええ・・・・・・・・」

アリシア「ん?」

つとみるのであつた

すると突然　夕日となった

愛「え・・・・・・・・ここつて基地内ですよね?」

フェイト「え・・・・・・・・アリシア姉さん?」

アリシア「そういうあなたは・・・・・・・・なるほどね・・・・・・・・だいたいわかつ  
たわ・・・・・・・・フェイト・・・・・・・・私の妹・・・・・・・・そして大事な私の妹!!」

フェイト「ね・・・・・・・・姉さんーーーーー」

つと抱き付いたのだ

フェイト「本物だよね!!」

アリシア「ええそうよ・・・・・・・・私は本物のアリシア　テストロッサ・・・

あなたの姉よ」

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・」

調「健介 涙が出ているよ」

健介「そういう全員もな」

つと姉妹の再会を喜ぶのであった

## 復活をした幹部怪人たち

バクテス「……………」

バクテスの前にある謎のカプセルが開いたのだ

デスルム「バクテスさま」

バクテス「デスルムよ お前を蘇らせたのは 仮面ライダー討伐を命ずるからだ」

デスルム「は!!ただちに」

そういつて出撃をしたのであった

バクテス「ガトリングガン 貴様も行くがいい」

ガトリングガン「はは!!」

そういつて出撃をしたのであった

一方でSONG基地にて

健介「できたー!ー!ー!!」

セレナ「何ができたんですか?」

健介「これさ」

そういつて何かを出す

セレナ「なんですこれ?」

健介「これでハザードトリガーを全力でつかえるようにしてあるもんさw」

セレナ「なるほど……………」

すると警報がなった!!

二人「!!」

二人が駆けつけると

デスルムたちが暴れているのだ

クロト「奴らは?」

健介「デスルムとガトリングガンだ」

祥平「出撃をしましょう!!」

そういつて出撃をしたのであった

そして全員が変身をする

ライオトレインで出撃をして 場所へ到着したのであった

ガトリングガン「あれは!!来たぞ デスルム!!」

デスルム「ええそのようですね」

そういつて戦士たちが降りてきたのだ

デイケイド「あれは」

デスルム「おや仮面ライダー多いようですね」

ガトリングガン「そんなの関係ないぜ!!くらいやがれ!!」

そういつてガトリングを放ってきた

マツハ「つたく!!名乗りもあげさせてくれないわけね!!」

つとゼンリンシューターを放つ

デスルム「ふん!!」

マツハ「あら……」

ゲンム「ならば」

「シャカリキスポーツ!!」

ゲンム「グレード3」

そういつてスポーツアクションゲーマーになったのだ

エグゼイド「ならおれも!!」

「シャカリキスポーツ!!」

つとスポーツアクションゲーマーレベル3になったのだ

マツハ「いくぜー」

つと何かを出す

デステイニー「それは？」

マツハ「ああ これはシフトカーってやつでな」

そういつて

「タイヤ交換!!ササール!!」

つとゼンリンシューターからとげが飛ばされるのだ

ガトリングガン「どあ!!」

エグゼイド「であ!!」

ゲンム「は!!」

2つの車輪が飛び デスルムに当たる

デスルム「ぐ!!」

デイケイド「はああああああああああああああ!!」



スナイプ「援護をするよ!!」

そういつて撃つ

ガトリングガン「甘いんだよ!!」

つとガトリングを放つ

デイケイド「きゃ!!」

スナイプ「うわ!!」

ゴースト「であああああああああ!!」

ガトリングガン「ぐ!!」

ブレイブ「はああああああああああああああ!!」

ブレイブのガシャコンソードがガトリングガンのボディを切つて

いく

セレナ「……こうなったら……試してみる!!」

そういつてハザードトリガーをセットをして

「マックスハザードON!!ラビットラビット」

セレナ「ふふ……勝利の法則は決まったわ!!」

そういつてセットをして変身をしたのであった

セレナ「ビルドアップ」

「紅のスピーディージャンパー!ラビットラビット!ヤベーイ!ハ  
エーイ!」

仮面ライダービルド ラビットラビットフォームが完成をしたの  
だ

ビルド(那奈)「あれが……」

デステイニー「成功をしたようだな」

ゲナム「健介 もしかしてあれが?」

健介「ああ……完成をしたものだ フルフルラビットタンクが

!!

ビルド「は!!」

ガトリングガン「この!!」

ガトリングガンはガトリングを放つが

ビルド「おっと」

ビルドはジャンプでかわしていく

デスルム「は!!」

デスルムは攻撃をするも

ビルド「遅いですよ!!」

するとビルドの腕が伸びて デスルムに命中をしたのだ

マツハ「うひゃーやるね」

つとみるのであった

マリア「すごいわ」

セレナ(クロト)「はい」

奏(剛)「あれが別の世界のライダーってことかよ」

ビルド「はああああああああああああああ!!」

そしてフルボトルバスター ブレードモードからバスターモード  
にして

「ラビット!!」「パンダ!!」「タカ!!」「ライオン!!」「アルティメットマツ  
チデース!!」

そしてブレードモードに戻す

ビルド「はああ・・・」

デスルム「!!」

ビルド「であああああああ!!」

接近をして 切り裂いたのだ

デスルム「ぎゃあああああああああああああああああああ  
あ!!」

デスルムは爆散をしたのであった

ガトリングガン「よくも デスルムを!!」

ビルド「ならもう一つ見せてあげましょう」

そういつて抜いて 降ると

「タンクタンク」 つとビルドドライバーにセットをして回す

すると青い車輪型の戦車が現れる

ビルド「ビルドアップ」

そしてラビットラビットのアーマーがパージされて

今度は青い戦車たちを装着していく

「鋼鉄のブルーウォーリアー! タンクタンク! ヤベーイ! ツエーイ

！」

つと仮面ライダービルド タンクタンクフォームへと変わったのであった

ガトリングガン 「な!!」

ビルド 「は!!」

バスターモードになつて攻撃をする

ガトリングガン 「どあ!!」

ガトリングガンはその攻撃を受ける＋ 肩のキャノンも放つてい

る  
ガトリングガン 「ぐおおお……………」

ビルド 「さーてどうしまししょうかしら？」

フィス 「セレナお母さん次は私たちだよ!!」

フォーゼ 「てかやりすぎでしょ」

ビルド 「ごめんごめん ついついw」つと笑うのであった

フィス 「というわけで!!」

フォーゼ 「いくぜーろー!!」

フィルス 「必殺!!ライオンメテオストライク!!」

「ドリル リミットブレイク」

フォーゼ 「ライダードリルキック!!」

フィス 「せいやあああああああ!!」

二人の蹴りが命中をして ガトリングガンはダメージを受けて爆散をしたのであった

ビルド 「すごい…………ハザードつかつても暴走をしない…………」  
であった

一方で

バクテス 「ガトリングガン デスルム お疲れだ…………キャットよ」

キャット 「しゃーろー」

バクテス 「お前はパワーアップをして復活をさせた その力を奴らに見せるがいい」

キャット 「かしこまりました…………バクテスさま」

そういつて消えるのであった

## キヤッツトの攻撃 現れた 謎の仮面ライダー

愛たち side

今 私 剣 真奈 茜 紗代 花菜の六人はお母さんたちが利用  
をしていた お好み焼き屋さん フラワーへ向かっています

剣「母上たちが絶賛としていた フラワーへ行くの 私楽しみにし  
てましたよ」

真奈「私も私も!!」

つと愛たちは話をしてしていると

どん!!とぶつかったのだ

愛「きや!!」

「悪い、大丈夫か?」

愛「あ、はい すみません」

「いや、こっちもぼーっとしていたから……それでなんだけど……」  
愛「なんででしょうか?」

「この辺に飲食店はないかな?……俺、この街初めて来たから分  
からなくて」

真奈「それでしたら 私たちと一緒に行くのはどうですか?」

「え?」

紗代「それはいいねー 私たちは今から そのフラワーというお好  
み焼き屋へ行くところだったんですよ!!」

「……いいのか?」

剣「はい かまいませんよ」

「ありがとう……って、名前を名乗ってなかった。俺は一条 一誠」

愛「桐野 愛です!!」

剣「桐野 剣です」

真奈「桐野 真奈です!!」

茜「桐野 茜です」

紗代「桐野 紗代です!!」

花菜「桐野 花菜です!!」

一誠「君達は……姉妹なのか?」

愛「まあそんなところですねw」  
つと笑うのであった

そして彼女たちは彼を連れて フラワーへ行き お好み焼きを食べるのであった

愛「うまい!!」

花菜「お母さんたちがうまいといったのは本当だった!!」

つと食べているのであった

一誠「うまい……どこの世界でも、ここは変わらない……」  
そういつておいしく食べていると……

剣「……すまない 私だ」

剣の携帯がなったのだ

剣「はい 剣です はい……はい……はい……わかりました」

そういつて剣は報告をする

愛「わかった すみません 一誠さん私たち用事ができまして……  
ではお金は置いていきます!!」

そういつて出ていくのであった

一誠「……」

そして愛たちは現場へ到着をしたのであった

そこには

キヤット「しゃー……仮面ライダー待っていたわよ」

愛「お前は!!」

キヤット「私はキヤット……お前らを倒すためによみがえつたのさ!!」

そういつてキヤットは爪を構えるのであった

愛「ファイル!!」

ファイル「了解だ!!」

「タドルクエスト」

剣「第二剣術」

「バンバンシューティング」

真奈「第二シューティング」

茜「変身」

「3. 2. 1」

紗代「変身!!」

「アーイ!!」

花菜「変身!!」

フィルス「ライオンモード!!」

「タドルメグルタドルメグル タドルクエストーリーー」

「バンバン!!バンバン!!バンバンシューティング!!」

「カメンライド デイクライド!!」

「フォーゼ 変身音」

「レッツゴーカクゴゴゴゴースト!!」

つと変身をしたのであつた

つと仮面ライダーに変身をしたのであつた

フィス「いくわよ!!」

そういつてライオンクロウを展開をしたのだ

キヤット「パワーアップをしたキヤット様の力をみるがいい!!」

そういつてキヤットが動く!!

フィス「は!!」

フィスはライオンクロウで攻撃をするが

キヤット「あまいしゃ!!」

爪で受け止めたのだ

スナイプ「は!!」

スナイプはガシヤコンマグナムで攻撃をする

キヤット「しゃしゃ!!」

キヤットはかわして 次の態勢をとる

フォーゼ「うおおおおおおおお!!」

フォーゼがロケットモジュールで攻撃をする

フォーゼ「ライダーロケットパンチ!!」

キヤット「あまいしゃ!!」

そういつて回避をして

キヤット「キヤット様の新しい技を受けるがいい!!」

するとキヤットは髪の毛を飛ばしてきたのだ

デイケイド「く!!」

ブレイブ「な!!」

そういつてブレイブとデイケイドはガシャコンソードとライド  
ブツカーではじいたりするが

フィス「この数は!!」

スナイプ「もう!!」

つと落としたりしている

フォーゼ「どああああああ!!」

ゴースト「きや!!」

キヤット「さらに!!」

するとキヤットは素早い動きで ダッシュをしたのだ

フィス「どこに!!」

キヤット「終わったよ」

六人「え!!きやああああああ!!」

すると突然ダメージが発生をして フィスたちは地面に倒れてい  
たのだ

フィス「なに・・・今のは」

デイケイド「何も見えなかった・・・」

ブレイブ「ぐ・・・」

キヤット「これでとどめじゃ!!」

つと攻撃をしようとしたとき

「はっ!!」

突然 キヤットを蹴り飛ばしたものが現れたのだ

そう 先ほど 愛たちと一緒にご飯を食べていた男 一条 一誠

であつたのだ

フィス「一誠さん？」

一誠「なるほど、君達がこの世界の仮面ライダーか」

キヤット「くそ・・・このキヤット様にダメージを与えるとは貴

様、何者だ!!」

一誠「俺か?・・・俺はただの通りすがりだ。悪いがその運命の



シナリオ、俺が書き換える！」

そういつてベルトを装着をした

ディケイド「あれはディケイドドライバ―に似ている」

そしてカードを出す

一誠「変身!!」

「カメンライド ドライグ!!」

っと姿が変わった 仮面ライダー ドライグへと変わったのだ  
キヤット「おのれ……くらえ!!」

そういつてキヤットは爪を伸ばして攻撃をしようとしたが

ドライグ「はあ!!」

だがドライグはキヤットの攻撃をかわして お腹を殴ったのだ

キヤット「ごふ!!」

ドライグ「であ!!」

さらに右 左からの拳で殴り さらに蹴り飛ばしたのだ

キヤット「ごふ!!」

キヤットは倒れてしまうが 立ちあがり 攻撃をする

ドライグ「まだまだいくぜ!!」

そういつてライドウエポン ソードモードでキヤットのボディを

切りつけていくのだ

キヤット「おのれ!!」

素晴らしいながらもキヤットは苦戦をしているのだ

ドライグ「おりやあ!!」

ドライグのライドウエポン ソードモードがキヤットのボディを

切り裂いたのだ

ドライグ「これで終わりだ」

カードを出して それをドライグドライバ―にセットしたのだ

「ファイナルアタックライド ドドドドライグ!!」

ドライグ「はああああ………」

するとエネルギー状が発生をして

ドライグ「はっ!!」

ドライグは上空を飛び

ドライグ「せいやああああああ!!」

必殺技が放たれて キヤットに命中をしたのだ

キヤット「ぎゃああああああああああああああああああ!! 申し訳ございません……バクテスさま……」

そういつて爆散をしたのであった

ブレイブ「つ……強い……」

スナイプ「あれが……別の世界のライダーの力?」

「愛!! 皆!!」

そこに遅れて健介たちが駆けつけた

クロト「すまない バクテスの部下たちに手間をかけてしまった」

ドライグ「……分かった、今から戻る」

健介「待ってくれ……愛たちを助けてくれてありがとうな」

ドライグ「気にしないでくれ、彼女達にお礼をしたかったからな」

健介「ところで君は」

ドライグ「……また 会うことがあれば……その時に教えますよ」

そういつて彼は開いていった 時空へ入っていったのであった

健介「……謎の仮面ライダーか……またい

ずれ会えるかもな」

そういつて健介は言うのであった

剛「それにしても 愛ちゃんたち大丈夫かい?」

真奈「大丈夫……と思うけど」

ファイルス「バディ キヤットが蘇っていたのだ」

健介「キヤットね……かつて調たちが倒した奴だな……」

そういつて健介は思うのであった

さて基地では

バクテス「さて次はこの怪獣と いでよサイボーグ怪人 サボーグ!!」

ザボーグ「はは バクテスさま」

バクテス「いけ!! ロボット怪獣 キングジョー サイボーグ怪人 サボーグ!!」

そういつてしゆつげきをしたのであった

## 新たな 姿 レベル50

健介「……………」

健介は二本のガシヤットを作っていた……………」

健介「はあ……………」  
フェイスとデステイニーのデータをガシヤットに転送をして あともう少ししてところで完成だな まあ使うとしたらぶっつけ本番だな」

そういつてデータインストールを完成をした ガシヤットをとりだしたのだ

健介「あとは……………」  
真奈 剣用に作っておかないとねw」

つと笑う健介であったが 警報がなったのだ!!

健介「!!」

健介は急いで指令室に行く

街でロボットと 地上で暴れている敵がいたのだ

弦十郎「バクテスめ……………」  
あんなものまで」

剛「あのロボットは俺に任せろ!!」

クロト「なら俺たちは地上の敵を倒すでしょう」

翼（クロト）「そうだなクロト」

セレナ（クロト）「頑張ろう!!」

祥平「行こう!!」

そういつて健介たちは移動をするのであった

剛「ならロボットならこの形態だな!!」

剛「融合!!」

セブン「デュア!!」

剛「アイゴー!!」

レオ「イア!!」

剛「ヒアーウィーゴー!!」

そういつてカプセルを装着ナツクルにセットをして ジードライザーでスライドさせる

剛「燃やすぜ!! 勇気!! ジー——ド!!」

「ウルトラセブン!! ウルトラマンレオ!! ウルトラマンジード ソリッ

ドバーニング!!」

ジード「しゅあ!!」

そういつてキングジョーに蹴りを噛ました

ジード「追跡!!撲滅!!いずれもマツハ!!ウルトラマンジード!!」

つとマツハと同様に構えるのであった

キングジョーは立ちあがり 光線を放った

ジード「おつとエメリウムブーストビーム!!」

そういつて頭部のビームランプから放ったが キングジョーは効いてないぜみたいな感じでしたのだ

ジード「あらー堅いのね……」

つと構えるのであった

一方で地上では

ザボグ「来たな 仮面ライダーとシンフォギア」

翼「あれは」

ビルド（那奈）「ロボットです!!」

ビルド「来るわよ!!」

そういつてミサイルが飛んできたのだ

クリス「ミサイルならあたしにまかせな!!」

そういつてミサイルで相殺をしたのだ

スナイプ「なら!!」

「ジェットコンバット!!」

スナイプ「第三シューティング」

「ジェットコンバット!!」

コンバットシューティングゲームーになって上空からガトリングで攻撃をする

ブレイブ「は!!」

ブレイブはガシャコンソードで切りつけていく

デイケイド「変身」

「カメンライド フォーゼ!!」

フォーゼ「おお!!二人で宇宙キターー!!」

デイケイドF「やらないからね!!」

そういつてアタックライド ロケットモジュールをだして装着をした

フォーゼ「なら決めるぜ!!」

「ロケット ON」

フォーゼ「ダブルライダーロケットパンチ!!」

そういつて2人でパンチをしたのであった

「開眼!! 弁慶!!」

ゴースト「ああああああああああ!!」

ガンガンセイバーハンマーモードで地面を叩き浮かしたのだ

響「だああああああああ!!」

コーベルトを装着をした 響の拳が浮かした ロボットたちを粉

砕をしていくのだ

フィス「はああああああああああああ!!」

サボーグ「ふん!!」

フィスが放った ライオンソードをサボーグは腕で受け止めたの

だ

ゲナム「はああああああああああああ!!」

エグゼイド「であ!!」

さらにダブルガシヤコンブレイカーで攻撃をするも片手で塞いだ

のだ

デステイニー「ミラーナイフ!!」

そういつて光のナイフを飛ばして サボーグの手下を破壊してい

く

デステイニー「三人とも!!」

フィルス「バディ!! 奴は硬すぎる」

デステイニー「堅いね」

そういつてデステイニーはガシヤットを出したのだ

ゲナム「なんだそのガシヤットは」

デステイニー「おれが開発をした ガシヤットデュアルK!!」

二人「ガシヤットデュアルK?」

デステイニー「その通り これには仮面ライダーフィス デステイ

ニーの力がはいつているのさ」

そういつて2人に渡したのだ

ゲンム「なら」

「ガシユン」

エグゼイド「使わせてもらうぜ!!」

「ガシユン」

ゲンムはフィス エグゼイドはデステイニーに回した

「仮面ライダーフィス」

「仮面ライダーデステイニー!!」

つと音声が流れる

ゲンム「グレード50」

エグゼイド「大大大大だー！ー！ー！ー！イヘンシン!!」

「がしゅん!!」デュアルアップ!!色んな動物集結！ー！仮面ライダー  
フィー——ス」

つとゲンムに装着されて ゲンム フィスモードレベル50に  
なったのだ

「運命の扉を開け!!その力括目せよ!!仮面ライダーデステイニー!!」

エグゼイド デステイニーゲーマー レベル50になったのだ

さてまず ゲンムの姿はフィスの動物の力がまじっているため

背中にはイーグルモードの翼とフェニックスモード翼が

左手にはトータスシールドが装着されており 脚部はラビット  
モードの足

頭部はライオンモードになっているなどの動物パワーが入ってい  
る状態であった 頭部にはビートルモードの角もある

さて反対にエグゼイド デステイニーゲーマーは背中にデステイ  
ニーの翼 肩部にはブーメランが装備されており デステイニーに  
近い姿になっているが 腕にあるパルマファイオキーナ掌ビーム砲は  
装備されていないのだ

アロンダイトなどは装備されており デステイニーの姿のままほ  
かの形態の武装をつかうことができるみたいだ

さて一方でジードは

ジード「じゅあ!!」

キングジョーと力比べをしている

ジード「だああもう!!ゼロから話を聞いているからな!!厄介だぜ!!」

そういつて殴るが 堅いのだ

ジード「この野郎!!ストライクブースト!!」

そういつて放ってキングジョーに当たる

キングジョー「がしんがしん!!」

ジード「わお・・・ストライクブーストで生きているって・・・  
まあいいか」

そういつてジードは構え直して

さて一方で

サボーグ「新たな力・・・データなしデータなし」

ゲナム「は!!」

ゲナムは背中の翼を開いて 光弾を飛ばした

サボーグ「ぎぎぎぎ!!」

エグゼイド「おりやあああああ!!」

エグゼイドは背中の大剣アロンダイトを抜いて サボーグの腕を  
切ったのだ

サボーグ「ぎぎぎぎぎぎ!!」

フィス「だあああああああ!!」

ジード「お 地上もそろそろ終わりそうだな」

「ピコンピコン」

ジード「こつちも限界みたいだし 一気にいくぜ!!ブーストスラッ  
ガー!!」

そういつて頭部のジードスラッガーを飛ばして キングジョーに  
放ち そのまま接近をして

ロイヤルメガマスターになったのだ

ジード「しゅあ!!」

そして三回 キングソードをスナップをして





ケーラス「バクテスさま……」

バクテス「いいだろう 仮面ライダー……次は私が相手をしてやろう」

ケーラス「なら お供をさせてください」

バクテス「わかった 仮面ライダー この場所へ来るがいい 我がアジトへ」

そういつてデータを送るのであった

## バクテス基地再び

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・」

現在 健介は一人である場所へ来ていたのだ  
それは数日前

健介「ん・・・・・・・・・・・・・・・・」

健介のパソコンにメールが届いた

健介「誰からだ？」

健介はそのメールを見ると

バクテス「久しいな 相田 健介」

健介「バクテス・・・・・・・・・・・・・・・・」

バクテス「お前と一対一で戦い：場所は我が基地に来るがいい：：  
このメールに添付をしておくさ」

そういつてメールを見ると場所が書かれていた

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・」

健介はすぐに出立準備をして 相棒である ドラグーンにまたが  
り 出撃をしたのだ

調「健介？」

調は健介の部屋に来ていたが 健介の返事がない

調「？」

調は不思議と思い 中に入ると・・・・・・・・

調「皆!!」

そういつて調は顔を青くして入ってきたのだ

愛「お母さん？」

ファイルス「どうしたんだい!!」

調「急いで!!健介を!!」

翼「どういうことだ!!」

そういつて調は説明をしている

クロト「なんだと!!」

祥平「な!!」

剛「・・・・・・・・・・・・・・・・今シフトカーたちがあいつを追っている

だが急いだ方がいい!!」

全員がバクテスのいる 大ガーデムの基地へ向かうのであった

一方で健介は

なのは「健介さん本当に」

健介「ああ……皆には悪いが……この決着は俺がつかないといけないんだ」

そういつてデステイニーードライバーをセットをしてカードを出す

健介「変身!!」

なのは「デステイニーモード!!」

仮面ライダーデステイニーになったのだ

デステイニー「参る!!」

そういつてデステイニーは背中のアロンドイトをとり 切り裂いていくのであった

一方で今 その場所へ向かっている クロト達

ライオトレイン「うおおおおおおお!!」

ライオトレインが急いでその場所へと走っていくのであった  
奏者たちも 心配をしている

剛「……………」

クロト「……………」

祥平「……………」

それは彼らも一緒であった  
間に合ってくれと

一方でデステイニーは

デステイニー「おりゃ!!」

肩のフラッシュエッジ2を投げて そのまま敵を切り裂いていく  
そして戻ったのを肩に戻して ビームライフルで攻撃をする

なのは「ファイナルアタックモード!!」

そういつてライフルを構えて

デステイニー「いっけ!!」

強力なビームを放ち 突破をしたのだ  
デステイニー「いそぐ!!」

そういつて背中の翼を広げて 先へ進むのであった

いっぽうで調たちは到着をするとシンフォギアを纏ったり 仮面ライダーになったりして進むのであった

エグゼイド「これって……」

ゲンム「まさか……あいつ一人でやったのか……」

マツハ「まじで？」

そういつて見ると あたりには機械の残骸などがたくさん切り裂かれたり 溶けたりしているのであった

オーブ「皆さんあれを!!」

そういつて上空を見る するとそこに現れたのは

ケーラス「ここから先は行かせないわよ」

調「あなたは!!」

ケーラス「あなたたちとこうして会うのはあの暴走をしたときかしら?改めて私はケーラス……バクテスさまの部下よ……悪いけどあなたたちをここから通すわけにいかないのよ!!いでよ!!我がゴーレムたち!!」

ゴーレムたち「ぐおおおお……」

ゲンム「なら」

そういつてゲンムはエグゼイドになり

「ゲキトツロボツツ」

ロボツトアクションゲーマーレベル3になったのだ

オーブ「シユア!!」

マツハ「ならいくぜ!!」

そういつて全員が構えるのであった

フィス「あなたを倒して お父さんの元へ急ぎます!!」

そういつて武器を全員が構えるのであった

一方でデステイニーは

デステイニー「どーーーーーん!!」

っと蹴り飛ばしたのだ

デステイニー「……………」

そしてデステイニーが向いた方には

バクテス「待っていたぞ 仮面ライダー」

デステイニー「ケーラスは」

バクテス「彼女には君の仲間を抑えてもらうために戦ってもらっているよ」

デステイニー「なるほどな……」

バクテス「では始めよう 仮面ライダー…… 私たちの戦いを」

そういつてバクテスは武器を構えるのであった

デステイニー「……」

なのは「スラッシュブレイカー」

そういつてデステイニーも発生をした剣を構える

デステイニー「いくぞ!!バクテス!!」

そういつて俺たちは戦いを始めるのであった!!

## マツハ 新たな力

ケーラスたちと戦うフィスたち

ブレイブ「これで!!」

スナイプ「は!!」

「キメワザ!!タドル（バンバン）クリティカルストライク!!」

二人「であああああああ!!」

二人は蹴りを入れるが

ケーラス「そんなもん!!」

ケーラスは大きくした 手で二人をはじかせた

二人「きやああああああああああああああああああ!!」

翼「剣!!真奈!!」

デイケイド「この!!」

ゴースト「はあああああ!!」

二人はライドブツカー ガンガンセイバーで攻撃をするが

ケーラス「そんなものにやられる 私じゃないぞ!!」

そういつて2人の剣をつかんで 投げ飛ばしたのだ

二人「きやああああああああああああああああ!!」

フォーゼ「こうなったら!!」

「ランチャーON ガトリングON」

フォーゼ「そーれ!!」

そういつて放っている

ケーラス「バリアー!!」

そういつてケーラスはバリアーで攻撃をふさいだのだ

フィス「なんて奴なの!!」

マツハ「この野郎!!」

そういつてゼンリンシューターで撃つが

ケーラス「は!!」

左手の二連キャノンを放ち相殺をする

ゲナム「なんて威力だ……」

エグゼイド「なら!!」

そういつてロボットアクションゲームレベル三になって  
エグゼイド「おらおら!!」

そういつて接近をして攻撃をするが  
がし!!

エグゼイド「!!」

ゲキトツスマツシャーをつかんだのだ

ケーラス「はああああああ!!」

ケーラスはエグゼイドを投げると 仮面ライダーオーブと仮面ラ  
イダービルドの方へ投げ飛ばしたのだ

二人「きやああああああああああああああああ!!」

オーブ「祥平 降りてよ!!」

エグゼイド「鎧がからまった!!」

セレナ「なんてやつなの!!」

セレナ(ク)「このままじゃ!!」

そういつて全員が構えて

クリス「くらいやがれ!!」

そういつてガトリングを放ち

響が接近をする

ケーラス「は!!あんたはこれよ!!」

そういつて響を巻き付けて 投げつけたのだ

響「うああああああああ!!」

調「ちよ!!響さん!!」

切歌「こつちに来ないでデース!!」

そういつてぶつかったのであった

三人「きゅーーーーーー」

翼「響!!切歌!!調!!」

奏「あの野郎 パワーアップをしてやがる!!」

ケーラス「その通りよ!!今頃バクテスさまは相田 健介を倒してと  
ころでしょう」

調「そんなことはない!!健介はかつ!!」

ケーラス「まあいいわ・・・私はお前たちをここで食い止めるの



が私の役目よ!!」

マツハ「だったら!!」

「シグナルバイク シフトカー!!ライダーデットヒート!!マツハ!!」  
マツハはデットヒートマツハになって ケーラスに殴りかかる!!

マツハ「おらおらおら!!」

そういつて連続した拳で ケーラスを殴っていく

ケーラス「あまいわ!!」

そういつてケーラスは右手から鞭が伸びて マツハをつかんで投げ飛ばした

ゲナム「どあ!!」

それをゲナムに投げ飛ばしたのだ

オーブ「スペリオン光線!!」

そういつて光線を放つ

ケーラス「ぐ!!」

ケーラスはそれをガードをして

「LADYゴー!!ボルティック フィニッシュ!!」

ケーラス「な!!」

ビルド「であああああああ!!」

威力をあげた蹴りが当たる

ケーラス「ぐ!!」

マツハ「ん?」

するとマツハが持っている 無地のシグナルバイクが光る

ファイル「なんだ!!」

するとファイルから光が放たれて マツハが持っている無地のバイクが光り出した

マツハ「これは!!」

するとバイクがドラゴンジェットバイクになったのだ

マツハ「これは!!」

そしてデットヒートを変える

「レジェンドバイク!!ライダー!!フェイス!!」

マツハの姿が変わり フェイスのような姿 仮面ライダーフェイス

マツハになったのだ

ケーラス「フィスにかわったですつて!!」

マツハ「さーていくぜーろーろー!!」

そういつてダツシュをして ライオンクローを展開をして攻撃をする

ケーラス「ぐ!!」

ゲナム「なら」

「ゴッドマキシمامマイティX!!」

ゲナム「グレートビリオン 変身!!」

エグゼイド「なら!!」

「マキシمامマイティエックス!!」

エグゼイド「MAX大変身!!」

二つの巨大なゲーマーを装着をするのであった

ケーラス「はああああああああ!!」

ケーラスは攻撃をするが

ゲナム「は!!」

エグゼイド「おりや!!」

二人の拳が命中をして ケーラスを吹き飛ばす

マツハ「おら!!」

つと何回もオス

「ずつと フィス!!ドラゴンモード!!」

そういつてドラゴンモードのような姿になった

マツハ「剣が武器なんだな!!」

そういつて攻撃をしていく

ケーラス「ぐ!!」

マツハ「さらに!!」

そういつて切りつけていくのであった

ブレイブ「はああああああああ!!」

スナイプ「援護 援護」

そういつて攻撃をして ブレイブのガシャコンソードが切りつけたのだ

デイケイド「はああああああああ!!」

デイケイド電王になって デンガツシャーで攻撃をする

フォーゼ「ライダーロケットパンチ!!」

「開眼 フーディニ!!マジイイジャン!!すげーマジシャン!!」

そういつてゴースト フーディニ魂になって 鎖でケーラスの動きを止める

ケーラス「ぐ!!」

ゴースト「今です!!」

マツハ「あいよ!!」

フィス「これで!!」

ゲンム「決めさせて」

エグゼイド「もろうぜ!!」

「必殺!!フルスロツトル!!」

フィルス「必殺!!」

「キメワザ!!」

「キメワザ!!」

「フィス!!」

フィルス「ライオメテオストライク!!」

「ゴッドマキシمام クリティカルブレッシング!!」

「マキシمام マイティ クリティカルブレイク!!」

そういつて四人は飛び

四人「はああああああああああああああああああ!!」

ケーラス「きやああああああああああああああああああ!!」

ケーラスは吹き飛ぶのであった

ケーラス「ば・・・バクテスさま・・・ケーラスはここまででござ

います・・・ぎやああああああああ!!」

そういつて爆散したのであった

フィス「急ぎましょう!!」

そういつて全員が急いで向かうのであった

一方で

なのは「工事現場モード!!」

デステイニー「ワイヤーフック!!」

そういつてワイヤーフックパンチを飛ばしたが

バクテス「ふん!!」

バクテスの腕力で はじかれたのだ

バクテス「は!!」

デステイニー「ぐああああああああああああああああ!!」

デステイニーは吹き飛ばされる

バクテス「どうした 仮面ライダー!!」

デステイニー「まだだ!!」

なのは「ミラーモード!!」

姿も変わったのだ

デステイニー「ミラーハーレション!!」

すると鏡がたくさん出てきたのだ

バクテス「ぬ!!」

デステイニー「シルバークロス!!」

そういつてシルバークロスが鏡にはじいてバクテスを攻撃をする

バクテス「ちい!!」

バクテスはビームで鏡を割ったのであった

デステイニー「もらった!!」

そういつてミラーナイフを放ったのだ

バクテス「ふあ!!」

バクテスの剣がボディを切りつけたのだ

デステイニー「がは!!」

デステイニーは地面に倒れてしまう

バクテス「ふっふっふっふ」

デステイニー「く!!」

「百獣モード!!」

デステイニー「まけてたまるか!!」

バクテスの本気　デステイニー　大ピンチ!!

デステイニー「シャークショット!!」

そういつて右手で殴ろうとするが　バクテスは左手で受け止めたのだ

デステイニー「!!」

バクテス「ふん!!」

そしてそのまま投げ飛ばし　壁に激突させたのだ

デステイニー「が!!」

デステイニーは壁から　なんとかかであるが　そこにバクテスの蹴りが命中をする

デステイニー「がは!!」

さらに蹴りを入れられた　デステイニーは　ダメージが大きいのだ

バクテス「さて・・・・・・」

そういつて離れた　バクテスはライフルを出して

「イグニッション」

ライフルにエネルギーがたまっているのだ

バクテス「くらうがいい　仮面ライダー!!」

そういつて放たれた　一撃がデステイニーに当たる

デステイニー「ぐああああああああああああああ!!」

デステイニーは吹き飛ばされて　変身が解除される

健介「がは・・・・・・」

健介はそのまま倒れてしまう

バクテス「・・・はあ・・・弱いな仮面ライダー・・・お前の

力はそんなものか？」

そういつてバクテスが迫ってこようとしたとき

フィス「はああああああああ!!」

フィルス「ライオンメテオストライク!!」

バクテス「ぬ」

バクテスは回避をする

するとほかのライダーたち シンフォギア奏者たちも到着をしたのだ

調「健介!!」

ブレイブ「お父様!!」

スナイプ「貴様!!」

バクテス「仮面ライダー……ケールスは……まさか!!」

ゲンム「お前が言っているケールスは俺たちが倒した」

バクテス「そうか……ケールス……お前は先にいつてしまっ  
たか……ならば仮面ライダー……お前たちを倒すだけ  
だ!!」

すると

ゴースト「え……」

フォーゼ「が!!」

二人が突然倒れたのであった

ディケイド「今のは」

「カメンライド カブト アタックライド クロックアップ」

ディケイドカブトになった ディケイドはバクテスと戦う

ゲンム「これは……」

エグゼイド「いったい!!」

すると

ディケイド「がは!!」

ディケイドが倒れたのであった

響「だああああああああああああ!!」

未来「であ!!」

二人もこうげきをするが バクテスの攻撃で倒れてしまう

奏「なんだい が!!」

マリア「これ……が!!」

翼「マリア!!奏!!」

切歌「見えないデース!!」

スナイプ「この!!」

スナイプはガシヤコンマグナムで攻撃をするが バクテスに当た

らない

ブレイブ「ならば凍らせるだけだ!!」

「キメワザ!!タドル クリティカルフィニッシュ!!」

そういつて地面にガシャコンソードをさすと 凍らせていく

バクテス「む・・・・・・・・・・・・・・・・」

するとバクテスの動きが止まりかかるのだ

フィス「だああああああああああああ!!」

フィスはライオンクロウを展開をして 切りつけていく

バクテス「ぐ!!」

健介「うう・・・・・・・・・・・・・・・・」

調「健介!!」

切歌「大丈夫デース!!」

健介「ああ・・・・・・・・・・ほかは」

調「今は戦っているよ」

健介「うぐ」

健介はデステイニードライバーを持つとしたが

切歌「その体で変身はダメデース!!」

健介「だが・・・・・・・・あいつらが戦っているのに 俺だけ戦わない

で・・・・・・・・」

そういつてデステイニードライバーを構えていると

全員「ぐああああああああああああああああ!!」

するとフィスたちがこつちへ転がってきたのだ

ブレイブ「が・・・・・・・・」

スナイプ「がふ」

フィス「が・・・・・・・・」

エグゼイド「なんて力なんだ」

マツハ「これはやばいかな・・・・・・・・」

ゲナム「ぐ・・・・・・・・」

バクテス「これで終わりだ 仮面ライダー・・・・・・・・」

そういつて剣を構える

フィスたちは立ちあがれないほどであった

健介「うおおおおおおおお!!」

するとデステイニードライバーを装着したのだ

ビルド「え!!」

オーブ「健介さんなにを!!」

すると何かのカードを出したのだ

なのは「バーストモード!!」

健介「ぐおおおおおおおお!!」

仮面ライダーデステイニーになった後 青い色が赤くなっていく

さらに目の色が赤くなる

デステイニー「ぐおおおおおお!!」

デステイニーは背中のアロндаイトを抜いて 切りかかる

バクテス「ふん!!」

バクテスは剣で攻撃をしたが しゅん

バクテス「なに」

バクテスの剣は空回りしたのだ

デステイニー「ぐおおおおおお!!」

連続で切りつけていくのだ

バクテス「ぐお!!」

バクテスのボディに火花が散るが

マツハ「おい あれやばくないか・・・」

みるとデステイニーの体から煙が出ているのだ

ファイル「まずい!!」

フィス「ファイルス？」

ファイル「おそらくバディの体温が上がっている・・・このまま

では!!」

ゲナム「とめるぞ!!」

そういつてゲナム エグゼイドが止めようとしたが

デステイニー「ぐおおおおおお!!」

二人「どあ!!」

二人は吹き飛ばされたのだ

ゲナム「が!!」



エグゼイド「ごぶ!!」

そして変身が解除されてしまうのだ

クロト「が……」

祥平「このままじゃ……」

デステイニー「ぐああああああああああああああああああ!!」

デステイニーはアロンダイトを構えながら 必殺のカードを出す

なのは「必殺 デステイニースプラッシュ!!」

デステイニー「ぐああああああああああああああああ!!」

デステイニーはそのまま バクテスのボディを貫かせたのだ

バクテス「ぐお……」

だがバクテスはデステイニーのアロンダイトをつかんだままなの

だ

バクテス「ふはははは…… 仮面ライダー…… お前も

私と一緒に道ずれだ……」

デステイニー「……」

すると色が戻り

デステイニー「なら お前を地獄に送ってやる!!」

調「健介!!」

デステイニー「来るな!!」

全員「!!」

デステイニー「これはおれ自身が決めないといけないことだ!!」

そういつてデステイニーは何かを出す

それはテレポルトジェムだ

調「けん……」

だが最後まで言わせないで…… 調たちは消えていった

デステイニー「……」

バクテス「愚かな男だ…… 自分から地獄へ行くとはな」

デステイニー「あいにく…… 俺は」

そういつてビームライフルを構えて

デステイニー「地獄へ行くには…… 速すぎるんだよ!!」

そういつてビームライフルを連射をして バクテスに放つので

あつた

そして基地は………大爆発を起こしたのであつた  
調「嫌ああああああああああああああああああああああ  
ああああああああああああああああああああああああああ  
ああああああああああああああああああああああああああ  
ああああああああああああああああああああああああああ

バクテスたち ネオガーデム軍団は デステイニーが自らが犠牲  
になって………戦いは終わったのであつた

クロト達は元の世界へ戻り………世界は再び平和になつたの  
であつた………

## 第5章 盗まれた フルボトル 盗まれた フルボトル

ネオガーデムの攻撃は 相田 健介が命をかけた 戦いでバクテ  
スと行方不明になって終わった……

戦士たちの心の傷は大きかったのであった……

弦十郎「皆 よく聞いてくれ」

翼「どうしたのですか おじさま？」

弦十郎「実はセレナ君が使っている ビルドのフルボトルが何者か  
に盗まれたのだ」

セレナ「え!？」

弦十郎「俺が行ったときには これらしか取り返せなかった」

そういつて出したのは フルフルラビットタンクフルボトル ラ  
ビットタンクスパークリング ハザードトリガーであった

セレナ「でもいつたい……」

剣「わかりませんが……調査をした方がいいですね」

茜「だね」

そういつて全員が調査に向かうのであった

切歌「フルボトル どこですかー」

真奈「お母さんそれで見つかるわけないでしょ」

切歌「ですよねーでもいつたい何が目的なんでしょうかね」

調「はあ……」

ファイルス「調 バディは生きています」

調「うん……生きているとは思っているけど……でも……  
ファイルスじゃないから……心配……あの女たちに何をされている  
かね」

つと怒りのオーラを感じるメンバーたちであった

切歌（まあ調の気持ちはわかりますけどねw）

つと思つた切歌であった

さて愛はファイルスと一緒に探しているのであった ファイルスを先

ほどから改修をしたのであった

愛「・・・・・・・・・・・・・・・・」

ファイル「愛 どうしたんだい？」

愛「ううん 何でもないよ ファイルス・・・それよりも・・・！！」

ファイル「あれは!!」

そう彼女たちが見たのは 白髪の青年がボトルが入ったアルミケースを持っているのだ

愛「ファイル 追いかけてよう!!」

そういつて愛は 彼の後を追いかけていく

廃棄工場付近まで追いかけた

ファイル「おかしい・・・こんなところが奴らのアジトなのか？」

愛「わからない・・・・・・・・」

するとドアが突然しまったのだ!!

愛「!!」

ファイル「しまった これは罠だ!!」

「そのとおりだ 仮面ライダーフィス いや相田 愛」

愛「!!」

愛が見つけたのは フルボトルをもったサングラスを付けている

先ほどの青年だからだ

愛「あなたがフルボトルを・・・・・・・・」

「まあそんなところだ・・・君をおびき寄せるにはいいかと思ってね」

そういつてサングラスを外す

愛「私の名前を知っている あなたいつたい!!」

「俺はヴァーリ・・・そして」

ベルトを装着をしたのであった

愛「!!」

ヴァーリ「変身」

「カメンライド アルビオン!!」

すると彼の姿が変わり 白いデイケイドライダー いやアルビオンドライバーから音声が流れて 彼の姿が変わったのだ

愛「あなたも仮面ライダー……」

「仮面ライダーアルビオン」

愛「ファイルス!!」

ファイルス「了解だ!!仮面ライダーモード LADY!!」

愛はアイコンを押す

ファイルス「ライオン!!」

愛「変身!!」

フィストライバーにファイルスをセットをする

ファイルス「百獣の王!!ライオンモード!!」

そういつて愛の体を仮面ライダーフェイスに変身が完了をしたので

あった

フェイス「フルボトルを返してもらいます!!」

そういつて腕のライオンクローを展開をして 迫る

フェイス「せい!!」

そしてライオンクローで攻撃をする……だが

アルビオン「ふん!!」

アルビオンの強力な拳がフェイスに当たり ファイスは吹き飛ばされ

る

ファイルス「気を付けろ 愛 彼は強い!!」

フェイス「そうだね……なら!!」

そういつてフェイスは動物アイコンを押す

ファイルス「イーグルモード!!」

フェイス「チェンジ」

ファイルス「大空の王者!!イーグルモード!!」

ファイルス「イーグルライフル!!」

フェイス「これで決める!!」

そういつて上空を飛び

ファイルス「必殺!!イーグルフルブラスト!!」

フェイス「は!!」

鳥型のエネルギーの弾が放たれたのだ

アルビオン「……………」

だがアルビオンは動かないで受けたのであったが  
フェイス「が!!」

いつの間にか後ろにいて叩き落とされたのだ

フェイス「ぐ!!」

ファイルス「昆虫の王者!!ビートルモード!!」

フェイス「チェンジ!!」

そういつてチェンジをして

フェイス「さらに」

ファイルス「イリユージョン!!」

そういつて増えて

ファイルス「深海の王者 シャークモード!!」

ファイルス「アイアンナックル!!ゴリラモード!!」

ファイルス「毒の王者 スコーピオンモード!!」

ファイルス「俊足の王者!!ラビットモード!!」

そういつて五人になったのだ

アルビオン「ほう………」

そして攻撃をする フェイスたち

アルビオン「ふ」

アルビオンはスコープイオンモードのランサーを受け止める

だが横からゴリラモードのフェイスがゴリラナックルで攻撃をして

きたのだ

アルビオンは次の攻撃をかわして さらに迫ってきたラビット

モードに蹴りをくらわせたのだ

フェイス「あう!!」

フェイス「だああああああああああああ!!」

ビートルアックスで攻撃をするも

アルビオン「であああ!!」

アルビオンは回転蹴りを噛まして フェイスたちを吹き飛ばしたの

だ

フェイス「なら!!」

エレメントスタイルにチェンジをして エレメントバスターを放



そういつて消えたのであった  
ブレイブ「消えた・・・」  
スナイプ「愛!!しっかりして!!」  
こうして二人は愛を運ぶのであった



## 最悪な戦い

愛「・・・・・・・・・・・・・・・・・・ううん・・・・・・・・・・」

愛は目を覚ました

愛「ここは？」

調「愛 大丈夫？」

愛「調お母さん・・・そうだ私・・・うう」

調「無理をしてはダメ・・・あなたはからだの負担が大きいだから」

愛「うん・・・・・・・・・・」

剣「よかった 無事で」

真奈「そうそう」

茜「全くだよ」

紗代「でも元気でよかった」

愛「うん・・・ありがとう・・・・・・・・」

花菜「愛姉ちゃんどうしたの？」

愛「・・・・・・・・・・何でもないよ 花菜」

すると警報が鳴った!!

全員「!!」

剣たちは急いで 基地の門へ行く・・・そこには壁に寄りかかっているヴァーリがいた

ヴァーリ「ようやく来たか」

見ると彼の周りには警備員が倒れていたのだ

剣「あなたが？」

ヴァーリ「ああ眠らせてもらったのさ スリープっていうアタックライドだな」

真奈「どうしてフルボトルを・・・あれを返して!!」

ヴァーリ「・・・ふっ」

すると笑って壁に寄りかかるのを止め

ヴァーリ「そうだな・・・」

アルビオンドライバーを装着をして

ヴァーリ「アルビオンの能力を使わせたら教えてやるよ」  
そしてカードを出して

ヴァーリ「変身!!」

「カメンライド アルビオン!!」

そして姿が変わり アルビオンになる

愛「……………」

愛は震えていた……恐怖という感情が出ていたのであった……………

アルビオン「さて……………」

白いライドウエポンをソードモードにして

アルビオン「かかってこい」

ブレイブ「なめるな!!」

ブレイブはガシヤコンソードで攻撃をしていき他のみんなもアルビオンに向かう

アルビオン「単純な剣技だな」

そういつて受け止めると

「開眼!!エジソン エレキヒラメキ 発明王!!」

ゴースト「それ!!」

ガンモードにした ガンガンセイバーから弾が放たれた

アルビオン「甘いな」

ブレイブを蹴り飛ばして 武器をガンモードにして相殺をした

デイケイド「はあああああああ!!」

「カメンライド 響鬼!!アタックライド音激棒烈火」

デイケイド響鬼になった デイケイドが音激棒烈火をふるう

アルビオン「はっ!!」

デイケイド「ぐうあ!!」

ガンモードでそのまま攻撃をする

フォーゼ「うおおおおおおおおお!!」

ライダーロケットパンチをアルビオンに放つがアルビオンは防ぐ

アルビオン「まずは 君だ」

「カメンライド フォーゼ!!」

フォーゼ「変わった!?!」

アルビオン「ふっ！」

そしてそのままつかんで頭突きを噛ました後 投げ飛ばした

フォーゼ「なら!!」

「ファイアー!!ファイアーON リミットブレイク!!」

フォーゼ「ライダー爆熱シュート!!」

そういつてファイアーステイツになって爆熱シュートを放ったのだ

アルビオン「そんな攻撃で倒せるなど・・・笑わせてくれるな」

そういつてロケットモジュールとドリルモジュールのスイッチを入れ、フォーゼドライバーのレバーを引く

「リミットブレイク！」

アルビオン「ライダー・・・ロケットドリルキイイック！」

フォーゼ「きゃああああああああああ!!」

そして変身が解除される

その手にはフォーゼドライバーを持っていた

ゴースト「よくも!!」

そういつて走り

「開眼 ムサシ!!剣豪!ズバット!超剣豪!」

そういつてムサシ魂になって ガンガンセイバー二刀流をふるった

アルビオン「君にはこのカードだ」

「カメンライド スペクター」

そういつてスペクターになって、ゴーストドライバーにノブナガ魂を入れた

「カイガン! ノブナガ! 我の生き様!桶狭間!」

そしてガンガンハンドをガンモードにして

「ダイカイガン!オメガスパーク!」

アルビオン「はあ!!」

オメガスパークを放ち

ゴースト「きゃああああああああああ!!」

ゴーストドライバーを回収をしたのだ

デイケイド「くっ!!」

スナイプ「この!!」

ブレイブ「二人をよくも!!」

アルビオン「冷静を失うか・・・落第点だ」

「カメンライド デイエンド!!」

そういつてまた姿が変わる

アルビオン「お前らにはこいつらが相手だ」

「カメンライド ゾルダ ナイト!!」

そういつてデイエンドライダーにカードを入れ二体のライダーを  
召還した

スナイプ「こいつら!!」

デイケイド「邪魔をするな!!」

そういつて2人は攻撃をする

アルビオン「さて剣なら剣で相手をするか」

「カメンライド ブレイブ」

そういつてブレイブになったのだ

ブレイブ「・・・・・・・・・・・・・・・・」

ブレイブは無言でガシャコンソードを構える

そしてダツシユをして

ブレイブ「はあああああああ!!」

アルビオン「はっ!!」

アルビオンはライドウエポン ランスモードで防ぎ

アルビオン「甘いな」

そういつてガシャコンソードを掴んだ

ブレイブ「なっ!?!」

そしてそのままぶんどり ブレイブを切りつけていく

ブレイブ「があっ!!」

アルビオン「これで終わりだ」

「キメワザー・タドル!クリティカルフィニッシュ!」

アルビオン「はあ!!」

まずは氷モードにしたガシャコンソードを地面にさし ブレイブ

を動けなくさせる

アルビオン「でえああああああああ!!」

そして持っているライドウエポン ソードモードとガシャコン  
ソードでブレイブを切りつけたのだ

ブレイブ「ぐうああああああ!!」

そしてそのままゲーマードライバーを奪った

デイケイド「剣!!」

スナイプ「この!!」

ガシャコンマグナムを放とうとするが ゾルダ達が後ろから攻撃  
をされる

アルビオン「さて、悪いがこの運命のシナリオは俺が書き換えた」

「ファイナルアタックライド アアアアルビオン!!」

するとカード型のエネルギーが発生をして たくさん現れたのだ

アルビオン「はあ!!」

そしてそのままカードの中へ行く

スナイプ「どこ!!」

デイケイド「見えない!!」

アルビオン「せえああああ!!」

そして二人に蹴りが命中をしたのだ

二人「きやああああああああ!!」

二人は変身が解除されて ベルトをとられる

アルビオン「お前たちにライダーになる資格はない……………」

剣「返せ……………それは……………」

アルビオン「返してほしければ……………アルビオンの能力を使わ  
せることだな」

そういつてアルビオンは同じことを言って消えるのであった

剣「ちち……………うえ……………」

そういつて剣たちは気絶をした……………ほかの子たちも気絶をする

愛「……………」

愛は何もできなかった……………アルビオンが出てきたとき……………  
自分のみているだけだった……………怖い怖いという恐怖の感情が彼

女を埋めていたのだ………

そしてふと思う……私は仮面ライダーの資格がないと……  
だがそれをある場所から見ている人物 いや仮面ライダーが見て  
いた………

「ずいぶんと暴れているようだな………」

その仮面ライダーのベルトは そして赤い翼をはやした仮面ライ  
ダーが見ているのであった

「………」

倒れている彼女たちを見ている

「すまない………娘たちよ………」

そういつて翼を開いて飛び立つのであった

## 彼女の決意

SONG 司令室

弦十郎「仮面ライダー・・・アルビオンか・・・」

翼「おそらく、奴がフルボトルなどを奪った可能性が高いです・・・  
そして剣達と戦いベルトを奪っていった・・・」

クリス「くそ！こんな時健介が居たら・・・」

全員「・・・」

調「だとしても、健介はいない・・・なら私達がやるしかない!!」

切歌「その通りデース！娘達の敵は私達が取るデース！」

セレナ「ならどうします？」

響「セレナさんがビルドに変身をして囿になって・・・」

マリア「なるほど・・・そこから私達が叩くって事ね？」

弦十郎「よし！作戦は決まった！全員・・・必ず取り返すぞ!!」

全員「了解!!」

こうしてアルビオンに対しての作戦が始まろうとしている

一方・・・

ファイルス「ふむ・・・」

愛達「・・・」

現在、愛達は落ち込んでいた・・・ベルトを奪われた自分達・・・  
母親達からは待機するように言われた

調「大丈夫・・・必ず、ベルトは取り返すから・・・!」

切歌「皆はここで待っていてほしいデース！」

愛「・・・私・・・仮面ライダーになる資格ないの  
かな・・・」

「そんな事はない」

全員「!!」

すると鏡から

「よつと」

仮面ライダー龍騎が現れたのだ

茜「仮面ライダー龍騎？」

すると龍騎は変身を解除すると

「よお、久しぶりだな」

全員「一誠さん……！」

そこに現れたのはかつて愛達を救ってくれた、仮面ライダードライブ  
グ事、一条一誠だった

一方……

ビルド「はあ！」

フルボトルバスターを放ちながら、ビルドはアルビオンに攻撃を続  
けていた

アルビオン「……」

アルビオンはフルボトルバスターの弾を弾きながらも、ビルドの後  
を追いかけている

ビルド（後もう少し！）

そう心の中で呟きラビットトラビットの力で高速で移動する、アルビ  
オンはその場所へ着くと

トラップが発動して捕獲用の紐が体を巻き付いた

アルビオン「……」

そして装者達が一斉に現れた

翼「さあ……娘達のベルトを返してもらおうぞ？」

そう言つて翼は剣を構えて、アルビオンに言うのであった

アルビオン「……ふっ」

奏「何がおかしい!!」

アルビオン「お前達の考えている事は分かっているんだ……ビルド  
を囮にして俺をこの場所へおびき寄せる事もな……」

調「なっ!？」

アルビオン「はっ！」

アルビオンはライドウエポンをソードモードにして紐を切った  
クリス「くそ！」

アルビオン「さて、お前達の運命のシナリオは俺が書き換えた！」

そう言つてアルビオンは戦闘を開始するのであった

一方SONG基地では……



一誠「なるほど・・・」

彼は彼女達の愚痴を聞いていた・・・アルビオンの圧倒的な力の前に恐怖が出てきた・・・あの恐ろしいほどの力が・・・怖い・・・そして自分達はライダーとしての資格があるのかどうか・・・一誠「確かに・・・恐怖とか怖いとか・・・戦いにはある・・・だが、どんな強敵や敵わない相手が現れて、心が折れそうになっても、君達には戦ってきた理由と戦う覚悟があつたからじゃないのか？」

全員「!!」

一誠「俺だつて怖い事はある・・・でも誰かを守る為にこの力を使う・・・そして恐怖より失う怖さを知っているから戦つてこれたはずだ」

愛「・・・」

一誠「君達のお父さんだつてそうかもしれない・・・いやお父さんだけじゃない・・・この世界の響達だつて同じ思いで守ろうとしてきたんじゃないのか？」

愛「一誠さん・・・」

一誠「それに・・・忘れてはいけない、命ある限り戦う・・・それが仮面ライダーじゃないのか！」

愛「つ!! そうだ・・・私はあの時、子どもが襲われていて・・・助けたい思いで仮面ライダーになった!! そしてその事を忘れない為に!! 私は戦つてた!!」

そう言つて愛はファイルスを持って、調達がいる場所へ向かった。その様子に一誠は笑みを浮かべた

一方調達は・・・

調「きやああああああああああ!!」

アルビオン「・・・チエツクメイトだ」

アルビオンの圧倒的な力の前に・・・倒れていた・・・翼「なんという・・・力だ・・・!」

クリス「あたし達が手も足も出ないなんて・・・」

切歌「し、しら・・・べ・・・!」

アルビオン「お前らのパターンはある程度分かっている。・・・まあ、あっちの方がまだ歯応えはあるが・・・」

「そこまでですー!」

全員「!!」

調「愛・・・!」

愛「これ以上・・・お母さん達に手は出させない!」

アルビオン「・・・ほう、昨日とは違って良い目つきをしてる・・・」

愛「私は忘れていた・・・何の為に仮面ライダーになった事を・・・当たり前前の事を忘れていた!!だからこそもう忘れない!そして恐怖から逃げない!ファイルス!!」

ファイルス「了解だ!!愛!!変身だ!!」

そう言つてフィスドライバーが現れる

ファイルス「ライオン!!」

愛「変身!!」

ファイルス「百獣の王!!ライオンモード!!」

恐怖を乗り越え、戦う理由を思い出し、今ここに仮面ライダーフィスが復活をした!

アルビオン「なら、見せてもらうか・・・お前の覚悟を・・・ライダーとしての覚悟を!!」

フィス「私はあなたに勝つて剣達のベルトを取り返す!!」

そういつてライオンクロウを展開をして構えるフィス!!

## フェイス対アルビオン

アルビオン「ほう……いい目をしているな」

フェイス「ええ、ある人から教えてもらったらね……仮面ライダーとしての使命を……そして自分自身がどうして仮面ライダーになったのかを!!」

そういつてフェイスはライオンクロードで攻撃をしていく!!

フェイス「は!!」

アルビオンはそれをかわしてライドウエポンをソードモードにしてフェイスに攻撃をする。

フェイス「だああああああ!!」

フェイスはそれをライオンクロードで受け止めてはじかせる!!

アルビオン「……」

だがアルビオンはガンモードにしてフェイスに放ったのだ!!

ファイルス「なら!!歴代のライダーの力お借りします!!」

ファイルス「クウガ!!」

するとフェイスの姿がクウガになり

フェイス「おりゃ!!」

マイティフォームのクウガの拳がアルビオンに攻撃をするが、アルビオンは蹴りを入れてフィスクウガを吹き飛ばすが

ファイルス「フォームチェンジ!!ペガサス!!」

すると緑のクウガ ペガサスフォームへと変わる!!

フェイス「であ!!」

ペガサスボウガンから空気弾が放たれて アルビオンに攻撃をする!!

アルビオン「……ほう」

するとフェイスの姿が見えないのだ!!

アルビオン「……」

アルビオンはランスモードにして構えているが……フェイスの姿がないのだ!!

アルビオン「そこか」

「そういつて槍をさすが……」

アルビオン「外した？」

ファイルス「ストライクベント!!」

フィス「は!!」

アルビオン「……………」

炎がアルビオンを襲う、そうフィスはフィス龍騎になって鏡へ逃げ  
ていたのだ。

アルビオン「なるほどな……歴代の仮面ライダーの力も使えるつ  
てことか」

フィス「そうですね…………でも私は先輩たちが守ってきた力  
を……悪用などはしない!!」

「そういつて次のライダーに変身をしたのだ!!」

ファイルス「ブレイド!!」

すると姿が仮面ライダーフィスブレイドに変わったのだ!!

アルビオン「いくぞ…………」

大剣モードで攻撃をしてくる

ファイルス「ライトニングスラッシュ!!」

フィス「だああああああ!!」

アルビオン「ふん」

アルビオンはライトニングスラッシュを軽々大剣で受け止めるが、

フィスはボタンを押したのだ!!

ファイルス「マグネット!!」

ブレイドのスピードの8 マグネットを使用したのだ!!

アルビオン「ほう…………」

アルビオンはマグネットではじきだされたのだ!!

ファイルス「マツハ!!」

アルビオン「……………」

フィス「だああああああ!!」

連続で攻撃をするフィス、前よりも太刀筋が強くなっているのだ!!

アルビオンもツインソードモードにして対抗をする。

フィス「だああああああ!!」

さらに蹴りを入れてアルビオンを後退させる。

フィス「よし!!」

蹴りを与えたのか、フィスはさらにチェンジをする!!

ファイル「シンフォギアモード!!」

アルビオン「・・・それは見たことがないな」

フィス「これはお父さんがいれてもなかったフォーム・・・これがお母さんたちがお父さんを愛すること!!」

そういつてシャルシャガナフォームになってヨーヨーを振り回している!!

するとヨーヨーから刃が出てきてアルビオンに攻撃をする!!

アルビオンはそれを剣ではじいて、ガンモードにして攻撃をしてくるが

フィス「イチイバルモード!!」

そういつてガトリングで相殺をする!!

アルビオン「ほう・・・」

フィス「だああああああああああああ!!」

さらにアマノハバキリモードになって大剣で対抗をする!!

フィス「私は勝つ!!あなたを倒すためじゃない!!仮面ライダーとしてもない!!」

アルビオン「・・・・・・・・・・・・・・・・」

フィス「それは・・・私が・・・お父さんのような!!仮面ライダーとしてフィスの名を引き継いだんだ!!」

そういつて連続した攻撃をアルビオンにしていく

アルビオン（そういうことか・・・）

そういつてアルビオンははじかせていく!!

アルビオン「ならば見せてもらおうぞ・・・お前のシナリオをな!!」  
そういつてカードを出す

フィス「こっちも!!」

ガングニールモードになってファイルを押す

「ファイナルアタックライド アアアアルビオン!!」

ファイル「必殺!!シンフォギアメテオストライク!!」

二人「はあああああ……」

二人の足にエネルギーがたまる!!

二人は一気に飛び、ライダーキックの構えをする!!

二人「でああああああああ!!」

二人の蹴りが同時に命中をする!!

アルビオン「どうした……お前の力はそんなものか？」

フィス「ぐ!!」

アルビオンはフィスを押している。

アルビオン「お前が守りたいのはそんなものだったのか……」

そしてお前の父親も……」

フィス「確かに私は弱い……でもいつまでもそこでとまっては

いけない!!それが私だから!!」

アルビオン（……どうやら迷いは晴れたようだな……）

フィス「でああああああああああああああああああああ

あああ!!」

アルビオン「ふ……」

しゅん

フィス「おととと」

突然の解除にフィスはバランスを崩しかけたのだ。

アルビオン「……」

するとアルビオンは何かを出す、何かが出てきたのだ!!

フィス「これは!!」

そこには彼に奪われた、ゲームードライバーなどがあつたのだか

ら……

アルビオン「……」

そのまま彼は姿を消したのであつた……

セレナ「フルボトル!!」

そしてフルボトルも一緒に置いてあるのであつた。

ある場所にて

アルビオン「……」

「ありがとうな、娘たちを鍛えてくれて」

アルビオン「……………本当はお前がやるはずだろ？相田 健介……………」

健介「まあそうだけどねwでも……………あの子たちも成長をしたらってことだけはわかったよ……………」

アルビオン「なら俺は帰る」

そういつて時空を通り彼は戻るのであった。

健介「ありがとうな、別世界の仮面ライダー……………」

さて一歩で基地へ戻った愛たち。

剣「ありがとう、愛……………」

愛「ううん、私だけじゃない……………勝てたのはあの人の言葉と……………お父さんたちの言葉だよ……………だからこそ私はあの人に勝てたと思う……………それが仮面ライダーとしての役目だから……………」

そういつて彼女たちは行方不明である父 相田 健介のことを思うのであった。

## 現れた謎の黒いライダーたち

アルビオンとの戦いから、三週間がたった。

フィス「だあああああああ!!」

ビルド「は!!」

フルボトルを取り戻した、セレナは今キードラゴンとなり、フィスと戦っているのだ!!

フィス「であ!!」

ロツクの方からチェーンが飛び、フィスに攻撃をしようとしているのだ!!

フィス「であ!!」

ライオセイバーでチェーンをはじめていくフィス。

ファイルス「アイアンボディ!!ゴリラモード!!」

ビルド「ゴリラなら」

「ゴリラ ダイヤモンド!!ベストマッチ!!」

ビルド「ビルドアップ!!」

「輝きのデストロイヤー ゴリラモンド!!」

二人「うおおおおおおお!!」

二つのゴリラのナツクルが激突をしていく!!

フィス「は!!」

そういつて両手のゴリラナツクルを飛ばして ビルドへ放ったのだ!!

ビルド「は!!」

ダイヤモンドのバリアーをはりガードをしたのだ!!

フィス「あらら……」

そういつてゴリラハンマーを持ち、攻撃をする!!

フィス「でああああああああああああああああああああああああああああああ!!」

接近をして振りかざす!!

「だがその戦いは警報がなり終了をしたのであった。

セレナ「警報……いったいどうしたんだろう……」



愛「わかりませんが、行ってみましょう」

そういつて愛たちは司令室へ行くのであった。

弦十郎「来たか」

そこには奏者たちが全員そろっているのであった

クリス「どうしたんだ、おっさん」

弦十郎「ああ、怪人が出現をしたんだ全員で出動を頼む!!」

全員「了解!!」

そういつて出動をしたのであった。

ライオトレインに搭乗をして、その場所まで到着をする!!

フィス「これは!!」

そこには怪物たちが暴れているのだ!!

翼「止めない!!」

そういつて全員がシンフォギア、仮面ライダーになって怪物たちを

止めるために戦う。

響「ゴーベルト!!」

翼「サード!!」

クリス「アイビス!!」

マリア「イビルス!!」

奏「アマリス!!」

そういつて強化状態になったのだ!!

スナイプ「この!!」

ガシャコンマグナムを放ちながら 怪物たちに攻撃をする!!

ゴースト「えい!!」

ガンガンセイバーで切りつけていく!!

調「はああああああ!!」

切歌「くらうデース!!」

そういつて2人は鋸 鎌で攻撃をする!!

「ぐおおおおおお!!」

フォーゼ「ライダーロケットパンチ!!」

そういつてロケットで怪物を殴る!!

ブレイブ「はああああああ!!」

そういつて燃えさかるガシャコンソードで切りつけていく!!

デイケイド「は!!」

デイケイド「ブラストを放ち、次々に落としていく!!」

クリス「くらいやがれ!!」

そういつてミサイルを放ち 怪物たちは撃破していく。

フィス「多すぎる」

デイケイド「同感、ならどうする?十秒間だけ付き合ってくれる?」

フィス「上等よ」

ファイルス「ファイズモード モードファイズアクセル!!」

「フォームライド ファイズアクセル!!」

すると二人のファイズアクセルフォームになる。

「スタートアップ」

すると二人は高速で移動をして次々に怪人たちを攻撃をしていく

!!

響「速いね……………」

未来「うん……………」

「3. 2. 1 タイムアップ」

そういつて元のフィスとデイケイドに戻るのであった。

「シユートベント」

全員「!!」

すると黒い矢が飛んできてフィスたちに攻撃をしてきたのだ!!

ゴースト「させません!!」

「開眼 ニュートン!!」

そういつて右手を前に出して攻撃をはじかせていくのであった。

「……………」

デイケイド「なにあれ……………」

そう現れたのは黒い仮面ライダーだからだ……………」

ビルド「なんかナイトに似ているような……………」

すると黒い剣を持ち 攻撃をしてきたのだ!!

ブレイブ「第50 剣術!!」

翼「はああああああ!!」

「タドルファンタジーーーー」

そういつて親子は剣で受け止めるのだ!!

「……………」

翼「貴様がこの怪人たちを……………」

だが黒い仮面ライダーは答えない。

「タカ!! ガトリング!!ベストマッチ!!」

ビルド「ビルドアップ!!」

「天空の暴れん坊!!ホークガトリング!!イエーイ!!」

「開眼 ロビンフッド!!」

二人「は!!」

ホークガトリングとガンガンセイバーアローモードを放ち、黒い仮面ライダーに攻撃をする!!

「……………」

黒いライダーは攻撃を受けるも、接近をしてくるのだ!!

フォーゼ「くらえ!!」

「ジャイアントフットON」

フォーゼ「せいせい!!」

そういつて巨大な足を出して攻撃をする。

「……………」

するとカードを出して

「ブラストベント」

すると黒いコウモリが現れて 強烈な風を起こしてシンフォギア

奏者たちを吹き飛ばしていく!!

フィスたちも風に耐え切れず飛ばされる

フィス「なんて風なの!!」

スナイプ「つてことはあいつの相棒つてこと?」

そういつてバンバンシユミレーションゲーマーになって放つ!!

だが 砲撃が落とされたのだ。

スナイプ「な!!」

「CLOCKOVER」

全員「!!」

見ると黒いクワガタのライダーがスナイプが放った攻撃を落とす  
たようだ。

「……………」

ゴースト「別の仮面ライダー？」

デイケイド「くそ!!が!!」

ビルド「茜!!」

奏「誰だ!!」

そこには黒いライダーが銃をもってデイケイドを撃つたのだ。

「……………」

すると三人のライダーがそこに集結をしたのであった。

調「黒い……仮面ライダー……………」

切歌「三人も……………」

そういつて三人は武器を構えているのであった。

デイケイド「向こうはやる気みたいだよ？」

そういつて全員が構えるのであった。

すると何かが発生をすると、そこに仮面ライダーが現れたのだ。

「……………」

ゴースト「え!?茜ちゃんがふたり!？」

デイケイド「!!」

そうそこにいたのはもう一人のデイケイドだからだ。しかも黒い

デイケイドが立っていたからだ……………」

すると三人が膝をついているのだ

「『『『『『『『』』』』』』』」

ダークデイケイド「ご苦労だ　ダークナイト　ダークガタツク

ダークイクサ」

三人「は」

そういつてダークデイケイドは彼らを見ている。

ダークデイケイド「なるほど、シンフォギア世界ってことか……………」

いいだろうこの世界を俺が破壊してやろう」

そういつて構えている!!

響「いくよ!!」

そういつて響は接近をして攻撃をしようとしたが  
響「・・・・・・・・・・・・・・・・」

どさという音ともに倒れるのであった。

ゴースト「お母さん!!」

翼「なんだ、今は・・・・・・・・」

マリア「ええ響がいきなり倒れたわ・・・・・・・・」

すると一瞬でダークデイケイドが動いて、全員の後ろに立っていたのだ

全員「!!」

すると

翼「が!!」

マリア「ぐあ!!」

ビルド「ぐ!!」

ブレイブ「な」

スナイプ「が!!」

デイケイド「がは」

フォーゼ「う」

ゴースト「うう・・・・・・・・」

クリス「な!!」

調「いつたい・・・・・・・・」

奏「どういうことだ!!」

ダークデイケイド「知りたいか・・・・教えてやろう、俺は世界のライダーを倒してきた・・・・その力をカードにしなくて自身の力で使えるようにしたのさ。」

フィルス「まさか!!今の力はカブトのクロックアップてことか!!」

ダークデイケイド「そういうことだ」

切歌「この!!」

調「切ちゃんだめ!!」

ダークデイケイド「ふん」

そういつてメタルシャフトをだして切歌に当てたのだ  
切歌「が!!」

ダークデイケイド「終わりだ」

「ファイナルアタックライド デイデイデイケイド!!」

ダークデイケイド「おら!!」

そういつて放たれた ダークデイメンションブラストが命中をして全員が倒れる。

フィス「ぐああ………」

デイケイド「なんて威力なの……桁違いよ………」

ダークデイケイド「弱いな……さて終わらせてやるよ………」

調「うう………」

ダークデイケイド「まずはお前からだ」

そういつて切歌と調の首を絞めているのだ

二人「が……ああ………」

フィス「お母さん!!」

スナイプ「ママ!!」

すると上空から何かの光がダークデイケイドを吹き飛ばしたのだ

!!

ダークデイケイド「ぐ!!」

すると二人を支えるのであった。

「………」

ダークナイト「ダークデイケイドさま!!」

ダークデイケイド「くるな………何者だ」

すると光がはれると 紅い翼が閉じるのだ。

切歌「ううん………」

「大丈夫か? 切歌 調」

二人「!!」

調「健介!!」

そう彼女たちを助けたのは、復活をしたネオガードムのバクテス共に行方不明になっていた相田 健介だからだ。

デステイニー「さて………」

そういつて振り返ると

ベルトから光が出てきた、シャマルが出てきたのだ。

デステイニー「シャマルさん、回復をお願いします」  
シャマル「わかったわ」

そういつてシャマルは響達を回復させるために動く。  
さらにベルトからシグナムとヴィータが現れる。

デステイニー「それじゃあ シグナムさん ヴィータ行きませよ  
!!」

シグナム「いいだろう」

ヴィータ「よっしゃ!!」

ザフィーラも登場をする。

ザフィーラ「三人では不利だろう、俺も出る」

デステイニー「ああ いくぞ!!」

## 帰ってきた健介

ダークナイトたちはシグナムたちに任せてきた・・・さて俺がやることは

ダークデイケイド「ほう、貴様・・・仮面ライダーってことか？」  
デステイニー「ああ仮面ライダーデステイニーだ!!」

そういつて俺はアロンダイトを抜いて構える!!

ダークデイケイド「なら見せてもらおうぞ・・・お前の力をな!!」  
すると奴はアギトが使うフレイムセイバーとストームハルバードを出してきた。

デステイニー「・・・・・・・・・・・・・・・・」

俺は奴はカードを使わずにあの力を得るってことはおそらく俺が知っている仮面ライダーの別次元で奴が生まれ、それらのライダーたちの力を奪っているんだ・・・

デステイニー「は!!」

ダークデイケイド「ふん」

俺はアロンダイトで攻撃をするが、奴は両手の剣と槍でガードをする。

ダークデイケイド「どうした？」

デステイニー「なら、これならどうだ!!」

そういつて俺はライフルを放ち攻撃をする、だが奴は剣ではじかせていくが・・・俺はそれも予想をしている通りだ・・・

なのは「マツハスペシャル」

俺はスピードをあげるカードをインプットさせて高速移動をしているのだ。

デイケイド「面白い」

「クロックアップ」

すると奴はカブトたちが使うクロックアップを使ってきやがった。

お互いの剣がぶつかり合い、俺は奴の武器をはじかせる!!

ダークデイケイド「ならこれならどうだ？」

すると奴はトリガーマグナムとスカルマグナムをこちらに向けて



きたのだ!!

デステイニー「ちい!!」

奴は放つ弾を左手のビームシールドを展開をしてガードをする。

デステイニー「ならこのカードだ」

俺はフォームカードをインプットさせる

なのは「フルバーストモード」

「デステイニーの色が青緑になり、両手にはツインガトリング 肩部と脚部にミサイルポット 胸部ハッチにはガトリングが、さらに背中にはキャノン砲が装備される。

デステイニー フルバーストモードだ。

俺は両手のツインガトリングをダークデイケイドに放つ!!

ダークデイケイド「おっと、なら接近すればいいだけだ!!」

そういつて奴はライドブッカーソードモードとウイザーソードガンを構えてくるが、俺は胸部ハッチを開ける。

ダークデイケイド「な!!」

デステイニー「武器はここにもあるんだよ!!」

そういつて両肩と脚部のミサイルポットを開けて同時に発射させる!!

シグナム「回避!!」

シグナムたちは当てないようにほかのライダーたちに命中させるためにはなったのだ!!

ダークガタツク「クロックアップ」

ダークガタツクだけはクロックアップで回避をしたが……

デステイニー「いつ俺が一人だと言った?」

ダークガタツク「ぐあ!!」

CLOCKOVER

全員「!!」

見ると鏡からデステイニーが出てきたのだ。

デステイニーミラーモード、鏡を使った攻撃やナイフ ローリング カッターなど色々な技を使用することが出来るフォームなのだ。

先ほど俺はイリュージョンカードを使ってもう一人を生み出して

いたのだ。

もう一人はミラーモードなり、おそらくガタツクあたりがクロツクアップで回避をするだろうと予想をしていたからだ。

二人のデステイニー「いえーい!!」

ダークナイト「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「トリックベント」

するとダークナイトが増えてこちらに攻撃をしてきたのだ!!

デステイニーA「どうする?」

デステイニーB「あいつに任せましょう」

ダークナイトたちが攻めてくるが

「ウォーターキャノン!!」

ダークナイトたち「!!」

すると強烈な水流がダークナイトたちを吹き飛ばしたのであった。

デステイニーC「よっしゃ!!」

デステイニー レスキューモード 通常がこの状態だが、そこからサポートビークルと呼ばれるのと合体をして色んな力で戦う。

ダークイクサ「・・・・・・・・・・・・・・・・」

ダークイクサがブロウクン・フアングを構えていると

「は!!」

ダークイクサ「!!」

「せい!!」

すると上空から光弾が飛んできたのだ。

ダークイクサ「!!」

ダークイクサは攻撃をくらいながらもブロウクン・フアングを放つたのだ。

上空から撃ったのは魔法モードのデステイニー、接近をしたのがアニマルモードのデステイニーであった。

ダークデイケイド「イリユージョンをかなりしていたのだな?」

デステイニー「まあな」

そういつて一つに戻るのであった。

ダークデイケイドたちは睨むが・・・・・・・・・・

ダークデイケイド「まあいいだろう、今日のところは引くぞ」  
そういつて四人は謎のオーラと共に消えていくのであった。

なのは「解除」

そういつて変身が解かれると、彼は振り返るのであった。

愛「おとう．．さん．．．．．」

健介「ああ久しぶり 愛」

そういつて話す彼．．．．．そうそこにいるのはかつて愛が変身をする、仮面ライダーフィスを作り変身をしていた男 相田 健介だからだ。

調「健介!!」

そういつて愛する人たちは彼に抱き付いていく。

健介「すまん、予想以上に奴との決着がつけなくてな．．．．．」

切歌「でも帰ってきてくれたってことは．．．．．勝つたのですね？」

健介「ああ．．．．．」

セレナ「よかった．．．．．よかったよ．．．．．健介さん」

真奈「パパ．．．．．」

剣「父上．．．．．!!」

茜「お父さん!!」

紗代「お父さん．．．．．」

花菜「パパ!!」

そういつて子どもたちもやってくるのであった。

健介「すまないな、お前たちも苦勞をさせたしまった．．．．．」

愛「ううん」

フィルス「バディ．．．．．無事で何よりだ」

健介「ああフィルスご苦勞だったな」

そういつが．．．．．健介の顔は暗いのであった。

健介「ダークライダーか．．．．．」

愛「なんだろう、あの人たちは心つて言うのが．．．．．」

調「そうだね．．．．．わからないけど．．．．．」

切歌「でもあれは反則デース!!」

翼「全ライダーの力を使えるってことかのか……」

奏「こりや厄介な戦いになるぜ……」

マリア「でも私たちに敗北は許されないわ……」

クリス「だな」

そういつて彼女たちは新たな決意を固めるのであった。

## ハザードフォーム

SONG シュミレーション室

デステイニー「それで、ハザードの力をあげるために戦うってことだね？」

セレナ「はい、ではお願いします!!」

そういつてセレナはハザードトリガーをセットをする。

「ハザードON」

さらにもう一度押す。

「ゴリラ ダイヤモンド スーパーベストマッチ!!」

セレナ「変身!!」

「ドンテンカン! ドンテンカン! ガタガタゴットン! スツタンズダン!  
! アンコントロールスイッチ! ブラックハザード! ヤベーイ!」

通常のハザードフォームのゴリラモンドになって。

ビルド「は!!」

そういつて攻撃をしていく!!

デステイニー「おっと」

デステイニーはかわして、フラッシュエッジを投げていく。

ビルド「は!!」

ビルドはダイヤモンドをだしてガードをして、そのまま右手でダイヤモンドを粉碎をして拡散弾のように飛ばす!!

デステイニー「いていていて!!」

そういつて拡散弾を飛ばされたのでデステイニーはいたないのであった。

「忍者! コミック! スーパーベストマッチ!」

ビルド「ビルドアップ」

さらに姿を変えて ニンニンコミックハザードとなり、四コマ忍法  
刀を装備して切りかかる!!

デステイニー「なら!!」

デステイニーはアロنداイトで受け止める!!

ビルド「ぐ……」

トリガーを一回引く。

「分身の術!!」

「デステイニー」「どあ!!」

攻撃をいきなりぶんしんでかわされたので、デステイニーはアロン  
ダイトを構え直す!!

ビルド「は!!」

さらに手裏剣で連続して攻撃をする!!

デステイニー「ちい!!」

全体にリフレクターをしてガードをする!!

デステイニー「なら!!」

フェイト「魔法モード!!」

そういつて姿を変えて魔法モードとなった!!

ビルド「!!」

デステイニー「アクセルシューター!!」

そういつて連続した光弾を飛ばしてビルドを吹き飛ばしていく!!

ビルド「あう……」

デステイニー（やはり本物と違うからな……ハザードで暴走  
をしないようにしてあるが……やはりオリジナルと比べたら……）  
そういつて上空で待機をしながら思うのであった。

ビルド「まだです!!」

「フェニックス！ロボット！スーパーベストマッチ!!」

ビルド「ビルドアップ!!」

さらにフェニックスロボハザードフォームとなり。

そしてレバーをまわして……

「LADYGO！ハザードファイニッシュ!!」

背中の赤い翼が開いて炎が纏い、ロボットアームが発生をしてデス  
テイニーに攻撃をする!!

デステイニーも必殺のカードを出してデステイニードライバーの  
前にかざす!!

フェイト「ファイナルアタック!!」

デステイニー「はあああ……」

レイジングハートエクセリオンが光りだす!!  
デステイニー「スターライトブレイカー!!」

お互いの技が激突をして……衝撃が走るのであった。  
二人「うあ!!」

二人は吹き飛ばす、セレナは変身が解除される。

セレナ「いたたたた……あれ?」

デステイニー「おお……い……」

愛「お父さん?」

デステイニー「だ……誰か抜いてくれ……」  
つと壁にめり込んだデステイニーがいたのであった。

調「え!?!」

切歌「うそーん!!」

そういつて全員がギアやライダーになってデステイニーを引っ張るのであったが……

スナイプ「すぐく刺さつて抜けないよ……」

ブレイブ「どうしましょう?」

フィス「まかせて!!」

ファイルス「ゴリラモード!!」

フィス「チェンジ!!」

ファイルス「アイアンボディ!!ゴリラモード!!」

全員が愛が何をするのかを見ていると、ファイルスをかまっているのだ。

ファイルス「必殺!?!ゴリラメテオボンバー!!」

フィス「行くよ……」

そういつてデステイニーを殴り飛ばしたのだ!!

全員「……」

デステイニー「がふ……」

デステイニーはなんとか壁から抜けれたが……ダメージがかなり入ったのであったw

フィス「よし!!」

ディケイド「よしじゃねーよ!!」

「アタックライド ハリセン!!」

そういつて叩いたのであった。

フィス「あた!!」

フォーゼ「とりあえずお父さんを運ぼうよ」

そういつて運ぶのであった。

司令室

弦十郎「・・・・・・・・・・・・・・・・」

翼「おじさま?どうしたのですか」

弦十郎「いや・・・・・・・・すこしな・・・・・・・・」

そういつて見ていた写真を隠すのであった・・・・・・・・

翼「そうですか・・・・・・・・では」

そういつて翼は去るのであった・・・・・・・・

弦十郎「・・・・・・・・お前なのか・・・・・・・・お前がダークデイケイド

なのか・・・・・・・・カナト」

そういつて小さいときの翼と映っているもう一人の男の子を思っているのであった。

ある基地にて

ダークデイケイドは変身を解除をしている、その髪は翼と同じ髪をしており目も青かったのだ・・・・・・・・

そう彼こそ 風鳴 カナト・・・・・・・・数十年前行方不明となっている青年なのだ・・・・・・・・

カナト「・・・・・・・・翼姉ちゃん・・・・・・・・ごめん・・・・・・・・でも俺もやることがある・・・・・・・・だからこそ・・・・・・・・俺はダークデイケイドとなった・・・・・・・・」

そういつてダークデイケイドドライバーを持ち変身をする。

彼が変身をするダークデイケイドの力は彼が倒したのではなく、データを元に作られたのであった。

いわゆる力は本物だが本人を倒してないということになる。

ダークデイケイド「・・・・・・・・さて」

そういつて機械をかまう前にカードを出す。

そのカードはライダーカードだ、出したのはゾルダ、カイザのカー



ドだ。

そして機械にセットをするとデータが現れて体が組成されていく。そして色が黒くなり、ダークゾルダ　ダークカイザが誕生をしたのであった。

ダークデイケイド「さてお前たちにもはたらいてもらおうぞ?」

二人「は・・・ダークデイケイドさま」

そういつて彼らも動くのであった。

ダークデイケイド「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」

## ダークデイケイドの正体

健介「……………」

健介は自室でデステイニードライバーとファイルスの調整をしているのであった。

健介「やはりダメージが大きいつてもあるからな……………」  
ファイルス「そこまでなのか？」

健介「ああ俺が行方不明になったときから調整をしなかったからな……………強度も落ちてきている……………オーバーホールをしたほうがいいかもしれないが……………」

ファイルス「だがバディ、その時間がないんだろ？」

健介「ああ……………あのダークデイケイドやアルビオンつてやつの時のダメージがあるからな……………だからこそ修理しておく必要がある」

そういつてファイルスを調整をしているときに警報が鳴るのであった。

健介「……………仕方がない　なのは……………悪いが愛のところへ行つて力になってほしいんだ。」

なのは「え？」

健介「ファイルスを修理をするつて言っておいてほしい」

なのは「わかりました。」

そういつてなのはは走るのであった。

司令室

愛「え!?!ファイルスが!!」

なのは「はい……………」

弦十郎「なら仕方がない愛君以外出動だ!!」

全員「了解!!」

そういつて出撃をすると

ダークカイザとダークゾルダが暴れているのであった。

ブレイブ「こいつらが……………」

するとダークカイザはダークブレイガンを構えて攻撃をしてきた。

デイケイド「ならこれで相手をしてやる」

「カメンライド ファイズ」

そういつてファイズエッジをもって攻撃をする。

ブレイブ「なら、第五剣術」

「ドラドラドラゴナイトハンターZ!!」

そういつてフルドラゴン状態になり ドラゴンブレードで攻撃をする!!

スナイプとゴーストとフォーゼはダークゾルダと戦っている。

「シユートベント」

そういつてダークギガキャノンで攻撃をしてくる!!

スナイプ「あぶな!!」

そういつてガシヤコンマグナムで攻撃をするが マグバイザーで相殺される。

フォーゼ「しかし、あの射撃 クリスお母さんなみ!!」

ゴースト「でもお母さんたちは……」

そう今ダークデイケイドと戦っているのであった!!

スナイプ「もう!!あの射撃厄介だよ……!!」

そういつて撃ちながら言うのであった。

一方でダークデイケイドと戦う翼たち

翼「はああああああああああああああああああ!!」

ダークデイケイド「ふん」

ダークデイケイドはライドブツカーで受け止める。

響「だああああああああああああ!!」

響は接近をして殴ろうとしたが

「アタックライドメタル」

そういつてカードを出して装填をする。

響「ぐ!!」

響はガードされてはじかれる

マリア「だああああああああああ!!」

ビルド「は!!」

二人は短剣とドリルクラッシャーで攻撃をするが……

ダークデイケイド「甘いんだよ」

そういつて音激棒烈火をだして二人の攻撃をふさいだのだ。

二人「!!」

クリス「くらいやがれ!!」

そういつてミサイルを放ち、マリアとビルドは離れる

ダークデイケイド「ちい……」

ダークデイケイドはミサイルをくらい少しだけ下がる

切歌「くらうデース!!」

そういつて鎌を連続して飛ばしていく

調「これはおまけ!!」

そういつて調も鋸を飛ばして二人のぶきが飛ぶのであった。

ダークデイケイド「甘い」

そういつてバツシャーマグナムとデンガツシャーガンモードにし

て放った武器を落としていく。

奏「なら!!」

そういつて奏は背中のブースターで空を飛び。

奏「くらいやがれ……!!」

そういつて勢いよくやりをふるったのだ!!

だがダークデイケイドは槍をつかんだのだ!!

奏「な!!」

翼「奏!!」

翼が小刀を連続で投げる

ダークデイケイド「ふん」

だがそれをかわして翼に接近をしたのだ!!

ブレイブ「母上!!が!!」

ブレイブは後ろからグランインパクトをくらい吹き飛ば!!

デイケイド「ブレイブ!!この!!」

そういつてダークカイザを切りつけた。

スナイプ「もうこれでとどめ!!」

「ガシャット バンバンクリティカルフィニッシュ!!」

「ドリルON!!」

フォーゼ「ライダードリルキック!!」

そういつて放たれた技がダークゾルダに命中をして爆散をする。

「ファイナルアタックライド ファアファアファイズ!!」

デイケイド「はあああああ………」

ファイズショットを構えて接近をする。

ダークカイザはブレイガンで攻撃をするが、デイケイドファイズはそれをかわして

デイケイド「は!!」

グランインパクトが命中をしてダークカイザを吹き飛ばす。

ダークカイザ「!!」

「ドラゴナイトクリティカルストライク!!」

ブレイブ「はああああああああああああ!!」

ブレイブの蹴りが命中をして爆散をするのであった。

ダークデイケイド「……………」

ダークデイケイドは二体が爆散をするのをみて奏を飛ばした

響「奏さん!!」

響がキャッチをする。

奏「サンキュー」

そういつて立ちあがる。

ダークデイケイド「こうなれば……一気に」

っと攻撃をしようとしたとき

「ラビットアロー!!」

そういつて何かがダークデイケイドを切りつけたのだ!!

ダークデイケイド「ぐ!!」

「は!!」

そういつてダークデイケイドを蹴り飛ばした!!

「俊敏のラビットモード!!」

そういつて現れたのは仮面ライダーフィスなのだ。

ダークデイケイド「フィスだと……………」

フィス「……………」

フィスはさらに接近をしてラビットアローで切りつけていく。

ダークデイケイド「調子に乗るな!!」

そういつて孔隙をしようとしたが、後ろにバックステップをしてラビットアローを引いてエネルギー矢を放ち命中させる。

ダークデイケイド「く!!」

ファイルス「オクトパス」

ファイルス「チエンジ」

ファイルス「八本の足!!オクトパスモード!!」

そういつて姿が変わりオクトパスモードとなったのだ!!

ファイルスは無言でファイルスを構えてブレードモードで攻撃をする

!!

ダークデイケイドはメタルシャフトで対抗をしていく。

がきん!!という音が鳴りお互いの武器が火花を散らしていく。

ファイルス「・・・・・・・・・・・・・・・・」

するとファイルスの背中からたこ足が現れてたこ百裂拳が放たれる!!

どどどどどどどどど!!という音がダークデイケイドに当たり

ダークデイケイドを吹き飛ばしていくのであった。

ダークデイケイド「ぐ・・・・・・・・・・・・・・・・」

ファイルス「・・・・・・・・・・・・・・・・」

オクトパスランチャーを構えて ファイルスをセットをしたので

あった。

ファイルス「必殺!!オクトパスバニッシュ!!」

ファイルス「は!!」

タコ型のエネルギーの弾が放たれてダークデイケイドに命中をして吹き飛ばされる、するとダークデイケイドの変身が解除されるのであった。

翼「な・・・・・・・・かな・・・・・・・・と・・・・・・・・」

カナト「!!」

するとカナトはテレポトジェムを砕いたのだ。

翼「まっつて!!どうして逃げるの!!カナト!!カナ

ト・・・・・・・・・・・・・・・・!!」

それを司令室で見ていた弦十郎・・・・・・・・

弦十郎「カナト……お前だったのか……なんで……」  
つというのであった。

フィス「……………」

するとフィルスを押す

フィルス「解除」

すると愛が変身をしているかと思ったら……

健介「ふい」

相田 健介がフィスに変身をしているのであった。

全員「健介（お父さん!?!?!）」

愛「お父さん、いつのまに」

であった。

## カナトの真実 彼の関係

SONG 基地

クリス「おっさん!! 答えてもらおうぞ!!」

弦十郎「・・・・・・・・・・・・・・・・」

弦十郎は何かを考えている・・・・・・が口を開く。

弦十郎「そうだな・・・・・・・・君達にも教えておいた方がいいかもしれない・・・・・・・・」

翼「・・・・・・・・・・・・・・・・」

剣「母上・・・・・・・・」

弦十郎「風鳴 カナト・・・・・・・・翼の弟だ。」

全員「!!」

健介「翼の弟・・・・・・・・」

奏「ちよつとまってくれ!! あたしはそいつのことは知らないぞ!!」

弦十郎「当然だ・・・・・・・・なにせカナトは数十年前にさらわれているからだ・・・・・・・・」

全員「!!」

調「どういうことですか!!」

弦十郎「今から数十年前だ、カナトは翼と一緒に遊んでいた・・・・・・だが突然として黒い車にさらわれてしまったんだ・・・・・・・・」

翼「・・・・・・・・・・・・・・・・」

弦十郎「我々は必死に捜査をしたが・・・・・・・・カナトを見つけることはできなかつたんだ・・・・・・・・」

切歌「まさか・・・・・・・・ダークデイケイドの正体はそのカナトさんだったのデース・・・・・・・・」

健介「・・・・・・・・ふむ」

愛「お父さん・・・・・・・・」

健介「わかっているが・・・・・・・・どうもな・・・・・・・・ダークデイケイド・・・・・・・・いやカナトが何をしたいのかがさっぱりわからないんだよな・・・・・・・・」

健介「それはあいつの意思なのか・・・・・・・・それとも」



一方で

カナト「ぐ……うあああ……」

「戦え……戦え!!」

カナト「うるさい!!僕は……戦わない……お姉ちゃんを傷つけるな!!」

「お前は俺だ……」

カナト「違う!!違う違う!!僕は風鳴 カナトだ!!」

そういつて自身の頭をふるっている……

だが彼の目が赤くなると……

「おろかだ……変身」

「カメンライド デイクライド」

ダークデイクライドに変身をした。

ダークデイクライド「さて」

そういつてダークデイクライドドライバーをだしてカードを装填する。

「カメンライド ガイ ライア シザース」

そういつて黒い三体のライダーたちが召喚されたのだ。

ダークデイクライド「行け」

そういつて出撃をするのであった。

一方で話を聞いた愛たち……

剣「母上……」

翼「大丈夫よ……でもあのカナトが……どうしてもあんなことをするとは思えないの……」

すると警報がなり出撃をするのであった!!

デイクライド「は!!」

茜たちは変身をしてダークライアたちに攻撃をする!!

ダークライアたちもカードを装填をする

「ストライクベント」

「スイングベント」

そういつて武器が装着されて攻撃をしてきた!!

切歌「カニなら鎌で切り刻むデース!!」

そういつて切歌は鎌で攻撃をするが、ダークシザーは腕のクロ  
で受け止めて攻撃をしてこようとしたが。

スナイプ「させない!!」

スナイプのガシヤコンマグナムが放たれてダークシザーを吹き  
飛ばす

フォーゼ「ライダースイングバーン!!」

そういつてダークシザーの足をマジックハンドでつかんで投げ  
飛ばしたのだ!!

一方で

ビルド「は!!」

「ゴリラモンド!!」

ゴリラモンドになりダークガイと戦うがガイはメタルホーンでゴ  
リラモンドを吹き飛ばす!!

ビルド「きゃ!!」

マリア「セレナ!!この!!」

マリアは砲撃をしようとしたが……

「コンファインベント」

マリア「な!!」

マリアの砲撃のユニットを消したのだ。

響「いくよ!!花菜!!」

花菜「はい!!お母さん!!」

そういつてゴーストは蹴りを、響も蹴りを噛ましてガイを吹き飛ば  
す!!

「アドベント」

するとサイ型のモンスター　ダークメタルガラスが現れて二人を  
吹き飛ばす!!

一方でライアと戦う　フェイスたち

フェイス「はああああああああああああああああああ!!」

ブレイブ「ああああああああああああああああ!!」

ダークライア「!!」

ダークライアはカードを装填する

「アドベント」

するとエイ型のモンスターが二人を当てる!!

調「愛!!」

翼「剣!!」

そしてカードを入れる

「ファイナルベント!!」

そしてダークライアはその上に乗り攻撃をしようとしたが

クリス「おら!!」

クリスが大型ミサイルを放ち ライアを撃退する!!

ブレイブ「これで終わりだ!!」

ブレイブは走りながらガシヤットを入れる

「ガシヤット キメワザ!!ドラゴナイトクリティカルフィニッシュ!!」

ブレイブ「は!!」

燃え盛るハンターゲーマーがライアに突撃をしてダークライアは爆散をしたのだ!!

フォーゼ「これで終わりよ!!」

デイケイド「決める!!」

「ロケット ドリル リミットブレイク!!」

「ファイナルアタックライド デイデイデイケイド!!」

二人「は!!」

二人の蹴りがダークシザースに命中をして爆散をする!!

一方でダークデイケイドは……

ダークデイケイド「やっぱり使えないか……まあいいだろう俺が」

そういつてライドブツカーを構えたとき……

だだだだだ!!

ダークデイケイド「ぐ!!」

デステイニー「……………」

そうダークデイケイドに攻撃をしたのは、仮面ライダーデステイニーだったのだ!!

デステイニー「さて、お前は何者だ？」

ダークデイケイド「何を言っている？」

デステイニー「今のお前は風鳴 カナトなのか、それとも別の人物なのかってね」

そういつてデステイニーガンを構えながら言う

ダークデイケイド「なるほどな・・・俺はダークデイケイドそのものだからな・・・」

デステイニー「なるほど・・・(つてことは俺の闇つてことか・・・)」

そういつてデステイニーガンを構えながらも ビームライフルを構えている。

デステイニー「お前・・・あの時の闇か・・・」

ダークデイケイド「くつくつく・・・その通りだよ、相田 健介・・・」  
そうカナトの体に乗っ取っていたのは、かつて健介の体に乗っ取っていた闇だったのだ。

デステイニー「お前はあの時カナリアに消されたはずだ・・・」  
ダークデイケイド「その通りだ・・・だが私は生きていた・・・そしてこいつの中で私はこうしてよみがえったのだ!!」

そういつてダークデイケイドは衝撃波をだしてデステイニーを吹き飛ばす!!

デステイニー「うああああああああああああああああああああ!!」

地面にどしん!!とぶつかる。

調「健介!!」

デステイニー「ぐ・・・」

するとダークデイケイドが上空から降りてきたのだ。

翼「カナト・・・」

デステイニー「翼!!あいつはカナトじゃない!!」

全員「!!」

フィス「お父さん、どうということなの!!」

デステイニー「・・・」

ダークデイケイド「ここまでだな……」

そういつてダークライアを回収をして撤退をしたのであった。

デステイニー「……………」

切歌「健介……………」

デステイニー「俺と闇のけりは……まだついてなかったのか!!  
くそ!!」

「そういつて地面を殴る!!」

奏「どういふことだよ……けりがついてないって……………」

変身を解除をする。

健介「あのダークデイケイドは……俺の中にいた闇だ……………」

全員「!!」

響「でも闇はカナリアさんが!!」

健介「だが奴は生きていた……そしてカナトの体に乗っ取った  
んだ……………」

全員「……………」

健介「奴とのけりは必ずつける!!」

闇を追いはらえ!!

カナト「はあ．．．はあ．．．」

無駄だ、お前に俺の闇を払うことなどできないからな．．．さああらがうのをやめてもらおうか？

カナト「誰が．．．お前になんか．．．」

つと彼は闇と戦うが．．．

無駄なことを．．．すると奴はダークデイケイドへと姿を変える。

ダークデイケイド「さーてあいつらと遊ぶとするか」

一方でSONG基地にて

健介「．．．．．」

ファイルス『バデイ、どう思う？』

健介「ああ、あれは俺の中にいた闇だ．．．俺の時は調たちが助けてくれた．．．だが今回のカギは．．．彼女だろうな．．．」

ファイルス『翼だねバデイ』

健介「そのとおりで、さて俺は作戦室へ戻るか」

ファイルス『バデイ!!私を連れていってくれー』

健介「ああ悪い悪い」

そういつて健介はファイルスを持ち移動をするのであった。

司令室へ行くと、どうするか考えているのであった。

未来「あ、兄さん」

健介「どうですか、何か思いつきました？」

弦十郎「ああ色々と考えているが．．．どうもな．．．」

花菜「パパだったらどうするの？翼お母さんの人に対して」

健介「そうだな、お父さんだったら説得などをするかな？調たちが俺にしてくれたように．．．」

愛「あの時だね、お父さんが闇に乗っ取られたときにお母さんたちが説得をしたようにね」

切歌「でもどうやってやるデース？」

全員「うーーん」

すると警報が鳴り出したのだ!!

弦十郎「どうやら考えている時間を与えるほどないってことか……  
全員出動!!」

全員「了解!!」

そういつて出動をしたのであった。

ダークデイケイド「どうやら来たようだな」

ダークデイケイドダークブツカーを構えている。

フィス「カナトおじさんの体返してもらいます!!」

ダークデイケイド「そうは行くか。やつと手に入れた体をみすみす  
逃がすとも思うのか!!」

そういつてガンモードにして攻撃をしてきた!!

クリス「どうするんだ!!」

デステイニー「攻撃をする、とりあえずはこちらにも被害がでる!!」

調「わかった!!」

そういつて全員が武器を構える。

翼（私は切れるのか……カナトを……あの子を……私が……）

ブレイブ「はああああああああああああ!!」

スナイプ「援護をするよ!!」

タドルレガシーにバンバンシユミレーションになったブレイブと  
スナイプがダークデイケイドに攻撃をする。

ダークデイケイド「甘いな」

ダークデイケイドはライドブツカーではじかせてブレイブのガ  
シヤコンソードをはじかせたのだ。

フィルス『毒の王者!!スコープオンモード!!』

フィス「はああああああああああ!!」

ゴースト「であ!!」

二人の槍とガンガンセイバーがダークデイケイドを攻撃をするが  
それさえもダークデイケイドはカードを装填をして烈火大斬刀をつ  
かって二人を攻撃をしたのだ。

調「愛!!」

響「花菜!!」

フォーゼ「あいつ、前よりも強くなってるじゃない？」

デイケイド「ええ私もそう思ったわ」

奏「つてことはあいつさらに強いのかよ!!」

マリア「でもどうするのかしら？絶唱を使っても勝てる気がしないわ……」

デステイニー「はああああああああああああ!!」

デステイニーはアロンダイトを構えて切りかかる。

ダークデイケイド「やはり貴様と私は決着をつけないといけなみたいだな・・・相田 健介」

デステイニー「当たり前だ、お前を封印を解いてしまったの俺だ!! だからこそ貴様との決着はおれ自身がつける!!」

そういつてビームライフルで攻撃をしてダークデイケイドに当たる。

デステイニー「であああああああああああああああああああああああああああ!!」

カナト「馬鹿め」

デステイニー「く!!」

デステイニーはすぐにアロンダイトを退かせたが、カナトの蹴りがデステイニーを吹き飛ばしたのだ。

未来「兄さん!!」

翼「もうやめてくれ!!カナト!!」  
すると翼が前にでてカナトのところに。

翼「あなたはそんなことをする子じゃないわ!!お願いよ!!元のカナトに戻って!!」

ダークデイケイド「無駄なことを・・・今楽にしてやるよ」

そういつてライドブツカーを構えて切りかかってきたが・・・  
翼に剣が降りることはなかったのだ。

翼「？」

翼は目を開けると・・・

カナト「ね・・・ねえさん・・・」

翼「カナト？」



カナト「久しぶりだね・・・姉さん・・・でも時間が無い・・・僕の体をこいつが乗っ取ろうとしているから・・・これが姉弟の最期の会話になるねw」

翼「そんなことはないよ!!また一緒に!!」

カナト「駄目、こいつをなんとかしないと・・・」

デステイニー「いや秘策はある!!」

全員「!!」

## 秘策

調「健介、秘策があるって本当？」

デステイニー「ああある!!だが……」

フィス「お父さん？」

デステイニーはあるものを出した。

切歌「それってマキシマムマイティエックスガシシャツでーす!!」  
そう健介が出したのはマキシマムガシシャツであったが、色が灰色なのだ。

デステイニー「だがこれは試作品だ、リクロミングを使うことであいつを追いだすのだが……」

マリア「まさか、一回しか使えないってこと？」

デステイニー「残念ながら、こつちのガシヤコンキースラツシャーは普通にできているが、マキシマムマイティエックスはクロトと祥平のデータ状しか作れてないから一回だけしか使えないんだ……」  
スナイプ「つてことは一発が重要だね……」

デステイニー「翼……」  
翼「……」

するとデステイニーは翼にガシヤコンキースラツシャーとマキシマムガシシャツを渡した。

デステイニー「お前がやるんだ、その間に俺たちはチャンスを作る」  
翼「でも!!」

デステイニー「弟を救いたいんだろ？そのチャンスは俺たちが作る、翼はその一発に集中するんだ!!」

翼「健介さん……はい!!」

ブレイブ「母上、おじさまは必ず救い出しましょう!!」

そういつてブレイブたちはダークデイケイドに攻撃をする。

ダークデイケイド「無駄なことを、お前たちの作戦が成功するとでも?」

デステイニー「だからこそ俺たちはお前を止める!!」

そういつてアロンダイトを抜いてダークデイケイドに切りかかる

!!

「ダークデイケイド「無駄なことを」

「ダークデイケイドはダークブツカーで受け止めたが。

「デステイニー「調!!切歌!!」

「調「これでも!!」

「切歌「くらうデース!!」

鎌と鋸のコンボが放たれてダークデイケイドのボディに命中をす  
る。

「ダークデイケイド「ぐ!!」

「ダークデイケイドはガンモードにして放とうとしたが。

「ダイカイガン!!ニユートンオメガドライブ!!」

「ゴースト「お母さん!!」

「ニユートン魂となったゴーストが左手をだして吸い寄せてダーク  
デイケイドを上空へ上げると

「響「はああああああああああああ!!」

「響の拳が放たれてダークデイケイドに攻撃をする。

「ダークデイケイド「おのれ!!」

「フォーゼ「これでも食らいなさい!!」

「ファイアーリミットブレイク」

「フォーゼ「ライダー爆熱シュート!!」

「ビルド「それ!!」

「LADYGO「ボルティックフィンッシュ!!」

「ホークガトリンガーから放たれた弾が命中をする。

「翼「カナト……お姉ちゃんが助けるから!!」

「マキシマムガシャット!!キメワザ!!マキシマムマイティクリティカ  
ルフィンッシュ!!」

「奏「おらああああああああああああ!!」

「デイケイド「はああああああああああ!!」

「二人がダークデイケイドに槍と剣で攻撃をする。

「ダークデイケイド「ぐ!!」

「翼はダッシュをして接近をしていく!!」

ダークデイケイド「させるか!!」

ブレイブ「させない!!」

するとブレイブは魔法を発動させてダークデイケイドの動きを止めたのだ!!

ダークデイケイド「な!!」

ブレイブ「母上!!」

翼「カナトおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお!!」

翼の放ったガシヤコンキースラッシャーの斬撃がダークデイケイドに一閃をする!!

ダークデイケイド「ぐ・・・なんだこれは!!」

デステイニー「俺の中にあつたお前の抗体から得たのを入れているからだ!!」

翼「であああああああああああああああああああああああああああああ!!」

さらに斬撃をして切りつけたのだ!!

ダークデイケイド「お・・・おのれ!!」

するとカナトが出てきたのだ。

スナイプ「おっと」

スナイプが駆けつけてカナトをキャッチをする。

マリア「これで遠慮なく攻撃ができるわね!!」

フィス「はい!!」

ダークデイケイド「まだだ、私が・・・大いなる闇である俺が貴様たち如きに!!」

デステイニー「前にも言ったはずだ、闇が支配する世界は永遠に来ないということを!!愛!!」

フィス「フィルスいくよ!!」

フィルス『ああいつでもいいぞ!!』

デステイニーおよびフィスは必殺技の準備をする。

なのは「必殺!!デステイニーストライク!!」

フィルス『必殺!!フィスメテオーストライク!!』

二人「はああああああああああああああああああ!!」

二人は一緒に飛び蹴りの構えをとる!!

ダークデイケイド「おのれ!!」

「FINAL ATTACK RIDE DEDDEDDEDDEL I  
KE I DO!!」

ダークデイケイド「ああああああああああああああああ!!」

ダークデイケイドも飛び蹴りを入れる。お互いの足が激突をして力がぶつかる!!

ダークデイケイド「無駄だ!!闇の力は不滅!!」

フィス「そんなことはない!!お父さんだって闇に勝った、あなたに・・・絶対に私たちは負けたりしない!!」

デステイニー「そのとおりだ!!俺が今までお前に負けなかったのは、調や切歌・・・俺のことを信じている奴らがいたから俺はお前に屈しなかった!!だからこそ・・・お前を倒すことができた!!」

ダークデイケイド「認めん!!認めんぞ!!」

二人「愛を知らないお前に、俺(私)たちは負けない!!はああああああああああああああああああ!!」

二人の蹴りの威力がダークデイケイドを押ししているのだ。

ダークデイケイド「ぐ・・・ううううぐあ!!」

そしてダークデイケイドは地面に落ちて立ちあがったときに。

二人「であああああああああああああああああ!!」

デステイニーとフィスのダブルライダーキックが命中をしてダークデイケイドは吹き飛ぶのであった。

ダークデイケイド「こ・・・これで勝ったと思うなよ・・・仮面ライダーども・・・」

するとダークデイケイドはボロボロの体で何かを言う。

ダークデイケイド「すでに・・・動き始めている・・・のだよ・・・」

デステイニー「動きだしている・・・」

ダークデイケイド「そうだ・・・俺が先発だと思えばいいさ・・・くつくつく・・・偉大なる・・・ジェネラル・・・ダグエンさ

ま・・・ばんぎ・・・いい・・・」

そして爆散をしたのだ!!

デステイニー「ダグエン・・・それがダークデイケイドいや  
闇の意思を復活させた敵なのか・・・」

一方で

「ダグエンさま、ダークデイケイドの反応が消失しました、おそらく仮  
面ライダーやシンフォギア奏者たちにやぶれたかと・・・」

ダグエン「そうか・・・ダークデイケイドよくやった、直ちに  
メンバーを集合させろ」

「はは!!」

ダグエン「青き地球、美しい星は私ダグエンがもらう!!くつくつ  
くつくつく・・・」

地球病室

カナト「・・・・・・・・・・・・・・・・」

翼「カナト・・・・・・・・」

今カナトはダークデイケイドに解放されたが目を覚ましてな  
い・・・

健介「どうだ?」

翼は首を横に振る。

健介「おそらくだが、あいつは生きるのを拒否しているかもしれな  
い・・・・・・・・」

翼「え?」

健介「操られたとはいえ、姉であるお前に刃を向けてしまったから  
な・・・・・・・・」

弦十郎「馬鹿野郎・・・カナト・・・俺はそんなこと思っ  
てない・・・帰ってこい・・・お前の無事な姿だけでも見れて・・・

本当に・・・よかった・・・」

健介「弦十郎さん・・・・・・・・」

カナト（おじさん・・・・・・・・）

翼「カナト、姉ちゃんはずっと探していたの・・・あなたが行方  
不明なっただけから・・・・・・・・」

健介（そういえば前に見たな、翼が駅前で配っているのを……）  
翼「あなたが生きていたと知ったときどれだけ喜んだか……」  
お姉ちゃんはうれしかったよ……」

カナト（翼姉さん……おじさん……）

健介「始めましてかな、俺は相田健介だ……」

カナト（翼お姉ちゃんの旦那さんか……）

健介「生きろ、そして今まで家族との思い出を忘れないでくれ……」

カナト（……）

健介「君を思っている人たちがいるんだろ？死のうなんて考えるな……かつて俺も彼女たちに刃を向けてしまったんだ……」

カナト（え……）

健介「君と同じ闇に俺は体を支配されてね、抵抗をした……だが奴の力は強力で……俺は翼だけじゃなく娘たちにも攻撃をしてしまった……」

カナト（そうか……健介さんも……）

健介「だが彼女たちはそれでも俺を許してくれた……攻撃をしてしまい殺しかけた俺を……涙を流して俺を迎えてくれた……彼女たちは俺にこういった……」

調「確かに健介は攻撃をした、でもね健介……私はあなたがいたから愛が生まれて……とでもうれしかった……だからあなたが生きていてくれてよかった……」

健介「つてな……だからこそ生きるんだ……俺は彼女たちを悲しませ過ぎた……」

カナト「うう……」

健介「それでも俺を信じてくれたあいつらのためにも……俺は戦い続ける」

カナト「お……それは……」

翼「カナト!!」

カナト「おねーちゃん……俺……俺は……」

翼「いいんだ……いいんだよカナト!!おかえり……」

カナト「ただいま……お姉ちゃん」

つと笑顔で言うカナトとそれをみて泣く翼。

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・」

健介は黙って部屋を出ると。

剣「母上・・・・・・・・よかったです・・・・・・・・」

響「よかったよー翼さん!!」

つと全員が外から見えていたのだ。

調「健介・・・・・・・・」

調は健介に抱き付いた。

健介「調・・・・・・・・」

調「暖かい……健介を感じる……夢じゃないってくらいに……」

健介「・・・・・・・・・・・・・・・・」

みると調は涙を流していた、おそらく自分がいなかったときのことを思い出したんだろう……

調「本当に……つらかった……健介が消えたときに……

私……とてもつらかった……いつもそばにいてくれた健介がいなくなつたとき……心に穴が開いた感じになつた……」

健介「・・・・・・・・」

調「帰つたときにお帰りや……ただいまという健介の声が……もう聴けないって思うって……私……私……」

健介「調・・・・・・・・」

調「クロトさんたちが助けに来た時、現れたあのダークフェイスが健介だと知つたとき……私ねうれしかったの……健介は生きていてくれたって……でもね健介もうあんな言葉聞きたくない……ここに居る皆が思っていること……」

健介「・・・・・・・・」

調「自分の命を軽々に殺してくれなんて言わないで!!」

健介「・・・・・・・・ごめん」

調「私たちを殺してしまふかもしれないから、俺を倒せと聞いたとき私は真つ暗になった……たぶん全員がそれは思ったことだよ……」

ファイルス『バディ、調たちはずっと君のことを気にしていたんだ……自分たちがいたのにバディを守れなかった……もつと力があれば



とな．．．．』

健介（俺は．．．彼女たちにそこまで．．．情けないな．．．）

健介「調．．．．」

すると健介は調を抱きしめる。

健介「もうお前たちの前から消えたりしない．．．たとえば何があつても．．．必ず」

調「健介．．．．．」

健介「．．．．．」

調「うう．．．うううううううううううううううううううううう」

愛「お母さん．．．．．」

真奈「あれ？ママは．．．あ．．．．」

みると健介の背中にぴとつといたのであった。

健介（いつのまに．．．．．）

健介も気づかなかつたようだ。

番外編 健介 翔平の世界へ

ダークデイケイドを倒してカナトを救った健介たち。

健介「ん？」

健介はパソコンを見ていると相棒であるファイルスが声をかけてきたのだ。

ファイルス『どうしたんだい健介』

健介「ああさつきから高エネルギー反応が出ているんだ、まるで何かを指示をするかのように……」

翼「健介さんどうしました？」

健介「翼か、いやさつきからエネルギー反応が……  
すると警報が鳴りだした!!」

二人「!!」

全員が出動をすると何かの兵隊たちがいたのだ。

デステイニー「なんだこいつらは……」

クリス「だがよこいつらを倒さないと!!」

デステイニー「そういうことだいくぞ!!」

全員「おう!!」

そういつて全員が謎の敵と戦うのであった。

フィス「だああああああ!!」

フィスはラビットモードになりラビットアローで切りつけていく。

フィス「そこだ!!」

離れた敵にアローを放ち落とす。

ブレイブ「はああああああああああああああああ!!」

ブレイブはガシャコンソードを使って次々に切り裂いていく。

ブレイブ「まだいるのか!!第三剣術」

「ドレミファソラドミソ……」

ビートクエストゲーマーレベル三になった。

ブレイブ「ああああああああああああああああ!!」

スナイプ「この!!」

「ジェットコンバ——ツト!!」

コンバットシューティングゲームレベル三になり空から攻撃をする。

スナイプ「おつとと!!」

スナイプはかわしてガトリングを放ち落としていく。

「ダイカイガン!!ベートベンオメガドライブ!!」

ゴースト「はああああああああああ!!」

ゴーストはベートベン魂となり音楽を放ち撃破していく。

ゴースト「ベリーザキッドさん!!」

「開眼ベリーザキッド!!」

ベリーザキッド魂を装着をしてガンモードとなったガンガンセイバーとバットクロック銃モードで乱射をする。

フォーゼ「おらああああああああああ!!」

フォーゼは背中への噴射で飛び、現れた敵にボディプレスを噛ましてスイッチを変えた。

「ビートON」

フォーゼ「音波をくらいなさい!!」

音波が流れて敵にダメージを与えていく。

フォーゼ「おまけ!!」

「チエーンアレイON」

フォーゼ「どでかいハンマーアタック!!」

つと降ろされたチエーンアレイが敵を吹き飛ばす。

デイケイド「変身」

「カメンライド ウィザード」

デイケイドウィザードへと変身をしてウィザードソードガンを出して攻撃をする。

デイケイド「であ!!」

ガンモードへと変えて弾丸を当てていく。

デイケイド「まだいるのね?」

「アタックライド ビック!!」

デイケイド「巨大な手を受けてみなさい!!」

そういつて降ろされた巨大な手が敵を次々と吹き飛ばしていく。

響「だあああああああああ!!」

響は接近をして拳で敵を次々に殴り飛ばしていく。

クリス「これでもくらいやがれ!!」

クリスはクロスボウとしたイチイバルを放ち次々に撃破していく。

マリア「あああああああああああ!!」

切歌「マリアと一緒に切り刻むデース!!」

つと二人は短剣と鎌で切っていく。

調「健介!!」

デステイニー「ああこいつらはロボットだ!!」

そういつて2人はアロンドナイトと巨大な鋸をだして切りこんでいく。

未来「いつて!!」

未来は扇を出してビームを放ち、接近してくる敵を薙刀で切り裂いた。

未来「伊達に兄さんから学んでないわ!!」

奏「だがこいつらどれだけいるんだよ!!」

ビルド「どうみても・・・原因はあれですよ?」

つと穴を見ている。

デステイニー「・・・・・・・・・・・・・・・・」

フィス「お父さん?」

デステイニー「愛、お前にデステイニードライバーを渡しておく、なのはたちには愛たちのサポートをお願いします。」

なのは（わかったけど、健介さんは?）

すると健介はデステイニーを解除をする。

健介「愛、悪いがフィスを貸してもらうぞ?」

愛は変身を解除をして。

愛「わかった、それじゃあファイルス」

ファイルス『了解した。』

そういつてお互いに変身ベルトを交換をして。

二人「変身!!」

デステイニー「これがデステイニー・・・・・・・・・・・・・・・・」

フェイス「調、俺はあの時空を超えて原因をつかんでくる、なーに心配するな必ず帰ってくるよ」

調「健介………」

フェイス「さーていくぞ!!」

ファイルス『了解だバディ、久々にいくとしよう!!』

そういつてフェイスへと変身をした健介はボタンを押す。

ファイルス『不死鳥の力!!フェニックスモード!!』

フェイス「は!!」

フェイスは背中のフェニックスウイングを展開をして空を飛ぶ、向かう場所は時空の穴だ。

フェイス「邪魔だ!!」

フェニックスライフルを連結をしてファイルをセットをする。

ファイルス『必殺!!フェニックスバスター!!』

フェイス「は!!」

フェニックスの弾が飛び敵を爆散をしてフェイスはその穴へと入っていく。

フェイス「どああああああああああああああああああああああああああああ!!」

ファイルス『バディ!!バランス調整は任せたまえ!!』

フェイス「頼むぜファイルス………だが何がいつたい………それにこの場所って………」

フェイスはある場所へ着地をする一人の男性が近づいてきた。

「貴様はフェイス、相田 愛か?」

フェイス「ん……あなたは駆文 戒斗」

戒斗「俺のことを知っているってことは、どっちだ?」

フェイス「俺は健介の方だ、どうしてあんたが?」

戒斗「謎の敵が現れてな、その場所へ向かっていた。」

フェイス「なら俺と一緒にだな、さーてその場所が判明をしたようだぜ?」

ファイルス『二人とも、おそらく世界は翔平がいた世界だ』

フェイス「翔平ね、とりあえず向かいますか」

こうして俺たちはまさか翔平に何かあったのか……そのあと知ることになりました。

## 第六章 強敵ダグエン 新たな敵 ダグエン出現!!

健介が祥平を助けるために時空を超えていってから数週間がたった、ギヤラホルンの前で調たちは待っているのだ。

それは健介が間もなくギヤラホルンを使ってこの世界へ帰ってくるということだ。

愛「お父さん大丈夫かな？」

真奈「うんファイルスから変身ができなくなっちゃって聞いたときはびっくりをしたね。」

剣「だが父上は恐怖を乗り越えて再び変身ができるようになったぞうだ。」

調「まだかな・・・まだかな・・・」

切歌「もう調、まあ私もワクワクしてまーす!!」

響「だよね!!はやく健介さんに抱き付きたいなー」

未来「もう響たらw」

花菜「お母さんw」

するとギヤラホルンの扉が開いたのだ!!

奏「お!!どうやら主役が到着のようだぜ!!」

そしてその中から戦士が降りたのだ!!

フィス「よつと」

中から仮面ライダーフィスが到着をして地面に降りたのだ。

フィス「ふいー久々に帰ってきたな」

ファイルス『ああその通りだな、バディ』

そういつてフィスは変身を解除をすると、相田健介に戻るのだった。

健介「本当に祥平が消滅をしかけているからな・・・びっくりをしただぜ、おつと」

そういつて健介は見ると調たちが立っていたからだ。

ファイルス『バディ随分と皆を待たせてしまったようだなw』

健介「みたいだな、皆ただいま!!」

全員「「「おかえり!!」」」

そして健介は祥平の世界での話をしているのであった。

愛「そんなことがあったんだね・・・」

健介「ああ、それでも俺は仮面ライダーとして・・・相田健介として再び変身をする決意を固めたんだ、愛ほれ」

そういつてファイルスを渡す。

愛「お父さん・・・」

健介「デステイニードライバーをつかって変身をしていたんだろ？」

愛「うん!!」

そういつてファイルスを愛に渡して健介は再びデステイニードライバーを返してもらったのだ。

なのは『おかえりなさい健介さん』

健介「ああなのはたちもありがとうな愛たちを支えてもらってよ」  
なのは『いいえ、私たちができることといえばこれぐらいですから・・・』

健介「そうか？」

そういつて健介はデステイニードライバーをしまつて部屋へ戻るとファイルスの新しい姿を作ろうとしている。

一方で愛は久々にフェイスへと変身をしていたのだ。

フェイス「あれ?なんか前よりも感覚が違う気がする・・・」

ファイルス『そうだ、出力が上がったことで前よりもパワーアップをしているはずだ。』

フェイス「なるほど・・・あれ?なんか武器ウエポンが増えてる気がするよ?」

そういつてファイルスの武器アイコンが増えていたのだ。

ファイルス『ああバディが新しく武器アイコンを増やしたんだよ、さらにこしのフェイスガンも変わっているだろ?』

フェイス「本当だ」

そういつて抜いたのは銃なのだ。



ファイルス『名前はフェイスデイツク、サーチャーしてロボットなどを確認をしたりすることが出来る銃だ。』

フェイス「この武器アイコンは？」

拳のアイコンだ。

ファイルス『ブレイクナツクルという武器だな、これは相手にロケットパンチを放つことができるものだ。』

フェイス「よくある閉じ込められたら使えって奴？」

ファイルス『どうしてそうなるのか君は』

そういつてほかにはウイングバルカンにウイングブレード、さらにアークファイアーという火炎放射機まで装備されていたのが判明をしたのであった。

フェイス「よーし!!」

そういつてフェイスは特訓をしようとしたとき警報が鳴ったのだ!!

ファイルス『警報!』

フェイス「とりあえず行ってみよう!!」

そういつてフェイスは愛に戻ると司令室へ急ぐのであった。

司令室には全員がそろっていた、画面を見ると何かの戦闘員たちが暴れているのだ。

翼「ひどい……」

クリス「おっさん!!」

弦十郎「全員で出動だ!!」

全員「了解!!」

ライオトレインに乗り全員が到着をすると敵が攻撃をしてきたのだ。

フェイス「うわ!!」

ブレイブ「いきなり攻撃か……」

デイケイド「は!!」

ゴースト「くらえ!!」

デイケイドとゴーストはライドブッカーガンモードとガンガンセイバーガンモードにして攻撃をする。

クリス「あたしに任せな!!」

クリスの脚部からミサイルポットが現れて放たれたのだ。すると敵は吹き飛ばされていく。

響「さっすがクリスちゃん!!」

マリア「いくわよ!!」

ビルド「ええ実験を始めるわよ!!」

そういつてビルドに変身をしたセレナはドリルクラツシャーを持ち攻撃をしていく。

デステイニー「さーて」

なのは『健介さんどうしますか?』

デステイニー「きまつているぜ、このフォームだよ」

なのは『エレメントスタイルセットアップ!!』

デステイニーの姿が変わりエレメントスタイルへと変わったのだ。

デステイニー「さーて!!」

デステイニーはエレメントソードを装備をして炎の力を纏わせて切り裂いたのだ!!

フォーゼ「ライダーロケットパンチ!!」

そういつてロケットモジュールを発動させて殴るのだ!!

翼「どうやら終わったみたいだな……」

そういつて翼は剣を構えを解いた。

切歌「ですね、でもこいつらつていつたい?」

切歌は鎌をツンツンさせている。

調「危ない!!」

ファイルス『デIFエンダー!!』

するとファイルスが発動させたデIFエンダーでガードをしたのだ。

ファイルス「いつたいどこから!!」

「ほう、俺の攻撃をふさいだってことか……」  
全員「!!」

すると謎の戦士が地面に降りたつたのだ。

ブレイブ「何者だ貴様!!」

ブレイブはガシヤコンソードを構える。

「私はダグエン、お前たちの敵といえはいだらうな」

響「ダグエン……」

奏「それでそんなあんたが何のようだ？」

ダグエン「決まっている、私の邪魔をする貴様たちを排除をするのだ!!」

ダグエンは時空から自身の剣を呼びそれをつかんだのだ。

ダグエン「幾多の戦いを乗り越えてきた戦士たちよ、貴様たちの力を我に示せ!!」

デステイニー「いくぞ!!ダグエン!!」